

まべりはむし

第28巻 第1号



2000年5月

兵庫昆虫同好会

トラフシジミ
S.K

高橋寿郎さんの思い出

奥谷 禎一

昨平成12年12月、年末になり年賀状の用意をしているところへ、高橋寿郎氏の奥様嘉代子様からご主人がなくなられたとのご挨拶をいただき、すっかり驚きまたがっかりしてしまいました。

戦後筆者が“新昆虫”の編集のお手伝いをしていた頃、神戸にアマチュアで大変な甲虫収集家がいるという噂を聞いたことがあった。その後篠山の兵庫農科大学に赴任し、森 為三先生が会長をしていた兵庫生物学会に入会させられ、機関誌“兵庫生物”で氏の報文に接する機会があった。しかし交通不便な当時では拝顔の機会はなかなかなかったが、昭和42年兵庫農科大学が国立移管になり神戸に移転してからは度々お目にかかるようになった。この交流の中の幾つかの思い出を記して、氏の霊を慰めたい。

兵庫昆虫同好会設立に当たって、事務所をお引き受け頂いたのは、地方大学の農学部の昆虫研究室で、よくその県の同好会を引き受けているが、アマチュアがとりつきにくいこと、研究室の永続性が保証できないなどの心配をお話したことではなかったかと記憶している。公式にお手伝い頂いたのは、昭和53年～54年(1978～79)に行われた環境庁の第2回自然環境基礎調査の昆虫の部が神戸大学に委託され、日本昆虫学会の全面的な応援を得て筆者が中心となって取り纏めを行った時、研究室のスタッフだけでは手が足らず、氏にはすっかりご面倒をかけた。次いで昭和56年に日本昆虫学会第41回大会を神戸大学でお引き受けしたとき、いろいろお力になっていただき、貿易センタービルで行われた懇親会のご手配をして下さったことも忘れられない思い出の一つである。

虫の話では、神戸という土地柄キベリハムシについては度々話題になったが、氏も私も引かれていたコガネムシの話題が多かった。糞虫ではタイプ以来採集されていないヤマトエンマコガネの話で、奈良産のものがHyogo(恐らく現在の神戸市内であろう)とされてしまったか、植生がすっかり変わり当時普通にいた獣(シカ?)がいなくなってしまったかなどたわいのない話をしていたところ、昨1999年の本誌27巻1号に124年振りの記録として姫路からの記事が出て驚いた次第である。そのほか明石市のキョウトアオハナムグリ、中国縦貫自動車道の加西サビスエリアのヒゲコガネ、垂水のダイコクコガネ、

摩耶山のオオチャイロハナムグリなどで、話題に困ることはなかった。なんといっても忘れられないのは、西神有料道路建設についてのアセスを手伝っておられたとき、厳冬期にハネナシナガクチキを発見され、どうも新種らしいと愛媛大学の宮武氏に送られ、確かめられたときに「こんな都会で新種が見つかるのでは、虫探しはやめられませんか」としみじみいわれたことである。本種は1982年松山産の近似種とともに新属新種として“四国昆虫学会誌”に発表された。

兵庫県はわが国昆虫学の開祖松村松年博士、兵庫農科大学を創設された森 為三博士などの昆虫学者を産んだばかりでなく、カミキリの関 公一氏やトリの小林桂助氏などのわが国有数のアマチュア研究者の育った土地柄である。その系譜を引くかのように高橋寿郎氏は県下の甲虫相を明らかにすべく、自らの採集物だけでなく先人の記録も集大成していった。大変律儀な方で、ご自分でまとめられた兵庫県の甲虫相に関する著作は、簡単な短報に至るまで、すべてに“兵庫県甲虫相資料”として番号が付けられ、最近のものは350を超えもうすぐ400の大体に乗るところで、その昆虫学会への貢献は多大のものであった。

ここに氏との交流の思い出を記し、ご冥福を祈る。

(OKUTANI TEIICHI

川越市霞ヶ関北町1丁目20-14)

高橋さんの思い出

山口 福男

高橋さんが亡くなられた。いつでもすぐに会える先輩と思っていたのに、帰らぬ人になられてしまった。高橋さんとはムシだけで繋がっていたのに一度だってムシ談義をしなかった。高橋さんは神戸二中で一年先輩だった。私がムシに興味をもった頃の高橋さんはもう昆虫研究者への道を歩み始め、かなりの知識をもっておられた。私は研究会に入部するほど熱心ではなかったのでここで高橋さんとすれちがってしまった。私がムシにのめりこみはじめた頃に

は高橋さんは卒業していた。

高橋さんのアマチュア昆虫学者としての活躍ぶりは学会誌や同好会誌などで承知していたが、出会いは意外に遅く昭和45年だった。当時私は農作物に多用されている農薬の環境への影響の情報を集めていて、このことについて神戸大学奥谷教授に相談したことから実現した。でもムシ仲間がムシ談義をする楽しい出会いではなく、固い話ばかりだった。次の出会いは日本昆虫学会の大会を神戸で開催するについての相談だった。それから兵庫県自然博物館設立準備委員会、自然保護指導員協議会など公式の会議で何回も顔を合わせる機会がありながら挨拶だけでムシの話にはならずじまい。ただ一度だけ1時間ばかり話す機会があった。兵庫県自然公園の見直し調査で昆虫部門を担当したとき報告書作成に高橋さんに文献等について助言を頂いて無事提出できた。このときもムシ談義とはほど遠い会話でしかなかった。結局のところ高橋さんと私は近くにいながらお互いに遠い存在だったようである。

(YAMAGUCHI FUKUO)

神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

高橋寿郎さんの書齋

近藤 伸一

1999年12月4日高橋寿郎さんは永眠されました。高橋さんの最近の日課は、朝から晩まで書齋にこもり、文献調査と執筆の明け暮れだったようです。

あの日も執筆の途中で、疲れたため少し病院で治療を受け、すぐに戻るつもりで入院され、再び書齋に帰ることは出来ませんでした。

高橋さんのお宅には、きべりはむしの編集の打ち合わせのために何度か伺っていましたが、書齋に入らせていただいたのは、お亡くなりになってからでした。高橋さんは2階の全てを書齋に使用されていました。部屋は奥様のご配慮で、入院のために部屋を出られたそのままの状態で、机の上には書きかけの原稿と大量の完成原稿が残されていました。

愛用の机と最小限の本箱、窓際の顕微鏡、ストープ以外に家具らしきものは排除され、ふすまを取り除いてワンフロアにし、床一面に、高さ80cm程に積み重ねられた本の山が並び、一見乱雑のようで、

必要な資料がすぐに取り出せるように、大量の文献を細分化し、合理的によく整理されていました。

押入れも文献が山積みされ、窓際の棚にも顕微鏡と並んで雑誌の山がそびえていました。

書籍の種類は、クラシック音楽と猫と昆虫が中心で、量からいえばほとんどが昆虫関係の書籍でした。昆虫関係の書籍の中には昆虫切手集まであり、昆虫に関するものは全て収集してしまおうという意気込みが見られました。

そして数十冊の分厚いバインダーが目を引きました。数十年にわたる高橋さんの研究成果が詰め込まれたもので、種ごとに文献の抜粋がびっしりと書き込まれており、このバインダーが高橋さん分身であり、打ち出の小槌でもあることが想像できました。

高橋さんはアマチュアとして、他に仕事を持ちながら、まさに一生をかけて県内の昆虫相の解明に尽くされました。これまでに発表された膨大な論文をみるとただ驚愕するばかりです。

残された未発表文献を早く発表することと、高橋さんのバインダーが有効に活用されるシステムを作ることが今後の我々の使命ではないかと思っています。ご冥福をお祈りいたします。

(KONDO SHINICHI)

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

故高橋寿郎さんの遺稿の取扱いについて 兵庫昆虫同好会事務局より

高橋さんは生前に兵庫県の甲虫に関する膨大な資料を収集され、多くの著作を残されましたが、なお未発表の原稿も多く残しておられます。未完成のものも多いのですが、兵庫県の甲虫に関する資料としては大変貴重なものなので、他誌で連載中のものはそれぞれの同好会等にお任せするとして、それ以外は「故高橋寿郎氏遺稿集」として兵庫昆虫同好会事務局による編集で「きべりはむし」通常号に掲載したいと考えています。かなりのボリュームがあるので、数回に分けての掲載としますのでご了承下さい。また、一部は故人の遺志で別冊としての発行も予定しています。さらに、本会に多大な貢献をされた高橋さんの偉業をまとめる意味で、事務局では著作目録を作成したいと考えていますので、合わせてお知らせします。

兵庫県のクワガタムシ(1)

故高橋寿郎氏遺稿集No. 1

兵庫昆虫同好会事務局編

兵庫県のクワガタムシについては筆者がかなり前にまとめて発表したものがある(てんとうむしNo.8:141-152,1982)。その後田中正浩氏が同じく兵庫県のクワガタムシをまとめて発表されている(昆虫と自然Vol.22, No.7:9-14,1987)。それ以後、県全体のクワガタムシを取り扱った報文は見られないと思う(断片的な報文はわりと発表されているが、全般を取り扱って記述されたものは見られないと思う)。一方では、新発見、新分布種とか分布地が現れたりしている。そこでここに一番新しい状況での取りまとめを試みた。

何分にも十分な文献を持っていないので、大きな誤りとか脱落があるかと思われる。御教示、御指導を頂ければ幸いである。本文を記すに当たっては多くの方々の御援助を頂いている。ここに厚く御礼を述べさせて頂く。長文になるので分割発表とする。

Family Lucanidae クワガタムシ科

Subfamily Ceruchinae ツヤハダクワガタ亜科

Tribe Ceruchini ツヤハダクワガタ族

Genus *Ceruches* Mac Leay, 1819

ツヤハダクワガタ属

1. *Ceruchus lignarius monticola* Nakane, 1978

ミヤマツヤハダクワガタ

Ceruchus lignarius Lewis ツヤハダクワガタは Lewis により1883年3♂によって北海道、日光産で新種記載された(Trans. ent. Soc. London, 1883, p.339)。

原記載には(p.340) "I obtained two examples at Sapporo early in August, 1880, one (dead) under a stone on Niohosan the following year" とある。

* (Niohosan……女峰山, 日光)

三輪勇四郎博士は1934年に Aesalinae 亜科に属していた本種を新たに Ceruchinae ツヤハダクワガタ亜科を創設しそちらへ移された(*Ceruchinae* 属はヨーロッパ産 *Lucanus tenebrioides* Scopoli, 1772 を geotype として創設されたもの, 1819, Horae Ent. I, p.115.)。

三輪勇四郎博士は日光、札幌、十和田の標本を示

されている。その時分布としては北海道、本州が示された。松村松年博士は日本千虫図解第3巻において初めて図説された(1883)。鈴木元次郎も1923年に通俗昆虫雑誌第1号に本種を解説された。

神谷一男・安立綱光は1933年にカラーで図説したが、「分布は北海道、本州、本州では比較的高地に産するもあまり多からず」としている(原色甲虫図譜、三省堂・東京)。同じ年に出版された加藤正世博士の図鑑(原色日本昆虫図鑑、第八輯、厚生閣・東京)では全く収録されていない。

1936年出版の三輪勇四郎・中條道夫両博士による「日本産鞘翅目分類目録、鍬形虫科」においては分布に本州、九州があがっており、北海道が入っておらず九州があがっている。この記録が具体的にどのようなものかはわからない。

1937年出版の平山修次郎の原色図譜(原色千種鍬形虫図譜、三省堂・東京)では、「北海道、本州に産し、北海道には稀ならざるようなれども本州では稀なり」として札幌円山産のみをカラーで図説している。同じく平山修次郎の1940年のカラー図鑑(原色甲虫図譜、三省堂・東京)は1937年版をそのまま収録したものである。

1937年に発表の加藤正世博士の目録(全日本産鍬形虫科一覧目録、昆虫界, Vol.5, No.45:765-769, 1937)では、分布を北海道、本州、九州としている。

以上が戦前の主要な目録、図鑑での本種の分布の取扱いである。北海道、本州の記録というのは始めから標本があつてはつきりとしているのであるが、九州の分布というのがどのような記録に基づいているのかわからない。

戦前出版の野村 鎮の図鑑(原色昆虫大図鑑第2巻・甲虫編, 1963, 北隆館・東京)では、分布は北海道、本州で九州が入っていない。

1960年発表の野村 鎮の目録(日本産コガネムシ目録、桐朋学報 No.10:39-79, 1960)では分布は北海道、本州、四国、九州となっており、九州以外に四国の分布が初めて報告されている。

四国からの記録がこれまたどのような産地で報告されているのか筆者にはわからなかった。矢野俊郎による「四国産既知甲虫類目録 III」(松山昆虫同好会時報 No.16, 1961)を見ると四国からの本種の記録は1960年の野村 鎮の目録によるということであり、こちらも詳しい産地がわからなかった。

その後出版された各種図鑑とか目録などには分布北海道, 本種, 四国, 九州となっている。1978年, 中根猛彦博士は"北海道から四国, 九州山地まで分布するとされているが近畿以西では極めて稀のようで"とされており, 上高地産のものに対して下腿の形状が異なることから subsp. *moticola* Nakane を記載された(北九州の昆虫, Vol.24, No.3, p78, Fig.5, 1978)。

この亜種はミヤマツヤハダクワガタとして中部地方から紀伊半島にかけて分布するとされている。1987年, 藤田 宏は四国, 九州に分布しているものは原名亜種, 中部亜種とは体と大腿が太短く, 内側へ強く曲がり, 内歯は突出するがほぼ真横を向くなどの特徴から新亜種 subsp. *nodai* Fujita を記載した。大分県祖母山が原産地であるが熊本県白取山(Mt. Shiratoriyama), 四国の徳島県剣山, 愛媛県の小田深山(Mt. Odamiyama)等の産地のものがバラタイプに指定されている。同時にミヤマツヤハダクワガタには長野型, 山梨型, 静岡~紀伊半島型と地域変異があるが, 近畿地方, 中国山脈-中国地方の分布については全く触れていない(月刊むし, No.197: 3-7, 1987)。

本種の生態はある程度わかっている。幼虫の記載(ニューエントモロジスト Vol.5, No.4, p.12, pl.1, 1956)や写真, 記述(吉田賢治, 日本産クワガタムシ大図鑑, p.65, 82, 104, 1996)などがある。

ミヤマツヤハダクワガタの兵庫県下の分布であるが, 大上宇一氏がツヤハダクワガタを「播磨産甲虫類」(昆虫世界 Vol.11, No.115:112, 1907)の中に記録している。産地とか採集データがないのが残念である。同定については松村松年博士の"日本千虫図解"によるとあるが, 同書第3巻, pl.45, f.4によって同定がなされたのなら, 本種ではなくチビクワガタ *Figulus binodulus* Waterhouse ではないかと考えられる。また, 田中正浩氏は氷ノ山で幼虫を採集したが, 飼育に失敗したと記しておられる(昆虫と自然 Vol.22, No.7, p.10, 1987)。さらに大阪の大築正弘氏からの私信によると箕面昆虫館に氷ノ山産のツヤハダクワガタが展示してあったとある(きペリはむし Vol.15, No.2: 57-58, 1987)。

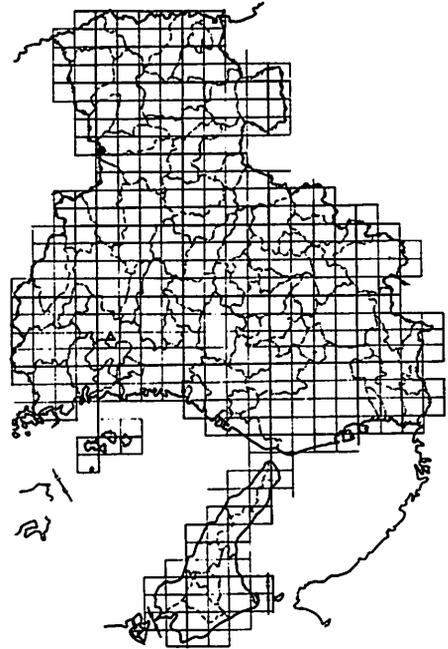
混虫ずかん No.22: 4(1989)の中で, 豊岡高に氷ノ山産らしいツヤハダクワガタの標本があるとの報告があり, これに関連して谷角素彦氏の解説がある(IRATSUME, No.12: 9, 1988)。また, 氷ノ山産らしいツヤハダクワガタが IRATSUME, No.13/14: 78, 1980 で写真をつけて示された。ただ, この写真はあまり良いわけではないのだが大腿の形状からするとミナミツヤハダクワガタ(四国, 九州に分布)のような気がする。はっきりしない標本で氷ノ山産のものかど

うかも疑わしい。どちらにしても氷ノ山にはツヤハダクワガタはいると考えられる。はっきりした記録を是非確認していただきたいものである。

産地。

揖保郡[大上, 1907]?

養父郡氷ノ山[田中, 1987, 高橋, 1987, 谷角, 1990]。



兵庫県におけるミヤマツヤハダクワガタの分布

Subfamily Aesalinae マダラクワガタ亜科

Genus *Aesalus* Fabricius

2. *Aesalus asiaticus* Lewis, 1883

マダラクワガタ

本種は Lewis が♂13♀標本に基づいて図説し新種記載した種である(Trans. ent. Soc. London part.III: 340-341, pl.XIV, fig.5, 1889)。

その採集については, "This little species occurs in large forests of considerable elevation, I obtained it first in May, 1880, above Miyanoshita. I took off bark from a fallen tree which was dead and moss-grown, and then found it in little round holes in had gnawed out in the wood under the bark to winter in.

In June I found it at Chiuzenji, and the following spring on Oyayama, near Kumamoto, always getting

it in the described" と説明している。

1910年の Roon,G. による *WJunk Coleopterorum Catalogus Pars.8, Lucanidae*,p.57 には分布 Japan として収録されている。

三輪勇四郎博士は1927年, "A List of Japanese Lucanidae, with the description of one new species" (*Ins. Mats., Vol.II, No.1, p.29&31*) において分布を本州, 台湾として九州は示されていない。

1930年, 神谷一男は7月中旬に青森県十和田湖畔子の口及び休屋付近にて3♂2♀を採集されたものに基づき, その詳しい形態を図をつけて記述された (*昆虫 Vol.4, No.4 : 277-279, 1930*)。

三輪勇四郎博士は"台湾産昆虫目録(鞘翅目)"(台湾總督府中央研究所農業部報告第55号, p.275, 1931) に疑問符を付けながら分布に Japan proper, Formosa と示されている。

1932年湯浅啓温博士は日本昆虫図鑑の中で図説 (p.510, f.993) し, 分布地に本州, 九州, 台湾を示されている。

1933年加藤正世博士は分類原色日本昆虫図鑑第八輯, 鞘翅目(厚生閣・東京)においてはじめてカラーで図説され (pl.11, f.2), 分布は本州, 台湾としている。また, 同年昆虫界誌上に白黒写真で図示し, 分布を同じく本州, 台湾としている (Vol.1, No.2, pl.9, f.5, p.156-157, 1933)。

1933年, 小坂橋秀治は赤城山を産地に示された (*昆虫世界 No.436, p.18.*)。

1934年三輪勇四郎博士は"大日本鍬形虫科の種の研究(5)"を公表になり (*台湾博物学会々報 Vol.24, No.134, p.322, 330, pl.IV, f.8*), その中で"台湾産甲虫目録"の中で産地台湾は標本ラベルの誤りにつき訂正する」と発表され, 分布は本州, 九州とされている。従って加藤博士の分布台湾は全部間違いとなる。

1936年出版された Miwa, Y. et Chujo, M. "Catalogus Coleopterorum Japonicorum, Lucanidae" (p.11) において分布は本州, 九州になっている。

1938年関 公一は"北海道より新たに記録されるマダラクハガタとその産地"を公表 (*昆虫界 Vol.VI, No.52, pp.538-542*), 新たに本種が北海道に分布していることを報じた。

1939年西島 浩は札幌近郊で得た本種を飼育してその生活史を"マダラクハガタの生活史"として発表した (*日本の甲虫, Vol.III, No.1, pp.11-16, pl.11*)。

1940年平山修次郎は"本館所蔵日本産鍬形虫科の解説(III)"を公表し, 札幌円山産1♂を図示されている。分布は本州, 九州のみになっている (*虫の世界, Vol.3, No.11/12 : 175-176, pl.18, f.2*)。

1950年宮武睦夫・小林 尚は"石鎚山系の甲虫類

(第一報)"を公表 (*宝塚昆虫館報 No.73 : 3-4*), その中で皿ヶ嶺から四国新記録として本種の1♀を公表になった。

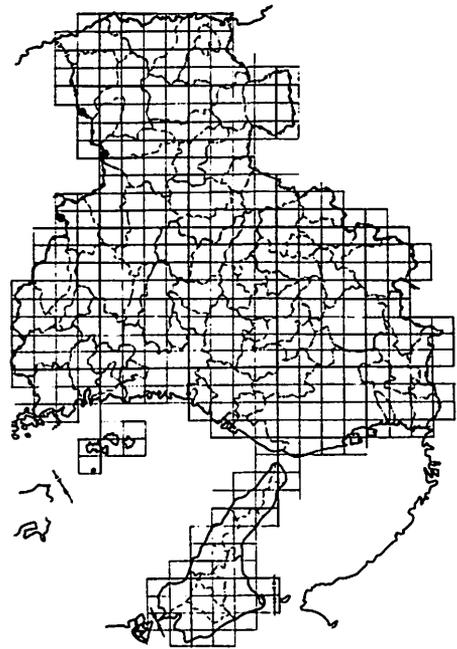
1960年, 野村 頌は原色昆虫大図鑑第2巻(甲虫編)にてカラーで図説された (p.110, pl.55, f.7)。そこでは北海道, 本州, 四国, 九州を分布地とされている。

1985年黒沢良彦博士は原色日本甲虫図鑑(II) (保育社・大阪)にて, カラーで図説された (pl.59, f.10, p.334)。分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 伊豆諸島(御蔵島), 対馬, 屋久島とある。

1988年岡島秀治・山口 進により"検索入門クワガタムシ"が出版(保育社・大阪)された。その中でマダラクワガタが図説されている (p.17, 35-36, 50)。分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 伊豆諸島(利島・御蔵島)となっており, 屋久島には亜種 *sawaii* Fujita et Ichikawa(ヤクシママダラクワガタ)を産すると示されている (*Gekkan Mushi: No.166 : 38, 1984*)。

1994年, 水沼哲郎・永井信二は"世界のクワガタムシ大図鑑"(むし社・東京)を公表, カラー図説をしている。分布は日本: 北海道, 本州, 四国, 九州, 天草諸島, 対馬, 佐渡島, 伊豆諸島(利島, 御蔵島)となっている。

1995年吉田賢治は"カラー図鑑クワガタムシ・カブトムシ"(成美堂出版・東京)を出版, カラーで図説 (p.30, 73, 93)。分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡島,



兵庫県におけるマダラクワガタの分布

対馬, 伊豆諸島(利島, 御蔵島)となっている。

1996年吉田賢治は"日本産クワガタムシ大図鑑"(虫研・埼玉)を出版, カラーによる図説をした(p.61, 65,84,107)。分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 伊豆諸島(利島, 御蔵島), 天草諸島(下島), 対馬とし, 亜種ヤクシママダラクワガタ(屋久島)も図説した。

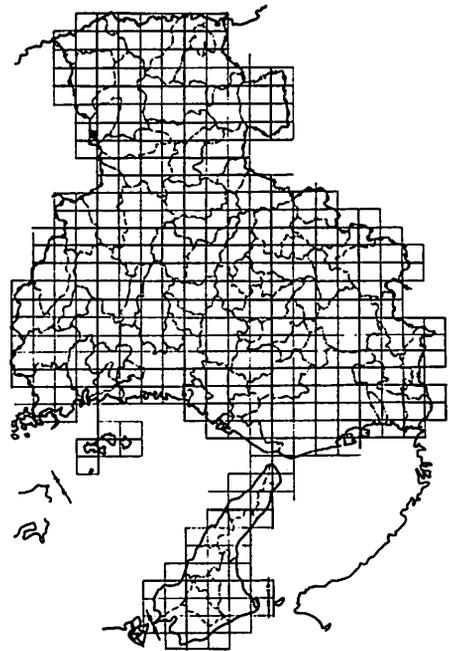
兵庫県における本種の記録は1960年に奥谷禎一博士による氷の山が一番古い(兵庫の自然, のじぎく文庫,p.135)。その後属の山でも記録があり, 宍粟郡の千種町でも記録がある。しかし, わりと産地は偏っているようである。さらに詳しく調べればまだ産地はあるのではないかと考えている。

産地。

宍粟郡千種町駒ノ尾山[佐藤,永幡,1994]。

養父郡氷の山[奥谷,1960, 高橋,1981,1982, 田中, 1987]。

美方郡属の山[辻,1963, 辻,岸田,1972, 高橋,1981,但馬むしの会,1984, 谷角,1985,1986,1988, 高橋, 1982, 田中,1972, 岡島,山口,1988]。



兵庫県におけるマグソクワガタの分布

Subfamily Nicaginae マグソクワガタ亜科

Genus *Nicagus* Leconte

3. *Nicagus japonicus* Nagel,1928

マグソクワガタ

本種は1890年6月4日, Fritze が北海道 Ichikishiri で採集した1(♀?)によって記載された種である(Ert. Mitteil. XVII, Nr.4,p.260,1928)。

三輪勇四郎博士は1934年"大日本鍬形虫科の種の研究(5)"(台湾博物学会々報Vol.24,No.134,p.322,pl.IV, f.7)の中で分布地北海道として図示された。

1936年の三輪勇四郎・中條道夫著"日本産鞘翅目分類目録Part.2, 鍬形虫科(台湾昆虫研究所・台北)"には, クワガタムシ科の種として含まれている。

1937年の昆虫趣味の会調査(加藤正世著)"全日本産鍬形虫科一覧目録"(昆虫界Vol.5,No.45,p.765-769)にもクワガタムシ科に含まれている。

戦前の図鑑類に本種が図示されたものは知らないし, 上記目録以外に本種に関しての文献は見ることができなかった。

戦後, 1955年, 中根猛彦博士は原色日本昆虫図鑑・甲虫篇, 増補改訂版(保育社・大阪)の中でカラーで図説すると同時に体制上コブスジコガネ科に近い感じを受けると述べられた。そして"きわめて稀で現在までに数頭得られているにすぎない"と記されている。

1960年の野村 領氏の"日本産コガネムシ類目録(Toho Gakuho,No.10,p.45)"においては, 本種はコブスジコガネ科に属する種とされた。

1963年, 中根猛彦博士の原色昆虫大図鑑第2巻(甲虫篇)(北隆館・東京)では, カラーによる図説をされるとともにコブスジコガネ科に属するものとして示された(pl.50,f.12,p.114)。分布は北海道, 本州(東北部)とされている。

1975年, 林 長閑博士は学研中高生図鑑, 昆虫II, 甲虫(学研・東京)の中でカラーで図説されるとともに, コブスジコガネ科の種として収録されている(p.67, 386)。

1985年益本仁雄は原色日本甲虫図鑑(II)(保育社・大阪)においてコブスジコガネ科の種として扱っている(pl.63,f.16,p.347)。

ただし, 本種をコブスジコガネ科の種に扱うことに疑問視する意見が次のようにあった。

塚本珪一"日本産 TROGIDAE-コブスジコガネ科-について(京都府私学研究論集,第24号,p.27,1986)". 三宅義一"日本産こぶすじこがね科昆虫の研究の現状とその問題点(北九州の昆虫Vol.33,No.3,p.140, 1986)".

1988年石田正明・藤岡昌介氏はその著"日本産コガネムシ主科目録(LAMELLICORNIA 1st.ed. Supp-

lement)"の中でマグソクワガタ科 *Nicagidae* として独立の科に所属された。

1992年、田花雅一・奥田則雄氏は"マグソクワガタについて(月刊むしNo.256,p.3-10)"の中で奈良県吉野郡川上村北股川畔における本種の多発地点の発見とその生活史、生態、形態、とくに幼虫の形態など詳しく発表されてその幼虫の形態から本種はクワガタムシ科マダラクワガタ亜科に含めるべきであったという貴重な意見が述べられている。

1994年の水沼哲郎・永井信二による"世界のクワガタムシ大図鑑(むし社・東京)"では、そのトップにカラーで図説、クワガタムシ科のものとして取り扱っておられる。

筆者はクワガタムシ科マグソクワガタ亜科に所属せしめるのがよいと考えている。

兵庫県での記録は足立義弘氏による美方郡秋岡での1♂(28.IV.1971)、矢田川上流砂防ダムで砂礫の堆積した川岸の5cmぐらいの石礫の上で採集というのがある(月刊むしNo.250,p.4,1991)(この記録はその他に混虫ずかんNo.29,p.2,1991, IRATSUME No.17,p.71-72,1993に同じものの採集状況の説明がある)。

産地。
美方郡美方町小代溪谷(秋岡)[山本,1991,足立,1991,1993]。

Subfamily Figulinae チビクワガタ亜科

Genus *Figulus* Macleay,1819

4. *Figulus binodulus* Waterhouse,1873

チビクワガタ

G.Lewis の採集品により C.O.Waterhouse が *Figulus binodulus* として記載した種である。

産地は S.Japan とあるだけで具体的にどこで採集されたものかわからない(Ent. Monthl. Mag.,IX,p.277-278,1873)。

Lewis,G. は1888年"On the Lucanidae of Japan"(Trans. ent. Soc. Lond.,1883 : 339)において"I took twenty specimens of *F.binodulosus*, C.Waterh., at Konose in May, 1881, from and old log in the forest: all the specimens are alike and agree well with Waterhouse's type and description"と述べている(Konose, 神瀬, 球磨川流域~熊本)。

三輪勇四郎博士は1934年"大日本鍬形虫科の種の研究(5)(台湾博物学会々報Vol.24,No.133,p.320,pl.IV, f.3)"において図説されている。そして産地として奈良,台湾; 嘯里,台北を示し,分布:本州,九州,台湾

としている。

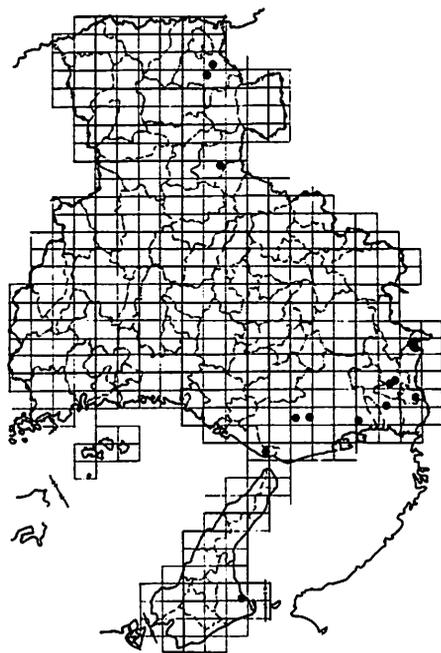
1933年加藤正世博士は"分類原色日本昆虫図鑑第八輯,鞘翅目(厚生閣・東京)"においてカラー図説をした(pl.11,f.1)。

1937年に平山修次郎が"原色千種續昆虫図譜(三省堂・東京)"に図示したマメクワガタ(pl.61,f.13,p.129)はチビクワガタの間違いである。同氏著1940年出版の原色甲虫図譜に全く同じ図版で、産地のみが違って(記載も勿論違って)「チビクワガタ」で図説されている(pl.17,f.13,p.39,産地,高知県土佐産)。

1939年,平山修次郎は鹿児島市外産をを図説した"本館所蔵日本産鍬形虫科の解説(II)(虫の世界Vol.3, No.9/10,p.142,pl.16,f.2)".分布は本州,四国,九州,台湾とされている。

戦後になると大方の図鑑に図説されており,よく知られるようになった。そしてその分布は水沼哲郎・永井信二共著の"世界のクワガタムシ大図鑑"(むし社・東京,1994,p.299)によると,日本,本州,四国,九州,伊豆諸島(御蔵島,八丈島),朝鮮半島,中国,台湾,ベトナム北部になる。種名は"2つの隆起を持つ"の意で,前頭に2つの隆起がある。

兵庫県の記録は1955年,中根猛彦博士による宝塚産によるカラー図説のものが一番古いと思われる(原色日本昆虫図鑑,甲虫編,保育社・大阪,pl.28,f.596,p.87)。朽木採集で数百頭も採れたことがあると



兵庫県におけるチビクワガタの分布

されたが、これは阪急電車沿線御影駅構内にあった桜の朽木から採集されたものであったようにお聞きした記憶がある。県下には全般的に広く分布しているように思われる。

産地。

- 洲本市三熊山[久松,1973, 登日,1974].
- 川西市山下[岡田,1974], 笹部[岡田,1974, 弘世, 1978, 仲田,1978,1982], 見野,大和[1978,1982].
- 伊丹市猪名野神社[河上,1994], 伊丹市[楠井, 1990].
- 宝塚市[中根,1955], 武庫川町[新家,1988], 武庫川町宍布が丘[田中,1992].
- 西宮市六軒町[関,1934].
- 神戸市御影町[芳賀,1975], 藍那(3exs.,14.VI.1978), 押部谷町木見(1ex.,23.VI.1980).
- 明石市明石公園(1ex.,15.VI.1975,etc.).
- 朝来郡和田山町[上田,1987], 牧田岡[谷角,1988,上田,1990].
- 豊岡市内[高橋,1975], 妙楽寺,山本,神武山[上田, 1990].

5. *Figulus punctatus* Waterhouse,1873

マメクワガタ

C.O.Waterhouse により G.Lewis の採集品で *Figulus punctatus* として新種記載されたもので、産地は S.Japan とのみで具体的な産地は示されていない(Ent. Monthl. Mag.,IX,p.278,1878).

G.Lewis は "I obtained only one specimen from an old Celtis (榎) at Nagasaki in February, and I believe it is a good species. There five specimens in my original collection" と記録している(Trans. ent. Soc. Lond.,p.339,1883).

1933年、加藤正世博士は "分類原色日本昆虫図鑑第八巻、鞘翅目(厚生閣・東京)" においてカラーで図説された(pl.11,f.2).

1934年、三輪勇四郎博士は "大日本鍬形虫科の種の研究(5)" (台湾博物学会々報Vol.24,No.134,p.130,pl.IV, f.4) において図説された。分布は九州、台湾とされている。

1936年の三輪勇四郎・中條道夫両博士の "日本産鞘翅目分類目録、鍬形虫科" にはもちろん分布、九州、台湾として収録されている(p.10).

1937年平山修次郎は原色千種續昆虫図譜の中で、マメクワガタを高知県土佐産でカラーで図説した(pl.61,f.13,p.129). 1940年出版の原色甲虫図譜で全く同じ図版を用いてチビクワガタとしてカラーで図説されている(pl.17,f.13,p.39). 写真が小さいのでよくわからないが、チビクワガタと考えるのがよいので

はないかと思う。両者の区別は当時ではかなり困難であったと考えられる。

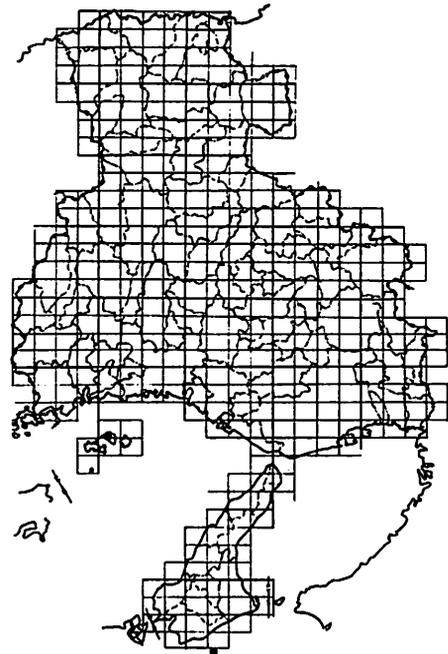
1939年、同じく平山修次郎は "本館所蔵日本産鍬形虫科の解説(II)" (虫の世界,Vol.3,No.9/10,p.142,pl.16,f.3) の中で鹿児島市外産を图示された。分布は本州、四国、九州、台湾となっている。

戦後の図鑑類にはほとんど図説されているが、本州における産地は限定されているように思われる。

1994年の水沼哲郎・永井信二による "世界のクワガタムシ大図鑑(むし社・東京)" での図説によると(pl.136,f.645,p.229), その分布は日本:本州(山口県, 紀伊半島沿岸部), 沼島(兵庫県), 四国(南部沿岸部), 沖の島(高知県), 九州, 白島(北九州市), 高島(佐賀県唐津市), 加部南(佐賀県東松浦郡), 伊豆諸島(神津島, 三宅島, 御蔵島, 八丈島), 対馬, 五島列島, 平戸島, 男女諸島, 天草諸島(下島), 屋久島, 口之永良部島, トカラ列島(口之島, 中之島, 悪石島), 奄美大島, 徳之島, 沖縄本島, 石垣島, 台湾となっている。

1966年の吉田賢治著 "日本産クワガタムシ大図鑑" (虫研・埼玉) によるとほぼ同じ分布地になっている。

兵庫県では沼島がよく知られているが、定着しているのかそれとも漂流物と一緒に来たものかよくわからない点がある。しかし、家島で森 正人氏が採集しておられるとのこと(楠井善久,LAMELLICORNIA



兵庫県におけるマメクワガタの分布

No.8,p.20,1992). こうなると瀬戸内の島々に分布している可能性も高い。

産地。

三原郡南淡町沼島[幸形,1986, 田中,1987, 水沼,永井,1994].

飾磨郡家島[楠井,1992].

Subfamily Lucaninae クワガタムシ科

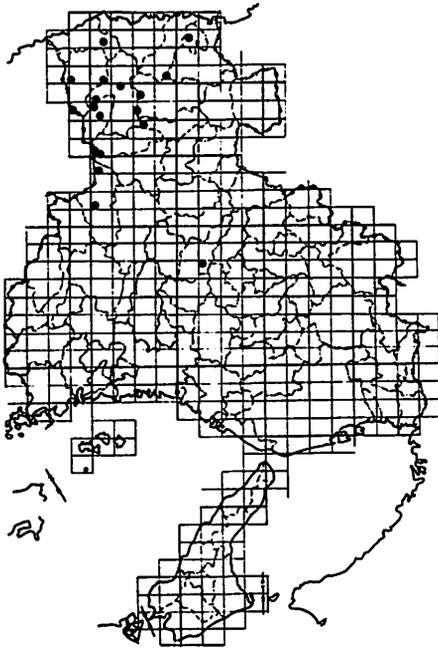
Genus *Platycerus* Geoffroy,1762

6. *Platycerus acuticollis akitai* Fujita,1987

キンキコルリクワガタ

ルリクワガタと称されているものには明瞭に区別できる2種類が含まれているとして、1969年黒沢良彦博士によってコルリクワガタ *Platycerus acuticollis* Y.Kurosawa が分離された(Bull. Nat. Soc. Mus. Vol. 12, No.3, p.478-482, pl.1, f.1). ところが、このコルリクワガタが地理的変異に富んだ種であることから、1987年藤田 宏はこの種が4種に区別されることを発表した(月刊むしNo.197, p.3-7, 1987). すなわち、コルリクワガタ(原名亜種)

subsp. *acuticollis* Y.Kurosawa, トウカイコルリクワガタ



兵庫県におけるキンキコルリクワガタの分布

subsp. *takakuwai* Fujita, キンキコルリクワガタ

subsp. *akitai* Fujita, ミナミコルリクワガタ subsp.

namedai Fujita である。

これにより近畿地方、兵庫県産はキンキコルリクワガタになるのではと考えられる。もっとも、原名亜種のコルリクワガタも兵庫県にいるのかも知れないという疑問はある。これについては兵庫県産コルリクワガタを全部検してみなければならない。実際にはそれは無理のようだし、今後の調査に待たねばならないとして、兵庫県産のものはキンキコルリクワガタとして扱っておくことにする。

県下の産地は今のところ但馬地方から知られているのみであるが、1例神崎郡での記録があり、まだ他の地域に分布している可能性がある。

産地。

神崎郡神崎町根宇野笠形山[佐藤,1993, 永幡, 1992].

宍粟郡赤西[田中,1987], 波賀町氷ノ山殿下コース, 坂の谷林道, 千種町駒ノ尾山[佐藤,永幡1994]. 城崎郡城崎町来日岳[永幡,1992,1993], 香住町三川山[谷角,1988], 日高町蘇武岳,金山峠付近?[佐藤,永幡,1994].

養父郡氷ノ山[Kurosawa,1969, 高橋,1981,1982, 田中,1987, 谷角,1988], 八鹿町妙見山?, 関宮町氷ノ山大段ヶ平殿下コース[佐藤,永幡,1994].

美方郡扇ノ山[Kurosawa,1986, 辻,1972,辻,岸田, 1972, 高橋,1981,1982, 但馬むしの会,1984, 谷角, 1985,1988, 足立,谷角,1986, 足立,1986, 田中, 1982,岡島,山口,1988], 浜坂町本谷,温泉町牛が峰山,美方町鍛冶屋?, 村岡町本谷奥,村岡町小城, 村岡町和佐父?, 村岡町蘇武岳[佐藤,永幡,1994], 美方町小長岫[佐藤,1996], 温泉町槍尾(標高340m)[永幡,1997].

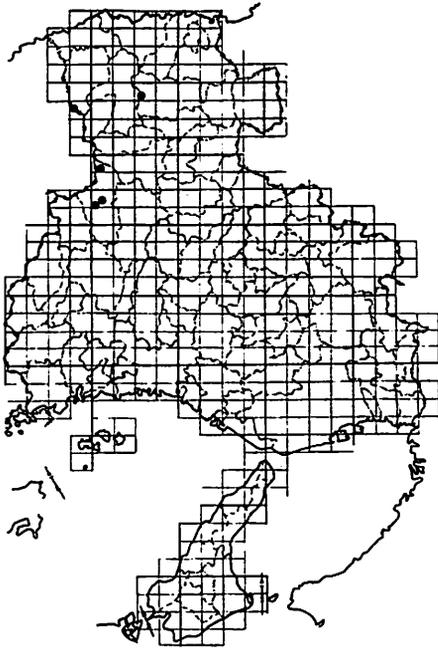
7. *Platycerus delicatulus* Lewis,1883

ルリクワガタ

本種は Lewis により Oyayama, Odaigahara, Chuzenji にて6月,そして Ontake にて8月に得られた25♂,20♀♀の標本で命名記載された(Trans. ent. Soc. London, p.338, t.14, f.3, ♂, 1883). この標本の中には *Platycerus acuticollis* が含まれていて、森本博士によって大英博物館に保管されている標本が確かめられた経緯が詳しく説明されている(黒沢良彦,甲虫ニュースNo.7, p.3, 1869).

本種の生活史については下山健作氏の報文がある(昆虫学評論, 6巻2号, pp.10-12, pl.3, 1952).

市川敏之は8月30日にルリクワガタ♀の蛹を得たという。さらに秋期朽木採集で若齢幼虫(同年の6月



兵庫県におけるルリクワガタの分布

頃に産卵された卵から孵化したものと、終齢幼虫、さらに成虫が得られたことから成虫になるまで2~3年を要すると考えられる興味深い記録をされている(月刊むしNo.122,1981)。

分布は日本特産種で北海道、本州、四国、九州である。本種の県下の産はかなり限られた地点において知られているだけであるが、詳しい調査をすればまだまだ産地があるのではないかと考えられる。

産地。

夫栗郡音水 [Kurosawa,1965], 音水・赤西 [田中, 1987], 波賀町氷ノ山坂ノ谷林道 [佐藤,永幡, 1994].

城崎郡日高町蘇武岳 [佐藤,永幡,1994, 佐藤,1996]. 美方郡扇ノ山 [辻,1972, Y.Kurosawa,1969, 辻,岸田, 1972, 高橋,1981,1982].

Genus *Lucanus* Scopoli,1763

8. *Lucanus maculifemoratus* Motschulsky,1861

ミヤマクワガタ

本種ははじめ Motschulsky によりインド原産の *L. cantori* として日本から記録された (Etud. Ent. p. 16,1860). そしてその翌年 Motschulsky は *L. ma-*

culifemoratus なる新種を日本から記載した (Etud. Ent. X, p.9,1861). さらに1866年, Motschulsky はこの両種とも日本に産するとしている (Bull.Soc. Nat. Mosc. p.39).

Lewis は1883年, 次のようにこの両者について論じている. すなわち, Motschulsky の *maculifemoratus* と *cantori* は同一種であり, 日本に産するものは *maculifemoratus* として取扱わなければならないことになる. この両者の日本から記載に用いられた標本を実際にモスクー大学動物学博物館で検された中根猛彦博士は *maculifemoratus* のタイプは中型のみで大腿の基部歯は薄いが中央歯(第3歯)よりわずかに長い. *cantori* のラベルのあるものは同一種の小さいみであると発表している (Bull. Natn. Sci. Tokyo 15(3):421,1972).

Motschulsky の命名した1861年に Snellen van Vollenhoven が *L. sericans* なる種を日本から記載している (Tijdschr. V. Ent. IV,p.703).

この記載種も *maculifemoratus* と同一種であり, このことは Vollenhoven 自身のように認めているようであるが (Tijdschr. V. Ent. IV, p.147,1865), このタイプ標本はオランダの Leyden 自然史博物館に保管されていて中根猛彦博士はそれを検し, 写真に撮影されたがやはりミヤマクワガタの小型のみであることがはっきりした(北九州の昆虫26巻,1号, pl.1, p.1,1979) (この標本はシーボルトの採集品である).

Parry が1862年に東インド産の *L. hopei* なる種を記載した (Proc. Ent. Soc. Lond.,p.108,♂), そして1864年に同じ材料によって産地東インド及びマレー諸島を掲げた (Trans. ent. Soc. Lond.,p.9, t.4, f.2, 1964), 図はミヤマクワガタと同じものである.

Parry はその報告の中で *hopei* は *sericans* (De Hann M.S.) Voll. と同種(?)で, Miszech と彼の採集品としてライデン博物館に♀あり, 産地はジャワで S. van Vollenhoven により *sericanus* (1861) と書かれたのは誤りであり, 後者は多分 *L. maculifemoratus* の小型種であろうとしている.

三輪勇四郎博士はジャワとジャパンを当時の状況から混同していたのではないかといわれたが, 当然それは考えられることである(台湾博物学会々報21巻,p.319,1931). その後 Parry は *hopei, sericans* とも *maculifemoratus* のシノニムであると報告している (Trans.ent. Soc. Lond.,p.53,1870), Heyden は本種をアムールより報告し, 北中国及び日本に産すると付記し, 同時に「*sericans, hopei* とともに同種なり」と報告している (Deutsch. Ent. Zeitscher.,p.276,1884).

Planet は1898年 *maculifemoratus* の変種として

elegans を Leach が函館で採集した 1 頭(1898)と Ning-Poo(中国寧波?)で採集した 1 頭(ともに Fairmaire の採集品である)で記載(Naturaliste, p.19 & 253, f.2, 2♂3♀, 1896)した。他に「修道院長 A. Dawid より送付されたエゾ産の 2♂2♀(同一地方産)もあり」とある。三輪勇四郎博士は函館付近産だろうとされている(1931)。

現在の分類では大蹠の形態によって日本産のものは 3 つの型に分けられている。つまり, *f. hopei* Parry, *f. nakanei* Y.Kurosawa, *f. maculifemoratus* Motschulsky である。

f. honei は北海道, 本州の北部及び中央山岳地帯, 稀に九州の山地に産するといわれているが, 今のところ兵庫県下でこの型のものは知らない。後の 2 つの型はともに兵庫県に産する。

f. maculifemoratus の型が一番普通であるとのことであるが, 兵庫県産のものはむしろ *f. nakanei* の方が多いようである。もっとも, これは所有標本よりの比較で, 従来記録されているものがどちらの型に属するかは確かめようがないので, その点是不充分であるが大蹠の型での区別ではそれほどはっきりと分布が分かれなないので, とくに分けて取り扱う必要はないように思われる(大阪地方に産するものはほとんどが *f. nakanei* であるらしい。日浦, 1978)。従って, 産地については型に関係なく記録しておく。

兵庫県では普通種であるが, 神戸市内あたりでは, ノコギリクワガタ, コクワガタの方が多く, 本種はそれらに比して少ない。本種の種名は“斑紋のある腿節をもった”という意味で, 腿節に横長の黄褐色紋を有する特徴を表している。

産地。

洲本市先山 [堀田, 1973, 1976]。

川辺郡猪名川町上阿古谷, 杉生 [仲田, 1978], 三草山 (2♂, 5.VII.1980), [水沼, 1991]。

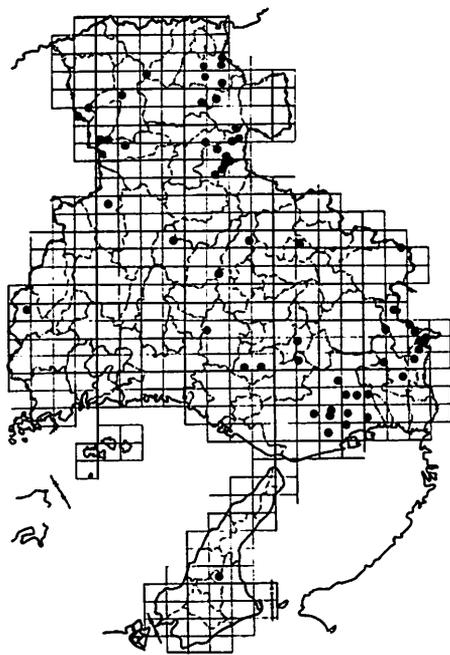
川西市一庫, 笹部, 花折橋付近, 横地, 西畦野, 芋生 [仲田, 1978, 1982], 笹部 (1♂, 21.VII.1956, Tsukaguchi leg.)。

宝塚市武田尾 (1♀, 25.VII.1954), 香合新田, 売布が丘 [田中, 1992]。

神戸市御影 [関, 1933], 六甲山 (1♂, 15.VII.1956), 摩耶山 (1♀, 21.VII.1955), 布引 (1♂, 20.VI.1952), 鳥原 (2♂, 28.VI.1939, etc.), 山の街 (2♂, 4.VII.1954), 北鈴蘭台大山公園 (1♂, 11.VII.1990), 大池 (1♂, 3.VIII.1940), 八多町屏風 (3♂2♀, 22.VII.1993, etc.), 藍那 (2♂, 5.VII.1959, etc.), 逢山峡 (1♂, 28.VII.1987)。

三木市口吉川 (1♀, 3.VII.1986)。

小野市来住町 (1♂, 21.VI.1971), 山田 (1♀, 17.IX.



兵庫県におけるミヤマクワガタの分布

1987)。

加東郡東条町森 (1♂, 22.VI.1984, etc.)。

加西市畑 (1♂, 23.VI.1974)。

多可郡市原 (1♂, 24.IX.1972), 笠形山 [西脇, 1965]。

神崎郡大河内町川上 (1♂, 5.VII.1977)。

佐用郡上月 (1♂, 27.VI.1960)。

宍粟郡音水 (1♂1♀, 20.VII.1969)。

水上郡 [山本, 1958]。

多紀郡雨石山 [Hayashi etc., 1995]。

出石郡出石町有子山, 三木, 桐野 [高橋, 1981]。

朝来郡和田山町比治, 牧田岡, 竹田, 林垣, 桑原, 和田, 柳原, 法興寺, 竹ノ内 [谷角, 1989], 山東町宇山 [谷角, 1988, 1994]。

豊岡市福田 [高橋, 1975], 柴町, 三開山, 大師山, 下陰, 妙楽寺, 河梨峠 [谷角, 1988]。

城崎郡三川山 [高橋, 1981], 日高町上ノ郷 [谷角, 1988]。

養父郡氷の山 (3♂2♀, 23.VII.1956), 養父町養父沢 [谷角, 1988, 1994], 関宮町鉢伏, 水ノ山, 葛畑 [谷角, 1988, 1994]。

美方郡扇ノ山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 谷角, 1985, 1988], 美方町熱田 [谷角, 1985, 1988], 温泉町扇ノ山, 肥前畑 [谷角, 1988], 村岡町入江 [谷角, 1988, 1994]。

兵庫県のテントウムシ(2)

故高橋寿郎氏遺稿集No. 2
兵庫昆虫同好会事務局編

前回に引き続き、兵庫県のテントウムシについての研究史を手持ち文献により振り返ってみる。今回は1976年まで紹介したので今回はそれ以降について解説する。

1977. 伊丹市立博物館 昆陽池の自然 B5. 26p.

伊丹市立博物館第9回特別展解説目録13号。

テントウムシ, ナナホシテントウが記録されている。

1977. 伊丹市立博物館 昆陽池生物目録 B5. 36p.

テントウムシ科はベニヘリテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウの4種が記録されている。

1977. 広地 昇・奈良隆史・木戸和伸 三熊山の昆虫について

PARNASSIUS(17) : 5-28.

テントウムシ科としてベニヘリテントウ, クロヘリヒメテントウ, ナナホシテントウ, ムーアシロホシテントウ, キイロテントウ, オニヒメテントウ, ムモンヒメテントウの7種が記録されている。

1977. 西宮自然保護協会 西宮の自然

(西宮市甲子園ロータリークラブ発行)

ナナホシテントウの記録あり。

1977. 仲井啓郎 竹田川の昆虫

竹田川の自然 : 104-109. ひかみ第9号

p. 152.(丹波自然友の会, 永上文化顕彰会発行)

テントウムシ科としてテントウムシ, カメノコテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ニジュウヤホシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ハラグロオオテントウの7種が記録されている。

1977. 高橋寿郎 三瀧山(兵庫県)の甲虫相(兵庫県甲虫相資料-60)

MDK NEWS 27(77) : 2-6.

テントウムシ科は19種が記録されているが, なかでもクロジュウニホシテントウ, ナカネヒメテントウ, アラキヒメテントウ, アカヘリテントウは注目種として記録している。

1978. 宮武睦夫 てんとうむしノート(I)

昆虫と自然13(1) : 9-16.

シロジュウシホシテントウの摩耶山での記録がある。

1978. 堀田 久 淡路島産昆虫類採集記録

PARNASSIUS(18) : 4-16.

テントウムシ科としてテントウムシ, アカボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ベニヘリテントウ, ヒメカメノコテントウ, オオニジュウヤホシテントウの6種が記録されている(p.14)。

1978. 高橋寿郎 兵庫県神崎郡大河内町川上~砥峰地区の甲虫相

大河内地点自然環境実態調査報告書p.56-61.

大河内地点自然環境調査団刊。

テントウムシ科としてムツボシテントウ, コクロヒメテントウ, フタホシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ベニヘリテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, シロジュウシホシテントウ, テントウムシ, ハラグロオオテントウ, キイロテントウ, シロジュウニホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, トホシテントウの14種を記録している(p.59)。

1978. Miyatake, M. The Genus *Telsimia* Casey of Japan and Taiwan (Coleoptera: Coccinellidae)

Trans. Shikoku Ent. Soc. 14(1/2) : 13-19.

表題のごとく日本, 台湾産 *Telsimia* 属のテントウムシについての論文で, 南方系のテントウムシである。直接兵庫県産についての記述はないが, 日本全土に広く分布しているクロテントウ *Telsimia nigra* (Weise) の分布に淡路島が記されている。淡路島での記録はこの著者により1973年にある。

1978. 堀田 久 淡路島産昆虫採集記録(II).

PARNASSIUS(19) : 10-14.

テントウムシ科としてキイロテントウ, ヒメアカボシテントウ, ヒメカメノコテントウの3種が記録されている。

1978. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録(第5報)

兵庫県豊岡高等学校生物教室刊. B5,14p.

テントウムシ科としてマクガタテントウ, フタモンクロテントウの2種の記録があり(p.11), 豊岡市, 城崎郡日高町産とされている。

1978. 仲田元亮 能勢の昆虫(I) 自刊 B5. 405p.

テントウムシ科として次の記録がある(p.188-197).

トホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, アカイロテントウ, ベニヘリテントウ, ベタリヤテントウ, コクロヒメテントウ, ハレヤヒメテントウ, フタホシヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, フタモンクロテントウ, ウスフタホシテントウ, フタホシテントウ, ヨツボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, アカボシテントウ, ハラグロオオテントウ, カメノコテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, ウスキホシテントウ, シロトホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ジュウロクホシテントウ, キイロテントウ, シロホシテントウの26種。

1979. 仲田元亮 「能勢の昆虫」その後(2)

きべりはむし7(2): 16-28.

テントウムシ科としてムーアシロホシテントウ, クロヘリヒメテントウの2種の記録がある。

1980. 高橋寿郎 県下の注目すべき甲虫(兵庫県甲虫相資料・77)

鳥と自然(16): 8-14.

テントウムシ科としてジュウクホシテントウ, マクガタテントウ, ウスキホシテントウ, ジュウロクホシテントウ, ウンモンテントウ, コブオオニジュウヤホシテントウを記録している。

1980. 高橋寿郎 兵庫県におけるマダラテントウ類の分布について

きべりはむし8(1): 9-11.

トホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウヤホシテントウ, コブオオニジュウヤホシテントウの4種の分布状況の記録。

1980. (株)都市緑地研究所 神戸市道高速道路2号線生態調査業務(その1・その2)報告書 V.昆虫類. p.233-292, 付図70.

(妙法寺の昆虫・神戸)

キイロテントウの記録がある。

1980. 環境庁編 日本の重要な昆虫類・近畿版 IV 兵庫県.

第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書(昆虫類) 1978・兵庫県 (大蔵省印刷局発行)

p.90にハラグロオオテントウの記録がある。

1980. 藤本 清・今井国貴・山口福男 クリ園における空中散布が昆虫相に及ぼす影響・ナナホシテントウの各種アブラムシ類に対する捕食性と薬剤感受性.

応用動物昆虫学会中国支部会報(22): 3-14.

著者の所属職域から兵庫県下での調査結果と考えられるが, 具体的な調査地点は不明。

1980. 奥谷禎一 宝塚の昆虫類

宝塚市史第7巻: 512-523.

ハラグロオオテントウが佐曽利の桑の木に多いとの記録がある。

1980. 上田尚志. 家島群島の昆虫(2).

きべりはむし9(1): 9-18.

テントウムシ科としてベニヘリテントウ, ベタリヤテントウ, ヒメアカボシテントウ, ダンダラテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, キイロテントウの8種の記録がある。

1981. 永井正身 朝来郡朝来町奥多々良木ダム・黒川ダム動物相調査報告(昆虫類)

環境科学(株) A4. 8p.

ナミテントウの記録がある。

1982. H.Sasaji. Additions to the Japanese fauna of the Coccinellid tribe Scymnini (Coleoptera). Spec. Iss. Mem. Retir. Emer. Prof. N.Chujo, 1982: 63-72.

p.69-72. *Scymnus (Pullus) chujoi* Sasaji チュウジヨウヒメテントウなる新種記載があり, Paratypes の中に次の県下産の記録がある。

1ex., Hyonosen, Hyogo Pref. 18.VII.1967, H.Sasaji leg.

1ex., Hyonosen, 26-30.VII.1969, H.Sasaji leg.

筆者が宍粟郡音水で採集した1ex., 3.VI.1973 で佐々治博士に同定をお願いしたのもこの種に当たる。

1982. 仲田元亮 増補改新 能勢の昆虫

甲虫の部下巻 B5. 508p.(ref.p.60-79).

兵庫県産テントウムシの記録は次のとおりである。
トホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, アカイロテントウ, ベニヘリテントウ, ベタリヤテントウ, コクロヒメテントウ, ハレヤヒメテントウ, フタホシヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, フタモンクロテントウ, ウスフタホシテントウ, フタホシテントウ, ヨツボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, アカボシテントウ, ハラグロオオテントウ, カメノコテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, ウスキホシテントウ, シロトホシテントウ, シロジュウシホシテントウ, ムーアシロホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ジュウロクホシテントウ, キイロテントウ, シロホシテントウの27種。

1982. 河上仁之 猪名川自然目録

地域研究いたみ(12) : 135.

テントウムシ科としてテントウムシ(=ナミテントウ), ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウの3種が記録されている。

1984. 高橋寿郎・蜂谷幸雄 東条地区の昆虫

東条地区開発に伴う環境影響評価現況調査報告書 住宅・都市整備公団関西支社 B4.

252pp.(ref. p.193-223, 昆虫, p.197-205)

テントウムシ科の記録としてカメノコテントウ, コクロヒメテントウ, チビクロテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ヒメカメノコテントウの7種を記録している。

1984. 河上仁之 伊丹市昆虫目録(1).

伊丹の自然 1 : 22-32.

p.31にナナホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, テントウムシ, ダンダラテントウ, ヒメカメノコテントウ, ベニヘリテントウの6種の記録がある。

1985. 高橋寿郎・蜂谷幸雄 押部谷町木津地域の昆虫類

(仮称)押部谷パブリックゴルフクラブ建設事業動物調査報告書

(パシフィックコンサルタンツK.K. B5. 71p.)

(昆虫 p.20-43)

テントウムシ科として次の記録がある(p.38-39).
コクロヒメテントウ, クロヒメテントウ, テントウムシ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウの5種。

1985. 河上仁之 伊丹市昆虫目録(2)

伊丹の自然(2) : 27-32.

テントウムシ科としてアカボシテントウ, シロジュウゴホシテントウ, チビクロテントウの3種が記録されている。

1985. 高橋寿郎 摩耶山の甲虫

鳥と自然(38) : 12-18.

ハラグロオオテントウについて記録されている(p.17).

1986. 山口福男 笠形山千ヶ峰県立自然公園の昆虫

笠形山千ヶ峰県立自然公園及び周辺地域の自然環境調査報告. B5. 28p. (ref.21-28p.)

兵庫県新観光課

テントウムシ科としてウンモンテントウ, オオテントウなど18種が記録されている。

1986. 山口福男 雪彦峰山県立自然公園の昆虫.

雪彦峰山県立自然公園及び周辺地域の自然地域の自然環境調査報告. B5. 35p. (ref.27-35p.)

テントウムシ科はハラグロオオテントウ, シロジュウシホシテントウの記録がある。

1986. 河上仁之 伊丹市昆虫目録(3)

伊丹の自然(3) : 21-26.

テントウムシ科としてナナホシテントウ, ナミテントウ, ダンダラテントウ, ニジュウヤホシテントウ, ヨツボシテントウ, ヒメアカボシテントウ, ヒメカメノコテントウの7種が記録されている。

1987. 東 正雄 ハラグロオオテントウの生活史

きべりはむし15(1) : 15-16.

宝塚市西谷地域香合新田のクワの樹より採集の8exs.の飼育から。

1987. 堀田 久 洲本市由良小学校付近の昆虫類

PARNASSIUS(32) : 12-15.

テントウムシ科としてナナホシテントウ, テントウムシ, ヒメアカボシテントウの3種の記録がある。

1987. 河上仁之 野鳥の島の生物調査報告(1) IV

昆虫(昆陽池) 伊丹の自然(5) : 23-25.

ニジュウヤホシテントウ, ナミテントウの記録がある。

1988. 高橋寿郎 大上宇一氏による西播の甲虫相
きべりはむし16(2) : 29-35.
マクガタテントウ, カメノコテントウについての
解説がある。
1988. 高橋寿郎 兵庫県産テントウムシ数題
きべりはむし16(2) : 37-39.
ズグロツヤテントウ, ヨツモンヒメテントウ, ウ
スキホシテントウ, ジュウロクホシテントウの4種
について解説している。
1988. 相坂耕作 播磨の昆虫 (のじぎく文庫)
(神戸新聞総合出版センター)
テントウムシ(=ナミテントウ), ナナホシテント
ウ, ニジュウヤホシテントウについての解説がある
(p.70-71)。
1989. 新家 勝 宝塚大橋の甲虫(その3)
きべりはむし17(1) : 9-11.
ナミテントウの記録がある (p.10)。
1989. 西宮市立総合教育センター 甲山の自然②
西宮の自然ガイド② 95p.
ナナホシテントウ (p.39), ナミテントウ (p.41)の
記録がある。
1990. 新家 勝 武庫川の昆虫目録
伊丹の自然(8) : 1-15.
ヒメアカホシテントウ, ナナホシテントウ, ヒメ
カメノコテントウ, テントウムシの記録がある。
1990. 高橋寿郎 兵庫県の甲虫
鳥と自然(59) : 9-18.
オオテントウ, ハラグロオオテントウ, カメノコ
テントウ, ニジュウヤホシテントウ, オオニジュウ
ヤホシテントウの解説がある。
1991. 西宮市立教育センター 北部の自然
西宮の自然ガイド④ 33p.
ナミテントウ (p.49)の記録がある。
1991. 新家 勝 尼崎西部の昆虫(その5)
きべりはむし19(2) : 37-41.
テントウムシ科はベニヘリテントウ, ニジュウヤ
ホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, テントウム
シ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウの記
録がある。
1993. 河上仁之ほか 武庫川河原の昆虫・昭和40年
代昆陽池の昆虫
伊丹の自然第1巻 p.127-132.
ナナホシテントウ, ナミテントウの記録がある。
1993. 河上仁之ほか 河原の動植物・畑の動植物
伊丹の自然第2巻 p.63, p.144.
ナナホシテントウ, ナミテントウ, ヒメカメノコ
テントウ, ニジュウヤホシテントウの記録がある。
1993. 小田中 健ほか 宝塚の昆虫IV 甲虫目(II)
168p. (ref.p.47-57) 宝塚市教育委員会刊
ハレヤヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, ア
トホシヒメテントウ, コクロヒメテントウ, クロヘ
リヒメテントウ, クロテントウ, フタモンクロテ
ントウ, アカホシテントウ, ヒメアカホシテントウ, ヨ
ツボシテントウ, ベニヘリテントウ, アカヘリテ
ントウ, ベタリヤテントウ, ジュウサンホシテントウ,
ジュウクホシテントウ, ナナホシテントウ, マクガ
タテントウ, ウスキホシテントウ, ヒメカメノコテ
ントウ, ムーアシロホシテントウ, ジュウロクホシ
テントウ, テントウムシ, ダンダラテントウ, ハラグ
ロオオテントウ, カメノコテントウ, キイロテント
ウ, シロホシテントウ, ニジュウヤホシテントウ, オ
オニジュウヤホシテントウ, トホシテントウの30種
が記録されている。
1993. 高橋寿郎 鳥原貯水池付近の昆虫類
鳥原貯水池自然調査報告書 A4. 56p. 昆虫類
目録 14p.
テントウムシの記録としては, クロツヤテントウ,
キアシクロヒメテントウ, ハレヤヒメテントウ, ナ
ガサキヒメテントウ, クビアカヒメテントウ, カイ
ヒメテントウ, アトホシヒメテントウ, コクロヒメ
テントウ, クロヒメテントウ, カワムラヒメテント
ウ, オオサカヒメテントウ, アラキヒメテントウ, ニ
セツマアカヒメテントウ, ナガヒメテントウ, キイ
ロヒメテントウ, オトヒメテントウ, クロヘリヒメ
テントウ, ヒメアカホシテントウ, フタホシテント
ウ, クロテントウ, ヨツボシテントウ, ベタリヤテ
ントウ, アカイロテントウ, ベニヘリテントウ, ナナホ
シテントウ, ヒメカメノコテントウ, シロトホシテ
ントウ, シロジュウシホシテントウ, ムーアシロホ
シテントウ, テントウムシ, ダンダラテントウ, キイ
ロテントウ, シロホシテントウ, ニジュウヤホシテ
ントウの34種がある。

1993. 斉藤琢己 神戸市におけるオシマヒメテントウの記録.

月刊むし(264): 40.

1♂, 神戸市北区京地(16.IX.1991)の記録がある.

1994. 小田中 健 宝塚の甲虫(補遺)

宝塚の昆虫 VII: 337-370.

テントウムシ科(p.358-360)としてムツボシテントウ, ヨツモンヒメテントウ, キアシクロヒメテントウ, ツマアカヒメテントウ, ハバヒメテントウ, オトヒメテントウ, アミダテントウの7種が記録されている.

1994. 竹野川生物調査研究会 川原の昆虫

私たちの川: 26 竹野川の自然とくらし(城崎郡竹野町)

ナミテントウの図説がある.

1994. 建設省河川治水課監修 財団法人リバーフロント整備センター編集 平成4年度河川水辺の国勢調査年鑑

陸上昆虫数等調査編 B5. 1328pp.(山海堂・東京)

猪名川・藤川 p.843-844.

クロツヤテントウ, キアシクロヒメテントウ, カグヤヒメテントウ, コクロヒメテントウ, カワムラヒメテントウ, クロテントウ, ナナホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ナミテントウ, ダンダラテントウ, キイロテントウ, ニジュウヤホシテントウの12種.

加古川

セスジヒメテントウ, クロヘリヒメテントウ, コクロヒメテントウ, ヒメアカホシテントウ, カメノコテントウ, ムーアシロホシテントウ, ナナホシテントウ, ジュウサンホシテントウ, ヒメカメノコテントウの9種.

揖保川

クロツヤテントウ, オオヒメテントウ, クロヘリヒメテントウ, オニヒメテントウ, コクロヒメテントウ, ヒメアカホシテントウ, ムーアシロホシテントウ, ナナホシテントウ, マクガタテントウ, ナミテントウ, ジュウサンホシテントウ, ヒメカメノコテントウ, ニジュウヤホシテントウの13種.

1995. 高橋寿郎 クロバネヒメテントウが自宅電話に飛来

IRATSUME(19): 60.

1995. 林 靖彦ほか 雨石山の甲虫相

KASUGA(大阪甲虫同好会連絡誌)No.11: 1-25 (ref.p.15).

キイロテントウ, ベタリヤテントウ, ベニヘリテントウ, ムーアシロホシテントウ, シロトホシテントウ, シロジュウシホシテントウ, フタホシテントウ, テントウムシ, ヒメアカホシテントウの9種が記録されている.

1996. 渡辺 直 ハムシの成虫に食らいついたカメノコテントウの成虫

インセクタリウム33(11): 20-21.

神戸市西区にて.

1996. 大宮文彦 テントウムシ科2種の特徴的な羽化

月刊むし(310): 31.

尼崎市蓬川緑地にて採集のニジュウヤホシテントウを飼育中の羽化状況.

1996. 野生生物を調査研究する会 生きている武庫川

テントウムシの記録がある.

1998. 斉藤琢己 気になるテントウムシ

ねじればね(79): 11.

Scymnus (Pullus) sp. が尼崎市武庫元町県立西武庫公園, 同武庫之荘西, 武庫豊町で採れている.

目 録

Family Coccinellidae テントウムシ科

Subfamily Stichlotidinae メツブテントウ亜科

1. *Serangium japonicum* Chapin, 1940

クロツヤテントウ

体長1.5-2.0mm. 上翅の点刻は微細, 頭部はふつう赤褐色. 触角挿入孔は縁取られ, 腿節はふつう黄褐色. 樹葉上にふつうに見られる. コナジラミ類を捕食する.

産地.

三原郡福良[宮武, 古木, 1973]*

神戸市鳥原(1ex., 4.V.1972, M.Miyatake det., 1ex.,

23.V.1981, H.Sasaji det. in his coll., 1ex., 1.VI.1982, etc. *), 箕谷 (1ex., 4.X.1989).

明石市明石公園 (1ex., 9.VI.1978).

加東郡社町三草 (1ex., 22.V.1989, etc.)

相生市三濃山 (1ex., 6.V.1973, M.Miyatake det., etc.)

宍粟郡音水 (1ex., 11.VI.1972, H.Sasaji det. in his coll., etc.).

2. *Serangium punctum* Miyatake, 1963

ズグロツヤテントウ

体長1.8–2.2mm. 上翅の点刻はやや強く、頭部は黒色。触角挿入孔は縁取られない。山地性とのこと。県下の記録はあまりない。

産地。

宍粟郡音水 (1ex., 15.VII.1973, M.Miyatake det.)

美方郡扇の山 [宮武, 1963., 辻, 1972., 辻・岸田, 1972]

3. *Plotina versicolor* Lewis, 1896

クロジュウニホシテントウ

体長2.4–3.5mm. 体下面, 肢, 触角, 口器は赤褐色。全国的に見ても少ない種類のようなのである。

兵庫県からは次の記録が知られているだけである。

産地。

相生市三濃山 (2exs., 3.V.1969).

4. *Sticholotis punctata* Crotch, 1874

ムツボシテントウ

体長2.0–2.6mm. 上翅に点刻列がなく、黒斑は6個、冬期ケヤキの樹皮下にいる。♂が見つからず単為生殖をされると思われる (佐々治, 1985).

県下の記録も少ない。

産地。

川辺郡猪名川町槻並 (1ex., 2.VII.1978).

宝塚市宝塚ファミリーランド内 [畑中, 1994].

Kobe [Lewis, 1896].

三田市永沢寺 (1ex., 3.VI.1978).

5. *Sticholotis substriata* Crotch, 1874

メツブテントウ

体長2.7–3.0mm. 各上翅の会合縁近くの中央部に強い点刻からなる2点刻列があり、黄色部はない。県下の記録は少ない。

産地。

Kobe [Lewis, 1896].

神崎郡大河内町砥峰 (1ex., 7.V.1977).

Subfamily Scymninae ヒメテントウ亜科

6. *Stethorus (Stethorus) japonicus* H.Kamiya, 1959

キアシクロヒメテントウ

体長1.2–1.5mm. 体長は体幅の約1.3倍、上翅の点刻は細かく均一。他の無紋ヒメテントウ類に似るが弧状に張り出した前胸腹板前縁で区別される。ハダニの捕食虫として知られる。

兵庫県下には広く分布していると考えられる。とくに神戸市内では多く見られる。

産地。

宝塚市玉瀬 [小田中, 1994].

神戸市逢山峡 (1ex., 2.VII.1982), 鳥原 (1ex., 12.V.

1980 & 1ex., 22.V.1979, H.Sasaji det. in his coll., 4exs., 9.V.1982, etc.), 藍那 (1ex., 21.IV.1993, etc.).

三木市美寝川川原 (1ex., 16.VIII.1979).

加東郡東条町森 (1ex., 11.V.1984), 社町三草 (1ex., 22.V.1989).

7. *Pseudoscymnus hareja* (Weise, 1879)

ハレヤヒメテントウ

上翅中央に1対の橙黄紋があり、翅端部も橙黄色。上翅黄紋が左右融合することがあるが、その場合は上翅基部、側縁と会合線の前半が黒色。前胸背板は橙黄色であるがまれに黒化することがあるという。

体長1.9–2.5mm. カイガラムシ類の天敵として知られている。兵庫県にも広く分布している。

産地。

洲本市先山 [久松, 1973]. 三原郡福良 [久松, 1973].

川西市笹部 [仲田, 1978, 1982].

宝塚市武田尾 (1ex., 25.VII.1954), [東, 1993].

西宮市船坂 (1ex., 5.VI.1987).

Kobe [Lewis, 1896].

神戸市摩耶山 [三橋, 1936], 布引 (1ex., 17.V.1959),

六甲山 (1ex., 29.V.1987), 鳥原 (1ex., 10.V.1956,

etc.), 山の街 (1ex., 5.V.1955), 須磨 (2exs., 9.VII.

1982, Y.Hachitani leg.), 多井畑 (1ex., 27.IX.1990,

etc.).

美寝郡吉川町 (1ex., 6.VI.1985).

神崎郡笠形山 (1ex., 12.V.1966).

揖保郡鷲籠山 (1ex., 27.V.1970).

宍粟郡音水 (1ex., 30.VII.1972, etc.).

水之上郡 [山本, 1956], 柏原 (1ex., 10.V.1953), 市島町

* [] 記録からの引用, 研究史の文献参照のこと
** () 筆者の採集したもの, 採集例の多いものは1例のみ掲げ他は省略して etc. とした。

鴨庄(1ex.,13.VIII.1957).

8. *Pseudoscymnus nagasakiensis* (H.Kamiya,1961)

ナガサキヒメテントウ

産地.

西宮市盤滝(1ex.,29.V.1987).

神戸市伊川谷(2exs.,21.IX.1988,etc.), 多井畑(1ex.,
19.VI.1990), 石井ダム(1ex.,23.X.1991).

加東郡社町三草(1ex.,14.VII.1989).

龍野市神岡町(2exs.,8.IX.1988).

9. *Pseudoscymnus nakanei* (M.Araki,1963)

ナカネヒメテントウ

産地.

多紀郡篠山[Araki,N.,1963].

10. *Pseudoscymnus pillicreps* (Lewis,1896)

オオヒメテントウ

産地.

宍粟郡音水(1ex.,21.V.1972,H.Sasaji det. in his
coll.).

11. *Pseudoscymnus sylvaticus* (Lewis,1896)

クビアカヒメテントウ

前胸背板は橙黄色。上翅は黒色で翅端部がかなり
広く橙黄色。体長2.3-2.7mm。県下にも広く分布し
ているようである。

産地.

川西市笹部[仲田,1978,1982].

宝塚市内(1ex.,22.IV.1956)

西宮市名塩[東,1993].

神戸市摩耶山(1ex.,14.VII.1955), 山の街(3exs.,5.V.
1954), 丹生山(1ex.,5.V.1956), 広野(1ex.,15.IV.
1956), 鳥原(1ex.,8.V.1983,etc.), 伊川谷(1ex.,19.
V.1988).

多可郡鳥羽(1ex.,29.IV.1972).

相生市三濃山(1ex.,3.V.1974,etc.).

宍粟郡音水(1ex.,20.VII.1969,etc.).

氷上郡[山本,1958].

12. *Nephus kaiensis* (H.Kamiya,1961)

カイヒメテントウ

産地.

神戸市鳥原(1ex.,24.V.1990).

13. *Nephus kompirasanus* (H.Kamiya,1961)

ムモンヒメテントウ

産地.

洲本市先山, 三熊山[久松,1974].

14. *Nephus osimensis* Sasaji,1976

オシマヒメテントウ

産地.

神戸市北区京地[斉藤,1993]

15. *Nephus patagiates* (Lewis,1896)

セスジヒメテントウ

体長は幅の約1.7倍。上翅の黄褐色紋は大きく通常
翅長の2/3を占め、翅端は多少とも淡色。体長1.5-1.9
mm。兵庫県下には広く分布しているようだが個体
数はそれほど多くない。

産地.

神戸市西区伊川谷(1ex.,4.X.1988).

加東郡社町三草(1ex.,1.VI.1989).

宍粟郡水谷(1ex.,17.VII.1981), 音水(1ex.,30.V.
1970).

出石郡出石町荒木[高橋,1963].

豊岡市金山[高橋,1975].

16. *Nephus phosphorus* (Lewis,1896)

アトホシヒメテントウ

触角, 口器, 腿節は暗黒褐色。前胸背板はほとんど
黒色。上翅赤紋は小さい。オオワタコナカイガラム
シの天敵として知られている。体長1.7-2.3mm。

ふつうに見ることができる。

産地.

川西市笹部[仲田,1978,1982].

宝塚市宝梅町1丁目[東,1993].

神戸市鳥原(3exs.,24.V.1979,etc.), 石井ダム(3exs.,
18.X.1991), 逢山峽(1ex.,17.V.1985), 北区八多
町屏風(1ex.,6.V.1993,etc.).

小野市来住町(8exs.,21.VI.1991,etc.).

多可郡日山(1ex.,3.V.1973).

城崎郡日高町奈佐路(1ex.,19.VI.1986).

17. *Nephus yotsumon* (H.Kamiya,1961)

ヨツモンヒメテントウ

上翅各翅に前後に並んだ2つの小赤紋を有する。
前胸背板, 体下, 各肢は黒色である。体長1.9-2.1mm。
県下での記録は少ない。

産地.

宝塚市売布3丁目[畑中,1994].

加東郡社町三草(1ex.,26.VI.1987).

18. *Scymnus (Pullus) doctratomoides* Weise, 1879

ツマアカヒメテントウ

前胸背板は橙褐色，上翅は黒色で翅端部が淡色。眼の内縁は下半において弱い明らかな弧状を示す。体長1.8–2.2mm。普通に見られる。

産地。

宝塚市玉瀬〔畑中, 1994〕。

神戸市多井畑 (2exs., 23.V.1990)。

宍粟郡水谷 (1ex., 17.VII.1981)，音水 (1ex., 31.V.1970, H.Sasaji det. in his coll., 1ex., 25.VI.1972, etc.)。

養父郡水ノ山 [H.Sasaji, 1971]。

19. *Scymnus (Pullus) gigantes* H.Kamiya, 1961

オニヒメテントウ

背面は全くの黒色，上翅被毛は細かく，複雑な多くの波状に配列する。大型で体長2.8–3.5mm。県下での記録は少ない。

産地。

洲本市三熊山 [宮武, 古木, 1973]。

神戸市逢山峡 (1ex., 11.VII.1987)。

20. *Scymnus (Pullus) posticalis* Sicard, 1912

コクロヒメテントウ

上翅端の淡色部は明瞭で，その前縁境界は前方に弧状に突出する。上翅被毛は弱く湾曲したS字形。上翅会合線近くに点刻列を有する。前頭は♂では淡色で，♀では黒色。体長1.9–2.8mm。ごく普通に産する。

産地。

津名郡岩屋 (3exs., 4.VIII.1957, etc.)。

川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978]。

川西市一の鳥居, 大和, 笹部 [仲田, 1978, 1982]，能勢妙見 (1ex., 30.VII.1982)。

宝塚市内 (1ex., 22.IV.1958)，武田尾 (1ex., 25.VII.1954)，宝梅町 [東, 1993]。

西宮市武庫川 (1ex., 24.IV.1983)，船坂 (2exs., 5.VI.1987, etc.)。

神戸市六甲山 (2exs., 22.V.1987, etc.)，摩耶山 (2exs., 14.VII.1955)，布引 (3exs., 17.V.1959)，石楠花山 (1ex., 1.VI.1984)，烏原 (3exs., 25.IV.1954, etc.)，石井ダム (1ex., 18.X.1991)，垂水 (5exs., 5.V.1985)，逢山峡 (3exs., 2.VII.1982, etc.)，伊川谷 (4exs., 19.V.1988, etc.)，多井畑 (2exs., 22.VI.1990, etc.)，藍那 (1ex., 5.V.1969, etc.)，木津 (1ex., 30.V.1984)，山の街 (1ex., 5.V.1954)，丹生山 (1ex., 5.V.1955, etc.)，金剛童子山 (2exs., 24.VI.1956)，谷上 (3exs., 3.V.

1957, etc.)，長待山 (2exs., 7.V.1982)，北鈴蘭台大山公園 (1ex., 28.VI.1959)，芦谷溪谷 (2exs., 11.VI.1982)，妙法寺 (1ex., 24.IV.1979)，八多町屏風 (2exs., 12.V.1993, etc.)。

三木市細川中 (2exs., 19.IX.1985, etc.)，口吉川町 (1ex., 4.IX.1986)，大村 (1ex., 10.V.1990)，三木山志染 (3exs., 28.V.1982, etc.)。

美濃郡吉川町 (3exs., 6.VI.1985)。

小野市山田 (1ex., 18.VI.1987)，来往町 (3exs., 30.V.1981)。

加東郡東条町森 (1ex., 18.V.1984)，社町三草 (2exs., 6.VII.1989, etc.)。

飾磨郡雪彦山 (3exs., 14.VII.1957)。

多可郡三谷 (1ex., 26.VIII.1975)，鳥羽 (1ex., 5.VII.1975)。

神崎郡笠形山 (1ex., 12.VI.1975)，大河内町川上 (2exs., 14.V.1977, etc.)。

朝来郡生野 (1ex., 8.VII.1956)。

揖保郡鷓籠山 (4exs., 27.V.1970)，新宮町福原 (2exs., 10.VI.1992, etc.)。

龍野市神岡町 (3exs., 21.VII.1988, etc.)。

相生市三濃山 (3exs., 7.V.1972, etc.)。

宍粟郡水谷 (1ex., 17.VII.1981)，原 (1ex., 11.V.1979)，音水 (4exs., 10.V.1970, etc.)，坂の谷 (3exs., 9.VI.1973)。

多紀郡西紀町 (現篠山市) (1ex., 27.IV.1984, Y.Hachitani leg.)。

水上郡柏原 (1ex., 10.V.1953)，山南町 (5exs., 11.VIII.1990, etc.)。

出石郡出石町三木 [高橋, 1963]。

城崎郡日高町 (2exs., 3.X.1985)，奈佐路 (3exs., 22.V.1986)。

養父郡水の山 (1ex., 2.VIII.1953)。

美方郡鉢伏山 [高橋, 1975]，扇ノ山 [辻, 1963]。

21. *Scymnus (Pullus) japonicus* Weise, 1879

クロヒメテントウ

前胸背板に明らかな橙黄色部があり，翅端の淡色部は比較的広く明瞭。上翅被毛の配列は弱く湾曲したS字形。兵庫県下の分布はわりと広く産するようである。

産地。

神戸市烏原 (1ex., 26.VI.1982, etc.)，木津 (1ex., 5.X.1984)，伊川谷 (1ex., 7.VI.1988)，多井畑 (2exs., 27.IX.1980)，藍那 (1ex., 12.X.1993)。

加東郡社町三草 (1ex., 7.V.1987)。

相生市三濃山 (1ex., 3.V.1969, etc.)。

宍粟郡音水 (1ex.,4.V.1974,H.Sasaji det. in his coll., 2exs.,25.VI.1972,etc.).

22. *Scymnus (Pullus) kawamurai* (Ohta,1929)

カワムラヒメテントウ

前胸背板は黒く、側縁と前縁は狭く淡色。翅端淡色部はきわめて狭い。体長1.8-2.6mm。兵庫県の記事はあまり多くない。

産地。

洲本市先山 [宮武,古木,1973].

三原郡福良 [宮武,古木,1973].

神戸市烏原 (1ex.,13.V.1982,etc.), 藍那 (2exs.,20.V.1993).

宍粟郡赤西 (1ex.,10.V.1970,H.Sasaji det. in his coll.).

23. *Scymnus (Pullus) chujoi* Sasaji,1982

チュウジョウヒメテントウ

体の前方及び後方は強く狭まり、側縁は中央部において強く弧状。上翅被毛は細かく密である。体長2.4-3.1mm。兵庫県下での記録は少ない。

産地。

宍粟郡音水 (1ex.,3.VI.1973,H.Sasaji det. in his coll., 1ex.,3.VI.1973).

養父郡氷の山 [1ex.,26-30.VII.1969,H.Sasaji leg., 1982].

24. *Scymnus (Pullus) osakana* M.Araki,1963

オオサカヒメテントウ

体の後方は広く半円形で、前胸背板の前方への狭まりは強くなく、体の側縁は中央部において平行に近い。上翅被毛は粗く疎である。体長2.5mm。県下ではあまり多くない。

産地。

神戸市芦谷溪谷 (1ex.,11.IX.1982), 石楠花山麓 (1ex.,1.VI.1984), 木津 (1ex.,6.X.1984), 烏原 (1ex.,3.VII.1984).

多可郡鳥羽 (1ex.,29.IV.1972).

相生市三濃山 (1ex.,29.IV.1974,etc.).

宍粟郡音水 (1ex.,21.V.1972).

多紀郡西紀町 (現篠山市) (2exs.,27.IV.1984,Y. Hachitani leg.).

25. *Scymnus (Pullus) puellaris* M.Araki,1964

アラキヒメテントウ

小型で体長1.5-1.7mm。前胸背板は黒く前角と狭い前縁が淡色。上翅は黒く翅端はきわめて狭く不明

瞭に淡色を呈する。肢は黄褐色。前胸腹板縦隆線は広く隔てられる。県下での記録はほとんどない。

産地。
神戸市烏原 (1ex.,12.V.1980,H.Sasaji det. in his coll., 1ex.,1.VI.1985,etc.).

26. *Scymnus (Pullus) rectoides* H.Sasaji,1971

ニセツマアカヒメテントウ

眼の内縁は下半においてほぼ平行、♂の腹部第5節後縁は比較的強く弧状。体長1.7-2.3mm。

産地。

神戸市烏原 (1ex.,2.V.1971,H.Sasaji det. in his coll., 1ex.,26.IV.1982,etc.).

養父郡氷の山 [H.Sasaji,1971].

27. *Scymnus (Pullus) ruficeps* (Ohta,1929)

ナガヒメテントウ

上翅被毛配列は翅端部を除けばほとんどまっすぐ。小型で長く体長1.6-2.1mm。長さは幅の1.5倍以上、前胸背板前縁と翅端部が不明瞭に暗褐色。県下には広く分布しているように思われる。

産地。

神戸市烏原 (1ex.,14.V.1972,etc.).

揖保郡鷓籠山 (1ex.,27.V.1970).

相生市三濃山 (1ex.,3.V.1974,H.Sasaji det. in his coll.).

宍粟郡音水 (1ex.,10.V.1970,etc.).

養父郡氷の山 [1♀,11.VII.1967,H.Sasaji leg.,1971].

28. *Scymnus (Pullus) syoitii* Sasaji,1971

キイロヒメテントウ

背面一様に橙黄色である。県下での記録はほとんどない。

産地。

神戸市烏原 (1ex.,16.XI.1975,H.Sasaji det. in his coll.).

29. *Scymnus (Pullus) takabayashi* (Ohta,1929)

タカバヤシヒメテントウ

やや大型 (体長2.8-3.0mm) で、側縁は中央部において弱く弧状、上翅被毛の配列は弱いS字形、上翅の会合線近くに点刻列を欠く。あまり多くない。

産地。

美濃郡吉川町 (1ex.,13.IX.1985).

三木市口吉川町菅原 (2exs.,3.X.1986,etc.).

城崎郡日高町奈佐路 (3exs.,22.V.1986,etc.).

30. *Scymnus (Scymnus) paganus* Lewis, 1896

トビイロヒメテントウ

体長2.2–2.7mm. 全体褐色から黄褐色で、被毛は黄色。

産地。

宍粟郡音水 (1ex., 11.VI.1972, H.Miyatake leg., 1ex., 3.VI.1973).

31. *Scymnus (Neopullus) babai* Sasaji, 1971

ババヒメテントウ

産地。

宝塚市武田尾 [小田中, 1994].

32. *Scymnus (Neopullus) fuscatus* Bohemann, 1858

カバイロヒメテントウ

上翅被毛は長く細く黄色を帯び、比較的緩やかなS字形に配列する。体下は褐色で、肢よりもやや淡色。体長1.9–2.3mm. 県下には広く分布している。

産地。

神戸市広野 (1ex., 15.IV.1956), 垂水 (2exs., 10.V.1985), 谷上 (1ex., 1.VI.1986), 伊川谷 (1ex., 4.X.1988).

高砂市 [Ohta, 1925].

美濃郡吉川町 (5exs., 13.IX.1985, 22exs., 19.IX.1985), 吉川町奥山 (1ex., 8.V.1986).

加東郡社町三草 (1ex., 1.VI.1989).

氷上郡水上町生郷, 育垣町芦田 [山本, 1958].

33. *Scymnus (Neopullus) otohime* H.Kamiya, 1961

オトヒメテントウ

卵形で長さは幅の約1.5倍。背面は黒く上翅の後側方に小さく長卵形の赤紋がある。クレイガアブラムシの天敵。体長1.4–1.6mm. 県下にも広く分布しているように思われる。

産地。

宝塚市玉瀬 [小田中, 1994].

神戸市鳥原 (2exs., 19.VI.1982, etc.), 逢山峡 (1ex., 27.VI.1987), 石井ダム (1ex., 22.X.1991), 藍那 (1ex., 20.V.1993, etc.).

佐用郡大撫山 (4exs., 25.IV.1976, H.Sasaji det., 1ex., in his coll.).

34. *Scymnus (Neopallus) hoffmanni* Weise, 1879

クロヘリヒメテントウ

体長1.5–2.3mm. 上翅は黒色で各翅に赤い縦条があるが、その幅には変化がある。前胸背板は強く弧状に前方に狭くなる。県下には広く分布している。

産地。

洲本市三熊山 [宮武, 古木, 1973]

川西市大和 [仲田, 1979].

Kobe [Lewis, 1896].

神戸市鳥原 (1ex., 10.IX.1980, etc.), 伊川谷 (1ex., 7.VI.1988, etc.).

小野市来住町 (12exs., 12.IX.1991).

龍野市神岡町 (2exs., 14.IX.1988).

宍粟郡音水 (1ex., 25.VI.1972, M.Miyatake det.).

出石郡出石町安良 [高橋, 1963].

35. *Chilocorus kuwanae* Silvestri, 1909

ヒメアカホシテントウ

体長3.3–4.9mm. 上翅の斑紋は小さい。前頭の点刻間表面は鮫肌状。各種カイガラムシ類の有力な天敵である。兵庫県下には広く普通に産する。

産地。

Awajishima, 2exs., IV.17.1909, Thomson leg. [Miyatake, 1970].

津名郡岩屋 (1ex., 29.VI.1959), 常陸寺山 (1ex., 20.IV.1974), [宮武, 古木, 1973], 津名郡大町 [堀田, 1978].

三原郡福良, 灘 [宮武, 古木, 1973].

洲本市桑間 [堀田, 1978], 中川原町厚浜 [藤富, 1995].

川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982], 槻並 (1ex., 2.VII.1978), [仲田, 1978, 1982].

川西市大和笹原 [仲田, 1978], 能勢妙見山 (2exs., 30.VII.1982).

芦屋市 (1ex., 6.III.1958).

Kobe, Honshu [1ex., 8.V.1909, J.C.Thomson leg., Miyatake, 1970].

神戸市六甲山 (1ex., 10.VII.1955, etc.), 丹生山 (3exs., 5.V.1956), 谷上 (1ex., 29.IV.1958), 藍那 (1ex., 14.VI.1978, etc.), 長待山 (2exs., 7.V.1982), 逢山峡 (2exs., 2.VIII.1982), 須磨 [戸沢, 1936], 伊川谷 (1ex., 13.V.1988, etc.), 多井畑 (1ex., 23.V.1990, etc.), 鳥原 (2exs., 30.III.1939, etc.), 八多町屏風 (4exs., 6.V.1993, etc.).

美濃郡吉川町 (2exs., 27.VI.1985, etc.).

三木市細川中 (1ex., 11.VII.1985, etc.), 口吉川町 (1ex., 3.VII.1986, etc.), 笹原 (1ex., 3.X.1986), 志染 (1ex., 9.IX.1992).

小野市山田 (2exs., 8.VII.1987, etc.).

加西市畑 (1ex., 23.VI.1974).

加東郡東条町森 (2exs., 7.VI.1984, etc.), 社町三草 (1ex., 17.VI.1987, etc.), 社町三草 (2exs., 6.VII.

1989).

- 多可郡白山(1ex.,27.V.1973), 鳥羽(1ex.,5.VII.1975).
 神崎郡大河内町砥峰(2exs.,7.V.1977,etc.).
 飾磨郡家島[上田,1981].
 揖保郡新宮町福原(6exs.,7.VII.1992,etc.).
 相生市三濃山(1ex.,3.V.1969,etc.).
 宍粟郡福知溪谷(1ex.,20.VI.1976), 坂の谷(1ex.,9.VI.1973).
 多紀郡雨石山[Hayashi etc.,1995].
 出石郡出石町小人[高橋,1963].
 城崎郡香住(1ex.,VIII.1958), 竹野町三原,三川山[高橋,1975], 日高町奈佐路(2exs.,23.V.1986).
 豊岡市内, 蘇武岳[高橋,1975].
 養父郡水の山(2exs.,21.VII.1958).
 美方郡扇ノ山[辻,岸田,1972].

36. *Cryptogonus orbiculus* (Gyllenhal,1808)

フタモンクロテントウ

体長2.1-2.8mm. 前胸腹板隆起線は前縁に達しない。前頭は♂では黄色で♀では黒色。中, 後腿節はふつう暗褐色。県下には広く分布している。

産地。

- 川西市見野, 笹部[仲田,1970,1978,1982].
 池田市中川原[東,1993].
 神戸市北区藍那(1ex.,26.V.1993), 八多町屏風(1ex.,12.V.1993).
 神崎郡笠形山(1ex.,12.VI.1975).
 宍粟郡音水(3exs.,30.V.1970,etc.).
 豊岡市妙楽寺[高橋,1978].

37. *Hyperaspis (Hyperaspis) asiatica* Lewis,1896

ツマフタホシテントウ

体長2.6-3.3mm. フタホシテントウに似るが上翅斑紋の位置で区別される。♂は頭部と前胸背板側方が淡黄色, ♀も狭く黄色。あまり多くない。

産地。

- 川西市一の鳥居, 一庫[仲田,1978,1982].
 神戸市六甲山(1ex.,29.V.1987), 丹生山(1ex.,18.V.1958), 山の街(1ex.,23.VI.1969).
 美方郡扇ノ山[辻,岸田,1972, 高橋,1975].

38. *Hyperaspis (Hyperaspis) japonica* (Crotch,1874)

フタホシテントウ

体長2.0-3.1mm. 斑紋の類似した小型テントウムシとは背面の被毛を欠くことで容易に区別されるコナカイガラムシ類の天敵として知られている。普通

に産する。

産地。

- 津名郡岩屋(2exs.,25.IV.1959), 常隆寺山[宮武,古木,1973].
 三原郡福良[宮武,古木,1973].
 川西市笹部[仲田,1978,1982].
 西宮市船坂(1ex.,21.V.1987,etc.).
 神戸市六甲山(1ex.,23.V.1987), 山の街(2exs.,7.VII.1949), 下谷上(1ex.,12.X.1979), 須磨(1ex.,7.VII.1982,Y.Hachitani leg.), 鳥原(3exs.,11.VII.1939,etc.), 石井ダム(1ex.,22.X.1991), 伊川谷(1ex.,19.V.1988), 藍那(2exs.,28.IV.1993,etc.).
 三木市口吉川町(1ex.,11.IX.1986).
 小野市山田(1ex.,22.VII.1987), 来住町(1ex.,9.V.1991).
 多可郡三谷(1ex.,29.IV.1975,etc.).
 神崎郡大河内町川上(1ex.,7.V.1977,etc.).
 龍野市神岡町(3exs.,26.V.1988).
 相生市三濃山(1ex.,3.V.1969,etc.).
 宍粟郡音水(3exs.,10.V.1970,etc.).
 多紀郡雨石山[Hayashi etc.,1995].
 水上郡[山本,1958], 山南町(2exs.,5.VIII.1990).
 出石郡出石町魚屋[高橋,1963].
 城崎郡竹野[高橋,1976], 日高町奈佐路(1ex.,23.V.1986).
 養父郡水の山(1ex.,2.VIII.1953).
 美方郡扇ノ山[辻,1963].

39. *Amida tricolor* (Harold,1878)

アマダテントウ

体長4.0-4.6mm. 特異な斑紋は安定している。幼虫・成虫ともにアオバハゴロモの幼虫を捕食する。県下での記録はあまりない。

産地。

- 宝塚市武田尾溪流[小田中,1994].
 城崎郡城崎[高橋,1975].
 養父郡水の山(1ex.,2.VIII.1953).
 美方郡浜坂[高橋,1975].

40. *Telsimia nigra* (Weise,1879)

クロテントウ

体長1.5-2.1mm. 背面は黒から黒褐色で, 腿節は黒褐色, 脛節は暗褐色。上翅被毛は多少とも波曲したS字形に配列。マルカイガラムシの天敵として知られている。県下に広く産する。また, 神戸市内には普通である。

産地。

津名郡常隆寺山[宮武,古木,1973].
 三原郡福良,灘[宮武,古木,1973].
 伊丹市[河上,1985].
 西宮市船坂(2exs.,5.VI.1987).
 神戸市藍那(1ex.,14.VII.1978), 鳥原(2exs.,5.X.
 1982,etc.).
 三木市口吉川町(3exs.,4.IX.1986,etc.).
 加東郡東条町森(1ex.,11.V.1984).
 相生市三濃山(1ex.,3.V.1974,J.Sasaji det. in his
 coll.).
 豊岡市神武山[高橋,1975].

41. *Phymatosternus lewisii* (Crotch,1874)

ヨツボシテントウ

体長2.9-3.7mm. 上翅は各翅周辺が黒く2対の黒紋をもつ。まれに小楯板わきの小赤紋を残して黒化することがあるという。兵庫県では分布も広く普通に産する。

産地。

川辺郡猪名川町槻並(2exs.,2.V.1978).
 川西市多田(1ex.,22.VI.1942), 見野, 笹部[仲田,
 1978,1982], 能勢妙見山(2exs.,30.VII.1982).
 宝塚市切畑[東,1993].
 Kobe[Lewis,1896], Maiyasan[Lewis,1893].
 神戸市六甲山(1ex.,28.V.1987), 箕谷(1ex.,18.V.
 1948), 丹生山(2exs.,5.V.1956), 鳥原(2exs.,5.V.
 1982,etc.), 石井ダム(2exs.,22.X.1991), 谷上
 (1ex.,4.VI.1986), 藍那(1ex.,21.IV.1993,etc.), 多
 井畑(3exs.,26.VII.1990,etc.).
 三木市大村(1ex.,10.V.1990).
 小野市山田(1ex.,22.VII.1987).
 加東郡社町三草(1ex.,6.VII.1989,etc.).
 龍野市神岡町(1ex.,19.V.1988,etc.).
 宍粟郡音水(1ex.,24.VI.1972).
 水上郡春日町黒井(1ex.,9.VII.1957).
 豊岡市妙楽寺[高橋,1975].
 城崎郡香住町(1ex.,VIII.1958), 円山川堤[高橋,
 1975], 日高町奈佐路(1ex.,19.VI.1986).
 養父郡氷の山(1ex.,2.VIII.1953).

42. *Chilocorus rubidus* Hope,1831

アカホシテントウ

体長5.8-7.2mm. 上翅に縦長の赤紋があるが、赤色で周縁部が黒色。胸部下面は赤褐色。タマカイガラムシの天敵である。県下に広く分布していると考えられるが、記録は意外と少ない。
 産地。

洲本市安乎町[堀田,1978], 中河原町厚浜[藤富,
 1995].
 川西市笹部[仲田,1978,1982].
 伊丹市昆陽池[河上,1985].
 西宮市甲東園[東,1993].
 神戸市六甲山(1ex.,6.X.1939), 原田(1ex.,31.VIII.
 1911, Van Dyke in California Academy Science
 [宮武,1970].
 Harima,Japan(*f.fenestratus* Weise) 1ex.,V.1916, Van
 Dyke in California Academy Science[宮武,1970].
 水上郡柏原[山本,1958].
 養父郡氷の山[高橋,1975].

43. *Rodolia cardinalis* (Mulsant,1850)

ベダリアテントウ

体長3.3-3.8mm. 上翅は赤色で黒紋がある。上翅の会合部は黒く、ふつう中央でひろがり、ほかに2対の黒紋があり、その後紋は外縁に達することがある。イセリアカイガラムシの天敵としてよく知られている。県下の記録はそれほど多くない。

産地。

三原郡三原町八木養宜[藤富,1995].
 川辺郡猪名川町木間生[仲田,1978,1982].
 川西市笹部[仲田,1978,1982].
 西宮市上葭原町, 甲子園[東,1993].
 神戸市鳥原(7exs.,19.IX.1943,etc.).
 飾磨郡家島[上田,1981].
 多紀郡雨石山[林ほか,1995].
 水上郡柏原[上田,1960].

44. *Rodolia concolor* (Lewis,1879)

アカイロテントウ

体長3.5-3.7mm. 背面は暗赤色。頭部, 後胸, 肢は黒褐色。体の中央より少し前で最大幅となる。普通種であるが記録は意外と少ない。

産地。

川西市笹部[仲田,1978,1982].
 Kobe[Lewis,1896], Maiyasan[Lewis,1873], 六甲山
 (2exs.,10.VII.1955), 摩耶山(1ex.,14.VIII.1955),
 生田区神戸税関構内(4exs.,1.VII.1939), 鳥原
 (1ex.,15.VI.1982,etc.), 逢山峽(1ex.,7.VII.1987,
 etc.).
 小野市山田(1ex.,24.IX.1987).

45. *Rodolia limbata* (Motschulsky,1866)

ベニヘリテントウ

体長3.9-5.4mm. 上翅は黒く、周縁部と会合部が

やや幅広く赤色。オオワラジカイガラムシの天敵である。兵庫県下には広く普通に産する。

産地。

- 津名郡常陸寺山(1ex.,20.IV.1974).
 洲本市先山,三熊山[宮武,古木,1974], 中河原町厚浜[藤富,1995].
 三原郡諭鶴羽山[塚田,1978].
 川辺郡猪名川町木間生[仲田,1978,1982].
 川西市黒川,笹部[仲田,1978,1982], 花屋敷[東,1993].
 伊丹市[河上,1985].
 尼崎市北部[東,1993].
 宝塚市西谷西部少年自然ノ家付近[東,1993].
 神戸市六甲山(1ex.,10.VII.1955,etc.), 保久良山(1ex.,12.V.1978), 摩耶山(1ex.,14.VIII.1955), 布引(1ex.,29.IV.1938,etc.), 鳥原(3exs.,24.III.1939,etc.), 石井ダム(2exs.,1.V.1992,etc.), 箕谷(1ex.,24.VI.1948), 谷上(1ex.,3.V.1957), 広野(4exs.,15.IV.1956), 逢山峡(1ex.,2.VII.1982), 須磨[戸沢,1936], 垂水(1ex.,10.V.1985), 伊川谷(2exs.,6.VII.1988).
 小野市山田(2exs.,18.VI.1987).
 飾磨郡曾彦山(1ex.,14.VII.1957), 家島[上田,1981].
 多可郡三谷(1ex.,8.VI.1975), 鳥羽(1ex.,1.VI.1975).
 神崎郡大河内町砥峰(1ex.,7.V.1977,etc.).
 相生市三濃山(3exs.,3.V.1969,etc.).
 宍粟郡音水(1ex.,10.V.1970,etc.), 福知溪谷(1ex.,3.VI.1975), 坂の谷(1ex.,9.VI.1973).
 多紀郡雨石山[林ほか,1995].
 水上郡山南町(4exs.,5.VII.1990).
 養父郡水ノ山(1ex.,27.VII.1957,etc.).
 美方郡扇ノ山[辻,1963, 辻,岸田,1972].

46. *Rodolia rufocincta* Lewis,1896

アカヘリテントウ

体長4.0-5.6mm. 上翅は黒く周縁部だけがきわめて細く赤色。県下の記録は少ない。

産地。

- 相生市三濃山(1ex.,6.V.1973).
 水上郡柏原[2.III.1951,山本,1958].
 城崎郡日高町奈佐路(1ex.,22.V.1986).

47. *Anisostica kobensis* Lewis,1896

ジュウクホシテントウ

体長3.8-4.1mm. 淡黄色で頭部に1対, 前胸背板に3対, 上翅に19個の黒点がある。時に一部あるい

はほとんど消失することがあるという。種名にあるとおり神戸に Kawasaki(湊川が海に注ぐところ, ほぼ神戸市の中央部)にて採集のもので命名された種である(Ann. Mag. Nat. Hist.,(6)XVII:25-26,1896). その後その付近での産は知られていない。状況変化で絶滅したと考えられる。

宝塚の池畔では筆者も採集したことはあるが, こも現在池が消滅して生息の確認はできていない。その他, 兵庫県下の記録は今のところ全く見られない種である。

産地。

- 宝塚市内(3exs.,22.IV.1956, 1ex.,19.IV.1958), [東,1993].

Kawasaki near Kobe, a small species found under reeds in September).

48. *Hippodamia tredecimpunctata timberlakei* Capra, 1931

ジュウサンホシテントウ

体長5.6-6.2mm. 前胸背板中央部は前縁を除き黒色, 上翅は橙色地に13個の黒紋があるがしばしば一部が消失する。県下の記録は1箇所のみしか知らない。

産地。

- 宝塚市大原野[3exs.,12.V.1990,森,1991, 東,1993].

49. *Coccinella explanata* Miyatake,1963

ココノホシテントウ

体長5.1-6.8mm. 各上翅の黒紋は1 $\frac{1}{2}$ -2-1. 県下の記録は次のものを知るだけである。

産地。

- 兵庫[Lewis,1896=*C.transversoguttata* Faldermann].

50. *Coccinella septempunctata* Linnaeus,1758

ナナホシテントウ

よく知られているテントウムシである。兵庫県下にも広く普通に産する。

産地。

- 津名郡岩屋(1ex.,24.V.1942), 常陸寺山(1ex.,20.IV.1974),[宮武,古木,1973].
 洲本市先山[宮武,古木,1973, 堀田,1976], 中川原町厚浜[藤富,1995].
 川辺郡猪名川町上阿古谷,上原[仲田,1978,1982].
 川西市見野,笹部[仲田,1978,1982].
 伊丹市[河北,1984].
 宝塚市北部,西谷西部少年自然の家付近[東,1993].
 西宮市香櫛園(1ex.,2.V.1941,etc.), 岡田山[前多ほか,1974].

Hiogo [Heyden, 1879].

神戸市六甲山 (1ex., 1.VII.1955, etc.), [増田, 1941],
 鳥原 (1ex., 2.V.1939, etc.), 石井ダム (2exs., 18.X.
 1991), 藍那 (3exs., 21.IV.1993, etc.), 広野 (1ex., 15.
 IV.1956), 高取山 [増田, 1941], 西代 [増田, 1939],
 板宿 [増田, 1939], 木津 (1ex., 27.VII.1984, etc.),
 下谷上 (1ex., 6.IX.1979), 妙法寺 (1ex., 14.IV.
 1978), 押部谷木見 (1ex., 23.VI.1980), 垂水 (2exs.,
 10.V.1985), 伊川谷 (2exs., 13.V.1988, etc.), 多井
 畑 (2exs., 27.IX.1990), 八多町屏風 (4exs., 12.V.
 1993).

高砂市 (1ex., 30.V.1954).

三木市細川中 (1ex., 30.V.1985), 口吉川 (1ex., 3.VII.
 1986).

美濃郡吉川 (2exs., 30.V.1985).

小野市来住町 (1ex., 11.IV.1991, 1ex., 9.V.1991).

加西市畑 (1ex., 23.VI.1974).

加東郡東条町森 (2exs., 29.IV.1984), 社町三草
 (2exs., 22.V.1989).

多可郡市原 (2exs., 24.IX.1972), 三谷 (1ex., 29.IX.
 1974, etc.), 鳥羽 (2exs., 5.VII.1975).

神崎郡笠形山 (1ex., 12.VI.1975), 大河内町砥峰
 (2exs., 4.VI.1977).

飾磨郡雪彦山 (1ex., 5.XII.1976), 家島 (1ex., 26.V.
 1978), [畑中, 辻, 1973, 上田, 1981].

龍野市神岡町 (1ex., 26.V.1988).

揖保郡新宮町福原 (1ex., 15.V.1992).

赤穂市天和 (1ex., 6.X.1974).

宍粟郡水谷 (1ex., 17.VII.1981).

氷上郡 [山本, 1958].

出石郡三川山 [高橋, 1975].

養父郡氷ノ山 (1ex., 2.VIII.1953).

美方郡扇ノ山 [辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975].

51. *Coccinula crotchii* (Lewis, 1879)

マクガタテントウ

体長3.0-3.8mm. 上翅は黒色で両肩部に2対の安
 定した橙色紋を有する。あまり多くない。

産地.

伊丹市 [中根, 1955].

宝塚市仁川 (1ex., 21.X.1956), 宝塚 [東, 1993].

神戸市摩耶山 [Lewis, 1896].

揖保郡 [大上, 1907].

氷上郡生郷, 久下, 佐治 [山本, 1958].

出石郡出石町中野 [高橋, 1963].

城崎郡日高町久斗 [高橋, 1978], 府市場 [高橋,
 1978].

52. *Oenopia (Synharmonia) hirayamai* (Yuasa, 1963)

ウスキホシテントウ

体長3.3-4.0mm. 上翅黒色部の外縁は四角に突出
 する。会合線に沿った黄紋は3対。兵庫県下の記録
 はそれほど多くない。

産地.

川西市笹部 [仲田, 1978, 1982].

神戸市六甲山 [1ex., 18.V.1941, K. Taniguchi leg., H.
 Sasaji, 1971], 山田~六甲山 [東, 1993], 山の街
 (1ex., 7.VI.1959), 逢山峡 (2exs., 28.VII.1987), 八
 多町屏風 (1ex., 6.V.1993).

美濃郡吉川町奥山 (2exs., 10.VI.1986).

出石郡出石町中村 [高橋, 1963].

城崎郡三川山 [高橋, 1975].

53. *Oenopia (Protocaria) scalaris* (Timberlake, 1943)

ムツキボシテントウ

体長3.3-3.9mm. 上翅黒色部の外縁は波形。本種
 も県下での記録は少ない。

産地.

西宮市香櫛園 (1ex., 2.V.1941).

神戸市山の街 (1ex., 15.VIII.1949).

小野市来住町 (1ex., 30.V.1991).

54. *Propylea japonica* (Thunberg, 1781)

ヒメカメノコテントウ

よく知られているテントウムシの1種。上翅の肩
 部と後側方に黒紋が2個づつあるが分離することは
 ない。体長3.0-4.6mm. 県下に広く産する。

産地.

津名郡常陸寺山 (1ex., 20.IV.1974), 津名町大町 [堀
 田, 1978].

洲本市先山 [宮武, 古木, 1973], 桑間町 [堀田, 1978],
 中川原町厚浜 [藤富, 1995].

三原郡福良, 輪鶴羽山 [宮武, 古木, 1973].

川辺郡猪名川町槻並 [仲田, 1970].

川西市笹部, 大和 [仲田, 1978, 1982].

伊丹市 [河上, 1985].

宝塚市宝梅1丁目 [東, 1933].

西宮市香櫛園 (1ex., 7.V.1941), 船坂 (1ex., 21.V.
 1987), 岡田山 [前多ほか, 1974].

神戸市六甲山 (1ex., 10.VII.1955, etc.), 鳥原 (1ex., 31.
 III.1938, etc.), 藍那 (2exs., 22.V.1978, etc.), 丹生
 山 (5exs., 5.V.1956), 金剛童子山 (1ex., 24.VI.
 1956), 広野 (2exs., 15.IV.1956), 長田 [増田, 1939],

太山寺 (1ex., 21.IV.1967), 芦谷溪谷 (1ex., 13.IX.
 1978).

1982), 須磨[戸沢,1936], 木津(2exs.,30.V.1984), 伊川谷(1ex.,6.VII.1988,etc.), 多井畑(1ex.,19.VI.1990,etc.), 八多町屏風(1ex.,15.IV.1993,etc.). 美濃郡(3exs.,27.VI.1985,etc.), 奥山(1ex.,8.V.1986, etc.). 三木市細川中(1ex.,13.IX.1985), 口吉川町(1ex.,14.VII.1986,etc.), 三木山志染(1ex.,28.V.1992,etc.). 小野市来住町(3exs.,4.IX.1991,etc.). 加東郡東条町森(1ex.,11.V.1984,etc.), 社町三草(2exs.,17.VI.1987,etc.). 加古川市(1ex.,21.IV.1968). 多可郡白山(1ex.,3.V.1973), 三谷(1ex.,8.VI.1975, etc.), 烏羽(1ex.,8.V.1976). 神崎郡笠形山(1ex.,12.VI.1975), 大河内町砥峰(1ex.,21.V.1977,etc.). 飾磨郡家島[上田,1981]. 龍野市神岡町(1ex.,19.V.1988,etc.). 揖保郡新宮町福原(1ex.,15.V.1992,etc.). 相生市三濃山(1ex.,7.V.1972,etc.). 佐用郡上月(1ex.,3.V.1952). 宍粟郡福知溪谷(1ex.,20.VI.1976), 音水(1ex.,10.V.1970,etc.). 氷上郡[山本,1958]. 出石郡出石町小人[高橋,1965]. 城崎郡三川山,香住町生池[高橋,1975], 日高町奈佐路(1ex.,3.X.1985,etc.). 養父郡水ノ山(1ex.,2.VIII.1953), [高橋,1975]. 美方郡扇ノ山[辻,1963, 辻,岸田,1972].

suturata-form. 上翅の会合部だけが黒いもの。
産地。
津名郡岩屋(2exs.,23.VI.1974). 宝塚市武田尾(1ex.,30.V.1954). 神戸市六甲山(1ex.,25.V.1987), 鳥原(1ex.,14.X.1954,etc.), 藍那(1ex.,27.VI.1978), 太山寺(1ex.,3.V.1967,etc.), 多井畑(1ex.,27.IX.1990). 高砂市(1ex.,30.V.1954). 美濃郡吉川町(2exs.,13.IX.1985). 三木市口吉川町笹原(1ex.,26.IX.1986). 加西市畑(1ex.,23.VI.1974). 龍野市神岡町(1ex.,8.IX.1988). 宍粟郡福知溪谷(1ex.,20.VI.1976).

55. *Calvia (Anisocadvia) quadredecimguttata* (Linne,1758) シロジュウシホシテントウ

体長4.4-6.0mm. 基本型は黄褐色地に白紋が各翅1-3-2-1に配列する。暗色型は前胸背板と上翅の地色が黒褐色となる。紅型は背面地色は紅赤色で、

前胸背板に1対, 上翅に12個の黒紋があり, そのうち3個は会合線上にまたがる。県下の分布はそれほど多くない。

産地。

川辺郡猪名川町槻並[仲田,1982]. 神戸市六甲山(5exs.,4.VI.1987,etc.), 摩耶山[宮武,1978], 鳥原(2exs.,25.IV.1985,etc.). 神崎郡大河内町砥峰(1ex.,18.VI.1977). 多紀郡雨石山[Hayashi etc.,1995]. 出石郡出石町鮎屋[高橋,1963]. 城崎郡日高町奈佐路(4exs.,22.V.1986). 養父郡水ノ山(1ex.,21.VII.1958).

56. *Calvia (Calvia) decemguttata* (Linnaeus,1767)

シロトホシテントウ

体長4.5-6.0mm. 各上翅の白紋は2-2-1に配列するが, 消失し全体が淡黄色になることがあるという。県下に広く分布している。とくに神戸市内には普通に見られる。

産地。

川西市笹部[仲田,1978,1982], 能勢妙見(1ex.,30.VII.1982). 神戸市鳥原(2exs.,25.V.1981,etc.), 逢山峡(1ex.,7.VII.1987), 藍那(1ex.,26.V.1993), 北区大山公園(1ex.,23.VII.1982,Y.Hachitani leg.). 宍粟郡音水(1ex.,3.VI.1973), 赤西(1ex.,9.IX.1978, etc.), 波賀町上野[相坂,1995]. 多紀郡雨石山[Hayashi etc.,1995]. 養父郡水の山[高橋,1975]. 美方郡扇ノ山[辻,1963, 辻,岸田,1972].

57. *Calvia (Eocaria) muiri* (Timberlake,1943)

ムアアシロホシテントウ

体長4.0-5.1mm. 背面は黄褐色で前胸背板に4個の白紋が横列し, 上翅に2-2-2-1に配列する白紋がある。そのうち会合線に沿う前方3個は弧状に並ぶ。

兵庫県下に広く分布していると思われるが, 県北部からの記録があまりない。神戸市内ではきわめて普通に産する。

産地。

洲本市三熊山[宮武,古木,1973]. 川西市笹部,芋生[仲田,1979,1982], 能勢妙見(1ex.,30.VII.1982). 神戸市六甲山(1ex.,29.V.1987), 保久良山(1ex.,2.XI.1977), 布引(1ex.,17.V.1959), 教育植物園(1ex.,14.VII.1957), 山の街(1ex.,3.VII.1955), 鳥

原 (3exs., 7.V.1979, etc.), 多井畑 (1ex., 27.IX.1990), 伊川谷 (1ex., 19.V.1988), 藍那 (1ex., 28.IV.1993), 八多町屏風 (1ex., 12.V.1993), 逢山峡 (1ex., 27.VI.1977), 石井ダム (1ex., 1.V.1992). 西鈴蘭台大山公園 (1ex., 23.VII.1982).

加東郡社町三草 (1ex., 6.VII.1989).
飾磨郡雪彦山 (1ex., 14.VII.1957).
相生市三濃山 (1ex., 6.V.1973).
多紀郡雨石山 [Hayashi etc., 1995].

58. *Calvia (Eocaria) quindecimguttata* (Fabricius, 1777) シロジウゴホシテントウ

体長4.9–5.2mm. ムーアシロホシテントウに似ているが, 前胸背板の白紋は2または3個で, 上翅の会合線に沿う前方3個は会合線にほぼ平行に並ぶ。県下の記録は少ない。

産地。

伊丹市昆陽池 [河上, 1995].
神戸市山の街 (1ex., 1.VI.1958, etc.), 箕谷 (1ex., 18.V.1948), 丹生山 (1ex., 5.V.1956), 金剛童子山 (1ex., 24.VI.1956).

59. *Aiolacaria hexaspilota* (Hope, 1831) カメノコテントウ

体長8.0–11.7mm. 体形は円形に近く, 前胸背板と上翅が接する幅は上翅基部の約3/4. 上翅側方の幅は広く体長の約1/7以上, まれに上翅は完全に黒色となる。よく知られたテントウムシで兵庫県全般に分布しており場所によっては多く産する。

産地。

川西市見野, 笹部 [仲田, 1978, 1982].
宝塚市北部西谷, 芝辻新田, 武田尾 [東, 1993].
神戸市六甲山 (1ex., 3.V.1938, etc.), 布引 (2exs., 17.VII.1959), 西鈴蘭台大山公園 (1ex., 30.IV.1938), 伊川谷 (1ex., 7.VI.1988).
加東郡東条町森 (11exs., 7.VI.1984, etc.).
多可郡烏羽 (1ex., 29.IV.1972).
相生市三濃山 (1ex., 7.V.1972).
宍粟郡音水 (1ex., 11.VI.1972, etc.), 坂の谷 (3exs., 9.VI.1973), 波賀町上野 [相坂, 1995].
多紀郡篠山 [岩田, 1975].
水上郡神楽 (1ex., 19.VI.1952).
豊岡市妙楽寺 [高橋, 1975].
城崎郡三川山 [高橋, 1975].
養父郡氷の山 (1ex., 12.VII.1955, etc.).

60. *Anatis halonis* Lewis, 1896

ウンモンテントウ

体長6.7–8.5mm. 白色部に囲まれた中黒の眼状紋が2–3–3–1に配列する。この眼状紋の一部が消失することがあるとのこと。県下の記録は少ない。

産地。

神戸市摩耶山 (1ex., 2.V.1985).
神崎郡笠形山 (1ex., 12.VI.1966, etc.).
城崎郡三川山 [高橋, 1975].
養父郡氷の山 (1ex., 2.VIII.1953).

61. *Callicaria superba* (Mulsant, 1953) ハラグロオオテントウ

体長11.0–12.0mm. 前胸背板に1対の小黒紋があり, 上翅黒紋は1–3–3に配列。胸部下面と腹部中央部は黒色。兵庫県下には広く産する。とくに神崎郡の砥峰登山道麓にはきわめて多く産する。

産地。

川辺郡猪名川町槻並 [仲田, 1978].
川西市笹部 [仲田, 1982].
宝塚市 [奥谷, 1976], 佐曾利 [奥谷, 1980], 北部西谷西部, 少年自然の家, 松尾台クワ樹上, 香合新田 [東, 1993].
西宮市 [中根, 1955].
神戸市摩耶山 [増田, 橋本, 1940].
神崎郡大河内町川上 (25exs., 21.V.1977, etc.).
宍粟郡原 (1ex., 11.V.1979).
水上郡柏原 [山本, 1958].
城崎郡日高町奈佐路 (1ex., 22.V.1986).

62. *Harmonia axyridis* (Pallas, 1773) ナミテントウ

体長4.7–8.2mm. 前胸背板は黒色で側方に白色部を持つが, 白色で中央に2対の黒紋またはM字型紋を持つなど変異があり, 上翅の斑紋には多くの型ある。日本産テントウムシの最普通種である。兵庫県下各地に広く分布し, 普通に見られる。

産地。

津名郡岩屋 (1ex., 18.IV.1955), 常陸寺山 [宮武, 古木, 1973].
洲本市安乎町, 山武牧場, 先山 [堀田, 1978], 中川原町厚浜 [藤宮, 1995].
三原郡論鶴羽山 [堀田, 1978].
川辺郡猪名川町上阿古谷 [仲田, 1970, 1978, 1982].
川西市多田 (1ex., 4.VIII.1941, etc.), 見野, 笹部, 大和 [仲田, 1978, 1982], 能勢妙見 (1ex., 30.VII.1982).
伊丹市 [河上, 1984].
宝塚市南口2丁目 [新家, 1989], 北部西谷 [東,

1993].

西宮市香炉園 (1ex.,10.V.1954,etc.).
 神戸市六甲山 (5exs.,27.VII.1939,etc.), 摩耶山 (1ex.,
 14.VII.1955), 東灘 [芳賀,1974], 烏原 (9exs.,11.
 VII.1938,etc.), 石井ダム (1ex.,22.X.1991,etc.),
 藍那 (2exs.,21.VI.1993,etc.), 山の街 (1ex.,16.V.
 1954,etc.), 箕谷 (9exs.,6.VI.1948,etc.), 金剛童子
 山 (9exs.,6.VI.1948,etc.), 大池 (2exs.,22.VII.1938,
 etc.), 広野 (1ex.,10.VII.1955,etc.), 逢山峡 (2exs.,
 2.VII.1982), 木津 (5exs.,30.V.1984,etc.), 西鈴蘭
 台大山公園 (1ex.,23.VII.1982,Y.Hachitani leg.),
 須磨 [戸沢,1936], (1ex.,9.VI.1982,Y.Hachitani
 leg.), 伊川谷 (1ex.,29.VI.1988), 多井畑 (1ex.,19.
 VI.1990), 八多町屏風 (2exs.,12.V.1993,etc.).
 明石市林崎 (2exs.,13.IV.1983).
 美濃郡吉川町 (2exs.,6.VI.1985,etc.).
 三木市口吉川町 (1ex.,14.VII.1986), 三木山志染
 (2exs.,28.V.1992).
 小野市来住町 (1ex.,9.V.1991,etc.).
 加西市畑 (1ex.,23.VI.1974,etc.).
 加東郡東条町森 (4exs.,18.V.1984,etc.), 社町三草
 (1ex.,20.V.1989).
 飾磨郡雪彦山 (1ex.,14.VII.1957,etc.), 家島 [上田,
 1981].
 神崎郡笠形山 (1ex.,12.VI.1975), 大河内町砥峰
 (2exs.,19.VI.1977,etc.).
 龍野市神岡町 (1ex.,13.VI.1988).
 揖保郡新宮町福原 (3exs.,22.VI.1992,etc.).
 佐用郡上月 (1ex.,3.V.1952).
 相生市三濃山 (2exs.,7.V.1972,etc.).
 宍粟郡音水 (4exs.,21.V.1972,etc.), 赤西 (1ex.,11.V.
 1979), 波賀町上野 [相坂,1995].
 多紀郡西紀町 (1ex.,20.IV.1982), 雨石山 [Hayashi
 etc.,1995].
 城崎郡日高町奈佐路 (1ex.,25.X.1953,etc.).
 養父郡氷の山 (5exs.,25.VII.1955,etc.), [高橋,1975].
 美方郡扇ノ山 [辻,1963, 辻,岸田,1972, 高橋,1975],
 鉢伏山 [高橋,1975].

63. *Harmonia yedoensis* (Takizawa,1917)

クリサキテントウ

ナミテントウにきわめてよく似ており, 斑紋多型
 も平行的に類似しており, 成虫による区別は困難で
 あるが幼虫は明らかに違う.

マツ類の樹上に特異的に生息するといわれている.
 県下での分布はほとんどわかっていない.

産地.

神戸市六甲山 (1ex.,28.V.1987), 伊川谷 (5exs.,13.V.
 1988).

三木市三木山,志染 (1ex.,9.IX.1992).

64. *Illeis koebelei* Timberlake,1943

キイロテントウ

体長3.5-5.1mm. 上翅はつねに鮮黄色. 前胸背板
 は白色で1対の小黒点がある. 県下に広く分布して
 いる.

産地.

洲本市先山 [宮武,古木,1973, 堀田,1978], 三熊山
 [N.Hirochi etc.,1977].

川西市大和,笹部 [仲田,1978,1982].

宝塚市武田尾 (1ex.,30.V.1954), 宮前町1丁目 [東,
 1993].

西宮市船坂 (1ex.,5.VI.1987).

神戸市六甲山 (2exs.,22.V.1987,etc.), 再度山 (1ex.,
 10.VI.1979), 烏原 (1ex.,24.V.1953,etc.), 石井ダ
 ム (1ex.,18.X.1991,etc.), 妙法寺 (1ex.,4.X.1978,
 etc.), 有馬 (1ex.,17.V.1967), 逢山峡 (1ex.,2.VII.
 1982), 伊川谷 (2exs.,19.V.1988,etc.), 藍那 (1ex.,
 21.IV.1993,etc.), 八多町屏風 (1ex.,4.VI.1993).

高砂市 (1ex.,2.VIII.1953).

三木市口吉川町笹原 (1ex.,3.X.1986).

加西市畑 (1ex.,27.VII.1974).

加東郡社町三草 (2exs.,22.V.1989).

飾磨郡雪彦山 (2exs.,14.VII.1957), 家島 [上田,
 1981].

神崎郡大河内町川上 (1ex.,18.VI.1977).

相生市三濃山 (1ex.,3.V.1969,etc.).

宍粟郡音水 (4exs.,3.VI.1973,etc.).

多紀郡雨石山 [Hayashi etc.,1995].

氷上郡 [山本,1958].

出石郡出石町福住 [高橋,1963].

養父郡氷の山 (1ex.,2.VIII.1953), [高橋,1995].

美方郡扇ノ山 [辻,1963].

65. *Menochilus sexamaculatus* (Fabricius,1781)

ダンダラテントウ

体長3.7-6.7mm. 斑紋の変異が著しく, ナミテン
 トウと混同されることがある. 兵庫県下にも広く分
 布している.

産地.

伊丹市 [河上,1984].

尼崎市園田 (1ex.,5.V.1967).

宝塚市仁川 (3exs.,21.X.1956), [東,1993].

西宮市甲陽園 (2exs.,5.VIII.1961).

神戸 [Lewis,1896], 鳥原 (2exs.,16.XI.1952), 石井ダム (7exs.,22.X.1991), 山の街 (1ex.,28.V.1953), 妙楽寺 (1ex.,14.IX.1978), 多井畑 (2exs.,26.VII.1990).
明石市明石公園 (1ex.,29.VI.1975).
小野市来住町 (1ex.,26.VI.1991).
飾磨郡家島 (1ex.,26.V.1978), [上田,1981].
養父郡氷の山 (1ex.,25.VII.1959).

66. *Micraspis kiotoensis* (Nakane et M.Araki,1960)

クロスジチャイロテントウ

体長3.5-3.7mm. 前胸背板は前, 側縁を除き黒色. 各上翅中央に縦長黒条がある. 県下には次の記録があるのみである.

産地.

西宮市 [1ex.,22.IX.1942,K.Kurosa leg., H.Sasaji, 1971, 大野,1970].

67. *Sospita oblongoguttata* (Linnaeus,1758)

ジュウロクホシテントウ

体長7.0-8.5mm. 上翅白紋は1-3-2-1に並び, 多くは三角形で一部消失することもある. 兵庫県下の産はあまり多くない.

産地.

川西市大和 [仲田,1970,1978,1982], 能勢口 (1ex.,5.XI.1977).
宝塚市北部西谷西部 [東,1993].
神戸市六甲山 (1ex.,23.VI.1962,etc.), 再度山 (1ex.,19.VIII.1939), 八多町屏風 (1ex.,10.VI.1993).
氷上郡山南町 [高橋,1961].

68. *Synonycha grandis* (Thunberg,1781)

オオテントウ

体長10.5-13.0mm. 前胸背中央基部に大黒斑があり, 上翅黒紋は各翅1-2¹/₂-2¹/₂-¹/₂に配列し, 中央紋は大型. 体下面, 肢などはすべて黄褐色で黒色部はない. 分布は非常に広い種であるが兵庫県下では記録が大変少ない.

産地.

神戸市山の街 (1ex.,VII.1940), 谷上 [中根,1955].
多可郡三国岳 [西脇,1965].

69. *Vibidia duodecimguttata* (Poda,1761)

シロホシテントウ

体長3.1-4.9mm. 前胸背板の前縁はほとんど直線状でわずかに波曲し, 側方は白色. 上翅の白紋は1-2-2-1に配列し, 側方の2紋は上翅側縁に接する. 普

通に見られる.

産地.

川西市大和,横地,笹部 [仲田,1978,1982].

神戸 [Lewis,1896], 六甲山 (1ex.,10.IX.1987), 鳥原 (1ex.,10.VII.1940,etc.), 石井ダム (1ex.,22.X.1991), 山の街 (1ex.,17.V.1953,etc.), 丹生山 (1ex.,5.V.1956), 金剛童子山 (1ex.,24.VI.1956), 箕谷 (1ex.,18.V.1948), 芦谷溪谷 (1ex.,5.VI.1982), 谷上 (1ex.,25.V.1986), 逢山峡 (1ex.,7.VII.1987,etc.).

高砂市 (2exs.,30.V.1954).

神崎郡大河内町川上 (1ex.,1.VII.1977).

揖保郡新宮町福原 (1ex.,15.V.1992).

相生市三瀬山 (1ex.,6.VII.1973,etc.).

宍粟郡原 (1ex.,11.V.1979), 音水 (10exs.,24.VII.

1973,etc.), 赤西 (1ex.,10.V.1970).

氷上郡 [山本,1958], 山南町 (1ex.,9.VII.1990).

出石郡出石町小人 [高橋,1963].

養父郡氷の山 [高橋,1975].

Subfamily Epilachinae マダラテントウムシ亜科

70. *Epilachna admirabilis* Crotch,1874

トホシテントウ

体長5.4-7.5mm. 背面の地色は暗赤色. 前胸背板の黒斑は大きく横長で, 拡大してほとんど全体黒色となることもあるという. また, 上翅黒斑は時に大きくなり, 融合することがある. 体下はほとんど黒色のものから後胸と腹部一部が黒色のものまで変化し, 肢の色も変化に富む. 食草はカラスウリなど.

県の海岸線に近い地域からの分布は知られていない. ほぼ中央部から北にかけては広く産するようである.

産地.

川西市笹部 [仲田,1978,1982].

多可郡三谷 (1ex.,13.VII.1975).

神崎郡笠形山 (3exs.,12.VI.1975), 大河内町川上 (2exs.,15.VII.1977,etc.).

揖保郡新宮町福原 (2exs.,10.VI.1992).

宍粟郡福知溪谷 (1ex.,16.VI.1975,M.Yuma leg.),

音水 (5exs.,16.VII.1972,etc.), 赤西 (1ex.,23.VI.1979).

氷上郡神楽 [高橋,1975], 山南町 (2exs.,11.VII.1990, etc.).

養父郡氷の山 (8exs.,25.VII.1958,etc.), [高橋,1975].

美方郡扇ノ山 [辻,1963, 辻,岸田,1972].

71. *Epilachna niponica* Lewis,1896

ヤマトアザミテントウ

体長5.5-8.5mm。オオニジュウヤホシテントウに似ている。上翅の1紋は左右が連続し、その前縁はひと山になる。d紋は左右完全に連続し、楕形の一紋となる。g, h紋は大きい。後腿節は両端の小部分を除きほとんど黒色。上翅の地色は濃赤褐色で光沢がやや強い。体形は変化が多い。アザミ類を食草とする。従来コブオオニジュウヤホシテントウの本州型とされていたもの。かつて筆者も兵庫県下のコブオオニジュウヤホシテントウとしてその分布を検討したことがある(きべりはむしVol.8, No.1, p.11, 1980)。

県下での分布はあまりよくわかっていない。

産地。

神崎郡大河内町川上(9exs., 7.V.1975, etc.).
 宍粟郡原(1ex., 11.V.1979), 赤西(4exs., 26.V.1979, etc.), 坂の谷(10exs., 9.VI.1973).

72. *Epilachna vigintioctomaculata* Motchulsky, 1857
 オオニジュウヤホシテントウ

体長6.5-8mm。体は赤褐~黄褐色。背面は顕著に隆起する。前胸背面、上翅に黒い斑紋を有する。

成虫、幼虫がジャガイモなどナス科植物を食害する。県下に広く分布しているが、一般的には中央部から北部にかけて分布しているように思われる。

産地。

洲本市安乎町[堀田, 1978].
 川西市笹部[仲田, 1978].
 宝塚市宝梅公園[東, 1933].
 西宮市甲東園[戸沢, 1936].
 多可郡鳥羽(1ex., 5.VII.1975, etc.).
 神崎郡大河内町川上(5exs., 18.VI.1977, etc.).
 宍粟郡赤西(1ex., 10.V.1970), 音水(6exs., 16.VII.1972, etc.).
 水上郡芦田村(1ex., 12.VIII.1952, Yamamoto leg.), 佐治, 神楽, 竹田[山本, 1958].
 出石郡出石町広原[高橋, 1963].
 養父郡氷の山(21♂11♀, 2.VIII.1953, etc.).
 美方郡湯村(1ex., 27.VII.1952), 扇ノ山[辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975].

73. *Epilachna vigintioctopunctata* (Fabricius, 1775)
 ニジュウヤホシテントウ

体長5.3-6.8mm。上翅斑紋はふつう比較的小さく、ときに一部が消失したり融合したりすることがある。後腿節は完全に赤褐色で黒斑がない。各上翅の先端内縁は角張る。

ジャガイモの害虫としてよく知られており、兵庫

県下に広く分布し個体数も多い。
 産地。

津名郡岩屋(1ex., 25.IV.1959), 五色町都志角川[藤富, 1995].
 洲本市中川原町厚浜[藤富, 1995].
 三原郡論鶴羽山[宮武, 古木, 1974], 沼島[楠井, 1992].
 川西市大和, 笹部[仲田, 1978, 1982].
 伊丹市[河上, 1984].
 宝塚市宝梅町1丁目[東, 1993].
 尼崎市蓬川緑地[大宮, 1996].
 神戸市六甲山[中根, 1955], 鳥原(3♂3♀, 10.VII.1939, etc.), 石井ダム(1ex., 1.V.1992), 藍那(1ex., 14.VI.1978, etc.), 山の街(1ex., 10.V.1959), 丹生山(1♂, 5.V.1956), 舞子(1♀, 5.V.1939), 多井畑(2exs., 27.IX.1990), 八多町屏風(2exs., 22.VII.1993).
 三木市内(14exs., 20.VII.1979, S.Ogura leg.), 口吉川(1ex., 11.IX.1986), 大村(1ex., 10.V.1990).
 美濃郡吉川町(6exs., 11.VII.1985, etc.).
 小野市山田(3exs., 8.VII.1987).
 加古川市内(4♀, 16.VII.1951).
 飾磨郡家島(1♂1♀, 11.VI.1977, N.Ueda leg.).
 揖保郡新宮町福原(1ex., 15.VII.1992).
 相生市三濃山(1ex., 7.V.1972).
 出石郡出石町小人[高橋, 1963].
 養父郡鉢伏山[高橋, 1975].
 美方郡扇ノ山[辻, 岸田, 1972].

<参考文献>

兵庫県に関係あるものは研究史を見ていただきたい。
 江原昭三(1955) マダラテントウ属をめぐる諸問題 新昆虫8(2): 2-9.
 江崎悌三ほか(編)(1969) 日本幼虫図鑑 718p.(北隆館・東京)
 平山修次郎(1940) 原色甲虫図譜 172+37p. 52原色図版(三省堂・東京)
 井上義郎(1952) オオニジュウヤホシテントウの翅鞘斑紋の地方的変異 新昆虫5(8): 2-5.
 Kamiya, H. (1959) A Revision of the tribe Chilocerini of Japan and the Loochoos (Coleoptera: Coccinellidae). Kontyu 27: 99-105.
 Kamiya, H. (1961) A revision of the tribe Scymnini from Japan and the Loochoos (Coleoptera: Coccinellidae), Part I and II. J. Fac. Agr. Kyushu Univ., II: 275-302, 303-332.
 Kamiya, H. (1963) A revision of the tribe Hyperas-

- pini of Japan (Coleoptera:Coccinellidae) Mem. Fac. Lib. Arts. Fukui Univ. 13(2) : 79-86.
- Kamiya,H.(1965) A revision of the tribe Coccinellini of Japan and the Ryukyus. (Coleoptera:Coccinellidae) Mem. Fac. Lib. Arts. Fukui Univ.,15(2) : 27-71.
- Kamiya,H.(1965) Comparative morphology of larvae of the Japanese Coccinellidae, with special reference to the tribal phylogeny of the family (Coleoptera). Mem. Fac. Lib. Arts. Fukui Univ.,14(2) : 83-100.
- 神谷一男・安立綱光(1933) 原色甲虫図譜(三省堂・東京)
- 片倉晴雄(1988) オオニジュウヤホシテントウ 160p.(文一総合出版・東京)
- 加藤正世(1933) 原色昆虫図譜第8輯
- 栗崎真澄(1915) 既知及未知本邦産瓢虫の種類に就きて 昆虫世界19 : 142-144,229-230,446-449.
- 栗崎真澄(1920) 属Amidaに就きて 昆虫世界24 : 156-158.
- 栗崎真澄(1921) 属Anatisの研究 昆虫世界25 : 150-151.
- 栗崎真澄(1921) Chilocorusの研究 昆虫世界25 : 34-37.
- 栗崎真澄(1923) 日本産瓢虫Scymnus属概観 昆虫世界27 : 14-17.
- 栗崎真澄(1924) 瓢虫の腹節数並びに雌雄の区別 札幌博物学会々報9 : 141-147.
- 栗崎真澄(1926) 日本産瓢虫類の分布につきて 動物学雑誌38 : 71-78.
- 松村松年(1931) 日本産昆虫大図鑑 1497+322pp.(刀江書院・東京)
- 三輪勇四郎・吉田忠之(1935) 日本産昆虫目録第9輯 鞘翅目テントウムシ科 昆虫界3 : 32-53.
- 中根猛彦ほか(編)(1955) 原色日本昆虫図鑑(上) 甲虫編 (保育社・大阪)
- 中根猛彦ほか(編)(1963) 原色日本昆虫大図鑑II.(北陸館・東京)
- 桜谷保之(1998) テントウムシの生活史 昆虫と自然33(5) : 11-15.
- 佐々治寛之(1973) 日本産テントウムシ類の見分け方-成虫編- 植物防疫27(9) : 385-394.
- 佐々治寛之(1973) 日本産テントウムシ類の見分け方-幼虫編- 植物防疫27(11) : 473-478.
- 佐々治寛之(1977) ナミテントウ同胞種群について 昆虫と自然12(11) : 4-13.
- 佐々治寛之(1977) テントウムシの雌雄の見分け方 インセクトリウム14(11) : 13.
- 佐々治寛之(1982) テントウムシ類の食性(1)-(3) インセクトリウム19 : 14-19,38-42,66-70.
- 佐々治寛之(1983) 日本産甲虫目録 テントウムシ科 24p.(日本鞘翅学会)
- 佐々治寛之(1983) 日本産テントウムシ亜科既知幼虫の図解検索表 月刊むし(146) : 2-6.
- 佐々治寛之(1984) テントウムシ科 pp.245-270. 黒沢良彦ほか(編)原色日本甲虫図鑑(III) (保育社・東京)
- 佐々治寛之(1998) テントウムシの自然史 251p.(東京大学出版会・東京)
- 佐々治寛之(1998) テントウムシの形態と分類 昆虫と自然33(5) : 5-10.
- 湯浅啓温(1932) テントウムシ科 pp.690-699. 内田清之助(編)日本昆虫図鑑(初版) (北陸館・東京)
- 湯浅啓温(1950) テントウムシ科 pp.1093-1101. 石井悌ほか(編)日本昆虫図鑑(改訂版) (北陸館・東京)

兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(4)

故高橋寿郎氏遺稿集No. 3

兵庫昆虫同好会事務局編

前回に引き続き兵庫県産ゾウムシに関する文献を紹介する。今回はNo.96(1978)から193(1998)までで本稿はこれで完結する。

96. 的場 績(1978) 遠山雅夫氏採集の水ノ山及び扇ノ山産ヒゲナガゾウムシ目録

きべりはむし 6(1/2): 20-22.

水ノ山及び扇ノ山で採集されたヒゲナガゾウムシ14種類の記録。各種詳しいデータがついている。

キンヘリノミヒゲナガゾウムシ, マダラヒゲナガゾウムシ, イボタロウヒゲナガゾウムシ, ウスモンツツヒゲナガゾウムシ, キノコヒゲナガゾウムシ, エグリヒゲナガゾウムシ, *Directarius incisus*=*Giber*, カオジロヒゲナガゾウムシ, キマダラヒゲナガゾウムシ, コモンマダラヒゲナガゾウムシ, チャマダラヒゲナガゾウムシ, スネアカヒゲナガゾウムシ, *Ulorhinus funebris* Sharp=クロメナガヒゲナガゾウムシ, ナガアシヒゲナガゾウムシ=ナガアシヒゲナガゾウムシ.

97. 仲田元亮(1978) 能勢の昆虫 I.

B5, 405p. (自刊・単行本)

ヒゲナガゾウムシ科11種.

アカアシヒゲナガゾウムシ, マダラヒゲナガゾウムシ, ウスモンツツヒゲナガゾウムシ, セマルヒゲナガゾウムシ, シロヒゲナガゾウムシ, コモンヒゲナガゾウムシ, アカミヒゲナガゾウムシ, クロフヒゲナガゾウムシ, シリジロヒゲナガゾウムシ, キマダラヒゲナガゾウムシ, スネアカヒゲナガゾウムシ.

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)22種.

クロケシツブチョッキリ, マルムネチョッキリ, シリブトチョッキリ, コナライクビチョッキリ, ルリイクビチョッキリ, ベニホシハマキチョッキリ, ファウストハマキチョッキリ, ブドウハマキチョッキリ, チャイロチョッキリ, クチブトチョッキリ=クチナガチョッキリ, カシルリチョッキリ, ヒメケブカチョッキリ, クチナガチョッキリ, アシナガオトシブミ, ルイスアシナガオトシブミ=リュイスアシナガオトシブミ, カシルリオトシブミ, ハギルリオトシブミ, ゴマダラオトシブミ, オトシブミ, ウスモンオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ハギツルクビオトシブミ=エゴツルクビ

オトシブミ *Cycnotrachelus nitens*.

ゾウムシ科59種.

コヒゲボソゾウムシ, ヒラズネヒゲボソゾウムシ, コブヒゲボソゾウムシ, ハダカヒゲナガゾウムシ, ウスイロヒゲボソゾウムシ, ツチイロヒゲボソゾウムシ, カシワクチブトゾウムシ, クロホシクチブトゾウムシ, ケブカクチブトゾウムシ, ヒレルクチブトゾウムシ, オオクチブトゾウムシ, アオヒゲナガゾウムシ, シロコブゾウムシ, ヒメシロコブゾウムシ, コフチゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, カツオゾウムシ, ゴボウゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, キスジアシナガゾウムシ, ホホジロアシナガゾウムシ, カシアシナガゾウムシ, マツアナアキゾウムシ, ガロアナアキゾウムシ, オリーブアナアキゾウムシ, フライアナアキゾウムシ=クリアナアキゾウムシ, ホソアナアキゾウムシ, クロコブゾウムシ, チュウジョウアナアキゾウムシ, ウスモンカレキゾウムシ, ナカスジカレキゾウムシ, クロクチカクシゾウムシ, マダラアシゾウムシ, ウスモントゲトゲゾウムシ, ホソクチカクシゾウムシ, ナガクチカクシゾウムシ, マツノシラホシゾウムシ, ニセマツシラホシゾウムシ, マダラクチカクシゾウムシ, ハスジクチカクシゾウムシ, ヤマトヒラセクモゾウムシ=*Metichma* sp., ヒラセクモゾウムシ, ツツジトゲムネサルゾウムシ, アオバネサルゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, クワヒメゾウムシ, ツヤケシヒメゾウムシ, ジュウジチビシギゾウムシ, レロフチビシギゾウムシ, モンキシギゾウムシ=アキグミシギゾウムシ, セダカシギゾウムシ, ツバキシギゾウムシ, エゴシギゾウムシ, ナツグミシギゾウムシ, クロタマゾウムシ, クロコバンゾウムシ, マダラノミゾウムシ, ヤドリノミゾウムシ, イネゾウムシ.

オサゾウムシ科4種.

オオゾウムシ, トホシオサゾウムシ, ココクゾウムシ, コクゾウムシ.

98. 高橋 匡(1978) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第5報)

兵庫県立豊岡高等学校生物教室

次の追加記録種あり.

チョッキリゾウムシ科.

- ルリホソチョッキリ。
ゾウムシ科。
スグリゾウムシ, アトジロカレキゾウムシ, コナラシギゾウムシ。
99. Morimoto, K. The Family Anthribidae of Japan (Coleoptera), Part.1.
Esakia(12) : 17-47, 11f.A~R.f.
Notonenus wollastoni Sharp チビヒョウタンヒゲナガゾウムシ 1ex., Mt. Maya Kobe, 3.IX.1953, Y.Wada leg.
100. 堀田 久(1979) 淡路島産ゾウムシ類について (II).
Parnassius(20) : 22-23.
淡路島新記録種を含む13種のゾウムシが記録されている。
ヒゲナガゾウムシ科。
イボタロウヒゲナガゾウムシ。
オトシブミ科。
ヒメクロオトシブミ。
ゾウムシ科。
リンゴコフキゾウムシ, ケブカクチフトゾウムシ, カシワクチフトゾウムシ, マツトビゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, モンクチカクシゾウムシ, マツアナアキゾウムシ, ツツゾウムシ, ツバキシギゾウムシ, モンキシギゾウムシ, シロフチビシギゾウムシ=レロフチビシギゾウムシ。
101. 仲田元亮(1979) 「能勢の昆虫」その後(I).
きべりはむし 7(1) : 18-19.
クリシギゾウムシ1種のみ記録されている。
102. 高橋寿郎(1979) 藍那地区自然環境調査 "昆虫類" pp.26-33.
兵庫県自然保護協会鈴蘭支部刊. B5, 60p.
兵庫県から始めての記録と考えられる次の種が記録されている。
ヒメヒゲナガゾウムシ *Dissoleucas nodulosus* = *Gibber*, キボシヒゲナガゾウムシ, クチフトチョッキリ, ハンノキノミゾウムシ=カシワノミゾウムシ。
103. Morimoto, K.(1979) The Family Anthribidae of Japan (Coleoptera), Part.2.
Esakia(14) : 1-23, fig.1-8, A-V.
次の兵庫県産の記録がある。
p.4. *Platystomos sellatus* Roelofs シロヒゲナガゾウムシ Hiogo.
104. 仲田元亮(1979) 「能勢の昆虫」その後(2).
きべりはむし 7(2) : 16-28.
次のゾウムシ類の記録がある。
オトシブミ科。
アカクビナガオトシブミ。
ゾウムシ科。
キアシクチフトサルゾウムシ=アカアシクチフトサルゾウムシ, オビアカサルゾウムシ, メダカケブカクイゾウムシ, マツクチフトクイゾウムシ。
105. Oda, A.(1979) A Revisional Study on two Genera of Anthribidae, Tropiders and Gonotropsis, of Japan (Coleoptera).
Trans. Shikoku Ent. Soc. 14(3/4) : 109-126.
Troideres germanus Sharp, 1♂, Onzui Valley, 21.VI.1959, H.Ishida leg. の記録がある。本種は *Tropiders naevulus* Faust, 1887 キマダラヒゲナガゾウムシのことである。
106. 磯野昌弘(1979) 兵庫県浜坂産ゾウムシ科仮目録。
INSECT(岐阜大学生物科学研究会昆虫班誌) 4(1) : 13-18.
107. 岡田清隆(1981) 三熊山における松くい虫防除のための農薬空中散布による死亡落下昆虫類調査。
兵庫生物8(2) : 75-85.
3種のゾウムシ類が記録されている。クロボシヒゲナガゾウムシ *Ulorhinus aberrans*=クロボシヒゲナガゾウムシ *Phaulimia alerrans*, シロホシヒメゾウムシ=シラホシヒメゾウムシ, マツキボシゾウムシ。
108. 上田尚志(1981) 家島群島の昆虫(2).
きべりはむし9(1) : 9-18.
次のゾウムシ類が記録されている。
チョッキリゾウムシ科2種。
ブドウハマキチョッキリ, ハイイロチョッキリ。
オトシブミ科1種。
カシルリオトシブミ。
ゾウムシ科6種。
シロコブゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, マダラアシゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, ジュウジチビシギゾウムシ。
オサゾウムシ科2種。
オオシロオビゾウムシ, オオゾウムシ。

109. 高橋 匡(1981) 但馬地方昆虫目録(予報第5報)

IRATSUME (5) : 46-58.

但馬地方のゾウムシ類, ヒゲナガゾウムシ科21種, オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科を含む)43種, ミツギリゾウムシ科2種, ホソクチゾウムシ科5種, ゾウムシ科133種, オサゾウムシ科7種が産地とともに記録されている(種名省略).

110. 高橋寿郎(1982) 宍粟郡波賀町水谷の甲虫.

きべりはむし10(1) : 37-41.

次のゾウムシ類を記録している.
 オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科を含む)5種.
 チャイロチョッキリ, カシルリオトシブミ, ゴマダラオトシブミ, セアカヒメオトシブミ, ヒメクロオトシブミ.
 ホソクチゾウムシ科1種.
 マメホソクチゾウムシ.
 ゾウムシ科9種.
 ハダカヒゲボソゾウムシ, ウスイロヒゲボソゾウムシ, シロコブゾウムシ, ヒメシロコブゾウムシ, コフキゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, タデサルゾウムシ, リンゴノミゾウムシ, *Rhamphus pulicarius*, チビデオゾウムシ.

111. 淡路自然研究保護連合会編 島の生きものたち(淡路の生物誌)

神戸新聞出版センター B6, 210p.

p.40-41. ヒメクロオトシブミのゆりかごが示されている.
 p.71. オオゾウムシが解説されている.

112. Morimoto, K.(1982) The Family Curculionidae of Japan I. Subfamily Hylobiinae

Esakia(19) : 51-121.

森本 桂博士による日本産ゾウムシの研究の第1報として Subfamily Hylobiinae (アナアキゾウムシ亜科)をまとめられたものである。かなりの学名の整理もあれば2新属, 11新種, 1新亜種の記載も含まれている。兵庫県産の記録は次の種である。
 p.75, Fig.14. *Dyscerus elongatus* (Roelofs) ホソアナアキゾウムシ Hyogo (Kobe).
 p.100, Fig.34; 46E. *Kyliparus lewisii* (Roelofs) ルイスフトゾウムシ Hiogo (Kobe).
 p.113, Fig.42. *Seleuca chujoii* Voss チュウジョウアナアキゾウムシ Akasai, Shiso-gun, Hyogo.
 1♀, 3.VI.1979, Takahashi leg.

113. Morimoto, K.(1982) On the subfamily Magdalinae and Carciliinae of Japan (Coleoptera : Curculionidae).

Spec. Iss. Mem. Retir Emer. Prof. M. Chujo, 1982 : 153-164.

日本産ツツケイゾウムシ亜科 Madalinae, ツツゾウムシ亜科 Carciliinae の分類論文である。
 p.161. *Carcilia strigicollis* Roelofs ツツゾウムシ Hyogo Pref. Mt. Mayasan の記録がある.

114. 仲田元亮(1982) 増補改訂 能勢の昆虫 甲虫の部 下巻 A5, 508p.

(ref. p.411-498) (自刊)

多数のゾウムシ類の記録がある(種名省略).
 ヒゲナガゾウムシ科14種, オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)24種, ゾウムシ科84種, アサゾウムシ科5種.

115. 河上仁之(1982) 猪名川生物目録, 昆虫地域研究いたみ(12) : 133-135.

猪名川の桑津橋から軍行橋付近で生物調査を行い, 昆虫33科87種を確認したとしてその目録を示された。
 その中でカツオゾウムシが記録されている.

116. 高橋寿郎(1983) ミカンヒゲナガゾウムシ神戸市内に産す

きべりはむし11(1) : 24-25.

神戸市烏原貯水池畔から記録。もっともこの種はササセマルヒゲナガゾウムシと同定すべきである(高橋, 1986).

117. 新家 勝(1983) ハスジカツオゾウムシ

月刊むし(148) : 1.

西宮市武庫川堤防(16.V.1982). 写真による記録.

118. 江本健一(1983) ハナゾウムシ2種の分布記録

月刊むし(150) : 34.

コブハナゾウムシ *Tachypterellus dorsalis* Voss et Chujo の扇の山での記録(1ex., 22.V.1982, Toyama leg.).

119. 高橋寿郎(1983) オトシブミ

兵庫県大百科事典 上巻 : 411.

(神戸新聞出版センター)

特定の種についての解説でなく, オトシブミ類として兵庫県に見られるものを解説.

120. 高橋 匡(1983) 但馬地方昆虫目録(予報第5報)訂正.
IRATSUME(7): 22-23.
表題のように1981年高橋 匡氏が発表した但馬地方昆虫目録(予報第5報)のゾウムシ類についての場積氏からの指摘により、訂正しておられるがここでは詳細は省略する。
121. 森本 桂(1983) キクイゾウムシ類概説 II キクイゾウムシ亜科(1)
家屋害虫(17/18): 35-41.
ムシヒゲキクイゾウムシ *Hexarthrum brevicorne* Wollaston, Hiogo, Type の図説がある。
122. 遠山雅夫(1984) 甲虫に現れた付属肢異常 - 触角と脚の相同部位について -
月刊むし(159): 17-24.
クロシギゾウムシ *Curculio distinguendus* (♂, Mt. Ohya, Nose, Hyogo 8.V.1976, M.Arimoto leg.)
触角と脚の同列転換の例が紹介されている。
123. 高橋寿郎(1984) 淡路島より新に記録される甲虫について
Parnassius(30): 1-7.
三原郡慶野松原においてマツノクチプトキクイゾウムシ *Stenoscelis gracilitarsis* Wollaston を記録。
124. 森本 桂(1984) 日本から記載又は記録されてその後とれないゾウムシ類(2)
北九州の昆虫30(3): 197-200, pl.15.
p.198. *Rhynchophorus vulneratus* (Panzer) Kobe 1♂, October, 1908 V.Kühne (Wattanapongsiri, 1966, Dept. Agr., Sci. Bull. Thailand 1(1): 181)
の記録がある。分布はタイ, マレーシア, フィリピン, ニューギニアの種で、神戸には偶然持ち込まれたものであろうとされている。
125. 妹尾俊男(1984) カオスジヒゲナガゾウムシの分布並びに形態的特徴について。
越佐昆虫同好会々報(57): 13-14.
兵庫県産の産についての言及あり。
126. 桐谷圭治(1984) 移住する昆虫(7) 定着から土着へ
インセクタリアム21(9): 248-262.
イネミズゾウムシの兵庫県での分布記録。
127. 木村三郎(1984) 広峰・増位山系の昆虫
てんとうむし(9): 53-58.
ゾウムシ類が次のように記録されている。和名のみで学名やデータは全くない(種名は省略)。
ゾウムシ科(ヒゲナガゾウムシ科も含まれている) 19種。オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む) 5種。
128. 神戸の自然研究グループ(1984) 神戸の社寺を歩く(神戸の自然13).
神戸市立教育研究所刊
特定の場所ではなく、また特定の種を示したものでなくオトシブミとして示され、そのゆりかごが写真で示されている。
129. 細川浩司(1984) 兵庫県赤西におけるクロツツミツギリゾウムシの記録。
月刊むし(166): 10.
宍粟郡赤西溪谷 8exs., 30.X.1983(材より)
130. 河上仁之(1984) 伊丹市昆虫目録(1)
伊丹の自然(1): 22-32(ref.p.32)
オトシブミ科1種, チョッキリゾウムシ科1種, ソウムシ科7種, オサゾウムシ科2種の記録あり。
131. 高橋寿郎(1984) 加東郡東条町の昆虫相。
東条地区開発に伴う環境影響評価現地報告書 pp.201-205.
(住宅・都市整備公団関西支社)
オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科を含む)6種, ヒゲナガゾウムシ科1種, ソウムシ科17種の記録あり。
132. 諸橋公徳(1985) 侵入を警戒する昆虫とイネミズゾウムシとキンケクチプトゾウムシ
昆虫と自然20(1): 29-33.
具体的産地は示されていないが、両種とも兵庫県に得られるとある。
133. 高橋寿郎(1985) イワキオチバゾウムシ(?)
神戸市内に産す。
きべりはむし13(1): 23-25.
Otibazo morimoto Nakane イワキオチバゾウムシかとしたが、まだ種名未決定種である。神戸市鳥原産(1♀, 5.IV.1983)(標本は九大保管)。
134. 奥谷禎一(1985) 大岡山自然環境調査報告 B5, 50p. (ref.p.5, 42-44)(園田学園)
城崎郡日高町(豊岡駅の西南西直線距離9.5km)に

位置する大岡山周辺の調査で次のようなゾウムシ類の記録がある。

ヒゲナガゾウムシ科1種, オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)7種, ゾウムシ科3種, オサゾウムシ科1種。

135. 森本 桂(1985) キクイゾウムシ類概説 III
キクイゾウムシ亜科(2).

家屋害虫(23・24) : 19-28.

兵庫県の標本で記載された *Exodema sublutosan* Wollaston, 1873 が解説されている。

136. 高橋寿郎・蜂谷幸雄(1985) 神戸市北区押部
谷木津地域の昆虫相(仮称) 押部谷パブリック
ゴルフクラブ建設事業動物調査報告書

B5, 71p. (ref. p.20-43)

(パシフィックコンサルタンツK.K.刊)

オトシブミ科9種, チョッキリゾウムシ科1種, ゾウムシ科9種の記録がある。

137. Morimoto, K. & Miyakawa, S. (1985) Weevil
Fauna of the Izu Islands, Japan (Coleoptera).

Mushi 50(3) : 19-84, 34figs.

表題のように伊豆諸島のゾウムシ相であるが, その中でp.71-74, fig.29 に新種として記載された。

Microcryptorhynchus nipponicus Morimoto et Miyakawa のパラタイプに Mt. Maya, Kobe 1♀, 3.VIII.1953, S. Shibanaï leg. が含まれている。

138. 妹尾俊男(1985) 対馬におけるチビクチボン
ヒゲナガゾウムシの記録。

月刊むし(178) : 5.

兵庫の記録も含まれている。

139. Sawada, Y. & Morimoto, K. (1985) A revision
of the genus *Euops* Schoenherr (Coleoptera :
Atteblabidae) from Japan, Korea and Taiwan.

J. Fac. Agr. Kyushu Univ., 30(2/3) : 175-195.

日本, 朝鮮, 台湾産のルリオトシブミ属の分類学的総説であるが, その中で次の兵庫県産の記録がある。

p.184-185, ケシルリオトシブミ, Hyogo.

p.190-191, ハギルリオトシブミ, Hyogo.

p.194, コブルリオトシブミ, Hyogo.

140. Morimoto, K. (1985) Supplement to the
Check-List of the Family Rhynchophoridae
(Coleoptera) of Japan, with Descriptions of a

New genus and four new species.

ESAKIA(23) : 67-76.

表題のように日本産オサゾウムシ科に属する1新属4新種の記載であるが, この中で新種として記載された。

Dryophthorus konishii Morimoto pp.67-69, Fig.1 の Paratype に1♀, 15.VII.1980, H. Nishida leg., Takarazuka, Hyogo Pref. が含まれている。

141. 高橋寿郎(1986) 兵庫県のヒゲナガゾウムシ
(1) 兵庫生物9(2) : 111-114.

兵庫県産ヒゲナガゾウムシ科20種の記録。

142. Morimoto, K. (1986) The Family Curculionidae
of Japan. V. Tribe Camporhinini.

Ent. Pap. pres. Kurosawa, Tokyo, pp.321-334.

次の兵庫県産の記録がある。

p.323-325. *Camptorhinus mangiferae* Marshall, 1925
オオカレキクチカクシゾウムシ

Kumochi-cho, Kobe City, 1♀, 3.VII.1953, S. Shibanaï leg.

p.328-329, Figs.5,7E *Camptorhinus kurosawai*
Morimoto

クロサワクチカクシゾウムシ

Paratype 1♂, Gyonohara, Oogo-cho, Kobe City VI.1964 emerged from twig of chestnut tree, Y. Murakami leg.

143. 高橋寿郎(1986) ナガフトヒゲナガゾウムシ
を美濃郡吉川町で採集。

IRATSUME(10) : 46-47.

144. 森 和夫(1986) ヒラズゲンセイを神戸市で採
集

きべりはむし14(2) : 36.

この報文の中で神戸市北区山田町藍那でイネミズゾウムシ7exs.採集の記録がある(7.VII.1985)。

145. 高橋寿郎(1986) イネミズゾウムシの兵庫県
下での産地。

きべりはむし14(2) : 42.

146. 河上仁之(1986) 伊丹市昆虫目録(3)

伊丹の自然(3) : 21-26.

イヌビワシギゾウムシ, カキゾウムシが記録されている。

147. 高橋寿郎(1987) 兵庫県の高ゲナガゾウムシ(2)
兵庫生物9(3) : 153-156.
兵庫県産ヒゲナガゾウムシ20種を県下の詳しい産地とともに記録。
148. 金沢 至(1987) シナサワグルミのノミゾウムシ(2)
Nature Study 33(3) : 34-36.
シナサワグルミノミゾウムシの西宮市高須町の記録(1986年8月)がある。ちなみにこの報告の(1)はNature Study 31(11) : 129-132,1985.
149. 堀田 久(1987) 洲本市由良小学校付近の昆虫類。
Parnassius(32) : 12-15.
オジロアシナガゾウムシ(p.15)の記録がある。
150. 佐藤邦夫(1988) 西脇市でナガフトヒゲナガゾウムシを採集。
IRATSUME(12) : 82.
151. 森本 桂(1988) キクイゾウムシ類概説(II)
-キクイゾウムシ亜科-
家屋害虫(2) : 157-166.
p.160,163. *Exodema sublutosa* Wollaston
兵庫県産の標本で記載されたもの。その後の記録はない。
p.164. *Maerorhyncholus crassiuscurus* Wollaston
(Hiogo) マツオオキクイゾウムシ
152. Okamoto, M.(1988) Interactions between *Camellia japonica* and its seed predator *Curculiacamelliae*
I. Observations on morphology, phenology and oviposition behaviors in Kinki District, Japan.
Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. (43) : 15-37, 1pl.
西宮市鷲林寺で観察された材料が使用されている(ツバキシギゾウムシ)。
153. 高橋寿郎(1989) 神戸市内で見られなくなった甲虫・神戸市内にやってきた甲虫・ふえた甲虫。鳥と自然(52) : 8-15.
イネミズゾウムシについて解説。
154. 新家 勝(1989) 宝塚大橋の甲虫(その4)
きべりはむし17(2) : 36-38.
次のゾウムシ類が記録されている。シリジロヒゲナガゾウムシ, ヤサイゾウムシ, マツアナアキゾウムシ, ホソアナアキゾウムシ, マダラアシゾウムシ, オオゾウムシ。
155. 高橋寿郎(1989) 兵庫県における数種タマゾウムシの産地
きべりはむし17(2) : 43-45.
シロオビタマゾウムシ, ハイイロタマゾウムシ, アカアシゾウムシ, クロタマゾウムシ, クロオビシロタマゾウムシの県下における分布状況を解説。
156. 高橋寿郎(1989) シロスジタコゾウムシ神戸市内で採集
きべりはむし17(2) : 47.
神戸市西区伊川谷前開 1ex.,21.VIII.1988, 1ex.,28.IX.1988.
157. 藤富正昭(1990) 淡路へきた虫(1) アルファルファタコゾウムシ
Parnassius(36) : 1.
158. 新家 勝(1990) 武庫川の昆虫目録
伊丹の自然(8) : 1-15.
次のゾウムシの記録がある。
オジロアシナガゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, マダラアシゾウムシ, オオゾウムシ。
159. 西本 裕(1992) 甲子園浜の昆虫
兵庫生物10(3) : 附8-10.
ツツチビヒゲナガゾウムシの記録がある。分布からして再同定の要ありと考える。
160. 東 正雄(1992) 宝塚の生物誌(3) イネミズゾウムシ
宝塚の自然(6) : 3-4.
宝塚市西谷西部での分布を中心として。
161. 新家 勝(1992) 尼崎西南部の昆虫(その6)
きべりはむし20(1) : 16-19.
次のゾウムシ類の記録がある。
オオクチプトゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, オオゾウムシ。
162. 沢田佳久(1992) ヒメクロオトシブミとセアカヒメオトシブミをめぐる問題点
昆虫と自然27(7) : 15-20.
兵庫県産についての言及あり(セアカヒメオトシ

ブミの神戸市谷上産の記録).

163. 真野育三(1992) 夏期研修会(笠形山)報告.

兵庫生物ニュース(9): 47.

次のゾウムシ類の記録あり.

シロヒゲナガゾウムシ, オオゾウムシ.

164. 沢田和宏(1992) 神戸市の冬の海岸で採集した甲虫

きべりはむし20(2): 48-49.

トビイロヒョウタンゾウムシを須磨海岸で採集
3exs., 25.II.1992.

165. 大野正男(1992) 日本産主要動物の種別知見総覧(27) オオシロオビゾウムシ(1)

長崎県生物学会誌(41): 55-68.

兵庫県産オオシロオビゾウムシの記録文献を含む.

166. 楠井善久(1992) 沼島の甲虫採集記録.

南紀生物34(2): 103-104.

次の記録がある.

カシルリオトシブミ, オオゾウムシ, トホシオサゾウムシ.

167. 河上仁之(1993) 武庫川河原の昆虫・昭和40年代の昆陽池の昆虫

伊丹の自然第1号: 127-129.

具体的にはハスジカツオゾウムシしか出ていない.

168. 高橋寿郎(1993) オオタコゾウムシの散歩

きべりはむし21(1): 31-32.

神戸市内での産出状況について解説.

169. 佐藤邦夫(1993) ナガフトヒゲナガゾウムシについて

IRATSUME(17): 79-80.

西脇市での記録である.

170. 河上仁之(1993) 伊丹の自然第2巻

-多様な生物の世界-

P.153にイネミズゾウムシの記録がある.

171. 沢田佳久(1993) 宝塚の昆虫 IV 甲虫目(II)

B5, 168p. (ref.p.177-212)

(宝塚市教育委員会刊)

宝塚のコメツキダマシ科からオサゾウムシ科までの38科461種が記録されている. 各種ごとに写真で示され, 形態, 生態, 詳しい記録がある.

ゾウムシ類は担当沢田佳久博士で, ヒゲナガゾウムシ科16種, オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)17種, ゾウムシ科47種, オサゾウムシ科4種が記録されている.

ヒゲナガゾウムシ科

アカアシヒゲナガゾウムシ, キノコヒゲナガゾウムシ, ウスモンツツヒゲナガゾウムシ, シロヒゲナガゾウムシ, セマルヒゲナガゾウムシ, ナガフトヒゲナガゾウムシ, マダラフトヒゲナガゾウムシ, シリジロヒゲナガゾウムシ, アカミヒゲナガゾウムシ, キマダラヒゲナガゾウムシ, クロフヒゲナガゾウムシ, スネアカヒゲナガゾウムシ, コモンヒメヒゲナガゾウムシ, クロホシメナガヒゲナガゾウムシ, ネプトヒゲナガゾウムシ, ナガアシヒゲナガゾウムシ.

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)

オトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ウスモンオトシブミ, エゴツルクビオトシブミ, ゴマダラオトシブミ, アカクビナガオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ, ハギルリオトシブミ, カシルリオトシブミ, アシナガオトシブミ, クロケシツブチョッキリ, コクロケシツブチョッキリ, ブドウハマキチョッキリ, チャイロチョッキリ, クチナガチョッキリ, モモチョッキリ, ミヤマイクビチョッキリ, コナライクビチョッキリ.

ゾウムシ科

ヒラズネヒゲボソゾウムシ, トゲアシゾウムシ, カシワクチブトゾウムシ, ツンブトクチブトゾウムシ, シロコブゾウムシ, スグリゾウムシ, マツトビゾウムシ, ケナガスグリゾウムシ, オビモンヒョウタンゾウムシ, コフキゾウムシ, ヤサイゾウムシ, ゴボウゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, ホホジロアシナガゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, イネゾウムシ, クロタマゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, ユアサハナゾウムシ, ツバキシギゾウムシ, セダカシギゾウムシ, コナラシギゾウムシ, ナツグミシギゾウムシ, クヌギシギゾウムシ, クリシギゾウムシ, エゾヒメゾウムシ, チャイロヒメゾウムシ, ツツジトゲムネサルゾウムシ, キイチゴトゲサルゾウムシ, マツキボシゾウムシ, クロキボシゾウムシ, ウスモンカレキゾウムシ, ナカスジカレキゾウムシ, コクロアナアキゾウムシ, ホソアナアキゾウムシ, クリアアナアキゾウムシ, ガロアナアキゾウムシ, オリブアナアキゾウムシ, マツアナアキゾウムシ, アラムネクチカクシゾウムシ, ハイイロトゲトゲゾウムシ, マダラアシゾウムシ, アシナガオニゾウムシ, アラハダクチカクシゾウムシ, ニセマツノシラホシゾウムシ

- シ, チャバネキクイゾウムシ, マツオオキクイゾウムシ.
オサゾウムシ科
アトボシキクイサビゾウムシ, オオゾウムシ, トホシオサゾウムシ, ササラコクゾウムシ.
172. Y.Sawada(1993) A Systematic Study of the Family Rhynchitidae of Japan (Coleoptera, Curculionidae)
Human and Nature (2) : 1-93.
表題のように日本産チョッキリゾウムシ科の分類学的研究論文であり, 12新種1新記録種の記載も含まれている。
兵庫県産の3種の検視標本が含まれている(兵庫県産新種のものはない)。
p.61. *Involvulus (Involvulus) plumbleus* (Roelofs, 1874) クチナガチョッキリ
1male, Maya Hyogo Pref., 3.IX.1953, K.Morimoto leg.
p.79. *Deporaus (Hypodeporaus) minimus* Kono, 1928 チビイクビチョッキリ
4male, 1female, Yokoyuki Vall. Oya Hyogo Pref., 24.VI.1984, Y.Sawada leg.
p.86-87. *Paradeporaus depressus* (Faust, 1882) ヤドカリチョッキリ
2female (male?), 1female, Akazai Vall. Hyogo Pref., 6.V.1984, N.Nishida leg.
173. 高橋寿郎(1993) ヒトクチャケに集まる甲虫 III
きべりはむし21(1) : 6-9.
西宮市船坂の松に出来ていたヒトクチャケからマツオオキクイゾウムシを採集。
174. K.Morimoto(1994) Notes on Orchid Weevils in Japan, with Description of a New Species (Coleoptera : Curculionoidea)
Trans. Shikoku Ent. Soc. 20(3/4) : 233-241.
ランを加害するヒメゾウムシの1種の新種記載で Holotype は兵庫県産とあるだけで何処産か示されていないが, Paratype の中には三木産2♂2♀が含まれている。
p.236-241. *Orchidophilus ran* Morimoto
Holotype Male Hyogo Pref. XI.11.1979, K.Fujimoto leg. (attained from bulb of an orchid)
Paratype 2males & 2females Miki City Hyogo Pref. VIII.1976, T.Adachi leg.
on *Cymbidium* sp. imported from Taiwan three years ago.
175. O'Brien, C.W., I.S.Askevold and K.Morimoto Systematics and evolution of weevils of the genus *Bagous* Germer (Coleoptera : Curculionidae II)
Esakia (34) : 1-73.
カギアシゾウムシ属の分類学的研究で, 兵庫県産2新種を含む3種が記録されている。
p.32-33, Figs.15-16, 45, 48.
Bagous bipunctatus (Kono, 1934)
non-Paratype G.Lewis leg. Kobe (1.BMNH).
p.35-38, Figs.17-18, 46, 53.
Bagous proprius O'Brien & Morimoto, 1994
Kobe, G.Lewis leg.
p.42-44, Figs.21-22, 37, 52, 55.
Bagous buckinghami O'Brien & Morimoto, 1994
Hyogo Pref. Kakogawa City M.Suzuki 21.X.1921., Heiso, Yamada-ike 3.Aug.1992.
Hyogo Pref. Kakogawa City (nr.Kobe)
Kanki-cho, Batoh-ike 5.Aug.1992.
176. H.Kojima & K.Morimoto(1994) Taxonomic Study of the Subfamily Anthonominae from Japan (Coleoptera, Curculionidae)
Esakia (34) : 147-186.
ハナゾウムシ亜科の分類学的再検討である。兵庫県産は次の種の記録がある。
p.155-157. *Anthonomus bisignifer* Schenkling イチゴハナゾウムシ
検視標本に兵庫が入っている。
177. 永幡嘉之(1994) 但馬における甲虫数種の採集記録
IRATSUME (18) : 56-57.
ミツギリゾウムシ 美方郡浜坂町観音山, 温泉町飯野, 村岡町本谷奥, 香住町土生。
ナガフトヒゲナガゾウムシ 美方郡村岡町長坂, 本谷奥。
178. 小田中 健(1994) 宝塚の甲虫(補遺)
宝塚の昆虫 VII : 337-370.
宝塚の甲虫は「宝塚の昆虫II, IV」に記録され, 806種がまとめられていたが, 今回その補遺として78種が追加されている。ゾウムシ類は3科4種であるが, ゾウムシ科の1種とオサゾウムシ科の1種は, 兵庫県からは初めての記録になると考えられる。
ヒゲナガゾウムシ科

イボタロウヒゲナガゾウムシ。

ゾウムシ科

クロサワシギゾウムシ(兵庫県初記録), アカナガクチカクシゾウムシ。

オサゾウムシ科

シバオサゾウムシ(兵庫県初記録)。

179. 高橋寿郎(1994) オオタコゾウムシ神戸市北区監那にも産す

きべりはむし22(1) : 21-22.

180. 建設省河川治水課監修 財団法人リバーフロント整備センター編集(1994)

平成4年度河川水辺の国勢調査年鑑

陸上昆虫類等調査編 B5, 1328pp. (山海堂・東京)

本書は平成4年度に国が直轄で管理している全国の109の1級河川のうち48水系で陸上昆虫類調査を実施した。今回平成4年度から平成5年度に調査が継続している河川を除く42水系について、調査結果のとりまとめを行ったものである。調査に当たった人達がどのレベルの人たちであるのか、同定はどのような方がやられたのか等々明確にされてなく、学名は一切使用されず和名だけの羅列(採集データも全くない)になっている点や、注目種の解説、昆虫相の解説等もほとんどない。したがって、この記録を無条件に受け入れるのには若干抵抗を感じる。もう少し責任ある報告書としてまとめてほしい。

兵庫県からは猪名川、藻川、加古川、揖保川流域の調査が行われた。

猪名川, 藻川

平成4年度の現地調査は夏季(7月16日~8月29日), 秋季(10月13日~10月17日), 春季(平成5年5月15日~5月26日)の3回。

マメゾウムシ科 1種。

アズキマメゾウムシ。

オトシブミ科 1種。

クロケシツブチョッキリ。

ゾウムシ科 9種。

シロコブゾウムシ, カツオゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, エゾヒメゾウムシ, タデサルゾウムシ, ダイコンサルゾウムシ, カナムグラサルゾウムシ, フタキボシゾウムシ。

加古川

加古川における平成4年度の現地調査は, 夏季(6月26日~6月28日), 秋季(10月1日~10月9日)の3回,

本川4地点において実施された。

マメゾウムシ科 1種。

イクビマメゾウムシ。

オトシブミ科 1種。

クロケシツブチョッキリ。

ゾウムシ科 8種。

シロコブゾウムシ, コフキゾウムシ, ヤサイゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, カツオゾウムシ, ムモンノミゾウムシ, ダイコンサルゾウムシ, タデサルゾウムシ。

揖保川

平成4年度の現地調査は春季(6月27日~6月29日), 夏季(8月3日~8月6日), 秋季(10月3日~10月6日)の3回, 本川5地点において実施された。

ヒゲナガゾウムシ科 1種。

ナガフトヒゲナガゾウムシ。

オトシブミ科 2種。

クロケシツブチョッキリ, *Deporaus* sp.

ゾウムシ科 8種。

シロコブゾウムシ, コフキゾウムシ, カツオゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, *Dorytomus* sp., イチゴハナゾウムシ, フタキボシゾウムシ, ゾウムシ科sp.

181. K.Morimoto & S.Miyakawa(1995) The Family Curculionidae of Japan VIII. Subfamily Acicnemidinae

Esakia (35) : 17-62.

Acicnemidinae 亜科ゾウムシの分類学的論文である。兵庫県産の種として次のような記録がある。

p.21-22. *Trachodes subfasciatus* Voss,1957

Hyogo (Mt.Mayasan)

p.31-32. *Acinemis albofasciata* (Ter-Minayan,1953)

Hyogo (Akazaki) = Akazai?

p.35-36. *Acinemis palliata* Pascoe,1872

Hyogo (Mt.Maya)

p.36-37. *Acinemis suturalis* Roelofs,1875

Kobe (Mt.Maya)

182. 大貝秀雄・相馬明直・広畑政巳・相坂耕作(1995) 生島樹林昆虫調査

遊蟲千年(2) : 37-43.

p.41. ヒサゴクチカクシゾウムシ *Simulatacalles simulator*

ヒラセノミゾウムシ *Rhynchaenus dorsoplana-tus*

ハマベクイゾウムシ *Dryotrbus mimeticus?*

183. 相坂耕作(1995) 波賀町上野地区の昆虫類
遊蟲千年(2) : 83-104.
- p.102. カシアシナガゾウムシ *Meiysolobus piceus*
オオクチフトゾウムシ *Macrocorymus variabilis*
カシワクチフトゾウムシ *Myllocerus griseus*
184. 新家 勝(1995) オオタコゾウムシの採集記録
(宝塚市内)
きべりはむし23(1) : 31.
185. 新家 勝(1995) トゲハラヒラセクモゾウムシ
の採集記録(西宮市内)
きべりはむし23(1) : 31.
186. 永幡嘉之(1995) ナガフトヒゲナガゾウムシ
の記録2例
IRATSUME (19) : 20-21.
三木市大村, 養父郡関宮町出合での記録.
187. 林 靖彦ほか(1995) 雨石山甲虫リスト
1989年度雨石山に於ける甲虫相調査報告書
KASUGA(大阪甲虫同好会連絡誌)No.11 :
1-25.
多紀郡篠山町(現篠山市)及び京都府瑞穂町にわた
る雨石山で, 1989年調査採集された甲虫類のリスト
(調査員11名)で, 甲虫433種が記録され, ゾウムシ類
は次のように記録されている(*印は県下初記録種).
ヒゲナガゾウムシ科 11種.
キノコヒゲナガゾウムシ, ウスモンツツヒゲナガ
ゾウムシ, シロヒゲナガゾウムシ, カオジロヒゲ
ナガゾウムシ, キマダラヒゲナガゾウムシ, クロ
フヒゲナガゾウムシ, シリジロメナガヒゲナガゾ
ウムシ, ナガフシヒゲナガゾウムシ, スネアカヒ
ゲナガゾウムシ, ヨリメオビモンヒゲナガゾウム
シ*, エゴヒゲナガゾウムシ*.
オトシブミ科 9種.
ファウストハマキチョッキリ, チャイロチョッキ
リ, ヒメケブカチョッキリ, ゴマダラオトシブミ,
ヒメクロオトシブミ, ウスアカオトシブミ, アカ
クビナガオトシブミ, カシルリオトシブミ, ハギ
ツルクビオトシブミ.
ゾウムシ科 12種.
シロコブゾウムシ, コブヒゲボソゾウ, リンゴコ
フキゾウ, ヒラズネヒゲボソゾウ, ウスモンカレ
キゾウ, マダラカレキゾウ, ナカスジカレキゾウ,
アトジロカレキゾウ, マツキボシゾウ, ツバキシ
ギゾウ, ダルマカレキゾウ, チャバネキクイゾウ.
188. 藤宮正昭(1995) 私版 淡路の昆虫リスト(2)
Parnassius(42) : 1-5.
淡路産ゾウムシ類として次の種の記録がある.
アルファルフアタコゾウムシ 内膳
イネゾウムシ 志筑
イネミズゾウムシ 柄本
オジロアシナガゾウムシ 内膳
シロコブゾウムシ 由良
スグリゾウムシ 飯屋
ツバキシギゾウムシ 東山寺
マダラアシゾウムシ 厚浜
マツキボシゾウムシ 厚浜
モモチョッキリゾウムシ 久留麻, 八木
ヤサイゾウムシ 志筑, 北阿万
189. 近藤伸一(1996) ナガフトヒゲナガゾウムシ
を川西市黒川で採集
きべりはむし24(2) : 50.
川西市黒川 1♀, 13.VIII.1996, 近藤採集
190. 相馬明直(1997) 数種類の甲虫の記録
てんとうむし(11) : 84.
モンケシツブチョッキリ(坂の谷林道), クロツツ
ホソミツギリゾウムシ(坂の谷林道), シロカレキゾ
ウムシ(赤西), ムラカミカレキゾウムシ(坂の谷林
道), ワモントゲゾウムシ(三濃山), キボシクチカク
シゾウムシ(坂の谷林道, 大屋町横河谷), オオシ
ロオビゾウムシ(姫路市青山)の記録がある.
191. 高橋寿郎(1997) 稲畑憲昭氏採集 兵庫県下
産甲虫類若干の記録
きべりはむし25(2) : 60-61.
神戸市灘区篠原祖母野山(六甲学院の上), 長峰山
入口付近でササコクゾウムシとコササコクゾウムシ
を採集とあるが, このコササコクゾウムシはササコ
クゾウムシの誤りとのこと(きべりはむしVol.26, No.
2, p.13, 1998).
192. 沢田佳久(1998) オオタコゾウムシの定着
人と自然の博物館編「六甲山系」 pp.26-27.
193. 沢田佳久(1998) 近畿のオオタコゾウ
昆虫と自然34(6) : 32-34.
兵庫県下の分布状況について詳しく解説.

兵庫県のカミキリモドキ

故高橋寿郎氏遺稿集No. 4

兵庫昆虫同好会事務局編

細長い肢体と触角は一見カミキリムシを思わせるが故にカミキリモドキと名づけられている。幼虫は朽木や落葉中に見られ、成虫は樹葉上や花上に見られる。灯火に来るものもある。中には人体に触れた時、しばしばその体液中のカンタリジンによって人体皮膚に炎症を起こさせる衛生害虫が含まれている。

日本には現在51種を産することが知られており、なお若干の追加種がいるもようである。

兵庫県産のこの科の甲虫については古くに筆者が発表した(1962)ものがあるが、最近、学名など変更になったものもあつたり新知見があるので、現時点でのこの類の県下産のまとめを発表したいと思う。

なお、学名、種の配列その他は溝田浩二氏の報文(1998)によっている。

Family Oedemeridae カミキリモドキ科

Subfamily Nacerdinae ナガカミキリモドキ亜科

Tribe Nacerdini ナガカミキリモドキ族

1. *Opsimea nigripennis* (Matsumuram 1911)

クロカミキリモドキ

本種は松村松年博士が *Oedemera nigripennis* として記載された種である。その後、河野広道博士は *Nacerda nigripennis* (1932), *Enonacerda nigripennis* を用いた。

山地性の種である。分布は北海道、本州、四国、九州、南千島、サハリンと広い。兵庫県では氷の山での記録があるのみであるが、北部山地には分布している種だと考えている。

産地。

養父郡氷の山[大槻,1957]*

2. *Nacerdes (Nacerdes) melanura* (Linnaeus, 1758)

ツマグロカミキリモドキ

背面は橙黄色で翅端は黒色、腹面は暗色、腹部末端節の後縁は♂では三角形に中央までえぐられるが♀では丸い。

分布は日本全土、世界各地に分布している種で、

とくに海岸地帯に多く昼間花に集まり、夜間は灯火にも飛来する。

神戸市内などでは5月中旬～7月上旬に出現し、古くは昼間からよく飛翔して、アカメガシワ等の花に集まったが、最近は見かけなくなった。

産地。

兵庫県[黒佐,1958, 溝田,1998].

洲本市先山[堀田,1978].

伊丹市[河上,1984].

宝塚市売布が丘[芦田,1993].

Kobe[Lewis,1855], 神戸市御影[関,1933], 鳥原(3exs.,1.VI.1956,etc.), 山の街(3exs.,1.VI.1958, etc.).

飾磨郡家島[上田,1981].

3. *Nacerda (Xanthochroa) atriceps* (Lewis, 1895)

キクビカミキリモドキ

頭部、体下面及び各肢が黒く、わりと容易に識別できる。北海道にはとくに多く灯火に飛来し、人体に皮膚炎を起こさせる。本州でも中央山岳地帯にはさほど稀でないが近畿以西では深い山地に基だ局地的に棲息しているという(黒佐,1958)。

兵庫県下での記録は筆者が氷の山で採集しているのが知られているだけで、県北部山地帯には分布しているものと考えられる。

産地。

養父郡氷の山(1ex.,22.VII.1956)

4. *Nacerdes (Xanthochroa) waterhousei* (Harold, 1875)

アオカミキリモドキ

頭部、前胸背部は橙黄色。上翅は緑色で金属光沢がある。成虫は夏、灯火に飛来する。幼虫は針葉樹の朽木の材部に穿孔し、樹を食べて育つ。初夏の頃、樹木中で蛹化する。黒佐和義博士は本種の生態について詳しく報告しておられ、同時に神戸地方における出現期の詳しい報告をされている(1958)。兵庫県下では普通に産する。

* 記録の文献は筆者著「兵庫県産甲虫類に関する文献目録」(1981,1984,1995,1998)を参照のこと。

産地.

兵庫県[溝田,1998].
 洲本市安乎町[堀田,1978].
 三原郡八木養宜[藤富,1995].
 川西市大和,笹部[仲田,1978,1982], 能勢妙見山
 (1ex.,30.VII.1982).
 伊丹市[河上,1984].
 宝塚市宝塚大橋[新家,1989], 売布が丘南口2丁目
 [芦田,1993].
 神戸市[黒佐,1958], 御影[関,1933], 摩耶山(1ex.,
 15.VI.1979), 烏原(1ex.,24.V.1953,etc.), 石井ダ
 ム(2exs.,16.VI.1992), 藍那(2exs.,21.VI.1993),
 山の街(1ex.,18.VII.1978), 一の谷(1ex.,17.VI.
 1993,etc.), 妙法寺(1ex.,23.VI.1979), 逢山峡
 (2exs.,2.V.1982), 須磨[戸沢,1936], 多井畑(1ex.,
 19.VI.1990), 八多町屏風(1ex.,4.VI.1993,etc.).
 加西市畑(9exs.,29.VI.1974,etc.).
 神崎郡大河内町川上(2exs.,18.VI.1977,etc.).
 宍粟郡坂の谷(2exs.,22.VII.1979).
 水上郡[山本,1958], 山南町(1ex.,1.VII.1990).
 豊岡市愛宕山[高橋,1975].
 養父郡氷の山(2exs.,22.VII.1958).
 美方郡扇の山[辻,岸田,1972].
 鉢伏山[高橋,1975].

5. *Nacerdes (Xanthochroa) katoi* (Kono,1932)

カトウカミキリモドキ

アオカミキリモドキに似るが第5腹板は♀では小さいが深くえぐられる。その両側各片の先端はやや丸みを帯び、生殖節の両葉は正中線で接し後方に広がる。

兵庫県下の個体数はそれほど多くない。

産地.

兵庫県[黒佐,1958, 藤田,1998].
 川西市能勢妙見山(1♂,30.VII.1982).
 神戸市逢山峡(1ex.,1.VII.1986).
 飾磨郡曾彦山(5exs.,14.VII.1957).
 神崎郡笠形山(1ex.,12.VI.1966).
 多可郡鳥羽(1ex.,5.VII.1975).
 揖保郡新宮町福原(1ex.,22.VI.1992).
 宍粟郡音水(2exs.,11.VI.1982).
 美方郡扇ノ山[辻,岸田,1972].

6. *Nacerdes (Xanthochroa) caudata* (Kono,1936)

シリナガカミキリモドキ

アオカミキリモドキに似るが雌雄ともに尾端が細

長く後方へ突出し、とくに♂ではそれが著しく、背面から見ると上翅末端から後方へ突出する(陰茎が細長く突出する)。

灯火に飛来する。幼虫は針葉樹の朽木の材の中へ穿孔する。

兵庫県ではアオカミキリモドキに比して少ない。産地.

兵庫県[黒佐,1958, 溝田,1998].
 川西市一の鳥居(1ex.,17.VI.1954).
 飾磨郡曾彦山(1ex.,14.VII.1957).
 宍粟郡音水(2exs.,11.VI.1972,etc.), 水谷(1ex.,19.VI.1981).
 養父郡氷の山(1ex.,21.VII.1958,etc.).

7. *Nacerdes (Xanthochroa) wadai* (Nakane,1954)

ワダカミキリモドキ

本種は和田義人博士が神戸摩耶山で採集した1♂を Holotype, 柴内俊一氏が神戸(場所不明, 灘区?)で採集した1♀を Paratype に中根猛彦博士が新種記載されたものである(1954)。やや大型で前胸部、各肢とともに腹面も暗褐色を帯び、藍緑光沢を有する。♀の第5腹板は先半圧下され、正中線上は隆起し、先端はややとがる。♂の尾節板は屋根形、第5腹板は楕円形に広く切れ込み、生殖節の両葉はやや短くて腹端を越えず、陰茎は幅があって先端は背方に強く曲がる。

一応日本の本州(東海以西)、中国、九州に分布となっているが、そう多くない種である。

兵庫県下では六甲山系での記録以外は知られていない。

産地.

兵庫県[溝田,1958].
 Kobe,Mayasan[Nakane,1954, 中根,伊賀,1955, 黒佐,1958].
 神戸市灘,篠原伯母野山町(3exs.,14.VI.1997, Ina-hara-leg., 高橋,1957, 稲畑,1998).

8. *Nacerdes (Xanthochroa) killeri* (Harold,1878)

キイロカミキリモドキ

背面は橙黄色、腹面もほぼ同色、肢は大部分が黒色。触角の第3節から第9節までほぼ同長。

成虫は花や灯火に集まる。幼虫は針葉樹の朽木中に穿孔する。

兵庫県では広く分布、やや普通に見られる種である。

産地.

兵庫 [溝田,1958].
 川辺郡猪名川町三草山 (1ex.,5.VII.1980).
 川西市見野,笹部,大和 [仲田,1970,1978,1982], 一の
 鳥居 (2exs.,22.VI.1951), 能勢妙見山 (2exs.,30.
 VII.1982).
 伊丹市 [河上,1984].
 尼崎市西南部 [新家,1991].
 宝塚市玉瀬 [芦田,1993].
 神戸市 [黒佐,1953], 六甲山 (1ex.,10.VII.1955,etc.),
 二十渉 (1ex.,26.VI.1955), 金剛童子山 (1ex.,14.
 VII.1982), 藍那 (3exs.,14.VII.1978,etc.), 妙法寺
 (1ex.,23.VI.1979), 逢山峡 (4exs.,2.VII.1982), 八
 多町屏風 (1ex.,23.VII.1993).
 明石市明石公園 (1ex.,26.VI.1976).
 三木市細川中 (1ex.,26.VII.1985), 口吉川 (3ex.,14.
 VII.1986,etc.).
 加東郡東条町森 (2exs.,22.VI.1984,etc.), 社町三草
 (10exs.,6.VII.1989).
 美囊郡吉川町 (1ex.,27.VI.1985).
 小野市山田 (1ex.,23.VI.1987).
 加西市畑 (17exs.,27.VI.1974,etc.).
 多可郡三谷 (2exs.,13.VII.1975).
 神崎郡大河内町川上 (1ex.,18.VI.1977,etc.).
 飾磨郡曾彦山 (3exs.,14.VII.1957).
 揖保郡新宮町福原 (2exs.,15.VII.1992).
 相生市三濃山 (3exs.,6.VII.1973).
 宍粟郡波賀町水谷 (12exs.,17.VII.1981), 音水
 (2exs.,15.VII.1973,etc.), 坂の谷 (1ex.,22.VII.
 1979).
 多紀郡雨石山 [林ほか,1995].
 水上郡 [山本,1958], 山南町 (1ex.,5.VII.1990).
 出石郡但東町中藤 [高橋,1963].
 豊岡市妙楽寺,福田 [高橋,1975].
 城崎郡三川山 [高橋,1975].
 養父郡氷の山 (6exs.,22.VII.1957,etc.).
 美方郡鉢伏山 [高橋,1975], 扇ノ山 [辻,1963, 辻,岸
 田,1972].

9. *Nacerdes (Xanthochroa) lutipennis* (Marseul,
 1876) キバネカミキリモドキ
 上翅のみが黄褐色, その他はすべて黒色. ♂の陰
 茎は基部がやや幅広く, 先端は上方へ鉤状に曲がる.
 成虫は花に集まるほか灯火にも飛来する. 幼虫は針
 葉樹の朽木中で蛹化する.
 兵庫県下には広く分布している.

産地.

兵庫県 [黒佐,1958, 溝田,1998].
 川西市見野,大和,笹部 [仲田,1970,1878,1982], 能勢
 妙見山 (4exs.,30.VII.1982).
 宝塚市宝塚大橋 [新家,1989], 売布が丘,武庫川町
 [芦田,1993].
 神戸市山の街 (1ex.,1.VI.1958), 逢山峡 (3exs.,1.VII.
 1986,etc.), 鳥原 (1ex.,4.VII.1976,etc.), 藍那
 (2exs.,21.IV.1993).
 小野市山田 (1ex.,23.VI.1987).
 加東郡社町三草 (2exs.,6.VII.1989,etc.).
 加西市畑 (3exs.,21.VI.1975).
 神崎郡大河内町川上 (1ex.,18.VI.1977,etc.).
 宍粟郡波賀町水谷 (2exs.,17.VII.1981), 音水 (1ex.,
 15.VII.1973).
 水上郡 [山本,1958], 市島町塚原 [高橋,1977].
 豊岡市妙楽寺 [高橋,1975].
 養父郡氷の山 (2exs.,21.VII.1958,etc.).
 美方郡鉢伏山 [高橋,1975], 扇の山 [辻,岸田,1972].

10. *Nacerdes (Xanthochroa) osawai* (Nakane,1959)

オオサワカミキリモドキ
 全体に褐色を帯びている. 翅端は多少とも黒い.
 体下面は大部分暗褐色, ♂の尾節板は大きく三角
 形にえぐられ,第5腹板は中央まで深く裂開し, 生殖
 節の両葉は大きく, 先端は幅広く丸くなる.
 ♀の第5腹板はやや長く緩く弧状に狭まり, 後縁
 中央は小さくえぐられている.
 兵庫県下での記録は少ない.

産地.

川西市笹部 [仲田,1982].
 美方郡扇の山 [辻,岸田,1972].

11. *Nacerdes (Xanthochroa) spiniconis* (Nakane,
 1954) コゲチャカミキリモドキ

中根猛彦博士により紀伊大台ヶ原産を Holotype
 に, allotype に上高地産, paratype に上高地近くの島
 々谷でもって記載された種である (1954).
 山地性の種であり, 県下では氷ノ山で採集された
 ものが知られているだけである.

産地.

養父郡氷の山 (1ex.,21.VII.1958).

Tribe Ditylini ミヤマカミキリモドキ族

12. *Chrysanthia viatica* Lewis,1895

スジカミキリモドキ

体は藍色を帯びた黒色，上翅は銅光沢を帯びた赤紫色，左右の眼は左右の触角の隔たりよりも離れている。上翅の隆起縦条は弱い。6月頃から山地の花に集まるといわれているが県下での記録は次のものが知られているだけである。

産地。

宍粟郡音水(2exs.,25.VI.1972)。

Subfamily Oedemerinae カミキリモドキ亜科

Tribe Ascierini フトカミキリモドキ族

13. *Indasclera brunneipennis* (Lewis,1895)

ハネアカカミキリモドキ

黒色で触角，脛も黒く，上翅はやや淡い赤褐色である。♀では黒色毛を装うが♂ではとくに明るく，時に黄色に近い淡色毛を装う。花に集まる。

県下では北部山地帯に知られているだけである。産地。

兵庫県[溝田,1998]。

養父郡水の山(1♀,25.VIII.1959),[1♀,19.VII.1940, Ohada leg., 黒佐,1958]。

美方郡扇の山[1♂,18.VII.1963, 辻,1963, 辻,岸田, 1972,5.VII.1973, 高橋,1975]。

14. *Ischnomera nigrocyanea* (Lewis,1895)

アオグロカミキリモドキ

暗青藍色で光沢が鈍く，とくに上翅は光沢がない。背部はやや平たい。上翅の縦隆線は4条で最外側のものは外縁に接近して走る。

兵庫県下では普通に見られると思われるが，記録が大変少ない。

産地。

川辺郡猪名川町木間生[仲田,1978]。槻並中[仲田, 1982]。

相生市三濃山(1ex.,8.VI.1974)。

美方郡扇ノ山[辻,1963, 辻,岸田,1972]。

15. *Eobia cinereipennis* (Motschulsky,1866)

ハイイロカミキリモドキ

暗褐色から黒色で，触角，前胸，肢は通常黄褐色，上翅は暗色で弱い緑銅光沢を帯び，体下は大部分暗色。灰色毛をかなり密に装う。前胸背の点刻は小さいがかなり密である。

沿海性のようで海岸付近に多く，灯火に飛来するとのことであるが，県下での記録は少ない。

産地。

兵庫県[溝田,1998]。

神戸[1♂,6.VII.1940, 黒佐,1958]。

16. *Eobia chinensis* (Hope,1842)

ツグロカミキリモドキ

黄褐色から橙黄色で，黄色毛を装う。頭，上翅は黒から暗色。触角は通常基部のみ暗色，腹部，脛ふ節等は時に暗色を帯びる。頭は密に点刻されるが，前後でやや疎，両眼間の隔たりは触角間とほぼ同じである。触角第2節は次節の1/3の長さで，前胸背の点刻はかなり密で，上翅は弱い3条の縦隆線があり密に点刻される。

県下での記録は大変少ない。

産地。

兵庫県[溝田,1999]。

神戸市本山町[5exs.,16-18.VII.1937,Ikoma leg., 1ex.,13.VII.1940,Taniguchi leg., 黒佐,1944,1958]。

17. *Eobia florilega* Lewis,1895

ハラグロランプカミキリモドキ

黄褐色で灰色毛を装い，口器，ふ節は多少色が濃く，腹部は大部分が暗褐色から黒色。前胸背の点刻は強く密である。上翅の隆線は3条で明らか。外側のものは肩の直下よりで外縁と平行し後方で消える。灯火に来る。兵庫県下の記録は大変少ない。

産地。

Kobe[Lewis,1895, 1♂,6.VII.1940, 黒佐,1958]。

Tribe Oedemrini カミキリモドキ族

18. *Oedemera (Oncomera) venosa* (Lewis,1895)

マダラカミキリモドキ

汚黄褐色，前胸背の両側と中央縦条，各基節，前中脛節の大部分，腿節の端部，上翅の隆線などは濃褐色から黒色である。前胸背の点刻は弱く，頭は中央にくぼみがあり，胸背には3つのくぼみが見える。上翅背部の2縦隆線の間には2~3の横脈がある。

県の中央部から北の地域での記録はわりとある。産地。

兵庫県[溝田,1998]。

宍粟郡福知溪谷(1ex.,20.VI.1976)，音水(1ex.,21.VI. 1959,etc.)，赤西(1ex.,27.V.1979)。

氷上郡[山本,1958]。

城崎郡竹野町三原,三川山[高橋,1975].
 養父郡氷の山[高橋,1959,1975].
 美方郡扇の山[辻,1963,辻,岸田,1972].

19. *Oedemera (Oedemera) manicata* Lewis,1895

キアシカミキリモドキ

体は暗緑のくすんだ金属色であるが、各基、転節及び前肢(腿節を除く)は、黄色である。♂の後腿節は肥大する。花上に見られる種で、県下にも広く分布している。

産地。

川辺郡猪名川町上阿古谷,木間生[仲田,1978,1982].
 川西市一の鳥居,笹部,大和[仲田,1978].
 宝塚市玉瀬[芦田,1993].
 神戸市丹生山(2exs.,18.V.1958),谷上(2exs.,5.V.1955,etc.),八多町屏風(7exs.,12.V.1993,etc.).
 三木市大村(3exs.,10.V.1990).
 神崎郡大河内町川上(3exs.,4.VI.1977,etc.).
 揖保郡新宮町福原(10exs.,15.V.1992,etc.).
 相生市三濃山(6exs.,7.V.1972,etc.).
 宍粟郡福知溪谷(2exs.,20.VI.1976),原(11exs.,11.V.1979),音水(3exs.,31.V.1970,etc.).
 多紀郡雨石山[林ほか,1995].
 氷上郡[山本,1958].
 城崎郡日高町奈佐路(3exs.,19.VI.1986).
 養父郡氷の山[高橋,1975].
 美方郡扇ノ山[辻,1963,辻,岸田,1972].

20. *Oedemera (Oedemera) sexualis* (Marseul,1876)

フタイロカミキリモドキ

体は通常緑色の金属光沢があるが、時に藍色を呈する。触角基部は赤褐色または端部と同じく暗色。♂は肥大した後腿節が橙黄色、♀は肢が緑色であるが腹部は橙黄色。

県下では限られた地点で記録がある。島嶼並びに海岸線沿いには分布すると考えられる。

産地。

三原郡南淡町福良丙(門崎)[近藤,1996].
 洲本市由良町[堀田,1978].
 飾磨郡家島[畑中,辻,1974].
 赤穂市生島[相坂ほか,1996,高橋,1996].
 美方郡浜坂町城山[永幡,1997].

21. *Oedemera (Oedemera) lucidicollis* (Motschulsky, 1866)

モモブトカミキリモドキ

常に濃藍色である。前胸は同色であるが、時に上

面中央が縦に赤褐色を呈する個体がある。

ごく普通に見られる種で、平地では春から初夏ごろ花上に乗る。県下では各地に普通である。

産地。

兵庫県[黒佐,溝田,1998].
 洲本市先山[堀田,1978].
 津名郡岩屋(1ex.,25.IV.1959).
 川西市一の鳥居,笹部[仲田,1978,1982].
 川辺郡猪名川町木間生[仲田,1978,1982].
 伊丹市[河上,1984].
 宝塚市玉瀬,売布が丘[芦田,1993].
 神戸市保久良山(2exs.,1.V.1975),鳥原(1ex.,19.IV.1955,etc.),石井ダム(1ex.,1.V.1992),藍那(2exs.,21.IV.1993,etc.),山の街(2exs.,11.IV.1954,etc.),谷上(5exs.,3.V.1957,etc.),北鈴蘭台大山公園(2exs.,7.V.1982),丹生山(5exs.,5.V.1956),木津(2exs.,11.V.1984),妙法寺(4exs.,23.IV.1978,etc.),須磨[戸沢,1936],舞子(1ex.,10.V.1985),伊川谷(1♂1♀,13.V.1988),多井畑(1ex.,19.VI.1990).
 三田市内(1ex.,29.V.1983,Y.Hachitani leg.).
 美穂郡吉川町(1ex.,30.V.1985),奥山(4exs.,8.V.1986),吉川町(1ex.,21.V.1992).
 小野市山田(1ex.,16.V.1987),来住町(6exs.,9.V.1991).
 加東郡東条町藪(3exs.,29.IV.1984,etc.),社町三草(1ex.,7.V.1987).
 神崎郡笠形山(1ex.,12.V.1975),大河内町川上(2exs.,7.V.1977,etc.).
 多可郡鳥羽(2exs.,29.IV.1972,etc.),白山(4exs.,27.V.1973,etc.).
 龍野市神岡町(3♀,26.V.1988,etc.).
 相生市三濃山(1ex.,3.V.1969,etc.).
 宍粟郡音水(1ex.,20.VII.1959,etc.),坂の谷(8exs.,9.VI.1973).
 多紀郡雨石山[林ほか,1995].
 氷上郡[山本,1958].
 豊岡市大岡山[高橋,1975].
 城崎郡城崎(2exs.,17.V.1970),竹野町三原,三川山[高橋,1975],日高町奈佐路(2exs.,22.V.1996).
 養父郡氷の山[高橋,1975].
 美方郡扇ノ山[辻,1963,辻,岸田,1972].

<参考文献>

Kono,H.(1932) Die Nacerdinen Japans.
 Ins. Mats., 6 : 138-144.

- Kono, H. (1937) Neue und wenig beharnte Kafer Japan II : Oedemeridae. Ins. Mats., 13(4) : 135-136.
- 黒佐和義 (1956) 皮膚炎の原因となる日本産鞘翅目に関する文献集 衛生動物 Vol.7, No.3/4 : 258-264.
- 黒佐和義 (1958) カミキリモドキ類とこれによる被害について 衛生動物 Vol.9, No.3 : 130-148.
- 黒佐和義 (1958) アオカミキリモドキの生態について 衛生動物 Vol.9, No.4 : 235-244.
- Kurosa, K. (1977) Poisonous Beetles. Animals. med. import. Nansei Islands in Japan. pp.123-131.
- 黒佐和義・渡辺 宏 (1958) アオカミキリモドキの有毒物質について 衛生動物 Vol.9, No.3 : 200-201.
- Lewis, G. (1895) On the Cistelidae and other Heteromorous species of Japan. Ann. Mag. Nat. Hist. 6(15) : 250-278, 422-448.
- 宮武陸夫 (1985) 原色日本甲虫図鑑(III) pl.68-69, p.401-408 (保育社・大阪).
- 溝田浩二 (1998) 日本産カミキリモドキ分布地図 : 文献記録の整理 自然史研究年報 Vol.3 : 89-114.
- Nakane, T. (1954) New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XI -Oedemeridae- Sci. Rep. Saikyo Univ., 1(4) : 33-50.
- 中根猛彦 (1955) 日本の甲虫(29) 新昆虫 Vol.8, No.11/12 : 51-55, 156figs.
- 中根猛彦 (1956) 日本の甲虫(30) 新昆虫 Vol.9, No.3 : 53-55, 46figs.
- 中根猛彦 (1963) 原色昆虫大図鑑第2巻 pl.129, 130, p.257-260. (北隆館・東京)
- 高橋寿郎 (1962) 兵庫県のカミキリモドキ科 兵庫生物4(3/4) : 175-176.

きべりはむしの野外での遅い出現記録
 故高橋寿郎氏遺稿集No. 5
 兵庫昆虫同好会事務局編

きべりはむしの出現期は6月下旬頃からであり、一番多く見られるのは7月、8月上旬であるが、野外でも飼育でも9月に見られることはあまり多くはないものの若干知られている。ところでこの度、内藤隆夫氏がオオキノコムシ調査に赤西溪谷に行かれ

て林床に落ちた枯れ枝にとまっていたきべりはむしを採集しておられる(1999年10月10日)。近くには食草らしきものは見られなかったとのことであるが、この時期、六甲山系より北西の方にあたる赤西溪谷できべりはむしが得られたということは記録としてとどめておかねばと考える。内藤氏の御了解を得てここに報告する次第である。もっとも、10月のきべりはむしの採集記録は三田市小野の聖徳寺の庭でlex.採集というのがある(県立自然系博物館準備室ニュース(2):4,1990)。

10月に野外でというのは大変珍しいと思うが、昨今のように温暖化で10月でも結構暖かい日が多くなってきているようだと出現期も変わってくるかも知れない。(XI.1999)

兵庫県から新記録のオオキノコムシ
 故高橋寿郎氏遺稿集No. 6
 兵庫昆虫同好会事務局編

内藤隆夫氏による赤西溪谷、氷ノ山でのオオキノコムシの調査の結果、兵庫県から新しく記録された種がいくつかある。

兵庫県のファウナに新しく加えられた種をここに紹介する。

Aporotritoma kirishimensis (Araki, 1943) キリシマチビオオキノコムシ 赤西溪谷(1999年9月)。

従来、九州の分布が知られていただけである。

Renaria atrocyarer Lewis, 1887 クロヒラタオキノコムシ 赤西溪谷(1999年10月)。

Tritoma cenchrus (Lewis, 1887) コモンチビオオキノコムシ 赤西溪谷(1999年8~9月)。

Tritoma osawai Nakane, 1981 オオサワチビオオキノコムシ 赤西溪谷、氷ノ山(1999年8~9月)。

Tritoma triparturia (Lewis, 1887) カタバニチビオオキノコ 赤西溪谷(1999年10月)。

Microsternus higoniensis Lewis, 1887 ヒゴムネビロオオキノコムシ 赤西溪谷(1999年8~9月)。

Microsternus tokioensis Nakane, 1961 トウキョウムネビロオオキノコムシ 赤西溪谷(1999年9月)。

ほかに、*Aporotritoma yasumatsui* (Nakane, 1948) キボシチビオオキノコムシが内藤氏により赤西溪谷から記録されているが、この種はすでに林 靖彦博士等により多紀郡雨石山(現篠山市)からの記録がある(KASUGA, No.11, 1995)。

甲虫標本を集める楽しみ 故高橋寿郎氏遺稿集No. 7 兵庫昆虫同好会事務局

昆虫採集を始めてしばらくすると、国外の美しい虫、変わった虫に出会うことが大変楽しみになり、そういったものを手許に集めてみたいといった蒐集的な欲望が禁じ得なくなってくる。

本格的な蒐集家ではなく、まあ分相応の小遣いで購入できる範囲の標本を手許に集め、楽しむことが現在までも続いている。そこで、今までお世話になった標本商の方々とお付き合いの状況を思い出しながらここにまとめてみた。何分にも限られた範囲でのお付き合いであるから、まだまだここに出てくる以外にも多くの標本商の方がおられると思うが、大体の代表的と考えられる標本商とお付き合いはあったものと思う。読み物風にそれら標本商の方々との蒐集の楽しみを思い出の記としてまとめた次第である。

ちなみに私の蒐集は、コガネムシから始まり途中蝶をやって、それから再びコガネムシ、クワガタムシを中心に集めたもので、そのような標本商とお付き合いといったことになるかと思われる。また、昆虫研究の先輩である故大倉正文氏の持論であった一匹何万円もするような高額標本にはあまり手を出さないと、みみっちいコレクターであったことをご承知置き頂きたい(なお、今回述べさせていただいているのは原則として1998年末までのことである)。

昆虫趣味の会神戸支部ができたのが1937年で、その支部報第1号の発行が1938年4月である。私も早速入会させて頂き、幹事をしていた米谷正司氏宅にお邪魔した。当時、米谷氏は標本商のようなことをやっておられ、標本在庫リストをガリ版で製作して標本の販売をしておられた。私も若干分けて頂いたが、「台湾産の標本がほしいのであればこの人達に連絡してみても」と、台湾埔里にいた余寛氏を紹介してもらい、早速手紙を出した。当時の日本のことであるからもちろん日本語で書いても手紙が届くし、余寛氏からも日本語で一匹二銭とか三銭と値をつけたコガネムシのリストが手書きで送られてきた。

老円を超えるような標本はほとんどなかった。私のような中学生の身分でも小遣いでやりくりすれば何とかなる価格であった。何回か購入したが、テナガコガネを無理して購入したことがある。缶の中にオガズを入れ、生きたままの♀のテナガコガネを入れて送ってくれた。動くテナガコガネを見て感激したものである。

平山博物館(東京)

戦前、東京井の頭公園池畔にある平山博物館で「虫同好会」を設立、機関誌「虫の世界」が発行されていた。この「虫の世界」誌上でモルフォチョウとか台湾産クワガタムシとかヴァイオリンムシなどを売っていた。私も台湾産のクワガタムシのセットを1組購入したことがある。普通種が主体であったが価格も安かった。モルフォチョウは当時の値段としては高く手が出なかった(一方は日本産の虫であり一方は輸入品であるから)。平山修次郎氏独特の筆態で産地ラベルをひとつひとつ書いて包んだ標本であった。標本はまずまずの状態であった。

大蔵生物研究所(東京)

戦後15年も経った頃、大蔵丈三郎氏による大蔵生物研究所が標本商として昆虫標本の販売を始めた。「新着標本案内」というのが毎月発行され始めた。当時私も甲虫ではなく蝶のアゲハチョウ科を中心にシロチョウ科、マダラチョウ科、モルフォチョウ科の標本を手の届く値段のものから集め始めた。月給取りであるからもちろん高いものは買わなかった。否、買えなかった。だが一応代表的なものは一通り揃えるべくかなり購入したものである。当時、大蔵生物研究所から発行された「昆虫標本在庫表」1965,1966,1969,1971,1973年版の5冊が今手許にあるが、なかなか立派な全頁アート紙の22p.ぐらいの写真が入った立派なものである。今から見ると標本の値段も特殊なものを除いては安く買うことができた時代であった。

大蔵生物研究所の標本はいずれも奇麗な標本でよかったが、大きな欠点というか不満な点があった。すなわち注文は前金制であった。したがって、金は送ったが標本が送られてくるまでにわりと長い間かかる。中には品切れで次の入荷まで標本が送られてこない。何の連絡もない。整理が忙しくて処理が遅くなるのかと思われるが、前金を払った側には大きな不安がある。いつ標本を送ってくれるのかと買い手の弱い取引であった。標本商も次々と現れてきたが、どれも注文した標本を送ってきてから検品後10日以内に送金するというように、買い手の立場を尊重してくれる販売方法であった。そんなことから、ある時期に購入することをやめてしまった。

大蔵丈三郎氏が亡くなってからご子息が引き継いで標本商をやっておられるようだが、方法は同じようであった(最近はどうなっているのか知らないが—)。もちろん、売り手の方にも言い分があろうと思うが、もう少し買い手を信用して販売してもらいたいものである(もっとも、標本を送らせて猫糞する買い手もあると聞いている。ある程度実績がつけば後払いでも…と考えるが、この種の取引は何時の世も問題が起こりやすいものであり、どちらの方法も一長一短があるようだ)。

なお、現在の取引で先金を取るといった方法でやっている標本商は知らない。まあ信用してもらっているのかもと考えたりしている。

玉貫光一氏もその時代、標本商のようなことを始められた(東京)。ここでは標本ニュースのようなものが発行されていなかったように思う。こちらの希望を連絡しておく、こんなものが入荷したと手紙に書いて連絡してくれる。注文品は使い古したアルミニウムの弁当箱などで送ってこられたりした。時には某博物館(海外の)の放出品と思われるがこんなカブトムシがあるが…と、当時購入しにくかったヘルクレスオオツノカブトなどを知らせてくれ、よければ取り寄せるといった販売方法であった。

一般的に高い値がつけられており、私などの手に負えない価格のものが多かった。いつの間にかこの付き合いは途切れてしまった。

HEXAPODA (東京)

1970年には小岩屋 敏氏が Hexapoda という蝶についての標本目録の発行を始めた。手許にはNo.3

(1972.Dec.)から1976年Oct.号(番号が打たれていないが数えると15号になる)までがある。その後、1990年代にも時々送ってこられるが、この15号までは全く蝶標本の販売だけであった。トリバネアゲハ、キシタアゲハの類とバルナシウスが多かった。小岩屋氏は蝶の造脂が深い方で、「中国蝶類研究」第1巻～第3巻(1989～1996)はよく知られた名著である。

最近送られてくる Hexapoda には話題の甲虫標本なども掲載されている。今ひとつ私のような貧乏コレクターには手が出せない感じがした。

水沼生物研究所(大阪)

新着標本案内No.11(1997.Mar.)が手許にある。年数からいって1975年頃から標本商を始められたのではないだろうか。不定期刊ではあるが現在(1998)でもこの新着案内を送ってくれている(無料)。

「俺は日本一の採集家だ」と豪語しているだけあって、水沼哲郎氏自身東南アジアの各地に採集に出掛けて珍品を探ってくる(その様子は新着案内上に発表されている)。ハワイに行つてハワイハネナシクワガタ、ムンロハワイハネナシクワガタを探つてきて売りに出した(1997)。新着標本案内は珍しい蝶・甲虫が出ており、標本は綺麗である。著書「世界のクワガタムシ大図鑑」の影響か、クワガタムシには力が入っている。水沼生物研究所からは「昆虫の世界1～3,1978～1980」、「INSECTA トップ」No.1,1987～No.7,1992が出版されている。

標本商は標本カタログと違って昆虫についての機関誌的性格の出版物でカラーページも入ったなかなか大変なものである(当時1冊こしらえるのに60万円の費用がかかったといった裏話を聞いたことがある)。とにかく自分もコレクターであり採集上手であり、虫についての知識の豊富な方であるが、今一つよくわからないところのある標本商である。上記のような出版物にしる新着標本案内にしる誤字とか当て字が多く、よくわからない表現方法のものが多。ある時、注文もしないのに標本が送られてきて開いてみるとかなり珍しいコガネムシ類がそこそこの金額分入っており、「最近入荷した標本だが支払の金に苦労しているのを買ってくれないか」とあった。「気に入らなければ返品してくれてもかまわない」ともあった。やせ我慢をして標本代を送金したが、注文しないものを送らぬようにと一言書いてお

いた次第。

水沼哲郎氏は当時大阪梅田阪急百貨店で横山光夫氏の息子さんのやっている標本や昆虫採集、整理器具などの店に標本を委託販売したりしていた。

この横山氏の阪急百貨店の店には、勤めの合間によく行ったものである(当時、私は大阪に勤めていた)。午前中に行くと横山氏が来ておられず、百貨店の女の子が店番をしている。ある時、金網籠に生きたクワガタムシが入っていて、一匹百円也と書いてあった。能勢当たりから採ってきたものようであった。

よく見ると、オオクワガタが入っている。女の子にあれこれと言ってオオクワガタだけ5頭出してもらって500円払って買って帰った思い出がある。留守番の女の子に売らしたので、どのクワガタも一緒に見えるから仕方なかったのであるが、いささか辛苦しい反面、儲けたと喜んで買い物をしたことがある。

水沼氏の即売会にも何回か行ったことがある。12時開場とあり、12時少し過ぎて行っても会場は雑然としていて準備ができておらず、標本箱が積んであるといったような時間にルーズな即売会が多かった。開場前には準備完了しているべきであろう。国鉄(現JR)芦屋駅前の百貨店での即売会には水沼氏が採集してきたヤンバルテナガコガネの生きた標本が展示されており、見せてもらって感激したものである。

水沼生物研究所も兵庫県南部地震の被害を受けられたとか。現在では立ち直って運営をされているようである。関西にある標本商の代表的な存在と思われる。これからも良い変わった標本を提供してもらいたいものである。

インセクトショップビートル(岩槻市)

古見義明氏がやっている標本商である。いつ頃からやっているのかよくわからない。私は標本案内No.70ぐらいからNo.179ぐらいまで送ってもらっている。

1980年ぐらいからやっているのではないかと思われる(標本案内は有料である)。

とにかく、自身中国に行ったりして現地の写真を掲載した標本案内を送ってきたりする。標本案内は写真を載せたゼロックス版であるが、なかなか一品料理的な珍しいもの、大きなもの、色彩変化等々甲虫のみならず蝶や蛾その他の昆虫も扱っている。ヨ

ーロッパで行われる昆虫標本の即売会のニュースが出ていてなかなか面白い。ただ大きさがまちまちな標本案内を送ってこられるのは整理するのに苦労する。標本はきれいである。私も度々注文したが、注文したらすぐ送ってくれるなど大変気持ちがいい。いわゆる「何でも屋」といった標本商であるが、やや特異というか標準以上のレベルの標本商である。

セツロー社(栃木県黒磯市)

橋本説朗氏主催の店である。1981年3月、東京の黒磯社をやめて大阪に来て標本商を始めた。店の場所が大正区南恩加島で、私が十数年勤めた会社のあったところのすぐそばで、大変懐かしくお付き合いを始めた。セツロー社の標本リストはNo.1から送ってもらっている。

その後、2年半後に淀川区宮原に移り(この店には何ったことがある)、11年半して栃木県の黒磯市に移り現在に至っている。もともと蝶屋と本人が言うように「セツロー社のリスト」(無料)は蝶が多く、甲虫(クワガタ、カブト、コガネムシ)が次いでいる。得意な地域は東南アジアであるが、アフリカの甲虫など結構扱っている。セツロー社のリストは独特の黄色い紙を使用したもので、毎号10ページ前後のものが年間6回ぐらい発行されている。

途中、数回カラーコピーの入った号を発行したことがある。標本はきれいである。また、注文すればすぐ送ってくる。リストでは橋本氏の巻頭言がなかなか面白い。また、クイズが時々あったりする(セツロー社のリストNo.119、1998年1月にのったクイズに応募して第2席に入賞、100mmのオオフタマタクワガタを商品に送ってもらった)。

標本ばかりでなく標本箱とか昆虫針、時には昆虫関係の文献も取り扱っている。

1995年の兵庫県南部地震にはわざわざ橋本氏自身が見舞い品を持って拙宅を訪れて下さって恐縮した。栃木県の黒磯に引っ越した理由はいろいろあると思われるが、都会生活に飽きたからといったことが大きく影響しているようである。

セツロー社のリストは1996年2月に100号で、1998年12月がNo.128である。このリストは第1号から現在保管している。やはり開店からお付き合いしている関係からどうしても注文することが多い。息の長いお付き合いであり、かなりの標本を分けてもらっ

ている。

佐藤誠一郎個人標本商(青森～東京)

佐藤誠一郎氏が個人で昆虫標本分譲案内というのを発行(はじめ青森市からの送付であったが、後に調布市に変わった)、1984年頃から始められたのではないかと思うが、はっきりしたことはわからない。分譲案内には番号などは打っていないのでどのようになっているのか。手許には85-4(1985年6月1日)～89-5(1989年12月7日)とある。

蝶主体の販売で、わりと高額なものが多かったように思われる。甲虫も大型のものは結構扱っていた。文献も扱ったりして、後に佐藤誠一郎氏は昆虫書籍商パウアーアンドサトウジャパンとして、昆虫標本の取扱いはやめられた。

標本はあまりよい状態のものではなかったようであるが、南米の蝶、甲虫は多く取り扱われたようである。

カプト(東京)

永井信二、藤田和久氏で始められた標本商である。標本案内「カプト」はNo.1からあるが、発行年月日がついていない。No.4に1989年1月31日の日付が入っているの、おそらく1987年頃に第1号が出たのではないだろうか。標本案内は、はじめ「カプト」であったが、第3号から「カプトスペシャル」になった。表題のごとく甲虫が主体である。蝶などはほとんど出ない。文献の取扱いは時にある。このカタログ(標本案内)「カプトスペシャル」もNo.48に「従来無料を原則として発行してまいりましたが、50号より1年間に1度でもご用命下さいました方々を除いてリスト代金を年間5,000円とさせて頂きます」とある。

永井信二氏は甲虫、とくにクワガタ、コガネムシには造詣が深く、多くの記載論文を発表しておられるし、共著ではあるが「世界のクワガタムシ大図鑑」、「世界のハナムグリ大図鑑」の著が知られている(永井信二氏が松山在住の時、ある日突然電話がかかってきてユンクの甲虫目録を貸してくれと行ってこられたことがある。全く面識もないし、存じ上げていない方にユンクの甲虫目録をコピーさせてくれといわれたのには面食らった)。

標本は現地から送られてきたものをそのまま送っ

てこられるので、アフリカのものなどそれほどきれいな標本でない場合がある。一般的に言って普通の標本といえようか。標本案内は一年に一度ぐらいのペースであるから多く掲載されており、圧倒されてしまう。同業者、大コレクターなどは良いのかも知れないが、甲虫の標本を時々買って楽しむといった私のようなみみっちいコレクターには今一つ肌合わない。

昭南インセクト(東京)

シンガポールに6年間住んでいて、そこで昆虫館「ワールドインセクトリウム」を作った後、日本に帰ってきて標本商「昭南インセクト」を始めた大谷卓也氏の店である。

「昭南インセクト標本ニュース」No.1が発行されたのが1987年7月であり、私の手許にはNo.20(1997年5月)まで送られてきている。

蝶屋さんであった関係で標本ニュースもその大部分が蝶の標本であり(はじめの頃は東南アジア、ニューギニア方面の標本が主体であった)、私のような甲虫屋にとっては特殊なクワガタ、コガネムシ、カミキリムシがわずか掲載される程度であったので、あまり購入させてもらう機会は少なかった。

フェニックス・ワールド(東京)

フェニックス・ワールドVol.1, No.1(1988-6)が送られてきて、その標本ニュースの巻頭に「このたび6月1日より国内、国外産のカミキリ、クワガタ、コガネ等の甲虫を中心とした昆虫標本の提供、美術彫刻品等を扱う会社を設立いたしました」とある。桑久二雄氏が設立された会社である。はじめのVol.1, No.1からVol.1, No.10までが1990年8月10日までに発行され、Vol.2, No.1が1991.III, No.2(1991.VII), No.3(1991.X), Vol.2, No.5(1992.VII), No.6(1993.XII), Vol.3, No.1(1995.IV)と不定期刊行になっている。

Vol.3, No.1などは46p.にわたりギッシリと標本が羅列されていて驚くべきであるが、その後標本ニュースは送られてこない(桑久二雄氏の年賀状は1999年まで送られてきている)。

Vol.2, No.3あたりでは北ベトナムのものを多く掲載している。Vol.1, No.1にはプレート5枚に標本写真(コガネ、クワガタ、カミキリ)がギッシリと

いる。この標本写真の入ったカタログはVol.1, No.3まで続く。

このフェニックスワールドから北ベトナムで採集したハムシのセットを分けるとの連絡を1988年に受けた。早速注文したところ、そのセットの中に何とキベリハムシが入っているではないか。そこで再び電話をしてこのセットが残っていないかどうか聞くと、まだ一組あるとのこと、それも送ってもらったら今度は何と2頭のキベリハムシが入っていた。しかも2頭とも♂で交尾器を見ることができた。外観からも日本のものと違うので、日本産は新亜種になると思われるが、原産地付近の材料が十分に得られていないのでそのままになっている。この辺の経緯については「きべりはむしVol.18, No.2, p.43-44, 1990」に詳しく発表している。

1995年以後、標本ニュースは送ってもらっていないが、1995年、ルカヌスワールドVol.1, No.1, p.14-17.の中で「奄美大島採集記」を書いて、衆久二雄氏の写真も出て元気でやっている様子がうかがえる。標本商もやっておられるのだろうかと思われる。

ショーバラーク(東京)

北原美男氏のやっている標本商である。いつ頃からやっておられるのかよくわからないし、送られてくる標本ニュースには番号も発行年月日も入っていない。1980年代からだと思うが、現在でも「ショーバラーク」という標本ニュースが隔月刊で几帳面に送られてくる。23p.にもなる目録で無料である。送られてくる内容があまり変わらないので、順序を変えてページだけを打ち直しているのではないのかといった内容のところが多くある。

蝶とクワガタムシが中心で、その他の甲虫が若干出てくる。どのような方かわからないが、私の友人がわりと価格の高いアフリカの大型コガネを電話で交渉して購入したが、送られてきた標本が大変状態の悪い標本だったので電話で返品するといったところ、大変な剣幕で嘔みつかれて驚いたという話を聞いた。

私は中国産のコガネムシがよく出るのでそれをもろうようにしている。標本の程度はあまり良くない(もっとも中国から来る標本が悪いのであろうと思われる)。一般的に甲虫標本があまりきれいでないのは、蝶屋さんだからかもしれない。

インセクトフリークス→バイネ(東京)

インセクトフリークスとして1988年頃から標本商を始められたのか、標本ニュースNo.1から手許にあるが、発行年月日が入っていないので困る。宮下哲夫氏がやっている店であるが、No.27に1991年11月とある。インセクトフリークスのニュースはNo.32までで、1992年バイネリストに名称が変わった(南米最南端バタゴニアのチリ側にある山群の主峰バイネグランデ3,050mに因んでいる)。

1998年12月でNo.38まで来ている。だいたい隔月程度に10ページ前後の標本リストが送られてくる。値段の高いものはどうか知らないが、現地から送られてきたままの標本を送ってくるので標本の程度は良くない。安かろう悪かろうでは困ると思うのだが今一つ魅力のない標本商である。注文書を送っても標本を送ってくるのが遅い傾向がある。納品書に標本名、価格が記入してあって現物が送られてきていないケースも多い。

ノア(松山市)

現在でもどなたが主宰しているのか私は知らない。標本案内「NOA INFORMATION」が年に何回か送られてくる。始めは大阪から送られてきたが、今は松山になっている。甲虫主体である。標本はきれいである。アフリカとか日本産、東南アジアのものでかなり神経質な標本商の印象を受ける。もうお付き合いしていただいぶ経っている。

中島 浩(浦和市)

標本ニュースとして個人名で送ってくる。1998年Jul.でNo.35である。不定期にニュースを送ってくれる。アフリカのものが多い。甲虫、蝶が主体で東南アジア、フィリピンなどのクワガタ、コガネ、カミキリなどもよく掲載されている。標本の程度はそれほど良くない。価格は個人の関係からか比較的安価である。

トロピカーナ(東京)

郡司芳明氏のやっている標本商である。かなり古くからやっている方の方である。店は東京山手線

原宿駅より徒歩1分、地下鉄千代田線明治神宮前駅より徒歩4分、タレントショップで有名な竹下通りの中程を右に入ったマンションの2階にあるとのこと。標本ニュース"COFFEE TIME"Vol.1(1991.Jan.)～Vol.26(1998.Dec.)が送られてきている。この標本ニュースはカラーによるコピー版できれいなものである。扱っているのは、蝶・蛾、甲虫、直翅類、脈翅類からクモ、サソリなど手当たり次第変わったもの、大きいもの、きれいなものを扱っている。甲虫屋にとって若干物足りない点があるが、とくに得意の地域というものもないようだ。標本はわりときれいである。1988年の年末には無事新年が迎えられそうだといってピンセット1本を記念品として送ってくれ、驚いたことがある。

最近(1999.X)鈴木雄二という人からトロピカーナで12年間お世話になり無事退職し、今回標本商らしきことを始めましたといって「Tom Soya」というリストを送ってこられた。

四国インセクトリウム(松山)

四国の昆虫研究者としてよく知られていた山岡幸雄、菅 晃氏による新しい標本商が1997年2月に出発した。標本ニュースNo.1～No.17(1999年10月)には蝶の標本は大変少ない。甲虫主体のようである。毎回8p.で四国産のものばかりでなく、南西諸島のもの、国外産のものが出ている。甲虫はオサムシ、カミキリムシ、クワガタムシ、コガネムシが主体であるが、海外産のものもそこそこ扱っている。アフリカの甲虫類の委託販売のようなこともやっている。

標本はきれいであるが、特色の出せる販売品も見あたらない。すでにかなり標本商がある現状で新しくやっていくのはそこそこの苦勞があるように思う。

一通りのめばしい標本はだいたい日本に來ているし、未開拓の地でもあればよいが、従来販売されていた標本を扱うのであれば大きいかきれいだとか価格が安いといったことがないとやっていくことはかなり困難と思われる。四国の昆虫をというのも良いが、もう少し日本産に力を入れることが望ましい(これもだんだん規制がきつくなってくるので苦しい)。未開拓の中国大陸とか東南アジアのものを扱うということをやらねば継続が難しくなるのではと心配している。

こうして眺めてみると、標本商というものも結構たくさんあるものだと驚く(ここに記した以外にもまだまだたくさんあるだろう)。ただ、一時のように外国から標本が來たら何でも売れるといった時代ではなくなったようである。かなりの数の標本がすでに日本に入っていると思われる。もちろんまだまだ虫は多くいるので、これからも入ってくるであろうが、名前のわからないもの、小さなもの、見栄えのしないもの等々はどうしても私たちアマチュアコレクターには苦手で、お金を出してまで手に入れようという考えはおきない。研究などの必要があれば別であるが、採集データなどの正確性が甚だ疑わしいものが多いのが大きな欠点である。最近「世界のクワガタムシ大図鑑」、「世界のオサムシ大図鑑」、「世界のハナムグリ大図鑑」のような世界規模の素晴らしい原色大図鑑が出版されていて、これに出てくる標本を集めることはあまり意味がないようであるが、標本集めはやはり自分のコレクションとして違った意味で楽しみがあるのもので、そう簡単にやめることもできない。これからはこの世界も厳しくなるであろうが、虫を集めるといった行為は廢れるものではないだろう。今後、標本商とのお付き合いがどのように変化していくのか楽しみでもある。

兵庫県で採集した甲虫数種の記録

内藤 隆夫

筆者が兵庫県で採集した甲虫のうち興味深いと思われる幾つかの種について報告したい。

なお、以下の採集者はすべて筆者である。

1. *Nipponocerycon shibatai* M.Sato

モンケシガムシ

4exs., 篠山市篠山町小金ヶ嶽 7.III.2000

堆積した落ち葉の上にあったシカ糞から得た。

兵庫県では神戸市北区藍那から記録されている(高橋,1997a)。

2. *Syntelia histeroides* Lewis

エンナムシモドキ

1ex., 宍粟郡波賀町坂の谷 29.VI.1998

高橋(1991)によれば本種の兵庫県下での記録は、養父郡鉢高原および養父郡氷ノ山における2例しかないとされている。

ミズナラの伐採材に飛来した個体を採集した。

3. *Aphodius isaburoi* Nakane

チャグロマグソコガネ

8exs., 篠山市篠山町小金ヶ嶽 7.III.2000

高橋(1997b)には本種の兵庫県での記録はなく、県下初記録と思われる。

樹林内のシカ糞から得た。本種は冬季に個体数が多く、シカ糞を好むようである。

4. *Psammodius japonicus* (Harold)

ヤマトケシマグソコガネ

4exs., 美方郡浜坂町城山 15.IV.1999

砂浜に打ち上げられた海藻の下や海浜植物の根際の砂中より採集した。

5. *Phelopatrum scaphoides* (Marseul)

オオマルスナゴミムシダマシ

2exs., 美方郡浜坂町浜坂 15.IV.1999

本種は"Hiogo"が模式産地であるが、高橋(1989)では原記載以後の県下の記録がないとされている。

隣の京都府では丹後海岸、網野町から記録されている(塚本ほか,1993)。

海浜の砂中より抽出して得た。

6. *Caedius marinus* Marseul

マルチビゴミムシダマシ

1ex., 美方郡浜坂町浜坂 15.IV.1999

本種も"Hiogo"が模式産地である。高橋(1989)の報告以後、神戸市須磨浦海岸から記録された(沢田,1992)。

前種とともに砂中より得た。

7. *Micropedinus pallidipennis* Lewis

ヒメホソハマベゴミムシダマシ

12exs., 美方郡浜坂町城山 15.IV.1999

模式産地である"Kobe"のほか赤穂市天和、三原郡慶野松原から記録されている(高橋,1989)。本種、前記種ともに京都府では記録されていないが(塚本ほか,1993)、少ない種ではないので恐らく同府下にも分布するであろう。

砂浜に打ち上げられた海藻の下から得た。また、本種とともにハマヒョウタンゴミムシダマシ *Idisia ornata* が多数得られた。

8. *Metaclicia atrocyanea* (Lewis)

クロルリゴミムシダマシ

1ex., 宍粟郡波賀町坂の谷 29.VI.1998

ブナの朽木から得た。

兵庫県では扇の山で記録されているだけである(高橋,1993)。本種は奈良県春日山では極めて個体数が多いが、他府県での記録を調べてみるとブナ帯で少数が記録されているだけのことが多いようである。

9. *Tetratoma nobuchii* Nakane

キムネキノコムシダマシ

2exs., 宍粟郡波賀町赤西溪谷 6.XI.1999

ニガクリタケと思われるキノコのついたサクラの倒木から得た(キノコに来ていたものかどうかは分からないが)。本種は秋期に出現し、越冬後は初夏まで見られるようである(生川,1995)。

10. *Stolius vagepictus* Lewis

ヨツボシキバネナガクチキ

1ex., 宍粟郡波賀町赤西溪谷 6.XI.1999

藁のからんだミツバウツギをピーティングして得

た。何の蔓か確認しなかったが、生川(1995)によれば本種は晩秋にサルナシから得られるとされている。野外では一見小型のジョウカイのように見える。

11. *Terinaea atrofusca* Bates

クリイロチビケブカカミキリ

2exs., 養父郡関宮町福定 4.VII.1996

西日本では少ない種である。シナノキの枯れ枝から得た。

12. *Crioceris quatuordecimpunctata* (Scopoli)

ジュウシホシクビナガハムシ

22exs., 美方郡村岡町入江 23.VII.1999

栽培されたアスバラガスから得た。

著名な美麗種であり害虫としても知られるが、兵庫県下では城崎郡竹野町和田、美方郡浜坂町城山の2例の記録しかないとされている(高橋,1997c)。しかし、県中・南部でもアスバラガスを見つけることができれば採集は可能と思われる。

13. *Xanthoderopygus jocosus* Sharp

ハイマダラカギバラヒゲナガゾウムシ

2exs., 宍粟郡波

賀町赤西溪谷

10.X.1999

3exs., 同所

19.X.1999

高橋(1986,1987)には兵庫県における本種の記録は挙げられていない。ネンドタケとツヤウチワタケのついた広葉樹の落枝から得た。



赤西溪谷産 10. X. 1999

14. *Phloeobius stenus* Jordan

ササマルヒゲナガゾウムシ

1ex., 宍粟郡波賀町坂の谷 30.VIII.1999

高橋(1986)により神戸市兵庫区烏原から記録されている。なお、この記録は同地からの *P. alternans* (Wiedemann) の記録(高橋,1983)の訂正である。

ブナ林内での採集中にピーティングネットにとまっていた個体を得た。林床のササで発生しているものと思われる。

15. *Xylinada striatifrons* (Jordan)

ナガフトヒゲナガゾウムシ

1ex., 宍粟郡波賀町坂の谷 8.VIII.1999

本種は一般に低標高地で採集されているが、この個体は氷ノ山の標高1,100mのブナ林で得たものである。灯火採集によって得られたもので、採集現場付近で発生しているのかどうかは今後確認の必要があろう。

末筆ながら、ハイマダラカギバラヒゲナガゾウムシの同定をお願いした妹尾俊男氏に厚く御礼申し上げます。

<参考文献>

- 生川展行(1995) 野登山(三重県亀山市)で採集した興味深い甲虫類 北九州の昆虫42(1): 61-66.
 沢田和宏(1992) 神戸市の冬の海岸で採集した甲虫 きべりはむし20(2): 48-49.
 高橋寿郎(1983) ミカンヒゲナガゾウムシ神戸市内に産す きべりはむし11(1): 24-25.
 — (1986) 兵庫県のヒゲナガゾウムシ(1) 兵庫生物9(2): 111-114.
 — (1987) 兵庫県のヒゲナガゾウムシ(2) 兵庫生物9(3): 153-156.
 — (1989) 兵庫県のゴミムシダマシ(2) 兵庫生物9(5): 292-294.
 — (1991) 兵庫県のエンマムシ きべりはむし19(1): 1-10.
 — (1993) 兵庫県のゴミムシダマシ(6) Crude(38): 22-23.
 — (1997a) 兵庫県産水棲甲虫目録(2) きべりはむし25(2): 23-30.
 — (1997b) 中国山地をめぐる地域のコガネムシ相 ホシザキグリーン財団研究報告1: 205-209.
 — (1997c) 兵庫県のハムシ(1) IRATSUME (21): 16-26.
 塚本珪一(1991) 京都の昆虫: 107 京都新聞社
 塚本ほか(1993) 京都府産ゴミムシダマシ科およびその近縁科甲虫目録: 1-14. 関西甲虫談話会資料No.6

(NAITO TAKAO 寝屋川市池田3-4-13)

兵庫県産蝶類分布資料(18)

—タテハチョウ科9種の記録—

(ヒョウモンモドキ・ウスイロヒョウモンモドキ・オオウラギンヒョウモン
・オオウラギンスジヒョウモン・クモガタヒョウモン・ミドリヒョウモン
・メスグロヒョウモン・シータテハ・オオムラサキ)

広畑政巳・近藤伸一

はじめに

兵庫県内のタテハチョウ科9種の分布について報告する。ヒョウモンモドキ・ウスイロヒョウモンモドキ・オオウラギンヒョウモンの3種は、近年全国的に減少した数多い昆虫の中でも特に減少が著しく、県内においてもヒョウモンモドキ・オオウラギンヒョウモンの確実な採集記録を近年聞かない。また各地で比較的数量多く見られたウスイロヒョウモンモドキも西播磨で見ることが困難となった。最近では但馬の狭い地域でわずかに見られる程度であるが、生息地には採取者が殺到し、県下から姿を消す危険性が極めて高い。

他のヒョウモン類4種とオオムラサキも個体数の減少は著しいが、まだ県下の広い範囲で生息が確認出来る。シータテハの記録はすべて古いもので、最近の記録はない。

記載の方法は、県内の記録を各産地1例ずつあげ、気付いたことを付記した。採集記録はこれまでに発表されたデータに加えて、一部未発表の資料を追加したものである。採集記録のうち場所が特定出来ない箇所については、分布図、垂直分布表から省いた。

本稿を草するにあたり、次の方々へ貴重な採集記録を提供いただき、産地の状況等をご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げる(敬称略)。

相坂耕作 浅田 卓 石井為久 岩村 巖
故尾崎 勇 木下賢司 木村三郎 佐々木薫
大東康人 高島 昭 竹内 隆 永幡嘉之
平尾栄治 堀 紳二 森口 紀 森下泰治
唐土洋一 八木 弘 山口福男 山下剛史
米村和繁

1 ヒョウモンモドキ

(1) 分布の状況

関東、中部周辺と中国地方のごく限られた場所に

分布している。県内では中国山脈の東山麓に位置する西播磨北部と但馬の一部及び北丹波に採集記録が残っているが、その数は少ない。1976年6月に岩村氏が波賀町東山で採集された2♂を最後にその後には記録がない。

六甲山での古い採集記録が残っているが、分布域から大きく離れた1例だけの記録であり同定間違いではないかと思われる。個体数の減少が最も著しい種のひとつである。

(2) 生息環境の現況

ヒョウモンモドキの食餌植物であるアザミ類やタ

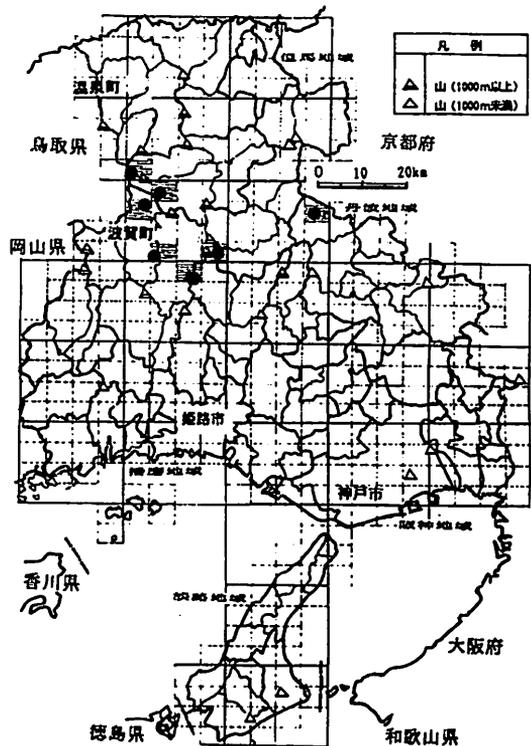


図1-1 ヒョウモンモドキの県内分布

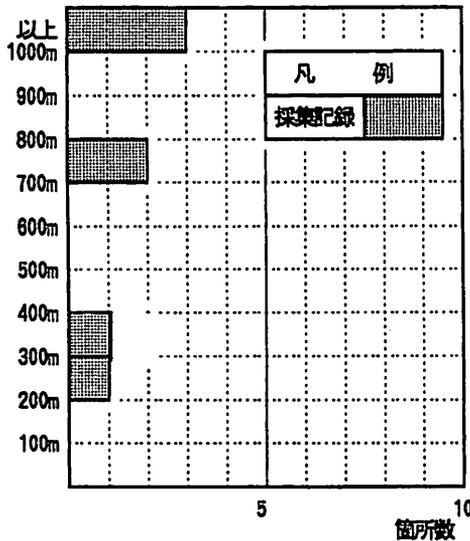


図1-2 ヒョウモンモドキの垂直分布

ムラソウが生育する山地の明るい草原を生息地とする。波賀町東山の生息地は湿地性の草原であった。波賀町ではミヤコアザミで越冬後の幼虫が採集されている。垂直分布は1,000m以上の高地から300m以下の低地まで記録がある。

(3) 採集記録

- 大河内町峰山 1♂ 14-VII-1957 西村公夫 6)
- 波賀町東山 2♂ 27-VI-1976 岩村 巖 6)
- ” 戸倉高原 6)
- 関宮町氷ノ山 1949 守本陸也 82)
- 大屋町氷ノ山南麓横行付近 1953 西谷裕之 82)
- 生野町段ヶ峰 1952 西村公夫 82)
- 青垣町稻土 1ex. 29-VI-1952 碓田竜太郎 6)

<参考記録>

- 神戸市六甲山麓 1♂ VI-1936 加地早苗 6)

2 ウスイロヒョウモンモドキ

(1) 分布の状況

本州西部に局地的に分布し、兵庫県の生野町付近が日本の生息地の東限である。県内の分布は中国山脈の東山麓に位置する西播磨北部と但馬の限られた区域に分布する。西播磨では佐用町周辺と砥峰高原

周辺に分布の中心があり、但馬では氷ノ山東山麓、鉢伏山に分布が集中している。上月町下秋里が生息地の南限である。本種もヒョウモンモドキと同様に個体数の減少が特に著しい。

(2) 生息環境の現況

山地の湿地、湿生草原、スキー場、採草地など明るい草原環境を生息地とし、オミナエシ、カノコソウを食餌植物とする。環境に大きな変化がないのに、個体数の減少が著しい生息地が多く、その原因は不明である。生息地の垂直分布は1,000m以上の高地から200m以下の低地まで分布する。

(3) 採集記録

- 大河内町峰山 20♂13♀ 23-VII-1962 岩村 巖 6)
- ” 砥峰 1♂1♀ 10-VII-1975 森下泰治 6)
- 波賀町新戸倉 2♂ 4-VII-1986 墨谷 健 50)
- ” 道谷 1♂1♀ 2-VII-1999 80)
- 一宮町長瀬 1♀ 2-VII-1999 80)
- 千種町三室山 3♂ 10-VII-1973 尾崎 勇 6)
- ” 志引峠 三木順一

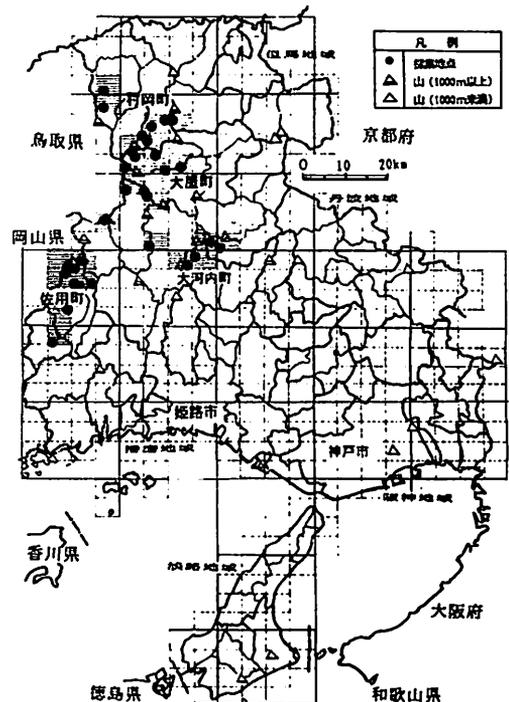


図2-1 ウスイロヒョウモンモドキの県内分布

3 オオウラギンヒョウモン

(1) 分布の状況

かつては本州、四国、九州の広い範囲に分布していたが、1960年代から全国に減少し、現在では日本の蝶の中では絶滅寸前の代表種である。兵庫県においては、過去には県下一円に広く分布し、生息地では個体数も多かったが、南部の平地では1960年代頃から見られなくなったが、中国山脈東山麓部や神鍋などの、牧場や採草地跡(スキー場が多い)では1970年代も生息場所は限られたが個体数は比較的多く、普通に見られた。しかし全国的に産地が消滅したため採集者が集中し、採集圧で急速に数を減じ、70年代後半から激減して1990年代には採集例を聞かない。淡路島でも過去には普通に見られたようで、洲本市安乎町では1950年代まではかなりの個体が得られたが1960年以降は見られなくなった。

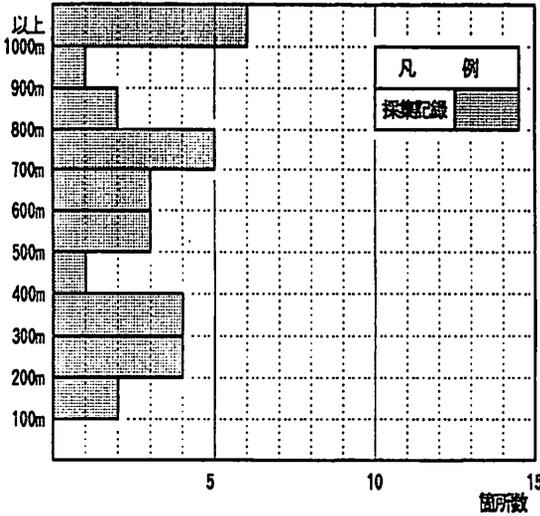


図2-2 ウスイロヒョウモンモドキの垂直分布

- 佐用町海内 1♂ 23-VI-1973 尾崎 勇 6)
- " 上石井 1♂ 11-VI-1961 岩村 巖 6)
- " 奥海 1♀ 17-VI-1962 岩村 巖 6)
- " 日名倉山 16♂12♀ 14-VII-1972 尾崎 勇 6)
- " 若洲 7♂1♀ 12-VI-1977 尾崎 勇 6)
- " 水根 1♀ 14-VI-1959 中谷貴寿 6)
- " 福沢 6)
- 南光町三河 1♂ 13-VI-1959 中谷貴寿 6)
- " 船越山 6)
- 上月町下秋里 1♀ 田中 番 6)
- 日高町金山 2♂ 8-VII-1978 足立・木下 6)
- 村岡町大笹 幼虫多数 28-VII-1983 広畑政巳 6)
- " 耀山 1♂3♀ 7-VII-1990 木下賢司 2)
- " 兎和野 13-VII-1980 6)
- 温泉町上山高原 6)
- " 畑ヶ平 6)
- " 石橋地区 6)
- 関宮町氷ノ山 VII-1949 守本陸也 6)
- " 鉢伏山 1♂ 10-VII-1955 吉阪道雄 6)
- " 葛畑 2♀ 2-VII-1999 80)
- 大屋町杉ヶ沢高原 1♂ 26-VI-1977 広畑政巳 6)
- " 1♀ 5-VII-1959 中尾淳三 6)
- 生野町段ヶ峰 幼虫1頭 18-X-1959 西村公夫 6)
- " 栢原 10♂ 6-VII-1999 79)

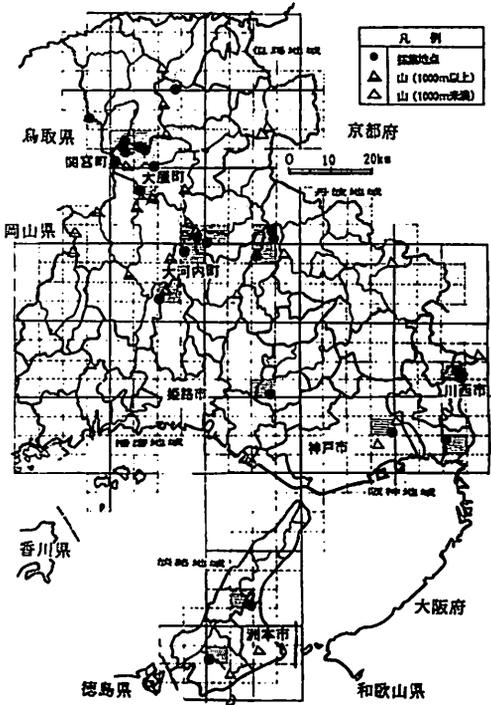


図3-1 オオウラギンヒョウモンの県内分布

(2) 生息環境の現況

大型ヒョウモン類は全てスマレ科植物を食草としているが、本種はスマレ(*Viola mandshurica*)に対する嗜好性が特に強く、スマレが生育出来るような明るい草原だけに生息する。このような環境は年1回以上の草刈りが定期的に行われなければ維持出来ない。以前は河川の土手、田畑の畦、牧場、採草地などが集落周辺にあったが、近年社会環境の変化にもなって草刈りが行われなくなり、このような草地の環境が無くなった結果、全国的に草地をすみかとするヒョウモン類は減少した。ヒョウモン類の中でも特にスマレに対する嗜好性が強い本種は強い影響を受けた。県中北部の放牧場や採草地がそのままスキー場に移した草原周辺で最近まで細々と世代をつないでいた。垂直分布は1,000m以上の高地から100m以下の低地まで分布し、100m以下の低地に産地が多かった。

(3) 採集記録

- 尼崎市武庫川堤防 68)
- 川西市東谷 1♂ 11-VI-1948 吉坂道雄 27)
- ” 山下~大路次川原 1♂ 11-VI-1956 松本健嗣 17)
- ” 山下~一庫 1♂ 11-VI-1956 松本健嗣 17)
- ” 一の鳥居 1♂1♀ 29-VI-1947 手塚 浩 77)

- 宝塚市塩尾寺山紅葉谷 1♀ 23-IX-1955 森崎 譲78)
- ” 御殿山(当時川辺郡小浜村川面鍋野) 1♀ 20-VII-1946 手塚 浩 77)
- 神戸市六甲山 2♂ 20-VII-1975 加藤昌宏 69)
- 小野市片山町 1♂ 13-VI-1932 山本広一 27)
- 大河内町砥ノ峰 2♂1♀ 9-VIII-1981 広畑政巳 6)
- 加美町鳥羽上 2♂ 21-VI-1964 山本俊良 70)
- ” 千ヶ峰 70)
- ” 三国岳 1ex. 上旬-VIII-1982 西島和興
- 安富町関 2♂2♀ 16-VII-1978 平尾栄治
- 関宮町葛畑 5♂2♀ 24-VII-1977 広畑政巳 6)
- ” 鉢伏高原 1♂ 6-VIII-1978 平尾栄治
- ” 東鉢伏山 3♀ 6-IX-1980 近藤伸一 76)
- ” 福定 1♂ 11~13-VII-1954 吉坂道雄 72)
- ” 鉢伏山 1♂ 10-VII-1955 吉阪道雄 6)
- ” 氷ノ山 1♂ 29-VI-1954 吉阪道雄 41)
- ” 別宮 1ex. 高嶋 明
- 日高町神鍋 1♂1♀ 16-VIII-1986 木村三郎 6)
- 温泉町扇ノ山 73)
- 大屋町若杉峠 73)
- ” 杉ヶ沢 3♂ 24-VII-1977 広畑政巳 6)
- 生野町段ヶ峰 1♀ 8-VII-1956 山本広一 27)
- ” 枋原 尾崎 勇
- 洲本市安乎町 1♂ 23-VI-1946 堀田 久 34)
- 南淡町賀集 1♂ -VI-1967 南 74)

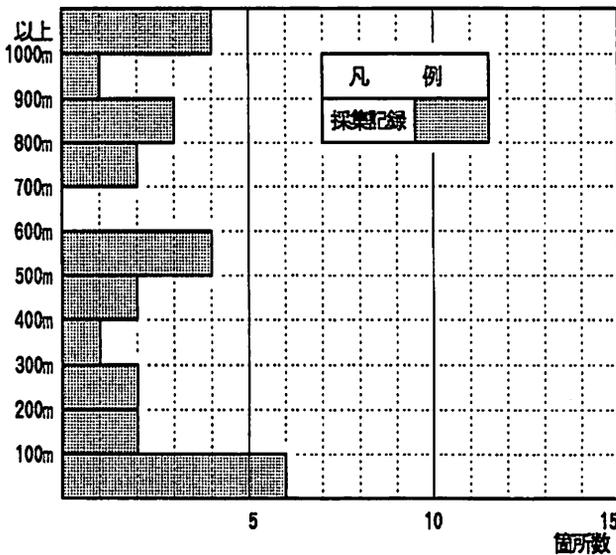


図3-2 オオウラギンヒョウモンの垂直分布

4 オオウラギンスジヒョウモン

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州の広い範囲に分布している。県内では淡路島を除く県下一円に広く分布するが、丹波から東播磨にかけて分布の空白域がみられる。この空白区域は現在のところ採集記録を確認できないだけで、本種が分布している可能性は極めて高い。南部では生息地が極限され個体数は少ない。他の大型ヒョウモン類と比べると、やや山地性の傾向が強い。

(2) 生息環境の現況

河原、田畑の畦、牧場、スキー場、採草地などスマレ類が生育する明るい草原を生息地とするが、林縁に接した草地で

特によく見かける。たとえば関宮町葛畑スキー場では草原の開けた空間はウラギンヒョウモンやミドリヒョウモンなどが主体であるが、林縁の畑地や林に囲まれた狭い草地には必ずと言って良いほど本種が見られる。また森林内の河原、林道などでも見られる。垂直分布は1,000m以上の高地から100m以下の低地まで分布しているが、他のヒョウモン類に較べると高地に分布する傾向が強く、400m~900m付近でも生息地が多い。

(3) 採集記録

- 川西市黒川 6-X-1996 福原 整 68)
- " 若宮 1♀ 4-X-1980 有田 斉 17)
- 猪名川町大野山 1♀ 10-VII-1994 森地重博 38)
- " 上阿古谷 1♂ 9-VII-1993 桑原英夫 38)
- " 木間生 2♂ 2-VII-1994 鍋島五郎 38)
- 宝塚市清荒神 1♀ 6-X-1984 加藤信一郎 59)
- " 香合新田~中村 10-K-1970 65)
- " 榎峠 1-VII-1979 65)
- " 鳥ヶ脇 18-K-1983 65)
- " 西谷 1♀ 15-VII-1975 山口福男
- " 大原野 1♂ 16-VI-1996 平尾栄治
- 三田市フワクツ -1994 66)
- 芦屋市東お多福山 1♂ 9-VII-1983 西 隆広 55)
- 神戸市六甲カトリックハウス 1♂1♀ 22-VII-1969 40)
- " 北区山田町藍那 3♂2♀ 28-VI-1993 青木陽一 22)
- " " " 山ノ街 1♂ 10-VII-1953 吉坂道雄 27)
- " " 長尾山 1♂ 11-VII-1979 大畑俊雄 75)
- " 中央区再度谷 1ex.14-VII-1964 三木 進 63)
- 三木市植山 1♀ -VII-1978 小倉 滋 64)
- 加美町三国岳 28-VI-1959 43)
- 姫路市御立北山 1♂ 1-VII-1979 広畑政巳
- " 打越 1♂ 28-K-1986 広畑政巳
- " 西蒲田 1♂ 24-VI-1981 広畑政巳
- 福崎町七種山 2♀(目) 24-K-1984 石井為久
- 市川町上牛尾瀬 1♂ 11-VII-1993 広畑政巳
- " 下牛尾河内 1♀ 27-VI-1993 広畑政巳
- 大河内町砥峰 1♂ 15-VII-1973 広畑政巳
- " 峰山 1♂ 9-VIII-1981 広畑政巳
- 夢前町菅生潤 1♀ -IX-1967 木村三郎
- 波賀町坂の谷 1♀(目) 8-VIII-1999 近藤伸一
- " 東山高原 1♂(目)15-VII-1978 石井為久
- " 赤西溪谷 1♂ 14-VII-1981 佐々木薫

- 波賀町音水 2♂2♀ 20-K-1997 平尾栄治
- 一宮町安積 1♂ 29-VI-1971 山口福男
- 山崎町野々隅原 1♂ 17-VII-1994 大東康人
- 千種町鷹の巣 1♂ 12-VII-1981 広畑政巳
- 相生市天ヶ台 1♀羽化 15-VI-1982 米村和繁
- 上郡町黒石 2♂1♀(目) 8-VII-1978 石井為久
- " 八保丙(皆坂) 1♀ 23-K-1984 清水幸三
- 上月町下秋里 1幼虫 5-V-1982 広畑政巳
- " 上秋里 2♂ 24-VI-1979 高島 昭
- " 中山 1♂ 7-VII-1979 高島 昭
- " 大日山 1♂(目) 4-VI-1994 石井為久
- 佐用町日名倉山 1♂ 7-VII-1973 尾崎 勇
- " 大撫山 3♂ 23-VI-1979 高島 昭
- 豊岡市奥野 1♀ 15-K-1995 36)
- " 三開山 2♂2♀ 13-VII-1970 木下賢司 3)
- " 高屋 1♂ 23-V-1982 前平照雄 3)
- 城崎町来日 2♀ 5-VIII-1976 木下賢司 3)
- 竹野町金谷 1♂ 16-VI-1964 木下賢司 3)
- 日高町神鍋高原 1♀ 19-K-1993 大東康人
- " 名色林道 1♂ 3-VII-1978 木下賢司 3)
- " 蘇武岳 2♀ 30-VII-1981 福井丈嗣 3)
- " 山ノ宮(大岡山)1♂ 7-VII-1985 木下賢司 3)
- " 金山峠 7-VIII-1973 遠藤知二 47)
- " 名色 1♂ 9-VIII-1987 近藤伸一



図4-1 オオウラギンズジヒョウモンの県内分布

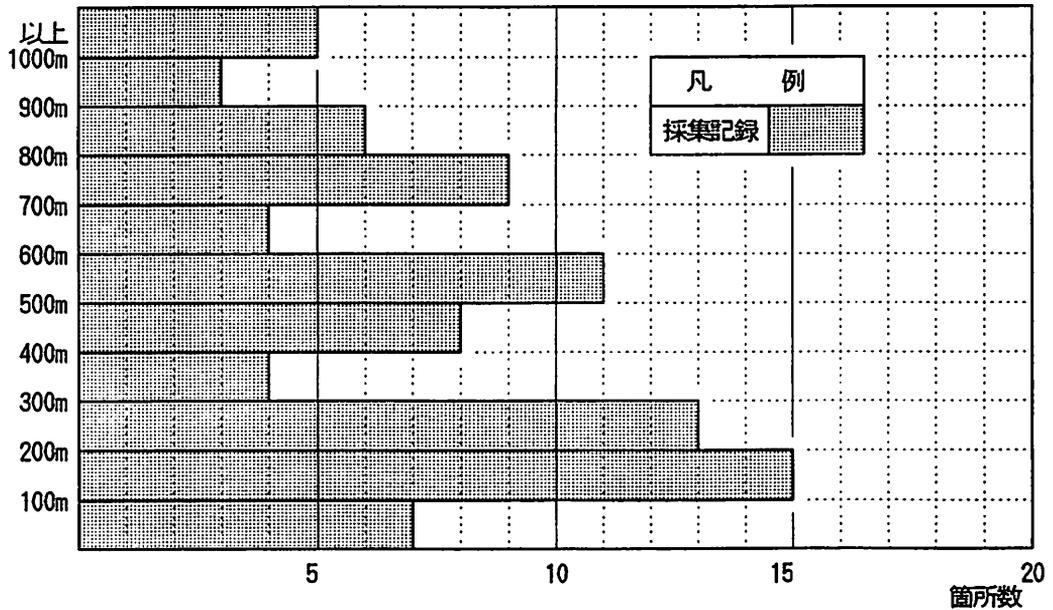


図 4-2 オオウラギンスジヒョウモンの垂直分布

- 日高町三川山 3♂2♀(目) 13-VII-1994 石井為久
- 出石町東床ノ尾山頂 1♀ 5-VII-1978 木下賢司 3)
- 但東町奥藤 1♂ 12-VII-1988 近藤伸一
- 浜坂町城山 1♂ 8-VII-1992 永幡嘉之 2)
- 村岡町鑑山 1♂ 8-VII-1978 木下賢司 3)
- ” 大笹鉢北 1♂ 26-VII-1981 広畑政巳
- ” 兎和野 3♂ 19-VII-1992 永幡嘉之 2)
- ” 澁川山林道 1♂ 26-VII-1995 木下賢司 2)
- ” 白菅山 1♂ 23-VI-1990 木下賢司 2)
- ” 熊波牧場 1♂1♀ 19-VII-1999 大東康人
- 美方町新屋 1♂2♀ 20-VII-1991 永幡嘉之 2)
- ” 美方高原 17-VII-1981 島田真輔 46)
- 温泉町飯野 1♂ 13-VII-1992 永幡嘉之 2)
- ” 湯谷 1♂ 21-VII-1992 永幡嘉之 2)
- ” 肥前畑 1♂ 18-VII-1992 永幡嘉之 2)
- ” 扇ノ山小ツッコ 1♀ 27-VII-1992 永幡嘉之2)
- ” 扇ノ山畑ヶ平 1♂ 13-VII-1988 永幡嘉之 2)
- 生野町栃原 1♀(目) 22-X-1978 石井為久
- ” 段ヶ峰 1♂(目) 31-VII-1976 石井為久
- 和田山町夜久野高原
♂♀(撮) 16-VI-1994 木下賢司 2)
- 八鹿町妙見山林道 ♂♀(撮)20-VII-1991 木下賢司2)
- 大屋町杉ヶ沢高原 1♀ 26-X-1982 近藤伸一 3)
- 関宮町杉ヶ沢高原 1♂ 26-VII-1981 広畑政巳

- 関宮町葛畑 1♂ 26-VII-1981 広畑政巳
- ” 大久保 1♂ 14-VII-1991 永幡嘉之 2)
- ” 鉢伏山 1♂ 16-VII-1969 相坂耕作
- ” 鉢伏高原 3♀ 5-VII-1972 山口福男
- ” 別宮 1♂ 15-VII-1980 福井丈嗣 3)
- ” 福定 1♂ 25-VII-1986 永幡嘉之 2)
- ” 氷ノ山大平頭 1♀ 23-VII-1992 永幡嘉之 2)
- ” 氷ノ山東尾根 1♂ 25-VII-1986 永幡嘉之 2)
- 青垣町稲土 1♂ 9-VII-1978 平尾栄治
- 篠山市籠坊 1♀ 9-X-1994 森地重博 38)
- ” 後川新田 1♀ 28-X-1997 杠 隆史 38)
- ” 篠山 1♀ 1-VII-1977 山口福男

5 クモガタヒョウモン

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州に分布する。県内には分布図の通り広く分布しているが、他の大型ヒョウモン類と較べると個体数が少ない。ヒョウモン類が数多く見られた昔でも、なぜか本種が一度に多数見られることはなかった。現在、県下の大型ヒョウモン類の中では、オオウラギンヒョウモンに次いで、ウラギンスジヒョウモンとも個体数は少ない種で

ある。

淡路島では古い記録があるものの近年は採集されていない。

(2) 生息環境の現況

林間の明るい空間や草地、溪流や林道沿いの開けた空間、集落周辺など様々な環境で見られるが、広い草原で見ることが少ない。また他のヒョウモン類は毎年継続して見られる産地があるが、本種は生息場所に特徴がなく、確実に見ることが出来る場所が少ない。垂直分布は500m以下に多く、300m以下付近が垂直分布の中心である。

(3) 採集記録

- 川西市妙見新滝 1♂ 8-V-1969 杠 隆史 18)
- " 一庫 1♂ 13-V-1958 山口福男
- " 黒川 2exs. 2-V-1996 木下修一 57)
- 猪名川町三草山 1♂ 14-V-1986 緒方正雄 38)
- " 大野山 1♂ 26-V-1985 長沼二郎 38)
- 宝塚市香合新田 10-X-1978 65)
- 三田市波豆川 1♀ 15-V-1980 高島 昭
- 神戸市灘区六甲山高山植物園 1♀ 23-X-1964 40)

- 神戸市中央区市ヶ原 1ex. 29-V-1963 三木 進63)
- " 北区山田町 1♀ -V-1961 山口福男
- " " " 山ノ街 1♀ 3-V-1960 尾崎 勇
- " " " 谷上 1♂1♀ 4-V-1961 尾崎 勇
- " " 道場町生野 1♀ 14-X-1997 近藤伸一
- 三木市鍛冶 1♀ -V-1978 小倉 滋 64)
- 加古川市志方町城山 1♀ 8-V-1946 山本広一 27)
- " 志方町氷室 2♂ 29-V-1983 近藤伸一
- " 志方町 竹内俊行
- 小野市小野 1♀ 22-X-1970 木村三郎
- 加西市青野が原 1♀ 22-X-1970 木村三郎
- 加美町千ヶ峰 3-V-1959 43)
- " 三国岳 43)
- " 笠形山山麓 43)
- 姫路市西蒲田 1♂ 24-V-1981 広畑政巳
- " 小原 1♀ 6-V-1981 近藤伸一
- " 広峰山 1♂ 26-V-1982 木村三郎
- " 増位山 1♂ 11-V-1982 木村三郎
- 福崎町山崎 2♂2♀(目) 4-V-1976 石井為久
- " 七種山 2♂(目) 7-V-1974 石井為久
- 市川町上牛尾半瀬 1♂ 18-V-1994 広畑政巳
- 神崎町越知川上流 2♂1♀(目) 27-V-1989 石井為久
- 大河内町峰山高原 2♀ 14-VII-1968 相坂耕作
- " 大川原 2♂ 8-V-1975 石井為久
- 夢前町雪彦山 1♂ 9-V-1974 森下泰治
- " 小畑 2♀(目) 28-V-1989 石井為久
- " 菅生潤 1♀ 20-K-1967 木村三郎
- 新宮町二栢野 1♂ 15-V-1982 佐々木薫
- 山崎町梯 1♀ 7-VI-1964 岩村 巖
- " 蔦沢 2♂ 31-V-1968 岩村 巖
- " 土万 1♂ 19-V-1985 近藤伸一
- " 大沢 1♀ 22-V-1982 佐々木薫
- 波賀町音水 1♂ 20-V-1973 岩井信彦
- " 引原 1♀ 27-VIII-1981 相坂耕作 56)
- 千種町鷹巣 1♂ 26-V-1985 広畑政巳
- 相生市三濃山 1♀ 20-V-1973 米村和繁
- " 矢野町能下 1♂ 9-VI-1963 唐土洋一
- 赤穂市西有年 1♂ 18-V-1994 広畑政巳
- " 中山 1♀ 10-X-1965 岩村 巖
- 上郡町鞍居 1♂ 2-VI-1968 米村和繁
- " 富満 1♂ 2-VI-1963 岩村 巖
- " 大杉野 1♀ 2-VI-1963 岩村 巖
- " 八保丙(皆坂) 1♂ 24-K-1984 清水幸三
- 上月町上秋里 1♂ 30-VI-1981 広畑政巳

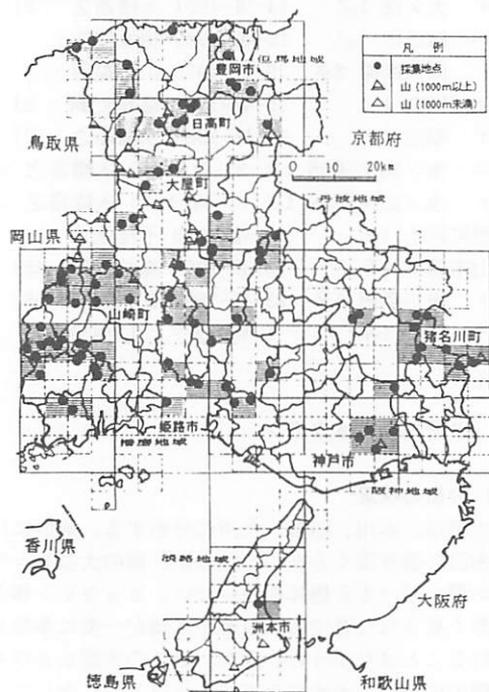


図5-1 クモガタヒョウモンの県内分布

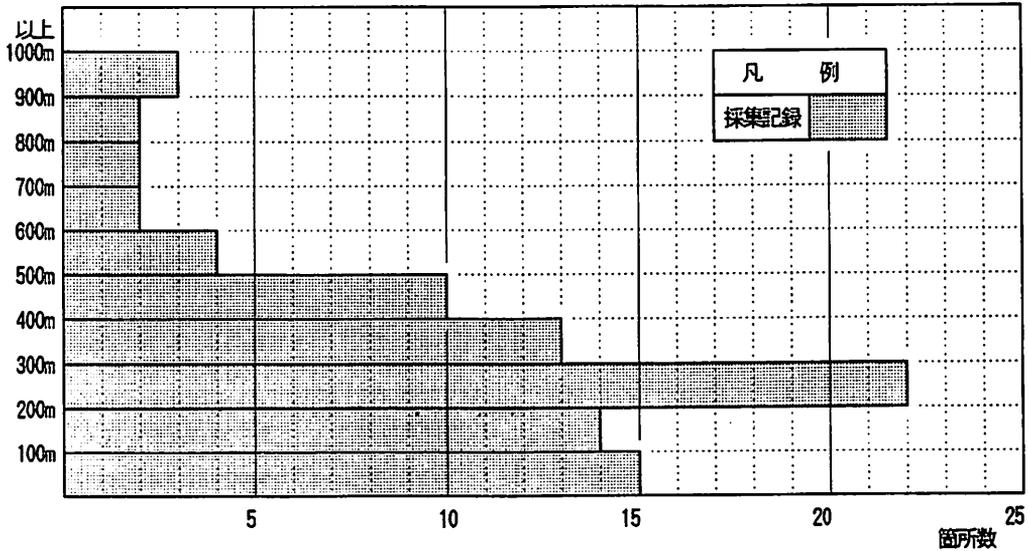


図5-2 クモガタヒョウモンの垂直分布

上月町下秋里 1♀	23-VI-1972	米村和繁	香住町今子浦 1♀	13-VI-1984	二宗誠治
" 久崎 1♀	6-VI-1961	岩村 巖	村岡町耀山 1♀	3-VI-1979	木下賢司 3)
" 須山 1♂	19-V-1963	岩村 巖	美方町鍛冶屋	4-VII-1981	島田真輔 46)
" 大日山 2♂1♀(目)	4-VI-1994	石井為久	温泉町熊谷大熊 1♂	14-VI-1991	永幡嘉之 2)
" 西新宿 1♂	29-V-1982	高島 昭	" 春来 1♂1♀	16-VII-1980	佐々木薫
" 尾崎 1♀	18-VI-1997	大東康人	浜坂町城山 2♂	6-VI-1992	永幡嘉之 2)
" 宇根別当 1♂	17-V-1997	大東康人	" 居組 1♀	17-VI-1993	永幡嘉之 2)
三日月町三原 1♂1♀	19-V-1963	岩村 巖	生野町段が峰 1♂	23-VI-1963	尾崎 勇
" 三ツ尾 1♂	19-V-1963	岩村 巖	" 栃原ゴルフ場付近		
佐用町上石井 1♂	13-VI-1959	岩村 巖	2exs.	22-VI-1968	大東康人 2)
" 宵木 1♀	22-VI-1963	岩村 巖	" 栃原 1♀	11-VI-1962	山口福男
" 平谷 1♀	21-VI-1961	尾崎 勇	朝来町佐轟高原 1♀	6-X-1996	近藤伸一
" 奥海 1♂	4-VI-1989	森下泰治	大屋町加保坂 1♂	13-VII-1984	近藤伸一 2)
" 奥長谷 1♂	9-VI-1979	高島 昭	" 杉ヶ沢 1♀	26-X-1982	近藤伸一 2)
豊岡市妙楽寺 1♀	9-VI-1963	木下賢司 3)	" 横行 1♀	18-VI-1983	高島 昭
" 三開山 2♂	29-V-1963	木下賢司 3)	篠山市籠坊 1♂	11-VI-1995	森地重博 38)
" 高屋(金山) 1♂	23-V-1982	前平照雄 3)	" 後川上 1♂	25-V-1997	鍋島五郎 38)
城崎町来日 1♂	10-VI-1975	木下賢司 3)	" (丹南町)住山 1♀	6-VI-1994	36)
竹野町須谷 1♂1♀	30-V-1964	小崎茂樹 3)	" (今田町)四斗谷 1♂	10-V-1997	36)
日高町栃本 1ex.	11-VI-1981	福井文嗣 3)	氷上郡竹田川流域		
" 金谷 1♀	5-VI-1973	木下賢司 3)	洲本市中河原町 1♀	3-X-1952	堀田 久 34)
" 山ノ宮(大岡山) 5♂	6-VI-1991	木下賢司2)			
" 阿瀬溪谷	5-VI-1973	木下賢司 47)			
" 名色 1♂	9-VII-1987	近藤伸一			
出石町桐野 1♂1♀	8-VI-1977	木下賢司 3)			

6 ミドリヒョウモン

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州に分布する。

県内のほぼ全域に広く分布し、山地から平地にかけて見られる。他のヒョウモン類同様に近年は個体数を減しているが、県下の大型ヒョウモン類の中では、ツマグロヒョウモンに次いで分布域は広く、個体数も比較的多い。淡路島にも広く分布する。

(2) 生息環境の現況

草原環境に生息しているが、他の大型ヒョウモン類と比べると森林的環境を好み、森林内の空間、溪流沿い、林道、集落周辺の様々な環境で見られ、広い草原にも吸蜜に訪れる。秋には市街地で見られることもある。

垂直分布は1,000m以上の高地から100m以下の低地まで分布しているが、200m以下付近が垂直分布の中心となっている。

(3) 採集記録

- 川西市花折橋 1ex. 7-VII-1970 仲田元亮 18)
- ” 妙見新滝 3♂1♀ 21-IX-1975 勢山保範 18)
- ” 妙見山山上 6-IX-1970 仲田元亮 18)
- ” 笹部 15-IX-1976 仲田元亮 18)
- ” 黒川 2exs. 23-IX-1996 木下修一 57)
- 猪名川町三草山 1♂ 16-VI-1971 杠 隆史 18)
- ” 大野山 3♀ 23-IX-1991 高橋邦明 38)
- ” 槻並 29-VI-1975 小坂利明 39)
- ” 内馬場 9-IX-1981 仲田元亮 18)
- 三田市フワクワン -1994 66)
- 宝塚市西谷西部 1♂ 24-VI-1978 65)
- ” 香合新田 1♀ 2-X-1965 65)
- ” 清荒神 多数 9-X-1984 加藤信一郎 59)
- 芦屋市三条山城 1♂ 12-VI-1983 西 隆広 55)
- 神戸市六甲山 1♂ 16-VII-1952 吉坂道雄
- ” 東灘区住吉川五助谷 1♀ 29-IX-1996 36)
- ” 灘区伯母野山付近 1♂ 8-VI-1965 40)
- ” ” 摩耶山 1♀ 9-VII-1951 吉坂道雄 27)
- ” 中央区諏訪山町 1♀ 16-X-1997 山口福男
- ” 長田区一里山町 1♀ 25-VI-1954 松本健嗣 61)
- ” 西区樋谷町 15-K-1963 大谷 泉 61)
- ” ” 岩岡町 1♀ 20-IX-1984 近藤伸一
- ” 北区山田町森林植物園 4♀ 23-K-1963 三木 進 63)
- ” ” ” 箕谷

- 2♂2♀ 10-VII-1960 平尾栄治
- 神戸市北区帝釈山 1♂ 16-VI-1994 平尾栄治
- ” ” 有馬町六甲登山口 1♂ 14-VII-1960 尾崎 勇
- ” ” 有野町逢山峡 1♂ 9-X-1960 尾崎 勇
- 明石市松蔭新田 1♂ 21-VI-1959 尾崎 勇
- ” 西朝霧丘大蔵中学校 2♂ 3-X-1963 大東康人
- 三木市大村 1♀ 3-X-1987 永幡嘉之 58)
- ” 志染町中 -VI-1977 小倉 滋 64)
- ” 志染町戸田 -VI-1977 小倉 滋 64)
- ” 増田 -VI-1977 小倉 滋 64)
- 小野市来住町 1♀ 6-VII-1931 山本広一 27)
- 西脇市高松 19-VI-1959 43)
- 加美町荒田 43)
- ” 岩座神 3♂2♀(目) 9-VII-1977 石井為久
- 姫路市打越 1♂ 28-IX-1986 広畑政巳
- ” ソーメン滝 2♂2♀(目) 18-VI-1983 石井為久
- 香寺町久畑 1♂1♀ 17-VI-1979 高島 昭
- 福崎町七種山 2♂1♀(目) 24-IX-1984 石井為久
- ” 七種 1♀ 24-VI-1976 森下泰治

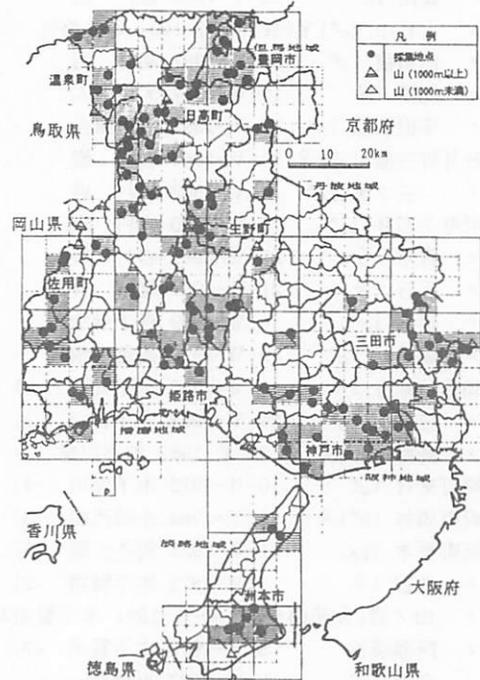


図6-1 ミドリヒョウモンの県内分布

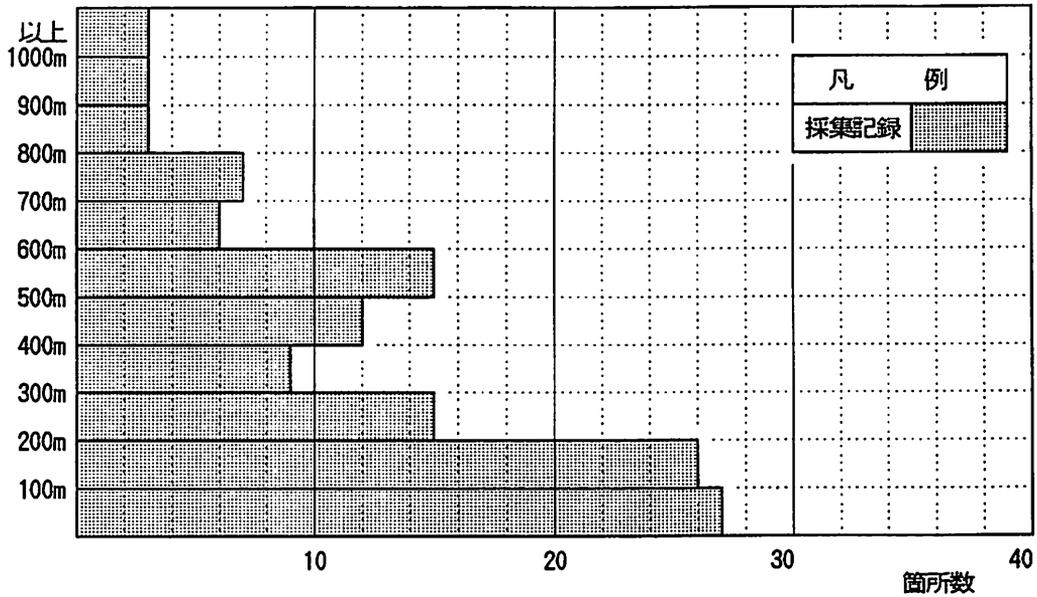


図6-2 ミドリヒョウモンの垂直分布

福崎町新町 1♀(目) 24-K-1984 石井為久	赤穂市尾崎 1♀ 28-K-1963 西垣憲治
" 山崎 1♂(目) 15-VI-1976 石井為久	" 周世 1♂ 15-VI-1965 岩村 巖
市川町上牛尾半瀬 1♂ 18-VI-1993 広畑政巳	" 富原 1♂ 23-K-1972 松村邦正
" 上牛尾岩戸 2♀ 11-VII-1993 広畑政巳	上郡町柏野 1♀ 16-X-1983 広畑政巳
" 下牛尾河内 1♂ 29-VI-1993 広畑政巳	" 黒石 1♀ 22-VII-1984 墨谷 健 50)
" 谷 1♂(目) 3-VI-1994 石井為久	上月町下秋里 2♂ 25-VI-1979 広畑政巳
大河内町砥峰 1♂ 9-VII-1981 広畑政巳	" 上秋里 1♂(目) 24-VI-1984 石井為久
" 峰山 2♂1♀ 23-VII-1962 岩村 巖	佐用町若州 1♂ 22-VI-1980 広畑政巳
夢前町山宮 1♀ 21-VI-1975 佐々木薫	" 上石井 1♂ 19-VI-1977 森下泰治
" 菅生洞 1♂1♀ 29-VI-1980 木村三郎	" 大撫山 1♂ 23-VI-1979 高島 昭
" 雪彦山 1♀ 27-K-1987 森下泰治	豊岡市妙楽寺 2♂ 14-VI-1963 木下賢司 3)
山崎町梯 2♂ 7-VI-1964 岩村 巖	" 三開山 1♀ 30-VI-1963 木下賢司 3)
" 五十波 1♂ 6-VII-1976 平尾栄治	" 愛宕山 1♂ 23-VI-1965 木下賢司 3)
安富町関 1♂ 21-VII-1982 広畑政巳	" 伊賀谷 1♀ 24-VI-1964 木下賢司 3)
" 三坂 1♂1♀ 12-VII-1981 木村三郎	" 瀬戸 1♂ 12-VI-1982 福井文嗣 3)
一宮町千町峰 2♂2♀(目) 1-K-1991 石井為久	" 戸牧 1♀ 9-VII-1989 近藤伸一
波賀町道谷 1♀ 3-X-1982 広畑政巳	城崎町来日 1♂ 19-VI-1975 木下賢司 3)
" 坂の谷林道 1♂ 7-K-1986 広畑政巳	" 来日岳 1♂ 22-VI-1980 福井文嗣 3)
" 引原 2♂ 1-VII-1957 山口福男	竹野町須谷 1♂1♀ 24-VI-1963 小崎茂樹 3)
" 音水 1♀ 14-VII-1969 相坂耕作	出石町東床ノ尾山 1♀ 27-VI-1977 木下賢司 3)
" 東山高原 2♂(目) 15-VII-1978 石井為久	" 奥山 1♂ 16-VII-1981 福井文嗣 3)
千種町鷹巣 1♀ 2-VII-1981 近藤伸一	日高町栃本 1♂ 17-VI-1985 福井文嗣 3)
" 千草 1♀ 29-VI-1971 山口福男	" 鶴岡 2♂ 22-VI-1979 福井文嗣 3)
相生市三濃山 2♂ 30-K-1972 岩井信彦	" 山宮 1♂1♀ 27-VI-1985 木下賢司 3)
" 陸光明山 1♂ 12-VI-1974 佐々木薫	" 大岡山大岡寺跡

♂♀(撮)	9-V-1994	木下賢司	2)
日高町神鍋山 1♂	7-VI-1990	木下賢司	2)
" 金山	15-K-1973	中村ひとみ	47)
" 三川山 2♂2♀(目)	13-VI-1994	石井為久	
浜坂町城山 1♂	9-VI-1992	永幡嘉之	2)
" 観音山 1♀	6-VI-1986	木下賢司	2)
" 居組 1♀	2-VI-1992	川元 裕	2)
村岡町大笹 1♀	15-VI-1985	福井丈嗣	3)
" 兎和野 3♂1♀	19-VI-1992	永幡嘉之	2)
" 耀山 1♀	4-VI-1987	近藤伸一	
温泉町美原 1ex.	29-VI-1983	黒井和之	3)
" 檜尾 1ex.	20-VI-1985	黒井和之	3)
" 海上 1♂	16-VI-1991	永幡嘉之	2)
" 飯野 1♂	6-VI-1993	永幡嘉之	2)
" 肥前畑 1♂	18-VI-1992	永幡嘉之	2)
" 美方高原 2♂1♀(目)	9-VI-1978	石井為久	
美方町鍛冶屋	4-VI-1981	加野 正	46)
生野町段ヶ峰 1♂	7-VI-1961	岩村 巖	
" 栃原高原 2♂2♀(目)	17-VI-1977	石井為久	
朝来町佐中 1♂	21-VI-1997	近藤伸一	
" 佐囊 1♀	6-X-1996	近藤伸一	
" 神子畑 2♂(目)	17-VI-1994	石井為久	
八鹿町妙見 2♂	2-K-1972	山口福男	
大屋町杉ヶ沢 1♀	27-K-1981	近藤伸一	2)
" 加保坂 1♂	26-K-1993	近藤伸一	
" 藤無山 1♂	6-VI-1998	竹内俊行	
関宮町杉ヶ沢高原 1♀	22-VI-1980	相坂耕作	
" 鉢伏高原 1♀	2-VI-1971	山口福男	
" 轟杉ヶ沢 1♀	2-VI-1971	山口福男	
" 葛畑 1♀	27-K-1981	近藤伸一	2)
" 福定 1♂1♀	25-VI-1986	永幡嘉之	2)
" 氷ノ山東尾根 2♂1♀	25-VI-1986	永幡嘉之	2)
宵垣町栗鹿山 1♂	9-VI-1978	平尾栄治	
篠山市籠坊 6♂3♀	18-K-1994	森地重博	38)
" 後川新田 1♀	28-K-1997	杠 隆史	38)
" (丹南町)住山 1♂	6-VI-1994		36)
氷上郡竹田川流域			
洲本市宇原 3♂1♀	19-VI-1990	菊地宏美	31)
" 柏原山 1♂	11-K-1992	交告尚史	32)
" 鮎屋ダム		菊地宏美	37)
津名町妙見山 1♀	14-VI-1951	堀田 久	34)
北淡町常陸寺山 2♀	11-K-1977	近藤伸一	
緑町初尾ダム		菊地宏美	37)
三原町成相溪谷		菊地宏美	37)

7 メスグロヒョウモン

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州に分布する。
 県内の分布は、南部では広く分布するが、西播磨の北部や南但馬などの内陸部の高標高地や北但馬の美方郡などでは採集記録が少ない。
 淡路島では産地が多く個体数も比較的多い。

(2) 生息環境の現況

平地から丘陵地の草原や林間の草地、河川沿い、道路や集落周辺の畑地などでみられる。
 他のヒョウモン類と比べると集落周辺でみられることが多い。垂直分布は800m以下で、300m以下の低地が垂直分布の中心となっている。

(3) 採集記録

川西市笹部 1♀	7-VI-1971	杠 隆史	18)
" 黒川 1♀	11-X-1997	近藤伸一	
" 多田 1ex.	29-VI-1966	鴻池義一	18)
" 鼓ヶ滝 1♀	6-VI-1969	浜田 稔	18)
" 山下 1♀	16-VI-1968	杠 隆史	18)
" 妙見新滝 1♂1♀	8-VI-1969	杠 隆史	18)
" 多田院	19-K-1966	小坂利明	39)
" 東畦野～一の鳥居	11-VI-1976	小坂利明	39)
" 横路	10-VI-1973	仲田元亮	39)
" 若宮 1♀	2-X-1988	高橋邦明	52)
" 一庫 1♂1♀	1-VI-1958	山口福男	
猪名川町三草山 1♂	20-VI-1993	大東康人	
" 上阿古谷 2♂	26-VI-1972	和田幸夫	18)
" 大野山(目)	23-K-1991	高橋邦明	38)
" 仁部 5♂2♀	25-VI-1994	森地重博	38)
" 銀山	29-VI-1975	小坂利明	39)
" 槻並	26-VI-1977	小坂利明	39)
" 清水	22-VI-1980	小坂利明	39)
" 内馬場	12-VI-1977	仲田元亮	39)
" 仁頂寺～堂床山	15-VI-1980	森地重博	39)
三田市乙原 1♂	6-VI-1997		
" 東山 1♀(目)	29-VI-1999	近藤伸一	
" ㍻㍻㍻	-1994		66)
宝塚市清荒神 1♀	4-X-1981	加藤信一郎	53)
" 鳥ヶ脇 1♂	15-K-1983		65)
" 切畑 1♀	1-X-1983		65)
" 香合新田 1♀	28-K-1976		65)
芦屋市奥池付近 1♀	15-K-1983	西 隆広	55)

神戸市六甲山 1♀ 24-VI-1953 吉坂道雄 27)
 " 中央区諏訪山町 1♂ -VI-1994 山口福男

神戸市西区神出町雌岡山 2♂ 14-VI-1959 山口福男
 " 北区山田町森林植物園
 1♀ -VI-1995 山口福男

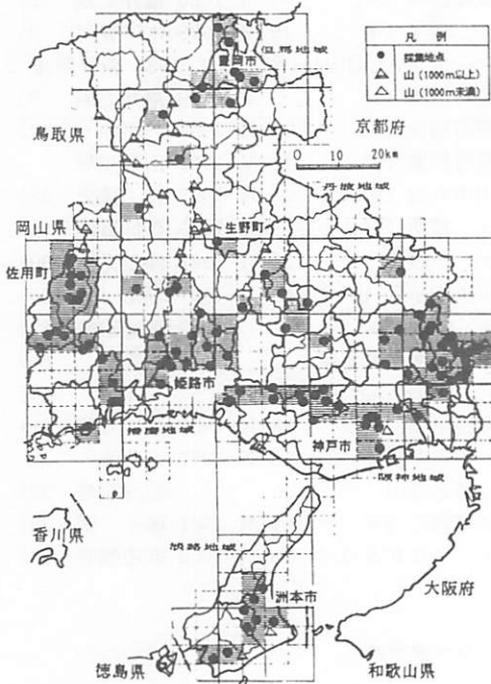


図7-1 メスグロヒョウモンの県内分布

" " " 箕谷 1♀ 3-VII-1960 尾崎 勇
 " " " 谷上 1♂1♀ 24-VII-1960 尾崎 勇
 " " " 山ノ街 1♂ 1-VI-1961 尾崎 勇
 " " 道場町生野 1♀ 22-X-1978 近藤伸一
 " " 有野町逢山峡 1♀ 14-VII-1960 尾崎 勇
 " " 松ケ枝町 1♀ 4-VI-1995 平尾栄治
 三木市本町 6-VI-1976 高橋久夫 64)
 " 大村 1♂ 27-IX-1986 永幡嘉之 58)
 " 戸田 1♂ 8-VI-1986 永幡嘉之 58)
 " 増田 -VI-1977 小倉 滋 64)
 " 志染町中 -VI-1977 小倉 滋 64)
 " 平井 -VI-1977 小倉 滋 64)
 小野市来往町 1♂ 16-VI-1945 山本広一 27)
 加古川市上荘町 1♀ 1-VI-1931 山本広一 27)
 " 志方町氷室 1♀ 11-VI-1983 近藤伸一
 高砂市阿弥陀町 1♂ 28-V-1998 竹井 一 48)
 加西市中山 2♂2♀ 16-VI-1991 石井為久
 社町三草山 1♂ 11-VI-1989 近藤伸一
 西脇市合山町 2♀(目) 10-X-1977 石井為久
 黒田庄町喜多 8-VI-1959 43)
 中町中村 2♂2♀ 14-VI-1961 尾崎 勇
 加美町多田 1♂ -VI-1985 山口福男

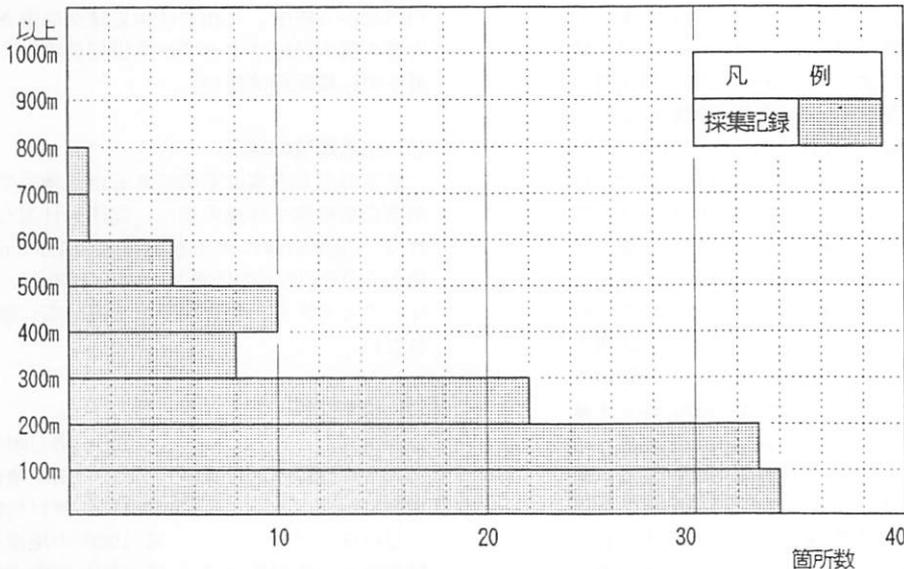


図7-2 メスグロヒョウモンの垂直分布

姫路市下伊勢 1♂ 1-V-1980 広畑政巳
 " 峰相山 1♀ 18-K-1983 広畑政巳
 " 打越 1♀ 10-X-1983 広畑政巳
 " 南山田藤の木山 1♀ 23-K-1996 近藤伸一
 " 仁豊野 1♀(目) 11-V-1994 石井為久
 香寺町恒屋 1♀(目) 6-X-1978 石井為久
 福崎町七種山 2♂ 7-V-1974 石井為久
 " 山崎 1♀(目) 30-K-1978 石井為久
 市川町上牛尾半瀬 1♀ 15-K-1980 広畑政巳
 夢前町岡 1♀ 5-V-1983 広畑政巳
 " 雪彦山 1♂ -K-1966 木村三郎
 " 菅生澗 1♂ -K-1967 木村三郎
 " 山宮 2♂2♀(目) 5-V-1983 石井為久
 太子町上太田 1♂ 8-V-1975 岩村 巖
 安富町三坂 1♂ 22-VI-1973 木村三郎
 " 関 1♀ 21-K-1975 木村三郎
 山崎町梯 2♂ 7-V-1964 岩村 巖
 " 神野 1♂ 17-V-1957 山口福男
 一宮町
 波賀町引原 1♀ 1-VI-1957 山口福男
 相生市川原町 1♂ 11-V-1957 唐土洋一
 " 大谷町 1♂ 17-V-1962 唐土洋一
 " 三濃山 1♂ 11-K-1967 豆鞘周二
 " 陸光明山 1♂ 14-V-1973 松村邦正
 " 相生 1♀ 5-V-1974 佐々木薫
 " 天下台山 1♀ 23-K-1996 竹内俊行
 赤穂市尾崎 1♀ 6-K-1963 北条 正
 上郡町大杉野 1♂ 2-V-1963 岩村 巖
 " 富満 1♂ 2-V-1963 西垣憲治
 上月町下秋里 1♀ 15-V-1975 広畑政巳
 " 上秋里 2♀(目) 24-V-1984 石井為久
 " 久崎 6♂ 1♀ 6-V-1961 岩村 巖
 " 西新宿 1♀ 12-V-1993 高島 昭
 佐用町下石井 2♂4♀ 16-V-1974 広畑政巳
 " 若州 1♂ 15-V-1980 広畑政巳
 " 上石井 2♂1♀ 13-V-1959 岩村 巖
 " 田野 1♀ 7-V-1997 大東康人
 " 大船 1♂ 15-V-1976 相坂耕作
 " 海内 2♂ 23-V-1973 佐々木薫
 " 口長谷 1♂ 5-V-1979 高島 昭
 " 奥長谷 1♂ 9-V-1979 高島 昭
 " 福沢 1♂ 18-V-1989 森下泰治
 豊岡市妙楽寺 1♂1♀ 9-V-1963 木下賢司 3)
 " 三開山 2♂3♀ 15-V-1972 木下賢司 3)
 " 高屋 1♂ 3-V-1982 前平照雄 3)

城崎町来日岳 1♀ 29-K-1974 木下賢司 3)
 竹野町阿金谷 1♂1♀ 8-V-1964 小崎茂樹
 日高町鶴岡 2♂ 11-V-1980 福井丈嗣 3)
 " 栃本 1♀ 19-V-1979 木下賢司 3)
 " 山宮(大岡山) 1♀ 18-V-1984 前平照雄 3)
 村岡町燿山 1♂ 5-VI-1979 福井丈嗣 3)
 大屋町加保坂1♂1♀ 13-VI-1984 近藤伸一 2)
 生野町栃原 1♂ 12-V-1961 山口福男
 篠山市丸山 1♂ 24-VI-1997 杠 隆史 38)
 " 籠坊(目) 5-VI-1980 森地重博 38)
 " 上籠坊 26-VI-1981 仲田元亮 39)
 洲本市安乎町 1♂ 18-V-1947 堀田 久 34)
 " 鮎屋ダム 菊地宏美 37)
 " 中河原町竹原 34)
 " 先山 34)
 緑町初尾 3♂3♀ 16-K-1990 菊地宏美 31)
 " 中条中筋 3♂2♀ 18-K-1977 近藤伸一
 " 感応寺山 菊地宏美 37)
 南淡町阿万 3♀ 11-V-1961 藤平 明 34)
 " 大日ダム 1♂ 23-VI-1962 武田義明 34)

8 シータテハ

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州に分布しているが、本州西部から四国、九州では生息域が局限される。県内での採集記録はすべてが半世紀前の古いもので、近年の採集記録は無い。

(2) 生息環境の現況

県下の生息環境は不明であるが、他県では山地の落葉広葉樹林や林縁の草地、溪流や林道などで見られる。採集記録による垂直分布は1,000m以上の高地から100m以下の低地まで見られるが、記録が少ないこともあり、生息場所の垂直分布に特徴は見られない。

(3) 採集記録

神戸市御影 1901 樽谷明吉 6)
 " 烏原貯水池付近 田中増也 6)
 生野町栃原 2exs. 13-VI-1952 西村公夫 6)
 大屋町筏 1♂ VII-1956 中尾淳三 6)
 関宮町氷ノ山福定 1♂ VII-1954 吉阪道雄 6)
 " " 能次 1955 山本広一 6)

- 夢前町雪彦山 6)
- 温泉町扇ノ山 6)
- 西播 1909 井口宗平 6)
- 水上郡下 6)

9 オオムラサキ

(1) 分布の状況

北海道南西部から本州、四国、九州にかけて分布する。県内の分布は図のように、淡路島を除く広い範囲で分布しているが、全般に個体数は少なくなった。

西播磨の西部、神戸阪神地区及び但馬で産地が集中し、西播磨の山間部から但馬にかけては比較的個体数が多いものの、他の地区では分布域は限られ個体数も少ない。

(2) 生息環境の現況

幼虫はエノキを食草とし、成虫はアベマキやコナラの樹液を好むなど落葉広葉樹林を生息地とし、人里近くの雑木林に多く、特に幼虫は集落内のエノキでも見つかることがある。

近年は都市近郊の雑木林の開発や針葉樹の植栽による雑木林の減少などで、分布域は減少している。

垂直分布は1,000m以上の高地から100m以下の低地まで分布しているが、生息地が多いのは300m以下で垂直分布の中心は200m以下付近である。

(3) 採集記録

- 尼崎市猪名寺付近 27)
- 川西市大和 23-VI-1973 仲田元亮 19)
- 〃 山下 12-VII-1964 岡田 19)
- 〃 黒川 1♂(目) 30-VI-1997 13)
- 〃 妙見山山麓 1幼虫 11-I-1997 13)
- 〃 一の鳥居 8幼虫 6-I-1991 14)
- 〃 東睦野 20幼虫 14-II-1993 14)
- 〃 石道 4♂ 8♀ 20-VI-1981 山本 治 17)
- 〃 赤松 2♂ 2♀ 2-VIII-1981 山本 治 17)
- 〃 笹部 2♂ 2♀ 10-VII-1981 榎原俊嗣 17)
- 〃 多田神社 5幼虫 16-I-1978 品川 恭 17)
- 〃 西多田 7幼虫 3-I-1984 有田 斉 17)
- 〃 虫生 26)
- 〃 柳谷 26)
- 猪名川町槻並 2幼虫 9-I-1983 近藤伸一
- 〃 三草山 24幼虫 23-XII-1990 14)
- 〃 上阿古谷 4幼虫 9-I-1983 近藤伸一
- 〃 木間生 1♂ 12-VIII-1970 仲田元亮 18)
- 〃 栃原(大谷) 2-VIII-1970 仲田元亮 19)
- 〃 六瀬 27)
- 〃 仁部 2幼虫 2-I-1983 近藤伸一

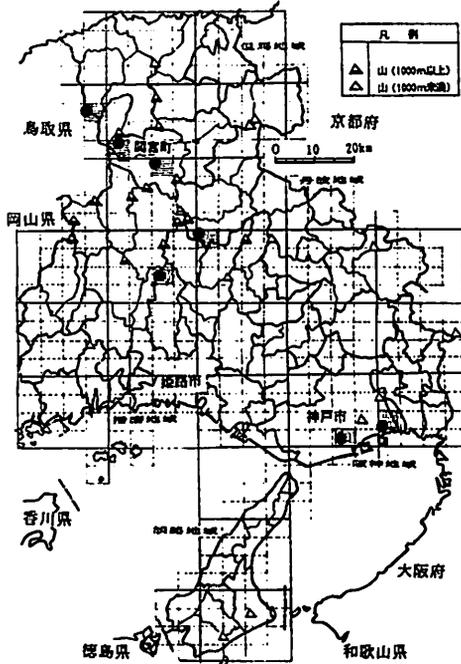


図 8-1 シータテハの県内分布

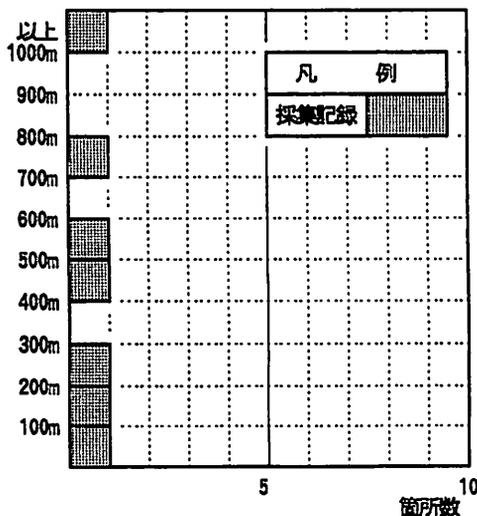


図 8-2 シータテハの垂直分布

- 三田市三輪 1♀(目) 13-VI-1969 高橋邦明 17)
 " 乙原 26)
 " 大原 26)
 " 八景中学付近 26)
 西宮市甲陽園目神町
 1幼虫 13-XII-1993 法西 浩 10)
 " 甲山町甲山森林公園
 6幼虫 19-XII-1993 法西 浩 10)
 " " 甲山 1幼虫 21-XII-1993 法西 浩10)
 " " 五箇山 1幼虫 23-XII-1993法西 浩10)
 " 山口町蓬萊峽 6幼虫 16- I-1994 法西 浩10)
 " " 下山口 1幼虫 23- I-1994 法西 浩10)
 " " 東久保 1幼虫 23- I-1994 法西 浩10)
 " " 赤坂 11幼虫 30- I-1994 法西 浩10)
 " " 白水峽 3幼虫 16- I-1994 法西 浩10)
 " 塩瀬町名塩武田尾温泉
 2幼虫 26-XII-1993 法西 浩 10)
 神戸市灘区伯母野山 1♂ 下旬-VI-1970
 " 布引谷 22)
 " 中央区諏訪山 1♂ 28-VI-1978 近藤伸一
 " " 城山 22)
 " " 再度山 7)
 " 兵庫区烏原貯水池 4♂ 9-VII-1995 松崎 隆9)
 " " 菊水山南麓
 3♂ 28-VI-1990 蜂谷幸雄 8)
 " " 天王谷 22)

- 神戸市須磨区多井畑 27)
 " 西区樋谷町 1♂ 2-VII-1992 松崎 隆 7)

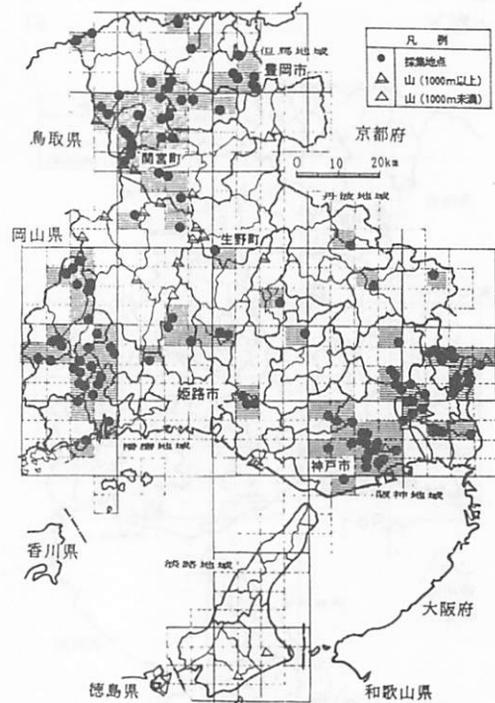


図9-1 オオムラサキの県内分布

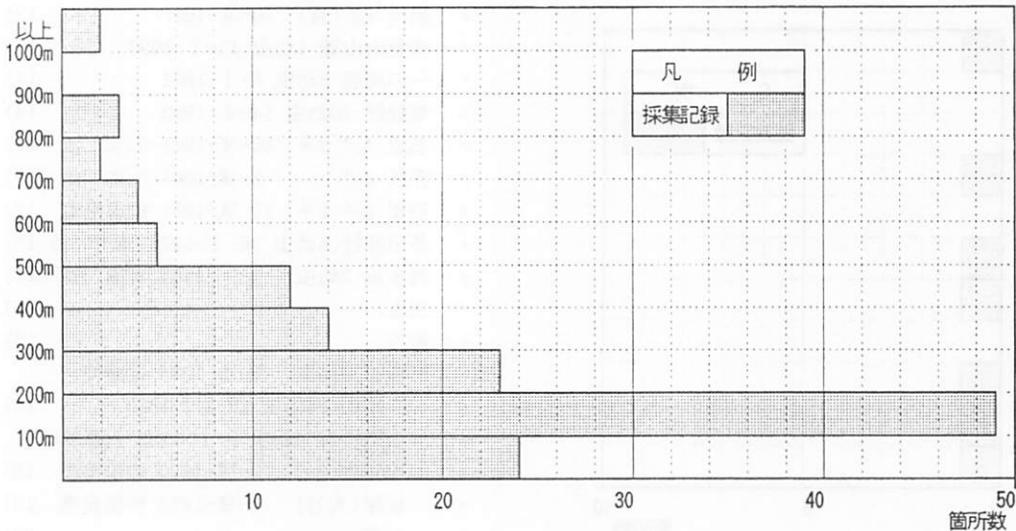


図9-2 オオムラサキの垂直分布

神戸市北区北鈴蘭台	上郡町白旗山 1♂	12-VI-1967	唐土洋一
8♂1♀ 8-VI-1990 松崎・山下 8)	" 野桑 1幼虫	17-II-1980	広畑政巳
" " 帝釈山 1♂ 1-VI-1995 平尾栄治 23)	" 金出地		26)
" " 山田町山ノ街	上月町下秋里 1♂	25-VI-1979	広畑政巳
3♂1♀ 10-VI-1960 尾崎 勇	" 久崎 1♂	7-VI-1964	岩村 巖
" " " 森林植物園	" 西新宿 3♂	8-VI-1973	佐々木薫
6幼虫 12-II-1992 山下剛史 16)	" 円光寺 2♂	29-VI-1974	佐々木薫
" " " 箕谷	三日月町三原 2幼虫	4-I-1992	広畑政巳 4)
1♂(目) 29-VI-1978 田中 梓 67)	" 三日月		29)
" " " 原野(目) -1977 田中 梓 67)	南光町船越		26)
" " " 藍那	" 東徳久		26)
1幼虫 25-II-1992 山下剛史 16)	" 上三河		26)
" " " 小部	佐用町日名倉山 1♂	16-VI-1978	広畑政巳
" " 道場 6幼虫 27-I-1991 14)	" 海内 1♂	24-VI-1967	米村和繁
" " " 千川水源地 1幼虫 28-V-1995 14)	" 奥海 2幼虫	19-1-1996	11)
" " 泉台 8♂ 8-VI-1990 山下剛史 16)	" 上石井		26)
" " 有馬町 27)	豊岡市下鉢山 4幼虫	17-II-1990	近藤伸一 20)
三木市志染町大谷 1♂ 18-VI-1993 山下剛史 16)	" 高屋(金山) 1♂ 1-VI-1963	木下賢司 3)	
" " 戸田 26)	" 妙楽寺 1♂ 25-VI-1964	木下賢司 3)	
加古川市一乗寺 1♂ 14-VI-1983 高嶋 明 1)	" 三開山 1♂ 27-VI-1980	木下賢司 3)	
" 高畑 1♂ 24-VI-1983 高嶋 明 1)	" 下鶴井 11-VI-1970	足立義弘 21)	
" 志方町城山公園(目)	" 中ノ谷 13-VI-1974	中野 真 21)	
23-VI-1983 高嶋 明 1)	日高町稲葉 1♂	1-VI-1963	小崎茂樹 3)
西脇市堀町 26)	" 岩中 1♂	7-VI-1978	木下賢司 3)
中町中村町 26)	" 三川山 lex.(目) 30-VI-1996		12)
姫路市林田町山田 2幼虫 27-XII-1977 白井祐一25)	" 枋本		26)
市川町下瀬加山添 6幼虫 15-I-1992 広畑政巳 4)	" 名色林道 1♂ 1-VI-1978	木下賢司 3)	
" 西川辺 2幼虫 15-I-1992 広畑政巳 4)	香住町上計 2幼虫	23-XII-1989	近藤伸一 20)
夢前町文殿 1幼虫 28-XII-1980 広畑政巳	" 土生		6)
" 前之庄 8幼虫 28-XII-1980 広畑政巳	村岡町耀山 1♂(目)	4-VI-1987	近藤伸一
" 小畑 1幼虫 17-II-1984 広畑政巳	" 村岡銚子谷 1幼虫 13-V-1988	近藤伸一20)	
新宮町千本 1幼虫 15-I-1984 近藤伸一	" 宮神 2幼虫 9-XII-1989	近藤伸一 20)	
" 栗栖 1♂ 9-VI-1992 蜂谷幸雄 8)	美方町秋岡 4幼虫	23-II-1990	近藤伸一 20)
一宮町井内 26)	" 新屋 6幼虫 23-II-1990	近藤伸一 20)	
波賀町引原ダム 1♂ 27-VI-1980 相坂耕作 24	" 神場 4幼虫 23-II-1990	近藤伸一 20)	
相生市矢野町上土井 7幼虫 6-III-1994 広畑政巳5)	" 美方高原 lex.(目) 9-VI-1978	広畑政巳	
" " 瓜生 1♂ 9-VI-1966 中浜 潔	温泉町上山 1♂	26-VI-1983	黒井和之 3)
" " 能下 1♀ 31-VI-1966 中浜 潔	" 美原高原 1♀ 26-VI-1978	広畑政巳	
" 大谷町ごぼう山 1♀ 26-VI-1962米村和繁30)	" 菅原		26)
赤穂市東有年 5幼虫 26-XI-1995 唐土洋一 15)	浜坂町城山 2♂	6-VI-1991	永幡嘉之 2)
" 尾崎 26)	" 居組 1♂ 29-VI-1992	永幡嘉之 2)	
上郡町大富 1幼虫 17-II-1980 広畑政巳	生野町枋原 2幼虫	2-I-1990	近藤伸一 2)
" 黒石 1♂ 4-VI-1982 広畑政巳	八鹿町妙見山	3-VI-1963	
" 佐用谷 1幼虫 19-II-1984 広畑政巳	大屋町天滝 3♂1♀	6-VI-1964	小崎茂樹 3)
" 宇野山 57幼虫確認 11-II-1994 広畑政巳	" 明延		26)

大屋町筏 27)
 関宮町氷ノ山東尾根 1♂ 6-VI-1987 永幡嘉之 2)
 " 福定 3♂ 14-VII-1991 永幡嘉之 2)
 " 鉢伏山 1♂(目) 14-VI-1988 近藤伸一
 " 八井谷峠 26)
 春日町黒井 26)
 篠山市篠見 26)
 " 王子山 26)
 " (西紀町)宮田
 3蛹(3♂) 23-VI-1960 山口福男

<参考文献>

1)高嶋 明(1984) 加古川の蝶 てんとうむし(9)
 : 46-49
 2)木下賢司・近藤伸一・大東康人・永幡嘉之
 (1996) 但馬地域の産蝶目録Ⅱ IRATSUME(20):
 66-86
 3)木下賢司,前平照雄,福井丈嗣(1986) 但馬地域
 の産蝶目録 IRATSUME(10): 55-95
 4)広畑政巳(1994) オオムラサキの新産地
 IRATSUME(18): 42
 5)広畑政巳(1995) 県下に於けるオオムラサキの
 新産地 遊蟲千年(特別号): 119
 6)広畑政巳(1987) 兵庫県産蝶類分布資料(4)
 てんとうむし(10): 11-22
 7)松崎 隆(1993) 1992年に採集したオオムラサ
 キ 緑蝶(6): 6
 8)白井康之他(1993) 1989-1992年 オオムラサキ
 採集記録 緑蝶(6): 6-7
 9)白井康之他(1997) 1993-1996年 オオムラサキ
 採集記録 緑蝶(7): 22
 10)法西 浩(1995) 兵庫県西宮市でオオムラサキ
 の分布調査 蝶研フィールド10(1): 12-13
 11)蝶研出版編集部(1996) 1996年蝶類採集情報
 蝶研サロン(107): 23
 12)蝶研出版編集部(1997) 1996年蝶類採集情報
 蝶研サロン118号付録
 13)蝶研出版編集部(1997) 1997年蝶類採集情報
 蝶研サロン(130)付録
 14)蝶研出版編集部(1996) 蝶類採集情報・総集編
 蝶研出版 茨木市
 15)唐土洋一(1997) 兵庫県赤穂市の蝶類補足
 てんとうむし(11): 83
 16)山下剛史(1994) 神戸市近郊における注目すべ

き蝶5種の記録 遊蟲千年(特別号): 36-37
 17)大阪昆虫同好会(1981) 北摂の昆虫(1) 蝶類
 18)大阪昆虫同好会(1989) 北摂の蝶 大阪昆虫同
 好会(宝塚市)
 19)小坂利明(1994) 猪名川流域の蝶 詩画工房・
 大阪
 20)近藤伸一(1991) 但馬地域のオオムラサキの新
 産地 きべりはむし19(1): 25-26
 21)遠藤知二ほか(1975) 豊岡市周辺の蝶 兵庫県
 自然保護協会但馬支部研究紀要1(1)1-12
 22)青木陽一(1997) 神戸市の蝶 蝶研フィールド
 12(5): 4-12
 23)平尾英治(1995) 丹生・帝釈山系にイシガケチ
 ョウ定着か きべりはむし23(2): 34
 24)相坂耕作(1980) 夜間灯火に飛来した蝶14種
 てんとうむし(6): 36
 25)相坂耕作(1980) 姫路市の昆虫 てんとうむし
 (6): 10-20
 26)環境庁(1980) 日本の重要な昆虫類 近畿版
 27)山本広一(1971) 兵庫県の蝶相 月刊むし(3):
 2-10
 29)広利雅美(1977) 三日月町の蝶 てんとうむし
 (4): 5
 30)岩村 巖(1968) 西播の蝶分布資料(5) 赤相の
 蝶類 兵庫生物 5(5): 386-397
 31)菊地宏美(1991) 淡路島での蝶類採集録
 PARNASSIUS(37): 1-2
 32)交告尚史(1993) 蝶ふたたび PARNASSIUS(39)
 : 1-4
 33)浅田 卓(1978) 淡路島蝶類採集目録
 PARNASSIUS(19): 16-18
 34)登日邦明(1974) 淡路島の蝶相(2) 佳香蝶26
 (99): 25-32
 35)登日邦明(1974) 淡路島の蝶相(1) 佳香蝶26
 (98): 9-15
 36)蝶研出版編集部(1999) CD-ROM蝶類採集情報
 '89-'98 蝶研出版
 37)菊地宏美(1992) 淡路島での蝶の採集
 PARNASSIUS(38): 1-6
 38)大阪昆虫同好会(1998) 北摂の昆虫(2)
 39)仲田元亮(1982) 能勢の昆虫(蝶の部) 大阪
 40)杠 隆史(1982) 六甲山系の蝶 Crude(23):
 67-73
 41)日浦 勇(1969) 日本列島の蝶 大阪市立自然
 博物館収蔵資料目録 第1集

- 42)山本広一・吉阪道雄(1958) 兵庫県産蝶類目録
(1) 兵庫生物3(4):228-236
- 42)猪俣涼一・岡本 清(1960) 多可・西脇地方の
昆虫(蝶類) 兵庫生物4(1):24-28
- 44)猪俣涼一・岡本 清(1962) 多可西脇地方の昆
虫(追報) 兵庫生物4(3/4):177-178
- 45)永幡嘉之(1994) 浜坂町城山初秋の蝶
IRATSUME(18):44-45
- 46)島田真輔(1982) 美方町の蝶 IRATSUME(6):
25-29
- 47)谷角素彦(1978) 日高町金山の蝶 IRATSUME(2)
:11-20
- 48)竹井 一(1999) 日本産蝶類の採集データ集
SPINDA(14):106-130
- 49)京都大学蝶類研究会(1987) 日本産蝶類 239種
類の記録(上) SPINDA(2):2-40
- 50)京都大学蝶類研究会(1988) 日本産蝶類 239種
類の記録(下) SPINDA NOUV(3):2-51
- 51)京都大学蝶類研究会(1989) 日本産蝶類 239種
類の記録 補遺 SPINDA NOUV(4):27-44
- 52)高橋邦明(1991) 北摂における1985年-1990年の
採集記録 Crude(35):1-2
- 53)加藤信一郎(1982) 宝塚市荒神山のチョウ(追
録) きべりはむし10(1):36-37
- 54)唐土洋一(1997) 兵庫県赤穂市の蝶類補足
てんとうむし(11):83
- 55)西 隆広(1984) 芦屋市の蝶 てんとうむし(9)
:28-38
- 56)相坂耕作(1981) 夜間灯火に飛来した蝶
てんとうむし(7):19
- 57)木下修一(1997) 黒川の蝶 きべりはむし25(1)
:40-44
- 58)永幡嘉之(1993) 三木市内における蝶の採集記
録 きべりはむし21(1):10-22
- 59)加藤信一郎(1985) 宝塚市荒神山のチョウ
(追報4) きべりはむし13(1):16-17
- 60)加藤信一郎(1981) 宝塚市荒神山のチョウ
きべりはむし9(2):8-15
- 61)松本健嗣(1981) ミドリヒョウモン雌暗灰緑色
型の採集例 きべりはむし9(2):16-17
- 62)上田尚志(1980) 家島群島の昆虫(1) きべりは
むし8(2):21-27
- 63)三木 進(1979) 六甲山系(西部)の蝶 きべり
はむし7(1):2-7
- 64)小倉 滋・高橋久夫(1978) 三木市内の蝶につい
て きべりはむし6(1.2):8-16
- 65)服部ほか(1997) 三田市フラワータウンにおけ
る蝶類群集からみた植生の自然性評価 植物学会
誌(14):47-60
- 66)宝塚市教育委員会(1992) 宝塚の昆虫 I
- 67)田中 梓(1981) 神戸自然誌 神戸新聞出版セ
ンター 神戸
- 68)吉坂道雄(1954) 武庫川堤防のオオウラギンヒ
ョウモン Saphirinus 2(4):76-77
- 69)加藤昌宏・武衛春雄(1981) 神戸の蝶 神戸市
立教育研究所 神戸
- 70)山本俊良(1981) オオウラギンヒョウモンの古
い発生地を尋ねて てんとうむし(7):38
- 72)吉坂道雄(1956) 氷ノ山の蝶類(11) 兵庫生物
3(3):124-125
- 73)高橋 匡(1979) 但馬地方昆虫目録 IRATSUME
(3):40-58
- 74)堀田 久(1983) 淡路島の蝶の変遷
PARNASSIUS(27):14
- 75)神戸市立森林植物園展示標本
- 76)近藤伸一(1981) 兵庫県の山地性オオウラギンヒョウモン
について てんとうむし(7):6-9
- 77)手塚 浩(1994) 境峠のオオウラギンヒョウモン
蝶研フィールド9(7):7-12
- 78)大阪昆虫同好会(1989) 北摂の蝶
- 79)杠 隆史(1999) 国内蝶類採集情報1999年(4)
ゆずりはクラブ1(5):11
- 80)蝶研出版編集部(1999) 蝶類採集情報(1999.7.
1-8.14) 蝶研サロン(149):31-38
- 81)吉坂道雄(1955) 氷ノ山の蝶類 兵庫生物2
(1/2):27-29
- 82)山本広一(1955) 兵庫県氷ノ山夏の蝶 昆虫同好
会研究報告(1):49-54
- 83)福田晴夫ほか(1983) 原色日本蝶類生態図鑑
保育社 大阪

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)
(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-7)

池田市北部のカレハガ科、イボタガ科、 ヤママユガ科、スズメガ科 木下 修一

前報(1,2)に引き続いて、池田市北部のマンションに飛来した蛾のうちカレハガ科、イボタガ科、ヤママユガ科、スズメガ科の蛾について報告したい。

実は、私は10年ほど前まで、飛んでいる蛾を見ると貧血を起こすほど蛾が嫌いであった。おそらく、子どもの時に学校から「毒蛾」が発生したので気を付けるようにとの通達があって、蛾そのものがこわくなったことが原因であろう。その影響は蛾を調べ始めた最近になっても残っており、今回紹介するような大型の蛾はいまだに怖くてしようがない。そのため、ヤママユ、クスサン、オオシモフリスズメなど主だった蛾は目撃するだけでなかなか捕まえることができないでいる。これらの蛾は昆虫展などを催すときには目玉となる種なので、なんとか今年中には標本づくりをしたいと考えているがどうなることであらうか。

いずれにしても、これらの大型の蛾は目立つので、季節の移り変わりを見るのに都合がよい。短い時期に集中して発生するヤママユ、ヒメヤママユなどの初見日のこの7年ほどのデータを表1に載せてみた。時期的にはかなり一定しているが、年によってばらつきも見られ、他の指標などと比べてみると面白いかも知れない。

表1 主なヤママユガ科の初見日

	ヤママユ	ヒメヤママユ
1993	8月14日	
1994	8月8日	10月27日
1995	8月9日	10月21日
1996	8月3日	10月27日
1997	8月1日	10月19日
1998	7月12日	10月31日
1999	7月25日	10月30日

マンションで採集・目撃された種のリストを次の目録に示す。また、月別・年別の発生個体数を表2に示した。今回取り上げた4科ではヤママユ、ヒメヤママユ、モモスズメ、タケカレハ、オオミズアオ、ウンモンズズメの順に個体数が多い。オオミズアオなどの日中野外で見る機会の多い種が今回大変少なくなっているのは観察方法の違いによるものだろう。

目録ではCat.は蛾類大図鑑の番号に対応している。

採集目録

LASIOCAMPIDAE カレハガ科

- 1) *Gastropacha orientalis* Sheljuzhko
Cat. 2964 カレハガ
(20.IX.1998 1♀)
- 2) *Euthrix albomaculata* (Bremer)
Cat. 2970 タケカレハ
(10.V.1996 1♂, 9.VII.1996 1♂, 26.VIII.1997 1♂)
- 3) *Odonestis pruni* (Linnaeus)
Cat. 2974 リンゴカレハ
(30.V.1998 1♂, 14.VI.1999 1♀)
- 4) *Dendrolimus spectabilis* (Butler)
Cat. 2975 マツカレハ
(27.IX.1997 1♂, 25.IX.1997 1♂, 11.IX.1998 1♂)
- 5) *Kunugia undans* (Walker)
Cat. 2977 クヌギカレハ
(19.V.1996 1♂)
- 6) *Kunugia yamadai* Nagano
Cat. 2978 ヤマダカレハ
(30.X.1999 1♂)
- 7) *Poecilocampa tamanukii* Matsumura
Cat. 2980 ウスズミカレハ
(15.XII.1996 1♀, 20.XII.1997 1♂)
- 8) *Malacosoma neustria* (Linnaeus)
Cat. 2981 オビカレハ
(10.VI.1997 1♂, 5.VI.1999 1♂)

BRAHMAEIDAE イボタガ科

- 1) *Brahmaea japonica* Butler
Cat. 2988 イボタガ
(20.IV.1996 1ex.)

DATURNIIDAE ヤママユガ科

- 1) *Samia cynthia* (Drury)
Cat. 2990 シンジュサン

- (8.VIII.1998 1♂)
 2) *Antheraea yamamai* (Guerin-Meneville)
 Cat. 2991 ヤママユ
 3) *Saturnia japonica* (Moore)
 Cat. 2993 クスサン
 4) *Rhodinia fugax* (Butler)
 Cat. 2994 ウスタビガ
 (2.XI.1996 1♂, 3.XI.1996 1♀)
 5) *Saturnia jonasii* (Butler)
 Cat. 2996 ヒメヤマママユ
 (27.X.1996 1♂)
 6) *Actias artemis* (Bremer & Grey)
 Cat. 2998 オオミズアオ
 (16.VIII.1997 1♂)
 7) *Aglia japonica* Leech
 Cat. 3000 エゾヨツメ
 (24.IV.1996 1♂)

SPHINGIDAE スズメガ科

- 1) *Agrilus convolvuli* (Linnaeus)
 Cat. 3001 エビガラスズメ
 (30.IX.1998 1♀)
 2) *Psilogamma increta* (Walker)
 Cat. 3005 シモフリズズメ
 (8.VIII.1995 目撃, 8.VIII.1995 目撃)
 3) *Sphinx caliginea* Butler
 Cat. 3009 クロスズメ
 (23.IX.1995 目撃)
 4) *Dolbina tancrei* Staudinger
 Cat. 3010 サザナミスズメ
 (18.VIII.1997 1♂)
 5) *Ambulyx ochracea* Butler
 Cat. 3016 ホソバスズメ
 (18.V.1996 目撃)
 6) *Clanis bilineata* (Walker)
 Cat. 3018 トビイロスズメ
 (1.VIII.1997 1♀)
 7) *Marumba gaschkewitschii* (Bremer & Grey)
 Cat. 3020 モモズズメ
 (27.V.1997 1♂)
 8) *Marumba sperchius* (Menetries)
 Cat. 3023 クチバスズメ
 (7.VI.1996 1♂)
 9) *Langia zenzeroides* Moore
 Cat. 3024 オオシモフリズズメ
 (14.IV.1999 など目撃)
 10) *Callambulyx tatarinovi* (Bremer & Grey)
 Cat. 3027 ウンモンズズメ
 (19.V.1996 1♂)
 11) *Smerinthus tokyonis* Matsumura
 Cat. 3029 コウチズズメ
 (7.VI.1997 1♂, 12.VIII.1996 1♂, 18.V.1999 1♀)
 12) *Smerinthus planus* Walker
 Cat. 3030 ウチズズメ
 (5.VI.1996 1♀)
 13) *Cephonodes hylas* (Linnaeus)
 Cat. 3036 オオスカシバ
 (15.VIII.1998 1♂)
 14) *Acosmeryx castanea* Rothschild & Jordan
 Cat. 3041 ブドウズズメ
 (21.V.1997 1♂)
 15) *Neogurelca himachala* (Butler)
 Cat. 3042 ホシヒメホウジャク
 (8.X.1996 1♀, 3.XI.1996 1♂)
 16) *Macroglossum stellatarum* (Linnaeus)
 Cat. 3043 ホウジャク
 (2.X.1996 1♂, 14.XI.1996 1♂)
 17) *Macroglossum pyrrhosticta* Butler
 Cat. 3045 ホシホウジャク
 (31.VII.1996 1♂)
 18) *Theretra nessus* (Drury)
 Cat. 3061 キイロスズメ
 (25.IX.1996 1♀)
 19) *Theretra japonica* (Boisduval)
 Cat. 3065 コスズメ
 (13.V.1996 1♀)
 20) *Theretra oldenlandiae* (Fabricius)
 Cat. 3066 セスジズズメ
 (26.VIII.1997 1♂)
 21) *Rhagastis mongoliana* (Butler)
 Cat. 3069 ピロードズズメ
 (28.VI.1996 1♂, 12.VII.1997 1♀)

<参考文献>

- 1) 木下修一(1999) 池田市北部のキリガ類
 きべりはむし27(1): 16-21.
 2) 木下修一(1999) 池田市北部のシャチホコガ科
 きべりはむし27(2): 42-46.

(KINOSHITA SHUICHI 池田市伏尾台5-1-5-901)

表2 1995年～1999年に池田市北部で観察されたカレハガ科、イボタガ科、ヤママユガ科、スズメガ科の月別、年別個体数

月/年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	1995	1996	1997	1998	1999
カレハガ									1				1				1	
タケカレハ					1	3	1	2	20	1			28		2	3	8	15
リンゴカレハ					1	1			1	1			4	2			1	
マツカレハ									3	1			4	1		2	1	
クヌギカレハ										5	1		6	1	3		1	1
ヤマダカレハ										1			1					1
ウスズミカレハ												5	5	1	1	3		
オビカレハ						2							2			1		1
計	0	0	0	0	2	6	1	2	25	9	1	5	51	5	6	9	12	19
イボタガ			1	1									2		1	1		
計	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0
シンジュサン						2		5					7	1			4	2
ヤママユ							4	36	26				66	7	8	22	17	12
クスサン									1	3			4			2	1	1
ウスタビガ											6		6	3	2	1		
ヒメヤママユ							1			7	24		32	2	6	11	5	8
オオミスアオ				1	6	4	2	14	1				28	4	1	5	12	6
エソヨツメ			2	5									7		2		2	3
計	0	0	2	6	6	6	7	55	28	10	30	0	150	17	19	41	41	32
エビガラスズメ									1	1			2				1	1
シモフリスズメ								2					2	2				
クロスズメ									1				1	1				
サザナミスズメ				2	1		1	6	5				15	6		1	4	4
ホソバスズメ					1								1		1			
トビイロスズメ							1	2					3	1		2		
モモスズメ					4	18	21	5		1			49	10	14	11	5	9
クチバスズメ						3	3	2					8	4	2			2
オオシモフリスズメ				6									6	2	1	1		2
ウンモンズズメ					6	3	4	8	2				23	5	6	3	5	4
コウチズズメ					1	2		1					4		1	1		2
ウチズズメ						1				1			2	1	1			
オオスカシバ								1					1				1	
ブドウズズメ					1								1			1		
ホシヒメホウジャク							1		4	3	3		11	1	3	4	3	
ホウジャク							1			3	3		7	1	2	3	1	
ホシホウジャク							1						1		1			
キイロスズメ									2	1			3	2	1			
コスズメ					4	1	1	1	5	1			13	3	2	4	3	1
セスジズズメ								1					1			1		
ヒロードズズメ						1	2		1				4		2	1		1
計	0	0	0	8	18	29	36	29	21	11	6	0	158	39	37	33	23	26

兵庫県のモンヤガ亜科

兵庫県産蛾類分布資料・16

高島 昭

兵庫県のヤガについてこれまでウスベリケンモン亜科からタバコガ亜科まで順次まとめたが、今回はモンヤガ亜科について報告する。掲載した記録は1999年12月31日現在で入手できた資料に基づいた。記載方法は前報に準じる。なお、本稿を草するにあたり山本義丸氏に数多くの御助言をいただいた。御礼申し上げる。

<モンヤガ亜科 NOCTUINAE>

モンヤガ亜科は北半球の内陸草原によく発達した一群でアフリカにも固有の属を産するという。東北アジアの種群はユーラシアとの共通属が多いという。

冷温帯性の種が多く、日本では69種が知られている。そのうち兵庫県からは31種が記録されている(1999年12月31日現在)が、そのうちクロヤガについては記録に疑問があり、本県に確実に分布していることが確認されるまで保留したい。したがって本稿では30種を県産モンヤガとして掲載する。

地域別に見ると、神戸市15種、阪神北摂22種、中東播南部9種、中東播北部20種、西播南部18種、西播北部20種、南但19種、北但11種、丹波18種、淡路北部8種、淡路南部19種であり、調査密度が高いと思われる地域は凡そ20種前後が確認されている(第1表参照)。

モンヤガ亜科の蛾は広範囲に普遍的に分布する種が多く、蒐集家にとっては面白味に欠ける種群であり、あまり積極的に採集されていない可能性がある。

種類数が少ない地域は今後の調査如何で20種前後の棲息が確認できると思われる。

一方、この仲間は冷温帯性の種群を多く含み、兵庫県のような暖地では、分布の南限域にあたり局地的な分布傾向を示す種もいくつかある。また、本来日本に土着していないが最近日本に侵入してきた種もある。ホソアオバヤガ、オオホソアオバヤガ、アカマエヤガ、ニセタマナヤガ、ウスアカヤガ、ミヤマアカヤガ、モンキヤガ、オオアオバヤガはその例であり、兵庫県では採集記録が少なく注目種である。

とくにホソバヤガ、オオホソバヤガは最近の記録がなく確認が必要である。また、キマエヤガ、ホシ

ボシヤガ、ナカグロヤガ、タンボヤガは兵庫県からは記録がないものの、近県で記録があったり分布域に入っている種で、今後の調査によって兵庫県から見つかる可能性がある。

1. *Euxoa sibirica* (Boisduval) (3484)

ウスグロヤガ

トビイロヤガとも呼ばれる。北海道から九州にかけて分布するが、温帯性の種であるため西南日本では少ない。低標高地で発生したものは夏期には山地へ移動して越夏することが知られている。県下では黒田庄町、波賀町、柏原町、南淡町で散発的に得られているが少ない。

[採集記録]

黒田庄町(喜多,15.X.1959,1ex.,岡本清²⁴)

波賀町(引原,25.VII.1988,1♂,高島昭³²)

柏原町(柏原,27.VI.1949,1♀,山本義丸⁵²)

南淡町(阿万上町,-.V.1958,-; -.IX.1958,-,藤平明¹:同,18.VII.1998,-,藤平明³)

2. *Agrotis ipsilon* (Hufnagel) (3488)

タマナヤガ

汎世界種として著名で、各種農作物の害虫としてしばしば問題となる。移動性があることで知られている。日本では北海道を除く全域で採集例がある。温暖地では3~11月にかけて出現する。県下では北但地域を除く各地で記録があり、耕作地周辺に普通である。北但地域は記録漏れによるものと思われる。普遍的に分布すると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-.-.-,田中蕃³⁹:同,-.-.-,岡村八郎⁴⁶)

宝塚市(武庫川町,31.VIII.1979,-,新家勝³³)

川西市(黒川,5.VII.1997,1♀,高島昭³⁷)

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♀; 21.VII.1982,1♂; 12.VIII.1982,1♂1♀; 20.VIII.1982,1♂,夏秋ほか⁹)

黒田庄町(喜多,15.XI.1960,1ex.,岡本清²⁴)

大河内町(砥峰高原,12.X.1999,1♂,高島昭:長曾,29.X.1999,1♂,高島昭)

波賀町(引原,29.VI.1974,1♂; 11.X.1975,1♂; 22.X.1975,1♀; 6.XII.1975,1♂1♀,遊磨正秀⁵⁴; 同,27.III.1988,1♀,高島昭³²; 坂の谷,12.VIII.1998,1♂,高島昭)
 相生市(瓜生,24.V.1989,1♀,高島昭³³)
 上郡町(船坂,4.X.1997,1♂,高島昭; 同,23.X.1997,2♂,高島昭)
 三日月町(下本郷,-.VIII.1983,-,川副昭人⁶)
 和田山町(久世田,20.XII.1998,1ex.,柴田剛)
 氷上郡(-,-,-,-,-,山本義丸⁶⁹)
 津名町(大町畑,1.VII.1972,1♂; 6.VII.1972,1♀,登日邦明⁴¹)
 三原町(八木養宜,21.IX.1991,-,藤富正昭⁴)
 南淡町(阿万上町,19.IV.1974,-,藤平明²; 同,10.XII.1987,-; 22.IX.1994,-,藤平明³)

3. *Agrotis tokionis* Butler (3490)

オオカブラヤガ

東北地方から九州、対馬にかけて分布し、年1回10月頃に成虫が現れる。県下での記録は少なく、現在のところ宝塚市、黒田庄町、南淡町で知られているのみである。発生時期が遅いため調査が不十分なものと思われるが、局地的な分布をする種かもしれない。大阪府では箕面公園で記録がある(山本,1996)。

【採集記録】

宝塚市(南口2丁目,10.XI.1983,-,新家勝¹⁸)
 黒田庄町(喜多,-.X.1958,1ex.; 17.X.1960,2exs.,岡本清²⁴)
 南淡町(阿万上町,22.X.1958,-,藤平明¹)

4. *Agrotis segetum* (Denis & Schiffermüller)

(3493) カブラヤガ

屋久島以北の日本全域に分布し、アブラナ科野菜を始め各種作物の害虫として著名である。春と夏から秋にかけて出現し、耕作地周辺で多く見かける。

県下では各地にごく普通である。

【採集記録】

神戸市(六甲山,-.-.1933,-,堀江聡男⁴⁵; 摩耶山,-.-.-,田中蕃³⁹; 同,-.-.-,-,岡村八郎²⁶)
 尼崎市(南塚口町,3.VI.1982,1♂,夏秋優¹¹)
 西宮市(上霞原町,24.VII.1968,1♂,東正雄³¹)
 宝塚市(武庫川町,31.VIII.1979,-,新家勝¹³; 翌天寺,2.XII.1986,1♀,東正雄³¹; 光明町,17.VIII.1988,-; 4.IX.1988,-,新家勝³¹)
 川西市(黒川,10.VIII.1996,1♂; 12.X.1996,1♂; 3.V.

1997,1♂,高島昭³⁷)
 猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,1♀,夏秋ほか⁸)
 黒田庄町(喜多,1.IV.1959,1ex.; 15.IV.1959,1ex.; 27.IV.1959,1ex.; 15.VII.1959,1ex.; 19.IV.1960,1ex.; 27.IV.1960,1ex.; 6.V.1960,1ex.; 26.V.1960,1ex.; 18.VII.1960,1ex.,岡本清²⁴)
 姫路市(書写台,15.XI.1988,1♂,高島昭; 広嶺山,-.-.1982,-,木村三郎⁷; 同,13.V.1982,1♀,相坂耕作; 太市,-.-.1991,-,丸谷ほか¹²; 同,6.V.1995,1♂,高島昭)
 波賀町(引原,6.V.1974,1♂,遊磨正秀⁵⁴; 同,24.III.1988,1♂; 29.VII.1988,1♂,高島昭³²)
 相生市(瓜生,29.V.1997,1♂,高島昭³⁸)
 上郡町(行頭,25.IV.1996,1♂,高島昭³⁴)
 三日月町(下本郷,-.IV.-,-; -.VI.-,-; -.VII.1983,-; -.IX.-,-,川副昭人⁶)
 豊岡市(正法寺,15.XI.1998,1ex.,柴田剛)
 水ノ山(-.-.-,-,遠山ほか²⁸)
 氷上郡(-.-.-,-,山本義丸⁶⁹)
 津名町(大町畑,3.V.1972,1♂1♀; 5.V.1972,1♀,登日邦明⁴²)
 洲本市(厚浜,3.III.1980,-,藤富正昭⁴; 宇山,19.VII.1980,1ex.,林俊雅⁵; 三熊山,6.VI.1981,1ex.,西岡公明²²)
 三原町(八木養宜,12.IV.1992,-,藤富正昭⁴)
 南淡町(-.-.IV~V.-,-; -.IX~X.-,-,藤平明¹; 阿万上町,25.IX.1958,-; 17.IV.1968,-; 17.III.1987,-,藤平明²; 同,25.IV.1995,-,藤平明³; 灘黒岩,29.VI.1997,-,藤平明³)

5. *Actebia praecox* (Linnaeus) (3496)

ホソアオバヤガ 注目種

前翅は幅狭く淡い灰緑色、環状紋は円形で核は紫赤色をしており、亜外縁部にも同色の帯を表す。北海道から九州に至る本土域に産する。年1回6~7月に現れ、9月まで見られる。盛夏には越夏休眠を行うとされる。県下では波賀町引原で得られた1例しか記録がなく、詳しい分布状況はわからない。

【採集記録】

波賀町(引原,29.VI.1974,1♂,遊磨正秀⁵⁴)

6. *Actebia praecurrens* (Staudinger) (3497)

オオホソアオバヤガ 注目種

前種と似るが、前翅はいっそう濃い灰緑色で、環・腎状紋も大きく斑紋は鮮明で、亜外縁部の紫赤色帯は幅広いことで区別できる。おそらく年1化で前

種と同様の周年経過をたどると思われる。県下での記録は少なく神戸市と黒田庄町で記録があるのみである。

【採集記録】

神戸市(有馬,21.VII.1960,-,森 博²⁷)

黒田庄町(喜多,29.IX.1959,lex.,岡本清²⁴)

7. *Ochropleura plecta* (Linnaeus) (3499)

マエジロヤガ

前翅は赤紫色ないし濃い紫褐色で変異が大きい。前縁部は灰黄色、後翅は黄白色で識別は容易である。

北海道から九州北部にかけて分布している。年2回の発生である。県下ではやや産地が限られているが、北摂地域では比較的記録地が多い。県下の低山地を中心に分布は広いと思われる。現在のところ北但、淡路地域からは記録がない。

【採集記録】

宝塚市(武庫川町,5.IX.1984,-,新家勝¹⁷)

川西市(黒川,18.V.1996,1♂,高島昭³⁷)

猪名川町(上阿古谷,1.IX.1982,3♂,夏秋ほか⁶)

黒田庄町(喜多,3.IV.1959,lex.; 15.IV.1959,lex.; 30.IV.1959,lex.; 14.VI.1960,lex.; 14.VII.1960,lex.; 12.IV.1961,lex.,岡本清²⁴)

三日月町(下本郷,-.VI.-,-,川副昭人⁶)

大屋町(横河溪谷,15.V.1999,1♀,高島昭)

氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁴⁹)

8. *Hermonassa cecilia* Butler (3504)

ククモヤガ

北海道から九州、対馬、屋久島に分布し、年1回の発生である。5~6月に羽化し越夏休眠した後、秋にも活動する。県下では、各地に普通に見られ個体数も多い。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃³⁹; 同,-,-,-,-,岡村八郎²⁶)

宝塚市(南口2丁目,15.X.1978,-,新家勝¹³; 武庫川町,4.VI.1988,-; 11.X.1988,-,新家勝²¹; 光明町,3.XI.1988,-,新家勝³¹; 西谷西部,28.V.1977,1♀,東正雄³¹)

川西市(黒川,12.X.1996,1♂,高島昭³⁷)

猪名川町(上阿古谷,10.VI.1983,1♀,夏秋ほか⁹)

黒田庄町(喜多,-.X.1958,lex.; 20.X.1959,lex.; 18.V.1960,lex.; 24.V.1960,lex.,岡本清²⁴)

姫路市(広嶺山,13.V.1982,1♂,坂坂耕作; 太市,-.-.1991,-,丸谷ほか¹²)

大河内町(砥峰高原,12.X.1999,1♂,高島昭)

安富町(大河溪谷,21.X.1998,1♂,高島昭; 同,29.V.

1999,1♂,高島昭)

波賀町(引原,4.VII.1973,1♂; 1.VI.1974,1♂; 8.VI.

1974,1♂,遊磨正秀⁵⁴; 同,7.VI.1988,4♀; 7.X.1988,1♀,高島昭³²; 同,21.X.1997,1♀,高島昭; 坂の谷,27.V.1998,1♂,高島昭)

三室山(-.-.-,-,遠山ほか²⁸)

相生市(瓜生,24.V.1989,1♀; 17.VI.1989,1♀,高島昭³³)

上郡町(船坂,23.X.1997,2♂,高島昭; 行頭,2.VI.1995,1♂; 23.VI.1995,1♂,高島昭³⁴)

三日月町(下本郷,-.VI.-,-; -.X.-,-,川副昭人⁶)

豊岡市(山本,2.IV.1973,-,山根政之²⁹; 正法寺,9.XI.1998,lex.,柴田剛)

朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,3♂,遊磨正秀⁵⁵)

氷ノ山(-.-.-,-,遠山ほか²⁸)

関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁷)

氷上郡(-.-.-,-,山本義丸⁴⁹)

南淡町(阿万上町,29.X.1958,-; 7.XI.1958,-,藤平明¹; 福良向谷,2.XI.1996,-,藤平明³; 灘黒岩,30.V.1997,-; 19.V.1998,-,藤平明³)

9. *Spaelotis nipona* (Felder & Rogenhofer)

(3506) アカマエヤガ 注目種

大図鑑では *S. valida* Walker とされていたが種名が変更になった(Honey, M., 1996)。前翅の斑紋にはやや変異がある。ミヤマアカマエヤガという和名もある。北海道から本州中部域までの分布で、近畿地方は西限域となる。年1回、6月頃に発生し、越夏休眠の後秋にも活動することが知られている。幼虫は多食性と思われ、チシマアザミ、アキタブキ、シロツメクサ、アレチノマツヨイグサ、ウラジロタデなどから幼虫が発見されている(小木, 1986)。県下では、黒田庄町と柏原町からの古い記録が残っているだけで、最近の状況はわからない。里山から低山地にかけて分布すると思われるが、おそらく内陸部の盆地に限られていると思われる。

【採集記録】

黒田庄町(喜多,9.VI.1960,lex.; 12.VI.1961,lex.,岡本清²⁴)

柏原町(柏原,18.VI.1949,1♀; 16.VIII.1953,1♂,山本義丸⁵²)

10. *Sineugraphe exusta* (Butler) (3513)

カバスジャガ

前翅の地色には変異が大きい。次種と極めてよく似ているが、外横線の形状(本種ではR₅付近でやや鈍角をなすほかはほぼ平坦で細かい波状とはならない)で区別できる。北海道から九州までの本土域と対馬に産し、6月頃から発生、秋まで見られるが年1回の発生と思われる。県下では、全域で得られているが、とくに但馬地域の山地帯には分布が広いようである。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃³⁹:同,-,-,-,-,岡村八郎²⁶)

宝塚市(南口2丁目,30.VI.1979,-,新家勝¹³:西谷西部,9.VII.1988,1♂1♀;6.VIII.1988,1♀,東正雄³¹)

妙見山(7.VII.1984,1♂4♀,夏秋ほか¹⁰)

黒田庄町(喜多,1.VII.1960,1ex.,岡本清²⁴)

波賀町(引原,4.VII.1973,1♂;5.VII.1973,1♀;22.VII.1974,3♂1♀,遊磨正秀⁵⁴:同,26.IX.1987,1♀;25.VII.1988,1♂;29.VII.1988,1♀;22.IX.1988,1♂,高島昭³²)

三室山(-,-,-,-,遠山ほか²⁸)

三日月町(下本郷,-.VII.1983,-,川副昭人⁶)

豊岡市(山本,29.VII.1973,-,山根政之³⁰)

温泉町(扇ノ山,-,-,-,-,遠山ほか²⁸)

朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,目,遊磨正秀⁵⁵)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,目,遊磨正秀⁵⁶)

水ノ山(-,-,-,-,遠山ほか²⁸)

関宮町(水ノ山,-.1954,-,山本義丸⁴⁷)

鉢伏山(-,-,-,-,遠山ほか²⁸)

水上郡(-,-,-,-,山本義丸⁴⁹)

北淡町(常陸寺山,31.VII.1967,-,登日邦明⁴¹)

南淡町(阿万上町,5.VII.1961,-,藤平明¹)

11. *Sineugrapha bipartita* (Graeser) (3514)

ウスイロカバシヤガ

前種によく似ているが、外横線が全体を通じて細かい波状を示す点、R₅付近で角をなすことがない点で区別できる。また、前翅の地色が明るい灰黄色を示すものや暗色で細かい淡色鱗片を密布する型は本種の固有のものである。北海道から九州にかけて分布するが、前種や次種と比較すると最も冷温帯に偏っているという。県下では各地に分布しているが、全種よりも一般に少ない。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃³⁹:同,-,-,-,-,岡村八郎²⁶)

宝塚市(武庫川町,27.IX.1981,-,新家勝¹⁴)

黒田庄町(喜多,11.VII.1960,2exs.,岡本清²⁴)

姫路市(広嶺山,6.VII.1996,1♂,高島昭³⁵)

波賀町(引原,5.VII.1973,1♂;27.IX.1974,1♀,遊磨正秀⁵⁴:同,29.VII.1988,3♂1♀;22.IX.1988,1♀;7.X.1988,1♀,高島昭³²:坂の谷,12.VIII.1998,1♂2♀,高島昭:同,19.VIII.1998,1♀,高島昭)

三室山(-,-,-,-,遠山ほか²⁸)

大屋町(横行溪谷,15.VII.1999,1♂,高島昭)

水ノ山(-,-,-,-,山本義丸⁵¹:同,-,-,-,-,遠山ほか²⁸)

水上郡(-,-,-,-,山本義丸⁴⁹)

北淡町(常陸寺山,31.VII.1967,-,登日邦明⁴¹:同,7.VII.1972,3♂,登日邦明⁴¹)

津名町(大町畑,1.VII.1972,2♂1♀,登日邦明⁴⁴)

洲本市(中津川,2.VII.1972,1♂,登日邦明⁴²)

12. *Sineugraphe oceanica* (Kardakoff) (3515)

オオカバシヤガ

S. longipennis (Boursin) とされていたがより古い有効名が発見され、種名が変更になった(Kono-nenko et.al.1998)。

外横線は不明瞭な点列となりその外側の暗色帯との間隔は他種よりも広く暗色帯自身も広くなるのが特徴である。東北地方から九州、対馬にかけて分布し、本属中では最も南方系の種であるという。6月から出現し秋まで見られるが年1回の発生とされる。

県下では各地から記録されている。山地帯よりもむしろ平坦地に多い傾向である。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃³⁹)

宝塚市(南口2丁目,15.VII.1981,-,新家勝¹⁴:同,4.VI.1989,-;11.VI.1989,-,新家勝²¹:2.VII.1988,2♂4♀,東正雄³¹)

川西市(黒川,13.VII.1996,2♂;5.VII.1997,1♂,高島昭³⁷)

猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,1♂;20.VIII.1982,3♀,夏秋ほか⁸)

黒田庄町(喜多,11.VII.1960,2exs.,岡本清²⁴)

姫路市(広嶺山,22.VI.1996,1♂1♀;6.VII.1996,1♂,高島昭³⁵:太市,28.VI.1995,1♂,高島昭)

波賀町(引原,16.VII.1988,2♂;25.VII.1988,1♂,高島昭³²:坂の谷,17.VII.1998,1♂,高島昭:同,10.IX.1998,1♂,高島昭)

相生市(瓜生,30.VI.1989,1♂;7.VII.1989,1♀,高島昭³³)

上郡町(行頭,2.VI.1995,1♂,高島昭³⁴)
 三日月町(下本郷,-.VI.1984,-,川副昭人⁶)
 朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁵)
 大屋町(横行溪谷,6.VII.1999,1♂,高島昭:同,20.VIII.
 1999,1♂,高島昭)
 氷ノ山(-.-.-,山本義丸⁵¹)
 氷上郡(-.-.-,山本義丸⁴⁹)
 南淡町(阿万上町,5.VII.1961,-,藤平明³:福良向谷,6.
 VII.1996,-,藤平明³:賀集,28.VI.1995,-,藤平明³
 :灘黒岩,29.VI.1997,-,藤平明³)

13. *Peridroma saucia* (Hübner) (3519)

ニセタマナヤガ 注目種

ほぼ全世界に産する汎世界種で、外見はタマナヤガに似ている。日本では1975年に初めて和歌山県で発見され、その後西日本を中心に記録が見られることから移入種と思われる。早春から晩秋までほぼ周年発生する。県下では、宝塚市と猪名川町で1980年頃に発見され、その後しばらく記録がなかったが最近南淡町で記録されている。県内に定着しているかどうかは不明で、詳しい調査が必要である。

【採集記録】

宝塚市(南口2丁目,9.XI.1980,-,新家勝¹³:30.VI.
 1980,-,新家勝³¹)
 猪名川町(上阿古谷,12.VIII.1982,1♀,夏秋ほか⁸)
 南淡町(賀集,26.VII.1995,-,藤平明³:灘黒岩,29.VI.
 1997,-,藤平明³)

14. *Diarsia deparca* (Butler) (3520)

コウスチャヤガ

日本特産種で、北海道から九州にかけて分布するほか対馬、屋久島でも得られている。多化性と思われる。幼虫は多食性であることが知られている。県下では普通種で、東播地域を除く各地で記録されている。東播地域では記録漏れと思われる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-.-.-,田中蕃³⁹)
 尼崎市(南塚口町,5.V.1983,1♂,夏秋優¹¹)
 宝塚市(南口2丁目,21.V.1989,-,新家勝²¹:武庫川
 町,1.VI.1984,-,新家勝¹⁷:同,11.X.1988,-,新家勝²¹)
 猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,2♀,夏秋ほか⁸)
 波賀町(引原,11.XI.1975,1♂;22.V.1976,1♀,遊磨正
 秀⁵⁴:同,26.V.1988,1♀;7.IX.1988,1♂,高島昭²²
 :同,21.X.1997,1♂,高島昭)
 相生市(瓜生,24.V.1989,1♀,高島昭³³)

上郡町(行頭,2.V.1995,1♂,高島昭³⁴)
 三日月町(下本郷,-.X.1984,-,川副昭人⁶)
 温泉町(扇ノ山,2.VI.1984,1♀,谷田昌也⁴⁰)
 朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁵)
 大屋町(横行溪谷,15.V.1999,1♂,高島昭:同,8.X.1999,
 1♂,高島昭:氷ノ山,1.X.1999,1♂5♀,高島昭)
 氷ノ山(-.-.-,遠山ほか²⁸)
 関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁷)
 氷上郡(-.-.-,山本義丸⁴⁹)
 北淡町(常陸寺山,31.VII.1967,-,登日邦明⁴¹:同,19.
 VIII.1970,1♂,登日邦明⁴³:7.VII.1972,4♂3♀,登日
 邦明⁴¹)

洲本市(物部,28.IV.1981,1ex.,林俊雅⁵)

南淡町(-.-.IV~V.-.-;阿万,-.IX.-.-,藤平明¹:
 阿万上町,22.X.1958,-;14.IV.1961,-,藤平明²:同,
 6.V.1972,3♂1♀,登日邦明⁴²:同,6.V.1986,-,藤平
 明³:灘大川,6.V.1986,-;30.III.1994,-,藤平明:
 福良向谷,10.X.1996,-;21.X.1997,-,藤平明³:灘
 黒岩,4.V.1997,-;29.VI.1997,-;29.VI.1998,-;
 11.X.1998,-,藤平明³)

15. *Diarsia canescens* (Butler) (3522)

オオバコヤガ

前翅の色彩は変化が大きい。北海道から九州、対馬、屋久島に分布する普通種。年2回の発生であることが知られている。県下各地にごく普通に産する。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-.-.-,岡村八郎²⁶:観防山公園,
 -.X.1988,-,山口福男⁴⁶:有馬,12.X.1942,1♂,東正
 雄³¹)
 尼崎市(-,21.IX.1949,-,新家勝²⁰:南塚口町,10.V.
 1982,1♂;12.V.1982,1♂;23.V.1982,1♀,夏秋優¹¹)
 宝塚市(南口2丁目,21.V.1979,-,新家勝¹³:同,21.V.
 1989,-,新家勝²¹:武庫川町,6.V.1988,2exs.,新家
 勝²¹:西谷西部,14.V.1977,1♂;9.X.1987,1♀,東正
 雄³¹)
 川西市(黒川,18.V.1996,1♂1♀;12.X.1996,1♂;3.V.
 1997,1♂,高島昭³⁷)
 黒田庄町(喜多,2.V.1959,1ex.;4.V.1959,1ex.;9.V.
 1959,1ex.;28.IX.1959,1ex.;12.VII.1960,1ex.;3.X.
 1960,2exs.,岡本浩²⁴)
 姫路市(太市,-.-.1991,-,丸谷ほか¹²)
 大河内町(砥峰高原,12.X.1999,2♂,高島昭)
 安富町(大河溪谷,21.X.1998,1♂,高島昭:同,7.V.1999,
 1♂,高島昭)

波賀町(引原,18.V.1974,2♂; 27.IX.1974,1♂; 2.VI.1975,1♂; 11.XI.1975,2♂7♀; 22.XI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁴; 同,26.IX.1987,2exs.; 16.V.1988,1♂; 18.VI.1988,1♀; 1.X.1988,2♂; 7.X.1988,2♂1♀; 19.X.1988,1♂1♀,高島昭³²; 同,24.IV.1998,1♂,高島昭:坂の谷,28.IV.1998,1♂,高島昭:同,5.VI.1998,1♂,高島昭:同,坂の谷,17.VII.1998,1♂,高島昭:同,24.VII.1998,1♂,高島昭)
 相生市(瓜生,24.V.1989,1♀,高島昭³³)
 上郡町(船坂,4.X.1997,1♂,高島昭:同,23.X.1997,1♂,高島昭:行頭,15.V.1995,1♂; 26.V.1995,1♂,高島昭³⁴)
 豊岡市(幸町,28.X.1988,1♂,近藤伸一:正法寺,22.X.1998,1ex.,柴田剛)
 大屋町(横行溪谷,8.V.1999,1♂,高島昭:同,9.X.1999,1♂,高島昭:氷ノ山,1.X.1999,2♂,高島昭)
 関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁷)
 氷上郡(-.-.-.-,山本義丸⁴⁹)
 津名町(大町畑,3.V.1972,2♂; 5.V.1972,3♀,登日邦明⁴²)
 洲本市(中津川,4.V.1972,1♂,登日邦明⁴²)
 南淡町(阿万上町,29.IV.1959,-; 12.V.1972,-,藤平明¹:同,6.V.1972,4♂3♀,登日邦明⁴²:同,8.X.1994,-; 25.IV.1995,-,藤平明³:灘黒岩,11.X.1998,-,藤平明³)

16. *Diarsia albipennis* (Butler) (3523)

ウスアカヤガ 注目種

暖温帯性の種で、宮城県付近を北限とし、九州、屋久島まで分布する。産出はやや局地的で少ない種である。年2回の発生で、初夏と秋に出現する。県下では宝塚市猪倉峠での1採集例があるのみでその他の報告はない。低山地を中心にほかにも分布しているかもしれない。近隣では大阪府箕面市で記録がある(山本,1990)。

【採集記録】

宝塚市(猪倉峠,28.V.1977,1♂,東正雄³¹)

17. *Diarsia brunnea* (Denis & Schiffermüller)

(3524) ミヤマアカヤガ 注目種

ユーラシア種で、冷温帯性である。北海道から関東中部山地一帯に優勢で、西は岡山県、四国剣山まで分布している。年1回、7~8月に発生する。県下では氷ノ山周辺の山地帯と南淡町での記録があるが、本来山地性の種であること、採集時期が10月とかなり遅いことなど淡路南部での記録は確認が必

要と思われる。その他の分布状況は詳しくわかっていないが、播磨から但馬の山地には広く分布すると思われる。かつてシロテンヤガとして記録されたものは本種である。

【採集記録】

波賀町(坂の谷,31.VII.1998,1♂1♀,高島昭)
 大屋町(横行溪谷,23.VII.195,1♀,山本義丸⁵⁰)
 関宮町(氷ノ山,22.VII.1958,1♂,山本義丸)
 南淡町(阿万上町,22.X.1958,-,藤平明¹)

18. *Diarsia dewitzi* (Graeser) (3525)

モンキヤガ 注目種

温帯性の種で、北海道から九州、屋久島にかけて分布するが、西南日本ではかなりの高標高地に限られるという。年1回、7~8月に出現する。県下では氷ノ山で得られた1例が知られるだけで、局地的で少ない種と思われるが、西播磨から但馬にかけての山地帯では広く分布していると思われる。

【採集記録】

関宮町(氷ノ山,-.-.1955,3♂,山本義丸⁴⁸)

19. *Diarsia pacifica* Boursin (3527)

アカフヤガ

日本特産種で北海道から九州、屋久島にかけて分布する。次種によく似ているが、前縁部から腎状紋を覆う赤色影は本種の特徴である。そのほか、前縁端は丸味が少なく、外縁はほぼ垂直、亜外縁線は淡色で両側は暗色条で縁取られることなどで区別できる。年2回、春と初秋に発生する。食草はフキであることが知られている。県下では全域で記録があるものの、近縁の次種に比べてやや局地的で少ないようである。

【採集記録】

宝塚市(武庫川町,7.IX.1979,-,新家勝¹³)
 黒田庄町(喜多,19.IV.1960,2exs.; 13.IX.1960,1ex.; 21.VI.1962,1ex.,岡本清²⁴)
 波賀町(坂の谷,10.IX.1998,1♂,高島昭)
 三日月町(下本郷,-.X.1984,-,川副昭人⁶)
 温泉町(扇ノ山,2.VI.1984,1♂,谷田昌也⁴⁰)
 大屋町(横行溪谷,15.V.1999,2♂,高島昭:同,25.VI.1999,1♂,高島昭)
 関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁷)
 氷上郡(-.-.-.-,山本義丸⁴⁹)
 南淡町(阿万上町,30.IV.1960,-; -X.1960,-,藤平明¹:賀集,5.X.1994,-,藤平明³:灘黒岩,19.V.1998,-,藤平明³)

20. *Diarsia ruficauda* (Warren) (3528)

ウスイロアカフヤガ

一般に前種よりも暗い紫赤色を呈し、とくに翅頂付近で紫灰色を残すことが多い。その他、前種よりも翅頂端は丸味が強く、亜外縁線は不規則に屈曲し、その内方は翅表の暗赤色部に接する。外横線の後半部に暗色の二重の小点列を有することが多い。北海道から九州にかけて分布し、年2回、初夏と初秋の発生である。県下では各地に普通に見られる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-.-.-,-,田中蕃³⁹:同,-.-.-,-,岡村八郎²⁶)
 宝塚市(南口2丁目,14.IV.1989,-,新家勝²¹:武庫川町,6.VII.1981,-,新家勝¹⁴:武田尾,8.VII.1991,1♂,東正雄³¹)
 川西市(黒川,13.VII.1996,1♂,高島昭³⁷)
 猪名川町(上阿古谷,1.IX.1982,1♀,夏秋ほか⁸)
 黒田庄町(喜多,21.IV.1959,1ex.; 9.IV.1960,1ex.; 1.VII.1960,1ex.,岡本清²⁴)
 姫路市(西庄,13.V.1982,1♂,相坂耕作:広嶺山,6.VII.1996,1♂1♀,高島昭³⁵)
 波賀町(引原,4.VII.1973,1♂; 5.VII.1973,1♂; 5.V.1974,1♂; 27.IX.1974,1♂,遊磨正秀⁵⁴:同,16.VII.1988,1♂; 7.IX.1988,1♂,高島昭³²:坂の谷,15.V.1998,1♂,高島昭:同,12.VI.1998,1♂,高島昭:同,17.VII.1998,1♂,高島昭)
 三室山(-.-.-,-,遠山ほか²⁸)
 相生市(瓜生,23.VI.1989,1♀,高島昭³³)
 上郡町(船坂,4.X.1997,1♂,高島昭:同,8.IV.1998,1♀,高島昭:行頭,2.V.1995,1♂,高島昭³⁴)
 三日月町(下本郷,-.IV.-,-;- .VII.1983,-;- .V.1984,-,川副昭人⁶)
 朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,目,遊磨正秀⁵⁵)
 水ノ山(-.-.-,-,遠山ほか²⁸)
 氷上郡(-.-.-,-,山本義丸⁴⁹)
 北淡町(常陸寺山,5.VIII.1972,1♂,登日邦明⁴⁴)
 南淡町(阿万上町,6.V.1972,1♀,登日邦明⁴²:同,18.VI.1973,-,藤平明¹:同,22.IV.1985,-,藤平明²)

21. *Xestia c-nigrum* (Linnaeus) (3535)

シロモンヤガ

北海道から九州に至る本土域と対馬に産する。年2~3回の発生であることが知られている。幼虫は多食性で、農作物に被害を及ぼすこともある。県下では、東播地域を除く各地に普通に見られ、耕作地周辺に多いが山地にも見られる。東播地域にも普通

に産すると思われる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-.-.-,-,田中蕃³⁹:同,-.-.-,-,岡村八郎²⁶)
 西宮市(中浜町,20.V.1976,1♀,東正雄³¹)
 宝塚市(南口2丁目,18.V.1988,2exs.,新家勝²¹:武庫川町,22.V.1979,-,新家勝¹³:同,6.VI.1985,-,新家勝¹⁹:西谷西部,14.V.1977,1♀; 24.IX.1977,1♂,東正雄³¹)
 川西市(黒川,7.IX.1996,1♀; 20.IX.1997,1♂,高島昭³⁷)
 猪名川町(上阿古谷,20.VIII.1982,1♂; 1.IX.1982,1♂,夏秋ほか⁸)
 波賀町(引原,18.V.1974,1♀; 8.VI.1974,2♀; 2.VI.1975,1♀; 22.V.1976,2♂,遊磨正秀⁵⁴:同,26.V.1988,1♀; 7.VI.1988,1♀; 26.VI.1988,1♀; 17.IX.1988,1♂,高島昭³²:坂の谷,15.V.1998,1♀,高島昭:同,12.VIII.1998,1♂,高島昭)
 上郡町(船坂,4.X.1997,1♀,高島昭)
 三日月町(下本郷,-.VI.-,-,川副昭人⁶)
 朝来町(須留ヶ峰,9.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁵)
 大屋町(横河溪谷,28.V.1999,1♂,高島昭:同,4.VI.1999,1♂,高島昭:同,25.VI.1999,1♂,高島昭)
 水ノ山(-.-.-,-,遠山ほか²⁸)
 関宮町(水ノ山,-.-.1954,-,山本義丸⁴⁹)
 氷上郡(-.-.-,-,山本義丸⁴⁹)
 南淡町(阿万上町,3.V.1973,-; 5.VI.1973,-,藤平明¹:同,16.X.1984,-,藤平明³:灘黒岩,30.V.1997,-; 19.V.1998,-,藤平明³)

22. *Xestia fuscostigma* (Bremer) (3537)

クロフトビロヤガ

斑紋はややタンポヤガに似るが、前翅翅型は短く幅広く、暗い紫褐色を呈する。北海道から本州に分布する。西限は岡山県といわれていたが、近年、広島や山口でも記録されている。年1回の発生で8月に出現し、秋まで見られる。幼虫は雑食性であるという(小木,1990)。県下での記録は少なく、川西市、大河内町、上郡町、波賀町で記録されているだけであるが、詳しく調査すれば産地はもっと確認できると思う。

【採集記録】

川西市(黒川,20.IX.1997,1♂,高島昭³⁷)
 大河内町(砥峰高原,12.X.1999,1♂,高島昭)
 波賀町(引原,27.IX.1974,1♂,遊磨正秀⁵⁴:同,1.X.1988,1♀,高島昭³²:坂の谷,10.IX.1998,1♂,高島

昭)

上郡町(船坂,23.X.1997,1♂,高島昭³⁶⁾)

23. *Xestia kollari* (Lederer) (3538)

ハコベヤガ

前翅の中央部は赤褐色を帯び、環状紋及び腎状紋も赤紫色を呈する。外横線付近は紫白色を呈する。

北海道から九州、対馬にかけて分布し、年1回の発生で8~10月に見られる。県下では広く分布するものの少なく、神戸市、能勢妙見山、波賀町、豊岡市、青垣町から報告されているだけである。東播地域でも発見されると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃³⁹⁾:同,-,-,-,-,岡村八郎²⁶⁾)

妙見山(26.VIII.1983,1♀; 29.VIII.1983,1♀,夏秋ほか¹⁰⁾)

波賀町(引原,11.IX.1979,1♂,相坂耕作:同,26.IX.

1987,1ex.; 1.X.1988,1♀,高島昭³²⁾)

豊岡市(山本,26.V.1973,-,-,山根政之³⁰⁾)

青垣町(神楽,-,-,-,-,山本義丸⁵²⁾)

24. *Xestia stupenda* (Butler) (3539)

マエキヤガ

前翅前縁は幅広く黄白色を呈する。北海道から九州、対馬にかけて分布するが、本属のなかではやや暖温帯性の種で、西南日本でも普通に見られる。年1回秋に出現する。県下では、南部の平地から里山にかけて普通に見られる。

[採集記録]

神戸市(有馬,21.IX.1960,-,-,森博²⁷⁾:同,28.IX.1992,1♂,東正雄³¹⁾)

宝塚市(南口2丁目,28.X.1983,-,-,新家勝¹⁶⁾:西谷西部,24.IX.1977,1♂; 13.X.1979,1♂; 19.IX.1987,3♂; 17.IX.1988,1♂; 17.IX.1989,2♂,東正雄³¹⁾)

川西市(黒川,20.IX.1997,1♂,高島昭³⁷⁾)

猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,1♂; 20.VIII.1982,1♂,夏秋ほか⁸⁾)

高砂市(-,-,30.X.1964,1ex.,岡本清²³⁾)

黒田庄町(喜多,25.IX.1959,1ex.; 1.X.1959,1ex.; 4.X.1962,1ex.,岡本清²⁴⁾)

上郡町(船坂,4.X.1997,1♀,高島昭)

三日月町(下本郷,-,-,IX,-,-;-IX.1984,-,-,川副昭人⁶⁾)

南淡町(阿万上町,24.IX.1958,-,-,藤平明¹⁾:同,4.X.

1985,-,-,藤平明²⁾:同,9.X.1990,-,-,藤平明³⁾)

25. *Xestia dilatata* (Butler) (3540)

ウスチャヤガ

胸背の冠毛は背中後で稜を形成する。前翅は暗い紫灰色でやや赤褐色を混ずる。東北地方以南の本土域と対馬に分布し、年1回、秋に出現する。県下では前種と同様南部の平地に見られるが、やや前種に比べると少ないようである。

[採集記録]

神戸市(諏訪山公園,-,-,X.1990,-,-,山口福男⁴⁶⁾)

尼崎市(南塚口町,31.X.1987,1♀,夏秋優¹¹⁾)

西宮市(仁川,21.X.1969,1♂,遊磨正秀⁵³⁾:生瀬,20.X.1971,1♂,遊磨正秀⁵³⁾)

宝塚市(宝梅1,28.X.1988,1♂,東正雄³¹⁾:西谷西部,28.X.1979,1♂,東正雄³¹⁾)

川西市(黒川,11.X.1997,1♂,近藤伸一³⁷⁾)

高砂市(-,-,20.X.1964,1ex.,岡本清²³⁾)

黒田庄町(喜多,-,-,X.1958,1ex.; 5.X.1959,1ex.; 17.X.1960,1ex.,岡本清²⁴⁾)

姫路市(太市,-,-,1991,-,-,丸谷ほか¹²⁾)

三日月町(下本郷,-,-,IX,-,-;-IX.1984,-,-;-X.1984,-,-,川副昭人⁶⁾)

南淡町(阿万上町,11.XI.1961,-,-,藤平明¹⁾:同,20.XI.1991,-,-,藤平明³⁾)

26. *Xestia efflorescens* (Butler) (3542)

キシタミドリヤガ

北海道から九州、対馬にかけて分布し、産出はほぼ普遍的である。年1回、7~9月に出現する。県下では、淡路地域を除く各地に普通である。おそらく淡路でも発見されると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃³⁹⁾:同,-,-,-,-,岡村八郎²⁶⁾)

宝塚市(武庫川町,20.IX.1981,-,-,新家勝¹⁴⁾:西谷西部,8.X.1988,1♂,東正雄³¹⁾)

川西市(黒川,13.VII.1996,1♂; 12.X.1996,1♂,高島昭³⁷⁾)

猪名川町(上阿古谷,21.VII.1982,7♂4♀; 20.VIII.1982,1♀,夏秋ほか⁸⁾)

黒田庄町(喜多,13.VII.1960,1ex.,岡本清²⁴⁾)

波賀町(引原,5.VII.1973,1♂; 18.VII.1973,1♂; 27.IX.1974,1♀,遊磨正秀⁵⁴⁾:同,-,-,VIII.1984,1♀,相坂耕作:同,12.VIII.1987,1♂; 10.IX.1987,1ex.,高島昭³²⁾:同,21.X.1997,1♂,高島昭:坂の谷,3.VII.1998,

1♂,高島昭:同,24.VII.1998,1♂,高島昭)

三室山(-,-,-,-,遠山ほか²⁸⁾)

相生市(瓜生,7.VII.1989,1♂,高島昭³³)
 上郡町(船坂,4.X.1997,1♂,高島昭)
 竹野町(森本,20.IX.1998,1ex.,柴田剛:同,23.IX.1998,
 1ex.,柴田剛)
 温泉町(扇ノ山,-,-,-,遠山ほか²⁸)
 朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,目,遊磨正秀⁵⁵)
 大屋町(田淵山,5.VIII.1975,目,遊磨正秀⁵⁶:横行溪谷,
 23.VII.1999,1♂,高島昭)
 氷ノ山(-,-,-,遠山ほか²⁸)
 関宮町(氷ノ山,-,-.1954,-,山本義丸⁴⁷)
 氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁴⁹)
 南淡町(灘黒岩,29.VI.1997,-;18.VII.1998,-,藤平明³)

27. *Xestia semiherbida* (Walker) (3543)

ハイイロキシタヤガ

北海道から九州にかけてと対馬に産する。前種同様産出は普遍的である。年1回7~8月に出現する。県下では淡路地域を除く各地で記録されているが、前種に比べるとやや少ないようである。

【採集記録】

宝塚市(南口2丁目,28.V.1982,-,新家勝¹⁵:西谷西部,23.IX.1978,1♂;16.VI.1990,1♀;8.VI.1991,1♀,東正雄³¹)
 川西市(黒川,20.IX.1997,1♂,高島昭³⁷)
 猪名川町(上阿古谷,10.VI.1983,2♀;17.VI.1983,2♀,夏秋ほか⁹)
 三田市(香下,14.IX.1989,-,東正雄³¹)
 黒田庄町(喜多,12.VI.1961,1ex.,岡本清²⁴)
 波賀町(引原,8.VI.1974,3♂;22.VI.1974,1♂;2.VI.1975,1♂,遊磨正秀⁵⁴:同,26.V.1988,1ex.;2.VII.1988,1♀;17.IX.1988,1♀,高島昭³²:坂の谷,19.VIII.1998,1♂,高島昭)
 三日月町(下本郷,-.VI.-,-;-IX.-,-;-VI.1984,-;-IX.1984,-,川副昭人⁶)
 豊岡市(山本,14.VI.1973,-;20.VI.1973,-,山根政之²⁹)
 和田山町(久世田,22.IX.1998,1ex.,柴田剛)
 氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁴⁹)
 南淡町(灘黒岩,19.V.1998,-,藤平明³)

28. *Naenia contaminata* (Walker) (3544)

クログキシヤガ

北海道から九州にかけてと対馬に産する。年1回の発生で、成虫は5月に得られる。県下では全域で得られているが、個体数は少ないようである。

【採集記録】

西宮市(仁川,26.VI.1969,1♀,遊磨正秀⁵³)
 川西市(黒川,7.VI.1997,1♂,高島昭³⁷)
 猪名川町(上阿古谷,11.VII.1983,1♀,夏秋ほか⁹)
 高砂市(-,30.V.1968,1ex.,岡本清²³)
 西脇市(-,8.VII.1960,1ex.,岡本清²⁵)
 黒田庄町(喜多,26.V.1960,1ex.;2.VI.1960,1ex.;9.VI.1960,1ex.;14.VI.1960,1ex.,岡本清²⁴)
 相生市(瓜生,1.VI.1989,1♂;17.VI.1989,1♂,高島昭³³)
 出石町(-,1.VIII.1975,-,大林誠³⁰)
 氷ノ山(-,-,-,-,遠山ほか²⁸)
 氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁴⁹)
 津名町(大町畑,5.IV.1972,1♂,登日邦明⁴²)
 南淡町(阿万上町,3.VI.1961,-;-IX~X.-,-,藤平明¹:同,-.X.1959,-,藤平明³)

29. *Anaplectoides virens* (Butler) (3547)

オオアオバヤガ

北海道から九州にかけて分布し、年1回の発生である。成虫は7~8月に見られる。幼生期はわかっていない。県下での産出は現在のところ氷ノ山周辺の山地に限られている。調査すればもっと産地は見つかると思われる。

【採集記録】

波賀町(引原,27.IX.1974,-,遊磨正秀⁵⁴:同,11.VIII.1987,2♂;25.VIII.1987,1ex.,高島昭³²:坂の谷,10.VII.1998,1♂,高島昭:同,31.VII.1998,1♀,高島昭)
 大屋町(横行溪谷,8.VIII.1999,1♂,高島昭)
 氷ノ山(29.VII.1973,-,山根政之³⁰)
 関宮町(氷ノ山,-.VII.1954,-;-VIII.1954,-,山本義丸⁴⁷)

30. *Cerastis pallescens* (Butler) (3548)

カギモンヤガ

前翅中央部に黒色斑をもち、これがこの種の和名の由来ともなっているが、まれにこの黒色部を欠く個体もいる。北海道から九州に至る本土域と対馬に普通に産する。年1回、早春に発生する。県下では西播地域の低山地帯以外は局地的で、東播地域、丹波地域、淡路地域からは記録がないが、早春の調査が不十分なため、平地から山地にかけて広く分布すると思われる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃³⁹:同,-,-,-,-,岡村八郎²⁶)

表1 モンヤガ亜科(ヤガ科)各種の兵庫県下における地域別記録状況

31. XII. 1999現在	神戸	阪神北摂	中東播南部	中東播北部	西播南部	西播北部	南但	北但	丹波	淡路北部	淡路南部	記録地数	特記事項
1. ウスグロヤガ				○		○			○		○	4	
2. タマナヤガ	○	○		○	○	○	○		○	○	○	17	
3. オオカブラヤガ		○		○							○	3	
4. カブラヤガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	27	
5. ホソアオバヤガ						○						1	注目種
6. オオホソアオバヤガ	○			○								2	注目種
7. マエジロヤガ		○		○	○		○		○			7	
8. クロクモヤガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	27	
9. アカマエヤガ				○					○			2	注目種
10. カバスジャガ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	17	
11. ウスイロカバスジャガ	○	○	○	○		○	○		○	○	○	13	
12. オオカバスジャガ	○	○	○	○	○	○	○		○		○	20	
13. ニセタマナヤガ		○									○	4	注目種
14. コウスチャヤガ	○	○			○	○	○	○	○	○	○	20	
15. オオバコヤガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	26	
16. ウスアカヤガ		○										1	注目種
17. ミヤマアカヤガ						○	○				○	4	注目種 山地性
18. モンキヤガ							○					1	注目種 山地性
19. アカフヤガ		○		○	○	○	○	○	○		○	11	
20. ウスイロアカフヤガ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	21	
21. シロモンヤガ	○	○			○	○	○		○		○	17	
22. クロフトビロヤガ		○		○	○	○						5	
23. ハコベヤガ	○	○				○		○	○			5	
24. マエキヤガ	○	○	○	○	○						○	10	
25. ウスチャヤガ		○	○	○	○						○	11	
26. キシタミドリヤガ	○	○		○	○	○	○	○	○		○	19	
27. ハイイロキシタヤガ		○		○	○	○	○	○	○			13	
28. クロギシギシヤガ		○	○	○	○		○	○	○	○	○	12	
29. オオアオバヤガ						○	○					4	注目種 山地性
30. カギモンヤガ	○				○	○	○	○				8	
計	15	22	9	20	18	20	19	11	18	8	19		

波賀町(引原,7.IV.1975,3♂; 2.IV.1976,1♂,遊磨正秀⁶⁴:坂の谷,17.IV.1998,1♂,高島昭)
 相生市(瓜生,9.IV.1997,2♂,高島昭⁶⁵)
 三日月町(下本郷,-IV.-,-,川副昭人⁶⁶)
 上月町(西新宿,29.III.1997,1♂,高島昭)
 豊岡市(山本,30.III.1973,-,山根政之³⁰)
 大屋町(横行溪谷,17.IV.1999,1♂,高島昭)

<今後記録される可能性がある種>

1. *Albocosta triangularis* (Moore) (3498)

コキマエヤガ

北海道から九州にかけて分布する。幼虫はアキタブキ、アマドコロから発見されている(小木,1987)。県下ではこれまで記録がない。

2. *Hermonassa arenosa* (Butler) (3503)

ホシボシヤガ

北海道から九州に至る本土域と対馬に産するとあるが、兵庫県からは未記録である。近畿周辺からの記録も筆者は知らない。幼虫はチシマアザミ、アキタブキ、オオイタドリなど多種の植物を食べるという(小木,1986)。

3. *Xestia undosa* (Leech) (3505)

ナカグロヤガ

日本特産種で、北海道から本州中部にかけて分布するほか、四国の剣山からも得られている。兵庫県からは記録がないが、山地帯では分布しているかもしれない。コナカグサを食べることが知られている(小木,1986)。

4. *Xestia ditrapezium* (Denis & Schiffermüller)

(3536) タンボヤガ

北海道から本州中部にかけて産する。岡山県にも分布するとされているが詳細は不明である。四国や九州の記録は疑問視されている。県下からは今のところ記録はない。内陸草原を好むので、県下では分布していても局地的と思われるが、西播から但馬にかけての山地帯では生息している可能性がある。かつて氷上郡⁶⁷から記録されたが、誤同定の可能性が高いとの理由で削除⁶²された経緯がある。

<記録から除外した種>

1. *Euxoa nigrata* Matsumura (3487)

クロヤガ

日本特産種とされ、北海道や東北部、中部地方の高原地帯に産することが知られている。夏に出現し、昼間も吸蜜に訪れるという。県下では波賀町で1例記録されているが、これまでの知見からすると、本県に分布しているかどうかは疑わしく、再確認されるまで県産種としての取扱いは保留する。

[参考記録]

波賀町(引原,22.VIII.1975,1♀,遊磨正秀⁶⁴)

<引用文献>

- 1) 藤平 明(1974) 南淡の蛾(II) *Parnassius* (12), p.5-13.
- 2) 藤平 明(1987) 南淡の蛾(自刊)
- 3) 藤平 明(1999) 淡路島南部の蛾, pp.96.
- 4) 藤富正昭(1994) 私版 淡路の昆虫リスト *Parnassius* (41), p.1-4.
- 5) 林 俊雅(1983) 淡路島産蛾類採集記録(I) *Parnassius* (28), p.13-16.
- 6) 川副昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え書 てんとうむし10, p.1-10.
- 7) 木村三郎(1984) 広峰・増位山系の昆虫 てんとうむし9, p.53-58.
- 8) 夏秋優・佐々木昇(1982) 能勢地方の蛾(I) 上阿古谷の蛾・夏の蛾 *Crude* (23), p.1-37.
- 9) 夏秋優・佐々木昇(1983) 能勢地方の蛾(II) 上阿古谷の蛾・夏の蛾(続報) *Crude* (24), p.1-12.
- 10) 夏秋優・佐々木昇(1984) 能勢地方の蛾(III) 妙見山・夏の蛾(I) *Crude* (25), p.15-22.
- 11) 夏秋 優(1997) 兵庫県尼崎市塚口の蛾 *Crude* (41), p.20-25.
- 12) 日本野鳥の会(1992) 姫路市自然観察の森 林内基礎調査報告書4-6昆虫類, p.119-151.
- 13) 新家 勝(1981) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(その2) きべりはむし9(2), p.17-20.
- 14) 新家 勝(1982) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その1) きべりはむし10(2), p.10-16.
- 15) 新家 勝(1983) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その2) きべりはむし11(1), p.6-10.
- 16) 新家 勝(1984) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その3) きべりはむし12(2), p.53-55.
- 17) 新家 勝(1985) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その4) きべりはむし13(2), p.36-40.
- 18) 新家 勝(1986) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その5) きべりはむし14(1), p.21-22.
- 19) 新家 勝(1986) 宝塚大橋の照明灯で採集し

- た蛾(統報その6) きべりはむし14(2),p.30-33.
- 20) 新家 勝(1989) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(統報その9) きべりはむし17(2),p.31-35.
- 21) 新家 勝(1993) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(その10) きべりはむし21(2),p.53-64.
- 22) 西岡公明(1983) 三熊山蛾類採集記録Ⅰ Parnassius(27),p.7-9.
- 23) 岡本 清(1997) 高砂の蛾 てんとうむし11, p.40-45.
- 24) 岡本 清(1998) 黒田庄町で採集した蛾(1) てんとうむし12,p.30-38.
- 25) 岡本 清(1999) 兵庫県で採集した蛾 てんとうむし13,p.50-58.
- 26) 岡村八郎(1987) 神戸市摩耶山の蛾類採集目録 てんとうむし10,p.37-45.
- 27) 岡村八郎・森 博(1987) 有馬の蛾より てんとうむし10,p.66-67.
- 28) 奥谷禎一(1974) 中国山脈東端の昆虫相 東中国山地自然環境調査報告,p.173-191.
- 29) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第1・2報),p.48-54.
- 30) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報),p.9-14.
- 31) 宝塚市教育委員会(1993) 宝塚の昆虫Ⅴ 蛾類Ⅱ
- 32) 高島 昭(1995) 波賀町引原ダム周辺における蛾相第1報 きべりはむし23(1),6-16.
- 33) 高島 昭(1996) 相生市三濃山麓の蛾(1) きべりはむし24(1),p.27-29.
- 34) 高島 昭(1997) 上郡町で採集した蛾(1) きべりはむし25(1),p.31-38.
- 35) 高島 昭(1997) 姫路市広嶺山の蛾(1) てんとうむし11,p.65-69.
- 36) 高島 昭(1998) 西播地方で採集した注目すべき蛾 てんとうむし12,p.68.
- 37) 高島 昭(1998) 黒川の蛾 きべりはむし26(1),p.23-38.
- 38) 高島 昭(1998) 相生市三濃山麓の蛾(2) きべりはむし26(2),p.59-64.
- 39) 田中 蕃(1967) 神戸市摩耶山に産する大蛾類 佳香蝶19(71),p.89-104.
- 40) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(1) IRATSUME(10),p.30-37.
- 41) 登日邦明(1967) 伊勢の森の蛾類 Parnassius(4),p.4-9.
- 42) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料(Ⅰ) 蛾類通信73,p.215-224.
- 43) 登日邦明(1973) 淡路島若干の蛾の記録 Parnassius(9),9-16.
- 44) 登日邦明(1974) 淡路島産蛾類分布資料(Ⅱ) 蛾類通信76,p.261-266.
- 45) 戸沢信義(1935) 六甲山産蛾類目録 関西昆虫雑誌2(3),p.30-31.
- 46) 山口福男(1999) 飯肪山公園で採集した蛾 きべりはむし27(2),p.37-41.
- 47) 山本義丸(1955) 氷ノ山の蛾について(第一報) 兵庫生物3(1/2),p.3-6.
- 48) 山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第二報) 兵庫生物3(3),p.121-123.
- 49) 山本義丸(1958) 兵庫県水上郡昆虫目録 水上の自然第3集 Natura特別号,p.12-50.
- 50) 山本義丸(1958) 氷ノ山の蛾について(第三報) 兵庫生物3(4),p.237-239.
- 51) 山本義丸(1989) 氷ノ山の蛾類について(後報) 兵庫生物9(5),p.295-297.
- 52) 山本義丸(1996) 兵庫県水上郡地方の蛾類(1) きべりはむし24(2),p.1-13.
- 53) 遊磨正秀(1973) 六甲山地域の蛾類Ⅰ きべりはむし2(1),p.1-9.
- 54) 遊磨正秀(1973) 引原ダム(宍粟郡波賀町)のヤガ類(Ⅰ) きべりはむし2(1),p.16-19.
- 55) 遊磨正秀(1980) 朝来郡朝来町須留ヶ峰の蛾類について(Ⅰ) きべりはむし8(3),p.1-8.
- 56) 遊磨正秀(1981) 養父郡大屋町田淵山の蛾類について(Ⅰ) きべりはむし9(1),p.3-6.

高橋コレクションの収蔵

兵庫県立人と自然の博物館 沢田佳久

1992年、高橋寿郎さんの標本は兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されることになりました。その後の登録や現在の収蔵状況を報告しておきたいと思います。

高橋コレクションの特徴

高橋コレクションは、ここであらためて説明するまでもなく、日本とくに兵庫県の昆虫相研究の根幹をなす重要なコレクションです。

稀種、普通種にかかわらず各地各時期に採集されたものが洩れなくプレパレーションされています。そして、ほとんどの標本は高橋さんご自身または各々の群の専門家によって同定され、必要に応じて本誌をはじめ各誌に報告されています。このような証拠標本を多く含んでいるのが最大の特徴といえるでしょう。

また、特に力をいれておられたコガネムシ類については、交換や購入によって世界各地の標本が集められています。

博物館での標本の収納と管理

館ではコレクションごとに分けて、全て分類順に配置する事を基本としています。高橋さんの標本は現在、多くは科～上科程度の単位で各々の群のところに収納してありますが、クワガタムシ科については既に他のコレクションの標本と混ざって配置しています。高橋さんの標本には、他のコレクション由来の標本と同様に、四角で囲んだ「高橋コレクション」という小さな白いコレクションラベルをつけてあります。

1999年末の現在、収蔵庫が移動式の筆筒に移行中のため、甲虫のコーナーが幾つかに分割されたいわば仮住いの状態です。高橋コレクションの主要な部分の一つであるコガネムシ科は、登録と撮影（下記）を完了した段階で、科以下の整理ができていません。筆筒が揃ったらコガネムシ科の整理再配列を行いたいと思います。

博物館では全ての収蔵資料をワークステーション上のデータベースに登録して管理しようとしています。高橋コレクションについては1993年から登録

作業をすすめ、ようやく1999年春にば全ての標本の入力を終わりました（一部、専門のコガネムシの標本を手許において研究を続けておられました）。

高橋さんのコレクションを館では「甲虫」（受け入れ番号：1992-0048）と「半翅目」（1992-0047）に区別して受け入れています。個々の標本に付けている登録番号は甲虫がB1-125750～B1-182579（56,830件）で、半翅目がB1-118500～B1-125749（7,250件）です。標本一件づつ採集データ、同定情報、管理情報、画像などが記録されます。

博物館での標本の登録情報

採集データについては、ラベルに記入された内容をそのまま記入することを基本としています。表記が単純な場合は、国内産のものであれば上位の都道府県名や市町村名、海外のものでは国名などを補って入力しています。ほとんどの産地は地図上で位置を確認しましたが、文字が読解できないものや地図上に見いだせないものもあります。

同定情報については、同定ラベルや時に標本の配置をもとに、分類体系上の位置を入力しました。多くのものは種まで同定されていますが、海外産のものや、未ソートのものでは属や種が空欄のものもあります。分類体系は基本的に九州大学の日本産昆虫目録に従いました。

和名も基本的にはラベルどおりで、空欄のままのものもあります。また館では管理用の「資料名」を必ず付けています。これは通常は和名と同じですが、種まで同定できていないものや和名がないものは「何々科」などとなっています。

館での登録作業は、当初は紙の書式に手書きで記入し、業者に入力してもらっていたのですが、1997年からは館内でパソコンに入力したものをコンピュータする方法で行いました。

採集データや同定情報とともに、多くの標本は画像も登録しています。ただし小型の標本は拡大率が十分でなく「小さい」ことしか読み取れない画像もあります。

これらの登録内容は今のところ十分な見直しをしていないので、採集データを含め多少の誤入力があ

ると思います。今後気付いた時点で修正してゆかなければなりません。同定情報や資料名は、今後の再検討、再同定の結果によって追加修正していくこととなります。

標本再調査について

所蔵標本は一部を除き公開されており、研究目的での標本の閲覧、検鏡は常に可能ですが、事前にご連絡頂ければ幸いです。もちろん通常は貸出しもできません。

現在のところ収蔵品データベースは外部からアクセスできませんが、ご来館前にお問い合わせ頂ければ必要に応じて館員が検索し、該当標本の有無、個体数等をお答えできます。将来的には(多少の制限付で)館外からの直接の検索が可能になると思います。

高橋さんの遺された標本を基にさらに研究が進展しますよう、皆様には活発な標本調査をお願い申し上げます。

展示などでの公開

高橋コレクションの標本の一部はすでに1996年夏のクワガタ、1998年秋のハナムグリの企画展で展示させて頂きました。糞虫などは未展示ですので今後の機会に使わせて頂きたいと考えています。

おわりに

重要な標本を当博物館に委ねていただいた高橋さんにあらためて深く感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

(SAWADA YOSHIHISA 三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館 系統分類部)

兵庫県のニセキバラケンモンについて 山本 義丸

兵庫県産ウスベリケンモン亜科については先に高島(1998)に依って従来の記録が総括されているが、キバラケンモン *Trichosea champa* (Moore) が淡路島を含む県下全域にわたる各地から記録されたことがわかっている。その中には、筆者が過去に報告した氷上郡及び氷ノ山の記録も含まれている。

上記の総括の中にも述べられている通り、従来1種として取り扱われていたキバラケンモンであったが、1986年、キタキバラケンモン *T. ludifica* (Linnaeus) とニセキバラケンモン *T. ainu* (Wileman) の両者を分離して3種となっている。そのうち最も南部に分布するのはキバラケンモンであるので、筆者は関西に分布しているのは全般に同種であろうと考えていたのである。

ところで、この程筆者所蔵標本の点検を進めるうち、市島町及び氷ノ山で採集していた個体がいずれもニセキバラケンモンであることに気付いた。いささか遅きに失した感があるが、ここに改めて訂正報告し、先のキバラケンモンとしての記録を取り消すことにする。

Trichosea ainu (Wileman) ニセキバラケンモン

市島町(妙高山), 28.VIII.1954, 1♂

関宮町(氷ノ山), 16.VIII.1955, 1♀

従って、氷上郡地方においてはキバラケンモンは未確認ということになる。氷ノ山を含む但馬から西播にかけての山地帯には、各所でキバラケンモンが記録されているが、この地域にはニセキバラケンモンの存在を考えなければならない。一方南部地域においてはキバラケンモンが普通と思われるが、筆者が大阪府箕面公園で採集したものはキバラケンモンの中に少数のニセキバラケンモンが混じており、ここでは混生地ということになる。六甲山系でも同様の可能性がある。兵庫県下において両種がどのように分布しているのか、今後の検討課題ではないかと考える。

<引用文献>

高島 昭(1998) 兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科 きべりはむし26(2): 44-58.

(YAMAMOTO YOSHIMARU 池田市渋谷2-2-20)

兵庫県におけるキバラケンモン属の 分布について

兵庫県産蛾類分布資料・17
高島 昭

筆者は先に「兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科」(きべりはむし26(2))として各種の過去の文献による記録と未発表の採集記録を整理して発表した。ここでは、兵庫県産の *Trichosea* 属としてキバラケンモン1種をあげたが、その後、妙見山産の記録がニセキバラケンモン *Trichosea ainu* (Wileman) であったことが発表され(夏秋・佐々木, 1999)、さらには氷上郡産、氷ノ山産の記録も同種であったと山本義丸氏から報告があった(本誌90ページ参照)。筆者の手元にある標本を確認したところ、上郡町産、相生市産のものはキバラケンモンであるが、川西市黒川産の個体がニセキバラケンモンであり、波賀町引原産のものは両種とも見いだすことができた。さらに、安富町でもニセキバラケンモンを新たに採集している。山本氏によると大阪府箕面公園でも両種が見られるとのことである。これらを総合すると、山本氏が推察されているように、兵庫県では山地帯にはニセキバラケンモンが、南部平坦地などの暖地ではキバラケンモンが分布しているが、低山地帯ではキバラケンモンが分布を広げつつあり、一部では混生しているといえそうである。

ほかの産地の記録については未確認であるが、注意を喚起したい。

現在わかっている兵庫県の *Trichosea* 属の分布を整理すると次のようになる。前報の補足としたい。あわせて本属2種の分布図を示す。

Trichosea ainu (Wileman) ニセキバラケンモン

[前報でキバラケンモンとして掲載したもの]

妙見山(26.VIII.1983, 2♂; 5.VIII.1984, 2♂; 18.VIII.1984, 8♂3♀, 夏秋ほか¹⁾)

川西市(黒川, 20.IX.1997, 1♂, 高島昭)

波賀町(引原, 26.VIII.1988, 1♂, 高島昭)

市島町(妙高山, 28.VIII.1954, 1♂, 山本義丸¹⁾)

関宮町(氷ノ山, 16.VIII.1955, 1♀, 山本義丸¹⁾)

[前報以後新たに追加するもの]

安富町(大河溪谷, 7.V.1999, 1♂, 高島昭)

Trichosea champa (Moore) キバラケンモン

[本種であることが再確認できたもの]

相生市(瓜生, 7.VII.1989, 1♀, 高島昭; 同, 8.IX.1997, 1♂, 高島昭²⁾)

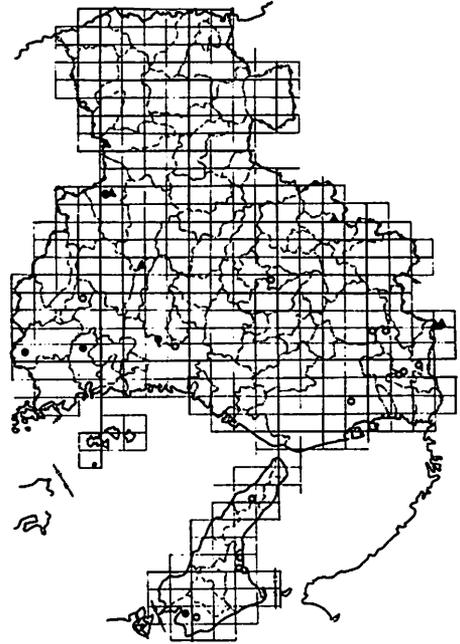
上郡町(行頭, 23.VI.1995, 1♂, 高島昭²⁾)

波賀町(引原, 10.IX.1988, 1ex., 高島昭²⁾)

[前報に追加するもの]

姫路市(書写山, -.-.-, 幼虫, 中村正直¹⁾)

南淡町(-.-.-.-, 幼虫, 中村正直¹⁾)



兵庫県における *Trichosea* 属 2 種の分布

▲ *T. ainu* ニセキバラケンモン

● *T. champa* キバラケンモン

○ 前報で *T. champa* として報告したがその後未確認のもの

<参考文献>

- 1) 杉・中村(1986) キバラケンモンとその近縁種たち 月刊むし189: 4-12.
- 2) 高島 昭(1998) 兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科 きべりはむし26(2): 44-58.
- 3) 夏秋・佐々木(1999) 大阪/兵庫府県境・妙見山で採集された「キバラケンモン」について Crude(43): 37.
- 4) 山本義丸(2000) 兵庫県のニセキバラケンモンについて きべりはむし28(1): 90.
(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

アカマダラセンチコガネは健在 松尾 隆人

以前からタマムシ類に関心を持っていた私は、雑誌目録で兵庫県昆虫同好会誌「きべりはむし」に「兵庫県のタマムシ」の掲載を知り、戸惑いながらも故高橋寿郎氏に突然の電話でお尋ねしたのが1999年3月のことだった。氏の御好意により当同好会にはそのときから入会させていただいた。

ある日、多可郡加美町でピーティングをしていたとき足元をハエのように飛ぶ虫に気付いた。突然「ヤマトエンマコガネを探して下さい。誰か多可郡などの県中央部の調査をやって下さい。」と願っておられた氏の言葉が脳裏に浮かんできた。まさかヤマトエンマコガネ?と手で叩き落として驚いた。

当然ヤマトエンマコガネではなかったが、そいつはなんと兵庫県下では笠形山で2頭、三国岳で1頭の記録しかないアカマダラセンチコガネだったのである(lex.,29.V.1999,多可郡加美町山寄上播州峠)。氏自身も調査の必要性を持たれていた種で、糞虫類にあまり興味が無かった私だったが、これ以来この類にも注意が向くようになり、当地にも再々足を運んだが新たな発見はできないまま時間が過ぎてしまった。氏に「多可郡のアカマダラコガネは健在!」を伝えられなかったのが残念である。謹んでご冥福を心よりお祈り申し上げます。

<参考文献>

- 1) 高橋寿郎(1999) ヤマトエンマコガネを探して下さい きべりはむし27(1): 49.
- 2) 高橋寿郎(1999) 私の昆虫採集記(2) きべりはむし27(2): 32-36.
- 3) 高橋寿郎(1997) アカマダラセンチコガネ 兵庫の野生動物 兵庫県/監修 神戸新聞総合出版センター: 171-172.

(MATSUO TAKAHITO 多可郡中町牧野748)

兵庫県の ムラサキアカガネヨトウについて 山本 義丸

ヤガ科のアカガネヨトウ *Euplexia lucipara* (Linnaeus) はイギリス本土から日本までユーラシア大陸に広く分布する種で、兵庫県下においては但馬から西播にかけての各地で記録されている。筆者も過去に氷上郡及び氷ノ山から記録している。

その後日本産蛾類大図鑑(1982)において、近似種ムラサキアカガネヨトウ *E. vinacea* Sugi が新たに記載され、産地として北海道、東北から近畿(奈良)までの本州、及び四国が挙げられている。

筆者はこのほど所蔵標本を点検するうち、氷上郡と氷ノ山で採集していた個体がいずれもムラサキアカガネヨトウではないかと気付き、交尾器検査に依ってこれを確認した。兵庫県産のものについては従来報告が無いが、恐らく山地帯には分布しているものと考えられるので、今後の調査が必要と思われる。なお、筆者が大阪府箕面公園で採集している個体はすべてアカガネヨトウである。その中には紫赤色の色調が強くて、ムラサキアカガネヨトウと全く区別のできない個体もあり、この両種の識別は外観だけでは困難である。

今回のように記録し、過去の報告を訂正することにする。

Euplexia vinacea Sugi ムラサキアカガネヨトウ
育垣町(旧 神楽村), 3.VIII.1954, 3♂
関宮町(氷ノ山), 22.VIII.1954, 1♂1♀

(YAMAMOTO YOSHIMARU 池田市渋谷2-2-20)

短報記事大募集!!

記念すべき2000年!! 今年の成果を記録に残しませんか
採集データは記録に残してこそ価値あるもの
きちんとした文章にまとめなくてもタイトルとデータだけでも結構です
これはと思うデータはととし送って下さい
締切期日はとくに設けません。随時受け付けます
送付先は、〒671-2201 姫路市書写2542-2 高島 昭まで

丹波でのミドリシジミ採集記録 山口 福男

本誌第25巻第2号(1997)に広畑・近藤氏によりミドリシジミの兵庫県の分布について詳細に報告された。このなかで冒頭に丹波から但馬東部にかけて分布の空白域があるが、生息地が無いのではなく記録の欠落と推察されている。事実はこの推論のとおりで、私の昭和30年代の経験では多紀郡ではどこにでもいる普通種であった。これがヒサマツやヒロオビ等の珍品であれば鬼の首でもとったように早速報告するであろうが、普通種となれば発表の機会が大変に少ない。かなり古いが、私のもっている標本のラベルと採集メモから丹波のミドリシジミの採集報告をさせていただく。

採集地 多紀郡西紀町宮田

採集時期 1960年6月23日 1♀

採集地 多紀郡城東町辻

採集時期 1964年6月下旬 9♂7♀

城東町の7匹の♀の内訳はAB型1, A型1, B型2, O型3であった。当時の生息数はかなりの数で、上記の標本は2メートルぐらいの高さのハンノキ1本から得たものであった。

(YAMAGUCHI FUKUO)

神戸市須磨区神戸谷3丁目6-4)

ミスジチョウを神戸市で採集 岡村 八郎

ミスジチョウ *Neptis philyva* を神戸市内で採集したので報告する。

<データ>1998.6.7. 神戸市中央区布引 午後2時。

駅北側に吸水のため現れた所を網をかぶせて採集する。蝶の巾は6.8cmと大きい。また、ルリタテハが2頭(♂♀)現れる。

<参考文献>

- 1) 岡村八郎 神戸市コノマチョウ属 2種の記録 蝶研フィールドNo.4-73号
- 2) 広畑政巳・近藤伸一 兵庫県産蝶類分布資料 (12)タテハチョウ科 3種の記録(ホシミスジ、ミスジチョウ、スミナガシ) きべりはむし26巻1号

(OKAMURA HACHIRO)

神戸市東灘区御影中町1丁目10-6)

ムラサキツヤハナムグリの採集記録 岡村 八郎

私は1992年1月5日に神戸の再度山へタクシーで上り、大竜寺下車、二本松の崖の高いところをビッケルでゴソゴソとほじるとマヤサンオサムシがポロポロと落ちてきた。

その中に白くて長さ2センチぐらいのがあり、それを割ると紫色の甲虫が出てきた。それは丸い形で尻がすぼまり腹節に深く縦溝がある。ムラサキツヤハナムグリ *Protaetia cataphrata* (Arrow,1913)である。<データ>神戸市再度山 1992年1月5日 岡村八郎採集

<参考文献>

- 1) 高橋寿郎(1984) 兵庫県のハナムグリ てんとむし9:1-17.
- 2) 高橋寿郎(1999) きべりはむし27(3) 日本に産するコガネムシ類の分類目録第一版補訂版
- 3) 今笠原 隆(1991) 日本産シロテンハナムグリについて1 月刊むし
- 4) 今笠原 隆(1991) 日本産シロテンハナムグリについて2 月刊むし
- 5) 酒井 香・永井信二(1998) 世界のハナムグリ 大図鑑 むし社

(OKAMURA HACHIRO)

神戸市東灘区御影中町1丁目10-6)

フジミドリシジミの灯火への飛来例 内藤 隆夫

福田ほか(1984)によれば、フジミドリシジミ *Sibatanozephyrus fujisanus* は「夜間、灯火に飛来することが多い」とされている。

筆者も同様の生態を観察しているので、一例として記録しておく。

養父郡大屋町氷ノ山, 29.VI.1998, 1♂

ブナ林付近の林道で、ブラックライトおよび白色蛍光灯を用いて灯火採集を行っていたところ、午後11時頃に白幕に飛来したものである。

<参考文献>

- 福田晴夫ほか(1984) 原色日本蝶類生態図鑑(III) 保育社

(NAITO TAKAO 寝屋川市池田3-4-13)

県関係文献紹介

- 河上康子・稲畑憲昭(2000) 大阪湾沿岸地域における海浜・河口汽水域の地表性甲虫調査
関西甲虫談話会資料第十六号

タイトルのとおり大阪湾沿岸地域の海浜、河口汽水域29ヶ所での調査の結果得られた23科188種のリストである。兵庫県は淡路島東岸6ヶ所、明石市以東西宮市までの沿岸の砂浜11ヶ所の計17ヶ所が調査されている。調査は3年間にわたって行われているが、これだけの箇所をこなすことはなかなか大変なことで著者等の努力に敬意を表したい。

調査地域を見ると、神戸市須磨から住吉川河口までは大きな空白域となっている。また尼崎市域も調査されていないが、これは本州側の大阪湾沿岸はほとんどが人工海岸であり、調査可能な箇所がないということなのだろう。大阪府側も同様な状況と思われる。

このようなわずかに残された環境であるが、細々とでも生きている昆虫は思いのほか多いようである。生息環境に連続性がないところも多く、将来を考えると厳しいものがあるが、1箇所でも多くの記録が過去のものにならないよう祈りたい。

県関係学会誌・同好会誌・連絡誌 (X・1999～IV・2000)

エコひょうご(ひょうご環境創造協会) No.13(秋号)(X・1999)

兵庫陸水生物ニュース(兵庫陸水生物研究会) No.18(X・1999)

ハーモニー(人と自然の博物館ニュース) No.27(X・1999)

のせ(大阪昆虫同好会連絡誌) Vol.28,No.9(XI・1999), Vol.28,No.10(XI・1999)

Crude(大阪昆虫同好会々誌) No.43(XI・1999)

てんとうむし(姫路昆虫同好会々誌) No.13(XII・1999)

姫昆サロンニュース(姫路昆虫同好会連絡誌) No.134(XI・1999)

鳥と自然(兵庫野鳥の会) No.95(XII・1999)

なお、兵庫野鳥の会は今回をもってしばらくの間休会されます。

交 換 誌

FUTA0(フタオ会々誌) No.32(X-1999), No.33(III.2000)

みちしるべ(岡山昆虫談話会々誌) No.27(X-1999)

岡山昆虫談話会「岡山県におけるウスイロヒョウモンモドキの現状」B5, 101p.

ホシザキグリーン財団研究報告 第3号(XI-1999)

ホシザキグリーン財団ニュース No.11,12,13,14,15,16(XI-1999)

比婆科学(比婆科学教育振興会会誌) No.190(IV-1999), No.191別刷「広島県産コメツキムシ類の記録(14)」(VII-1999), No.193(II-2000)

比和科学博物館研究報告 第37号別刷「広島県産蜂類分布資料(3)」(III-1999), 第37号別刷「江の川水系の昆虫類」(III-1999), 第38号(X-1999), 第39号(III-2000)

比和科学博物館標本資料報告 第1号別刷「比和町立自然科学博物館に寄贈された故伊藤 弘氏の日本産蝶類標本」(VIII-1999)

LUCANUS WORLD No.18(II-2000), No.19(IV-2000)

寄せ蛾記(埼玉昆虫談話会々誌) No.92(IX.1999), No.93(XII.1999), No.94(II.2000), No.95(III.2000)

誘蛾燈(誘蛾会) No.159(IV.2000)

※ 今年度より新たに埼玉昆虫談話会(会誌:寄せ蛾記)、誘蛾会(会誌:誘蛾燈)と会誌交換をはじめました。前者は会員数200名以上の大きな同好会で、甲虫を中心にトンボ、蝶など昆虫全般、後者は蛾の専門誌です。以後よろしくお願いします。

きべりはむし27(3)の訂正

きべりはむし第27巻第3号(特別号)「日本に産するコガネムシ類の分類目録(第一版 補訂版)」のなかに誤りがありましたので訂正し、随んでお詫びいたします。

52ページ下から2行目及び97ページ和名索引
オキナワチャイロコガネ → オキチャイロコガネ

岡山市の山地 治氏より指摘がありました。山地様にはお礼を申し上げます。

編 集 後 記

2000年代最初のきべりはむしをお届けします。高橋さんの訃報には本当に驚きました。「きべりはむし」第27巻第2号を予定どおり発行したあと、今年はじめに会員の皆様にお配りした「日本に産するコガネムシ類の分類目録(第一版補訂版)」の最終の校正を高橋さんにお願ひし、印刷発注の段取りを相談している最中のことでした。本号を高橋さんの追悼号とし、ご冥福をお祈りしたいと思います。2ページでもお知らせしたように、高橋さんは多くの未発表原稿を残しておられます。本号にもその一部を掲載しましたが、今後数回にわたり掲載していきたいと思ひます。また、兵庫県の甲虫界にとって多大な貢献をしてこられた高橋さんの偉業を讃える意味で、高橋さんの著作目録の作成を計画しています。本来なら著作目録は本号に掲載すべきだったのかも知れませんが、かなりの紙面を要するので次号発行時に別冊として刊行したいと思ひます。また、高橋さんにとって最も関わりの深い虫のひとつであるキベリハムシについてのまとめも特別研究報告の形で今年中に発行したいと考えています。

このようなわけで、本号は90ページを越す大冊となってしまいましたが、高橋さんの遺稿以外にも多くの方に投稿していただき、たいへん充実した内容になったと喜んでおります。今後ともよろしくお願ひいたします。

次回の「きべりはむし」の発行は11月です。原稿締切は2000年9月末日とします。今年の実績の発表機会として御活用下さい。とくに短報は大歓迎です。

(編集担当 近藤伸一・高島 昭)

きべりはむし 第28巻 第1号

2000年5月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

編集：近藤伸一・高島昭

事務局、原稿送付先：
〒671-2201 姫路市書写2542-2 高島 昭 方

郵便振替口座：01170-3-26646

印刷：岩峰社・東京

目 次

高橋寿郎さんの思い出	奥谷 禎一	1
高橋さんとの思い出	山口 福男	1
高橋寿郎さんの書斎	近藤 伸一	2
兵庫県のカワガタムシ(1) 故高橋寿郎氏遺稿集No. 1	兵庫県昆虫同好会事務局編	3
兵庫県のテントウムシ(2) 故高橋寿郎氏遺稿集No. 2	兵庫県昆虫同好会事務局編	12
兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(4) 故高橋寿郎氏遺稿集No. 3	兵庫県昆虫同好会事務局編	32
兵庫県のカミキリモドキ 故高橋寿郎氏遺稿集No. 4	兵庫県昆虫同好会事務局編	42
キベリハムシの野外での遅い出現記録 故高橋寿郎氏遺稿集No. 5	兵庫県昆虫同好会事務局編	47
兵庫県から新記録のオオキノコムシ 故高橋寿郎氏遺稿集No. 6	兵庫県昆虫同好会事務局編	47
甲虫標本を集める楽しみ 故高橋寿郎氏遺稿集No. 7	兵庫県昆虫同好会事務局編	48
兵庫県で採集した甲虫数種の記録	内藤 隆夫	54
兵庫県産蝶類分布資料(18) - タテハチョウ科9種の記録 - (ヒョウモント・キ・ウスイロヒョウモント・キ・オウラキ・ソコモン・オウラキ・ソズ・ヒョウモン・ クモガ・クモモン・ミト・リヒョウモン・メスガ・ヒョウモン・クモガ・オオムラサキ)	広畑 政巳・近藤 伸一	56
池田市北部のカレハガ科、イボタガ科、 ヤママユガ科、スズメガ科	木下 修一	74
兵庫県のモンヤガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・16	高島 昭	77
高橋コレクションの収蔵	沢田 佳久	89
兵庫県のニセキバラケンモンについて	山本 義丸	90
兵庫県におけるキバラケンモン属の分布について 兵庫県産蛾類分布資料・17	高島 昭	91
アカマダラセンチコガネは健在	松尾 隆人	92
兵庫県のムラサキアカガネヨトウについて	山本 義丸	92
丹波でのミドリシジミ採集記録	山口 福男	93
ミスジチョウを神戸市で採集	岡村 八郎	93
ムラサキツヤハナムグリの採集記録	岡村 八郎	93
フジミドリシジミの灯火への飛来例	内藤 隆夫	93
県関係文献紹介		94
県関係学会誌・同好会誌・連絡誌(Ⅲ・1999~Ⅹ・1999)		94
交換誌		95
会員異動		96